

仙台市文化財調査報告書第476集

いま いち
今市遺跡 ほか
発掘調査報告書

今市遺跡第3次、薬師堂東遺跡第2次、鍛冶屋敷A遺跡第4・5次
郡山遺跡第273・275・276・278・286次、富沢館跡第5・6次

2019年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

仙台市内には旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残っております。これらの一つ一つは、先人たちが残した貴重な文化遺産です。

平成23年3月11日の東日本大震災より8年が経ち、復興・創生期間3年目を迎えておりますが、個人住宅等の建築に伴う発掘届の件数や発掘調査の件数は、平成23年度以降、震災前を上回る状況が続いております。仙台市教育委員会といたしましては、復旧・復興事業との調整を図りながら、埋蔵文化財の保護と啓発に日々務めているところです。

本報告書には、各種事業に伴って平成29年度から30年度にかけて発掘調査を実施した、今市遺跡第3次調査、薬師堂東遺跡第2次調査、鍛冶屋敷A遺跡第4・5次調査、郡山遺跡第273・275・276・278・286次調査、富沢館跡第5・6次調査の結果を収録しています。

文化財は、地域の歴史を伝えるために将来へ守るべき大切な財産です。先人たちの遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ、次の世代へと継承していくことは、現代に生きる私たちの使命であると思います。地域が育んだ文化を語る上で歴史や文化資源がその根底をなしているからです。つきましては、本報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習などの文化活動に寄与し、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際して、ご協力いただいた多くの方々に心より深く感謝申し上げます。

平成31年3月

仙台市教育委員会
教育長 佐々木 洋

例 言

1. 本書は、平成 29 年度から平成 30 年度にかけて実施した各種開発事業に伴う発掘調査報告書であり、今市遺跡第 3 次、葉師堂東遺跡第 2 次、鍛冶屋敷 A 遺跡第 4・5 次、郡山遺跡第 273・275・276・278・286 次、富沢館跡第 5・6 次の各発掘調査報告を合本にしたものである。
2. 本書の本文執筆・挿図・表・写真図版の作成等については以下のように分担し、編集は三浦一樹が行った。
第 1 章・第 5 章第 1・2・3・5 節・第 7 章—三浦一樹 第 2 章・第 6 章—妹尾一樹
第 3 章・第 5 章第 4・6 節—柳澤 楓 第 4 章第 1・2 節—小林 航 第 4 章第 3 節—及川謙作
第 5 章第 4 節—五十嵐 愛
遺物の基礎整理～実測図作成—斎野裕彦、妹尾一樹、三浦一樹、渡部弘美、向田整理室作業員
遺物図・遺構図デジタルトレース—向田整理室作業員
遺物観察表作成—斎野裕彦、三浦一樹、渡部弘美 遺構註記表作成—各担当職員
遺物写真撮影・図版作成—向田整理室作業員 遺構写真図版作成—各担当職員、三浦一樹
3. 本書の内容は、すでに公開されている遺跡見学会資料や、各種の発表会資料に優先する。
4. 発掘調査および報告書作成にあたり、下記の方々および事業者から多くのご協力を賜った。記して感謝の意を表す次第である。(敬称略)
小池かほる 菅井栄子 菅原正昭 菅原重子 中川みつよ
株式会社アトリウム 株式会社アルディア 株式会社 Jes 設計
株式会社セブシーイレブン・ジャパン 株式会社たけやま 株式会社ファミーナ
蔵王リース株式会社 東北鉄道運輸株式会社
縄文土器：西村広経
土師器・須恵器・陶磁器：佐藤 洋 高橋 透 館内魁生
5. 本書に係る出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本文中の「遺跡範囲と周辺の遺跡図」は、国土地理院発行の「2万5千分の1地形図」を、また、「調査区位置図」などは仙台市発行の「2千5百分の1都市基本図」を、それぞれ修正して使用した。
2. 図中の座標値は世界測地系を使用している。ただし、郡山遺跡の座標はこれまでの調査成果との整合性を保つため、任意の原点（X=0、Y=0）を通る磁北線（1984年頃の偏角で、真北から6°44'7"西傾）を基準にして設定された座標を使用している。なお、郡山遺跡の本文中の方位は真北を基準としている。
3. 遺構の略称は以下の通りで、遺構番号は各調査別の通し番号である。
SA: 柱列 SB: 掘立柱建物跡 SD: 溝跡 SE: 井戸跡 SI: 竪穴住居跡 SK: 土坑
SX: 性格不明遺構 P: ピット
4. 遺物の略称は以下の通りである。
A: 縄文土器 B: 弥生土器 C: 土師器（非ロクロ調整） D: 土師器（ロクロ調整）・赤焼土器
E: 須恵器 F: 丸瓦 G: 平瓦 H: その他の瓦 Ia: 土師質土器 Ib: 瓦質土器 Ic: 陶器
J: 磁器 K: 石器・石製品 L: 木製品 N: 金属製品 O: 自然遺物 P: 土製品
5. 土色については、「新版標準土色帳」（小山・竹原1999）を使用した。
6. 遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。また、各図に必要なに応じて凡例を付した。

 : 柱痕跡  : 炭化物・焼土範囲

7. 遺物実測図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。

 : 黒色処理  : 敲打痕  : 受熱痕

8. 遺物観察表の（ ）がついた数値は図上復元した推定値ないし残存値である。
9. 遺物写真の縮尺は、遺物図版に掲載した同一個体のそれに準ずる。写真掲載のみの遺物は、特別な記載がない限り3分の1で掲載している。
10. 本文中の「灰白色火山灰」（庄子・山田1980）はこれまでの仙台市城の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰（To-a）」と考えられている。その降下年代は西暦915年と推定されている。
庄子貞雄・山田一郎 1980 「宮城県北部に分布する灰白色火山灰について」『多賀城跡・昭和54年度発掘調査概報』宮城県多賀城跡調査研究所
仙台市教育委員会 2000 『沼向遺跡 第1～3次発掘調査』仙台市文化財調査報告書第241集
小口雅史 2003 「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題—十和田aと白頭山（長白頭）を中心に」『日本律令制の展開』吉川弘文館

目 次

第1章 調査計画と実績	1
第1節 調査体制	1
第2節 調査計画	1
第3節 調査実績	1
第2章 今市遺跡の調査	3
第1節 遺跡の概要	3
第2節 第3次調査	4
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物
	5. まとめ
第3章 薬師堂東遺跡の調査	29
第1節 遺跡の概要	29
第2節 第2次調査	29
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物
	5. まとめ
第4章 鍛冶屋敷A遺跡の調査	38
第1節 遺跡の概要	38
第2節 第4次調査	38
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法
3. 基本層序	4. 確認調査の発見遺構と出土遺物
6. まとめ	5. 本発掘調査の発見遺構と出土遺物
第3節 第5次調査	59
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物
	5. まとめ
第5章 郡山遺跡の調査	83
第1節 遺跡の概要	83
第2節 第273次調査	83
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物
	5. まとめ
第3節 第275次調査	94
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物
	5. まとめ
第4節 第276次調査	102
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法

3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物	5. まとめ	
第5節 第278次調査			143
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法		
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物	5. まとめ	
第6節 第286次調査			152
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法		
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物	5. まとめ	
第6章 富沢館跡の調査			168
第1節 遺跡の概要			168
第2節 第5次調査			169
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法		
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物	5. まとめ	
第3節 第6次調査			174
1. 調査要項	2. 調査に至る経過と調査方法		
3. 基本層序	4. 発見遺構と出土遺物	5. まとめ	
第7章 総括			185

挿図目次

第1図 平成29・30年度調査地点位置図 (国土地理院地図を一部改変)	2	第18図 過年度調査区との対応関係	23
第2図 今市遺跡と周辺の遺跡	3	第19図 薬師堂東遺跡と周辺の遺跡	29
第3図 第3次調査区位置図	4	第20図 第2次調査区位置図	30
第4図 第3次調査区配置図	4	第21図 第2次調査区配置図	30
第5図 第3次調査区平面図	5	第22図 第2次調査区平面図	31
第6図 I区調査区平面図	6	第23図 第2次調査区断面図	32
第7図 I区SB1掘立柱建物跡平面・断面図	7	第24図 第2次調査出土遺物	34
第8図 I区西・南壁断面図	8	第25図 鍛冶屋敷A遺跡と周辺の遺跡	38
第9図 I区溝跡・井戸跡・土坑断面図	9	第26図 第4・5次調査区位置図	39
第10図 I区出土遺物	11	第27図 第4次調査区配置図	39
第11図 II区調査区平面図	12	第28図 第4次確認調査区平面・断面図	41
第12図 II区西・南壁断面図	13	第29図 第4次本調査区平面図	43
第13図 II区井戸跡・土坑断面図	14	第30図 S11 竪穴遺構断面図	44
第14図 II区土坑出土遺物	16	第31図 SK1・2土坑断面図	45
第15図 II区土坑・基本層出土遺物(1)	18	第32図 S11 竪穴遺構出土遺物(1)	46
第16図 II区土坑・基本層出土遺物(2)	19	第33図 S11 竪穴遺構出土遺物(2)	47
第17図 II区ピット断面図	20	第34図 S11 竪穴遺構出土遺物(3)	48
		第35図 S11 竪穴遺構出土遺物(4)	49

第 36 図	SI1 竪穴遺構出土遺物 (5) …………… 50	第 74 図	SI2440 竪穴住居跡平面・断面図 …… 116
第 37 図	第 5 次調査区配置図 …………… 59	第 75 図	SI2440 竪穴住居跡出土遺物 …… 117
第 38 図	試掘・確認調査出土遺物 …………… 60	第 76 図	SI2441 竪穴住居跡平面・断面図 …… 118
第 39 図	第 5 次本調査区平面・断面図 …… 61・62	第 77 図	SI2441 竪穴住居跡出土遺物 …… 119
第 40 図	SD1 溝跡出土遺物 …………… 63	第 78 図	SI2442 竪穴住居跡平面・断面図 …… 120
第 41 図	土坑断面図 …………… 64	第 79 図	SI2442 竪穴住居跡出土遺物 …… 121
第 42 図	SK3・7 土坑出土遺物 …………… 65	第 80 図	SI2443 竪穴住居跡平面・断面図 …… 122
第 43 図	SK10・11 土坑出土遺物 …………… 66	第 81 図	SI2443 竪穴住居跡出土遺物 …… 123
第 44 図	SK12・13 土器埋設遺構平面・断面図 …… 68	第 82 図	溝跡・土坑・性格不明遺構断面図 …… 124
第 45 図	SK12・13 土器埋設遺構 ・SX1 性格不明遺構出土遺物 …… 69	第 83 図	溝跡出土遺物 …………… 125
第 46 図	ピット断面図 …………… 70	第 84 図	溝跡・土坑出土遺物 …………… 126
第 47 図	遺物包含層出土遺物 (1) …………… 71	第 85 図	ピット断面図 …………… 128
第 48 図	遺物包含層出土遺物 (2) …………… 72	第 86 図	第 278 次調査区位置図 …………… 143
第 49 図	遺物包含層出土遺物 (3) …………… 73	第 87 図	第 278 次調査区配置図 …………… 144
第 50 図	遺構検出面出土遺物 …………… 74	第 88 図	第 278 次調査区平面図 (1) …… 145
第 51 図	郡山遺跡と周辺の遺跡 …………… 83	第 89 図	第 278 次調査区平面図 (2)・断面図 …… 146
第 52 図	郡山遺跡調査地点位置図 …………… 84	第 90 図	SD73 溝跡出土遺物 …………… 147
第 53 図	第 273 次調査区位置図 …………… 85	第 91 図	第 278 次調査周辺調査区との対応関係 …… 147
第 54 図	第 273 次調査区配置図 …………… 85	第 92 図	第 286 次調査区位置図 …………… 152
第 55 図	第 273 次調査区平面図 (1) …… 86	第 93 図	第 286 次調査区配置図 …………… 153
第 56 図	第 273 次調査区平面図 (2)・断面図 …… 87	第 94 図	第 286 次調査区平面図 …… 154
第 57 図	SD2150 溝跡・基本層出土遺物 …… 89	第 95 図	SI2482 竪穴住居跡平面・断面図 …… 155
第 58 図	第 275 次調査区位置図 …………… 94	第 96 図	SI2482 竪穴住居跡出土遺物 …… 156
第 59 図	第 275 次調査区配置図 …………… 95	第 97 図	SD2486～2489 溝跡重複地点平面図 …… 158
第 60 図	第 275 次調査区平面図・断面図 (1) …… 96	第 98 図	溝跡・土坑・ピット断面図 …… 159
第 61 図	第 275 次調査区断面図 (2) …… 97	第 99 図	溝跡・土坑・遺構外出土遺物 …… 161
第 62 図	第 276 次調査区位置図 …………… 102	第 100 図	富次館跡と周辺の遺跡 …………… 168
第 63 図	第 276 次調査区配置図 …………… 103	第 101 図	第 5・6 次調査区位置図 …………… 169
第 64 図	調査区東壁断面図 …………… 104	第 102 図	第 5 次調査区配置図 …………… 169
第 65 図	第 276 次調査区平面図 …………… 105・106	第 103 図	第 5 次調査区平面図 …………… 170
第 66 図	SI2436 竪穴住居跡平面・断面図 …… 107	第 104 図	調査区東壁断面図 …………… 171
第 67 図	SI2436 竪穴住居跡出土遺物 …… 108	第 105 図	SD1 堀跡平面・断面図 …………… 172
第 68 図	SI2437 竪穴住居跡平面・断面図 …… 109	第 106 図	第 6 次調査区配置図 …………… 174
第 69 図	SI2437 竪穴住居跡出土遺物 …… 110	第 107 図	第 6 次調査区平面・断面図 …… 175・176
第 70 図	SI2438 竪穴住居跡平面・断面図 …… 111	第 108 図	SD1 溝跡出土遺物 (1) …………… 178
第 71 図	SI2438 竪穴住居跡出土遺物 …… 112	第 109 図	SD1 溝跡出土遺物 (2) ・基本層出土遺物 …………… 179
第 72 図	SI2439 竪穴住居跡平面・断面図 …… 114	第 110 図	富次館跡 検出堀跡位置図 …………… 181
第 73 図	SI2439 竪穴住居跡出土遺物 …… 115		

挿表目次

表1 平成29・30年度 公共・民間各種事業に伴う発掘調査一覧	1
表2 平成30年度 公共・民間各種事業に伴う発掘調査一覧	2

写真図版目次

写真図版1 今市遺跡第3次調査(1)	24	写真図版27 郡山遺跡第275次調査(1)	99
写真図版2 今市遺跡第3次調査(2)	25	写真図版28 郡山遺跡第275次調査(2)	100
写真図版3 今市遺跡第3次調査出土遺物(1)	26	写真図版29 郡山遺跡第275次調査(3)	101
写真図版4 今市遺跡第3次調査出土遺物(2)	27	写真図版30 郡山遺跡第276次調査(1)	131
写真図版5 今市遺跡第3次調査出土遺物(3)	28	写真図版31 郡山遺跡第276次調査(2)	132
写真図版6 粟師堂東遺跡第2次調査(1)	35	写真図版32 郡山遺跡第276次調査(3)	133
写真図版7 粟師堂東遺跡第2次調査(2)	36	写真図版33 郡山遺跡第276次調査(4)	134
写真図版8 粟師堂東遺跡第2次調査出土遺物	37	写真図版34 郡山遺跡第276次調査(5)	135
写真図版9 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査(1)	52	写真図版35 郡山遺跡第276次調査(6)	136
写真図版10 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査(2)	53	写真図版36 郡山遺跡第276次調査(7)	137
写真図版11 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査(3)	54	写真図版37 郡山遺跡第276次調査	
写真図版12 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査(4)	55	出土遺物(1)	138
写真図版13 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査		写真図版38 郡山遺跡第276次調査	
出土遺物(1)	56	出土遺物(2)	139
写真図版14 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査		写真図版39 郡山遺跡第276次調査	
出土遺物(2)	57	出土遺物(3)	140
写真図版15 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査		写真図版40 郡山遺跡第276次調査	
出土遺物(3)	58	出土遺物(4)	141
写真図版16 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査(1)	75	写真図版41 郡山遺跡第276次調査	
写真図版17 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査(2)	76	出土遺物(5)	142
写真図版18 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査(3)	77	写真図版42 郡山遺跡第278次調査(1)	149
写真図版19 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査		写真図版43 郡山遺跡第278次調査(2)	150
出土遺物(1)	78	写真図版44 郡山遺跡第278次調査(3)	
写真図版20 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査		・出土遺物	151
出土遺物(2)	79	写真図版45 郡山遺跡第286次調査(1)	163
写真図版21 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査		写真図版46 郡山遺跡第286次調査(2)	164
出土遺物(3)	80	写真図版47 郡山遺跡第286次調査(3)	165
写真図版22 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査		写真図版48 郡山遺跡第286次調査(4)	166
出土遺物(4)	81	写真図版49 郡山遺跡第286次調査出土遺物	167
写真図版23 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査		写真図版50 富沢館跡第5次調査	173
出土遺物(5)	82	写真図版51 富沢館跡第6次調査	182
写真図版24 郡山遺跡第273次調査(1)	91	写真図版52 富沢館跡第6次調査出土遺物(1)	183
写真図版25 郡山遺跡第273次調査(2)	92	写真図版53 富沢館跡第6次調査出土遺物(2)	184
写真図版26 郡山遺跡第273次調査(3)			
・出土遺物	93		

第1章 調査計画と実績

第1節 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課

【文化財課】課長 長島栄一

【調査調整係】係長 平岡亮輔 主任 及川謙作

主事 小林 航 三浦一樹 妹尾一樹 相川ひとみ 柳澤 楓
文化財教諭 大友 渉 栗和田祥郎 佐藤文征 尾形寛貴 及川 基
専門員 渡部弘美 斎野裕彦

【整備活用係】係長 佐藤 淳 主任 稲垣正志 小野寺啓次

主事 庄子裕美 五十嵐 愛 文化財教諭 齋藤健一 三浦昌也

第2節 調査計画

国、宮城県、仙台市が実施する各種の整備事業（公共事業）および民間の開発に伴う発掘調査を想定し、計画した。

第3節 調査実績

平成29～30年（平成29年11月末～平成30年12月）にかけて実施された調査は表1・2の通りで、公共事業が13件、民間開発が53件、合計66件である。このうち本書に収録したのは11件である。

図号	調査区分	公共・民間	遺跡名	所在地	調査原因	対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	発出率%	報告書
1	R29-58	民間	郡山遺跡	太白区郡山三丁目	宅地造成	143.8	136.0	11月27日～12月12日	遺構・ビント	R29 103-056	第273次
2	R29-59	民間	郡山遺跡	太白区郡山四丁目	宅跡・共同住宅	238.9	11.9	12月1日	遺構・遺物なし	R29 103-054	—
3	R29-65	民間	川崎遺跡跡地	太白区富沢駅前 38 街区	保安事務所	362.7	19.5	12月6日	遺構・遺物なし	R29 103-052	—
4	R29-67	民間	郡山遺跡	太白区郡山三丁目	墓群跡	705.9	295.0	12月14日～2月9日	河川跡ほか、土師器など	R29 103-053	第275次
5	R29-68	民間	稲敷遺跡	東区飯石字石巻	建築住宅	142.3	16.0	12月21日	遺構・遺物なし	R29 102-456・457	—
6	R29-69	民間	神明社遺跡	宮城野区江崎	共同住宅	150.9	16.0	12月21日	遺構・遺物なし	R29 102-470	—
7	R29-70	公共	杉土平・北前遺跡	太白区山田北町	山田市民C改修	4.6	2.3	1月12日	遺構・遺物なし	R29 104-618	—
8	R29-71	民間	緑治屋敷前遺跡	太白区富沢駅前 31 街区	ガソリンスタンド	413.7	28.0	1月15日	遺構・遺物なし	R29 103-061	—
9	R29-72	民間	岩前遺跡	太白区大野町5丁目	住宅	66.2	19.5	1月16日	遺構・遺物なし	R29 102-865	—
10	R29-73	民間	富沢稲跡	太白区富沢字野前	共同住宅	356.2	156.0	1月22日～2月8日	遺構ほか、土師器少量	R29 103-027	第6次
11	R29-74	民間	緑治屋敷A遺跡	太白区富沢駅前 19 街区	ビジネスホテル	680.0	161.0	1月22～24日	壱穴遺構ほか	R29 103-013	—
12	R29-76	民間	郡山遺跡	太白区郡山六丁目	事務所兼倉庫	636.9	21.0	2月2日	壱穴住居跡	R29 103-071	—
13	R29-77	民間	郡山遺跡	太白区郡山二丁目	共同住宅	106.4	18.0	2月1日	小遺ほか、遺物なし	R29 103-069	—
14	R29-78	民間	南小島遺跡	若林区南小島二丁目	共同住宅	101.4	16.0	2月5日	遺構・遺物なし	R29 103-072	—
15	R29-79	公共	和田遺跡跡地	宮城野区蓮生字西屋敷跡	防火水庫	21.6	21.6	2月6日	遺構・遺物なし	R29 104-064	—
16	R29-80	民間	緑治屋敷A遺跡	太白区富沢駅前 19 街区	ビジネスホテル	680.0	125.0	2月13～27日	壱穴遺構ほか、土師器など	R29 103-013	第4次
17	R29-82	民間	東原家東遺跡跡地	若林区本下三丁目	住宅兼店舗	432.0	54.0	2月20日	遺跡	R29 103-081	—
18	R29-83	民間	南小島遺跡	若林区南小島二丁目	共同住宅	174.6	35.6	2月21日	遺構、土師器片僅少	R29 103-062	—
19	R29-84	民間	聖野り遺跡	太白区茂原字聖野西	太陽光発電	5.0	7.5	2月22日	遺構・遺物なし	R29 103-065	—
20	R29-85	民間	富沢稲跡	太白区富沢駅前 37-2 街区	店舗	266.6	96.0	2月26日～3月15日	遺構ほか、土師器	R29 103-080	第6次
21	R29-87	民間	富沢遺跡	太白区郡山三丁目	店舗	1900.0	36.0	2月28日	遺構・遺物なし	R29 103-086	—
22	R29-88	民間	郡山遺跡	太白区郡山三丁目	宅地造成	114.8	76.2	3月2～14日	遺構ほか	R29 103-064	第276次
23	R29-89	民間	緑治屋敷A遺跡	太白区富沢駅前 19 街区	店舗	2006.9	186.5	3月5～8日	遺物を含む	R29 103-076	第5次
24	R29-91	民間	富沢稲跡	太白区富沢駅前 37 街区	共同住宅	186.2	32.0	3月15日	稲跡	R29 103-091	—

(平成29年11月27日～平成30年3月31日)

図号	調査区分	公共・民間	遺跡名	所在地	調査原因	対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	発出率%	報告書
1	R30-1	民間	緑治屋敷A遺跡	太白区富沢駅前 19 街区	店舗	2006.9	70.0	4月5日	遺構ほか、土師器	R29 103-076	第5次
2	R30-5	民間	郡山遺跡	太白区郡山五丁目	事務所兼倉庫	636.9	317.0	4月9日～6月1日	壱穴住居跡ほか、土師器など	R29 103-071	第276次
3	R30-6	民間	長春塚跡および隣地	若林区長春塚字山神	区画整理	42560.7	436.0	4月19日～5月16日	木簡跡ほか	R29 103-015	—
4	R30-7	公共	長・岡城跡	太白区長・岡一丁目	公園整備	2.3	1.5	4月25日	遺構・遺物なし	R29 104-055	—
5	R30-8	民間	緑治屋敷前遺跡	太白区緑治屋敷前	広告塔	19.3	6.6	4月25日	遺構・遺物なし	R29 102-820	—

表1 平成29・30年度 公共・民間各種事業に伴う発掘調査一覧

第3節 調査実績

順 号	調査 種別	公共・ 民間	道路名	所在地	調査理由	対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	届出等別	備考
6	R30-9	民間	国分寺東遺跡隣接地	若林区木下7丁目	塋	303.2	30.0	5月10日	遺構・遺物なし	R30 105-004	—
7	R30-14	民間	熊山遺跡隣接地	太白区東武野西19街区	店舗	2006.8	330.0	6月4日～7月3日	遺跡ほか、縄文土器	R29 103-076	第5次
8	R30-19	民間	今泉遺跡隣接地	若林区今泉、二本	区画整理	1104.0	48.4	6月4日～8日	遺跡・遺物僅少	R28 104-014	—
9	R30-20	公共	王ノ塚遺跡隣接地	太白区東武野二丁目	都市計画道路	1886.4	52.3	6月20日～25日	遺構・遺物なし	—	—
10	R30-21	民間	熊山遺跡隣接地	太白区東武野西52街区	高齢者向け住居	667.5	78.0	6月18日～19日	ビット・遺物僅少	R30 105-017	—
11	R30-24	民間	陸奥国分寺跡隣接地	若林区木下5丁目	共同住宅	352.0	33.0	7月9日～11日	掘穴住居ほか	R30 105-030	—
12	R30-25	民間	熊山遺跡	太白区西中田7丁目	共同住宅	156.9	18.0	7月2日～7月3日	遺構	R30 105-028	—
13	R30-27	公共	長尾遺跡	太白区秋保町長尾	市道拡幅	1000.0	12.8	7月18日～27日	土器・遺構、遺物僅少	R28 104-029	第5年度以降
14	R30-28	民間	熊山遺跡隣接地	若林区木下7丁目	共同住宅宅地	314.0	66.0	7月17日～31日	遺跡ほか、遺物少量	R30 105-021	第2次
15	R30-30	民間	中田南遺跡	太白区中田7丁目	雑売住宅宅	108.9	18.0	7月17日	遺構	R30 105-029	—
16	R30-31	民間	京ノ原中遺跡隣接地	太白区東武野西17街区	病院	6000.4	328.4	7月23日～8月22日	掘穴住居ほか	R30 105-034	第5年度以降
17	R30-32	民間	石塚七丁目5番地跡	太白区東武野二丁目	共同住宅宅	215.5	36.0	7月23日	遺構・遺物なし	R30 105-005	—
18	R30-33	民間	熊山遺跡	太白区熊山二丁目	共同住宅宅	215.5	24.0	7月23日	遺構・遺物なし	R30 105-009	—
19	R30-36	民間	伊古田日遺跡	太白区大野田西四丁目	共同住宅兼店舗	851.8	5.4	8月2日	遺構・遺物なし	R30 105-032	—
20	R30-40	公共	八反田遺跡	太白区大野田五丁目	授舎・給食棟	307.0	授舎33.9 給食棟4.8	8月27日～10月16日 2月18日～3月18日	授舎部分 住居跡	R23 107-006 R25 104-079	第5年度以降
21	R30-41	公共	沼田遺跡・遠藤御所	宮城郡山田町鹿二丁目	防火水庫	21.9	21.9	8月27日	ビット・遺物なし	R30 106-050	—
22	R30-43	民間	大野田古墳群	太白区大野田五丁目	共同住宅宅	553.1	24.0	9月6日	遺構・遺物なし	R30 105-065	—
23	R30-45	民間	土平内遺跡隣接地	太白区土平内一丁目	宅地造成	847.0	32.4	9月11日～12日	遺構・遺物なし	R30 105-064	—
24	R30-47	民間	愛宕山横穴墓群	太白区山内四丁目	雑売住宅宅	43.5	7.0	9月18日	遺構・遺物なし	R30 105-070	—
25	R30-48	民間	熊山遺跡	太白区熊山三丁目	宅地造成	165.0	134.8	9月18日～10月22日	掘穴住居跡ほか、土器跡 など	R30 105-050	第2期次
26	R30-51	公共	熊山遺跡	太白区八木町二丁目	道路改良	225.5	5.3	10月2日	遺構・遺物なし	R30 106-007	—
27	R30-52	民間	熊山遺跡	太白区熊山五丁目	共同住宅宅	243.5	30.0	10月2日～3日	遺構・遺物なし	R30 105-042	—
28	R30-53	公共	西郷遺跡	青葉区下愛子字地下	災害復旧	135.0	4.0	10月5日	遺構・遺物なし	R30 106-073	—
29	R30-55	民間	熊野野敷遺跡	太白区熊野町	長尾住宅宅	168.5	12.5	11月7日	遺構・遺物なし	R30 105-027	—
30	R30-56	民間	該当なし	若林区六丁首字南	区画整理	9.75a	5.0	10月18日、11月2日	遺構・遺物なし	R30 105-038	—
31	R30-58	公共	高柳遺跡	鶴区八乙女中尾二丁目	水道工事	32.2	32.2	10月10日～11日	遺構・遺物なし	R29 104-083	—
32	R30-59	公共	下郷遺跡	青葉区字次字下野	浄化槽	9.0	8.4	10月22日	遺構・遺物なし	R30 106-071	—
33	R30-61	公共	高柳遺跡	鶴区高柳	道路拡幅	—	—	10月29日	遺構・遺物なし	R30 106-058	—
34	R30-63	民間	今泉遺跡	宮城郡区高宮三丁目	集合住宅	196.0	125.0	12月10日～1月21日	土坑・井戸跡など	R30 105-011	第3次
35	R30-64	公共	沼田遺跡	太白区秋保町野崎字山	浄化槽	9.5	9.5	11月30日	遺構・遺物なし	R30 106-081	—
36	R30-66	民間	小泉遺跡	宮城郡区新田三丁目	長尾住宅宅	93.0	14.0	11月26日	遺構・遺物なし	R30 105-089	—
37	R30-67	民間	熊小泉遺跡	若林区遠見町二丁目	雑売住宅宅	①64.6 ②58.4 ③68.5	①12.0 ②12.0 ③12.0	11月26日	①遺構・遺物なし ②ビット・遺物なし ③遺構・遺物なし	R30 105-371～373	—
38	R30-68	民間	熊山遺跡	太白区熊山三丁目	宅地造成	144.0	84.0	11月26日～ 12月13日	遺跡ほか	R30 105-085	第5年度以降
39	R30-69	民間	熊小泉遺跡	若林区熊小泉二丁目	共同住宅宅	109.2	15.0	12月6日～7日	遺構・遺物なし	R30 105-098	—
40	R30-72	民間	土森遺跡	青葉区土森一丁目	長尾住宅宅	135.0	16.0	12月10日	遺構・遺物なし	R30 105-072	—
41	R30-74	民間	引草遺跡	太白区山田本町	宅地造成	4908.75	106.5	12月17日～19日	掘穴住居跡	R29 103-103	第5年度以降
42	R30-76	民間	原沢遺跡	太白区東武野二丁目	共同住宅宅	388.0	21.0	12月20日	掘跡・遺物なし	R30 105-096	第5年度以降

(平成30年4月1日～12月31日)

表2 平成30年度 公共・民間各種事業に伴う発掘調査一覧



第1図 平成29・30年度調査地点位置図(国土地理院地図を一部改変)

第2章 今市遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

今市遺跡は仙台市宮城野区岩切字三所北に所在する。JR 岩切駅から西に約1.0kmの七北田川右岸の自然堤防上に位置する。遺跡の範囲は今市橋から岩切大橋にかけての七北田川右岸、東西約400m、南北約150mに広がり、標高は9.0～10.0mである。現況は住宅地や畑地となっている。

本遺跡は平成13年度に第1次調査が行われ、掘立建物跡や溝跡、井戸跡、土坑、柱穴が確認された。古墳時代の遺構はほとんど確認されていないが、中期の南小泉式の赤彩土器が出土している。古代では9世紀後半から10世紀前半の土坑や焼土跡が、中世では13～14世紀頃の屋敷地の区画に関わる溝跡や建物跡、井戸跡から構成される集落が確認されている。近世では18世紀代の建物跡や溝跡のほか、切り石の枠が伴う井戸跡が確認され、そこからは漆塗り椀が出土した。

平成29年度に実施された第2次調査では、13～16世紀頃の溝跡と井戸跡が確認された。溝跡は第1次調査で確認された屋敷の区画溝と同規模のものが検出された。建物跡などは検出されていないが、屋敷を区画する溝跡であった可能性も考えられている。また、遺物は土器のほか、鋳造関連遺物、服飾具や帯銭などの多様な遺物が出土している。このように、これまでの調査から今市遺跡は、特に中世を中心とする集落跡であったことが明らかになっている。

また、今市遺跡の付近一帯は遺跡が集中して分布する地域である。古代・中世の街道と水上交通路としての七北田川の交差点あたりに、中世にはこのあたりに「市」があったと考えられている（入間田・大石編1992）。遺跡の対岸には東光寺遺跡や羽黒前板碑群といった13世紀から14世紀にかけての板碑が集中し、宗教的空間が展開していたことが看守される。また、国指定史跡の岩切城跡を中心とし、東光寺城跡や化粧板城跡、若宮前遺跡など軍事的な性格をもった遺跡が広がるとともに、東側には洞ノ口遺跡や鴻ノ巣遺跡といった屋敷跡が広がっている。遺跡の所在する岩切周辺は中世の遺構や遺物が多く確認されることから、当時の仙台平野における重要な地域であったと考えられている。



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	今市遺跡	集落跡、包含地	自然堤防	古代、中世
2	洞ノ口遺跡	集落跡、城跡跡、溝跡跡、水田跡	自然堤防	古墳～近世
3	鴻ノ巣遺跡	集落跡、屋敷跡、水田跡	自然堤防	弥生～中世
4	洞ノ口板碑群	板碑	自然堤防	中世
5	岩切三所北A板碑	板碑	自然堤防	中世
6	岩切三所北B板碑	板碑	自然堤防	中世
7	化粧板城跡	城跡跡	中世	中世
8	羽黒前遺跡	城跡跡、宗教遺跡	丘陵	中世、近世
9	若宮前遺跡	城跡跡	丘陵	中世
10	若宮前遺跡	城跡跡、信仰遺跡	丘陵	縄文、古代～近世
11	東光寺遺跡	城跡跡、石室跡、寺跡跡、集落跡、板碑群	丘陵斜面	中世
12	東光寺横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳
13	地蔵堂板碑群	板碑	丘陵斜面	中世
14	東光寺板碑群	板碑	丘陵斜面	中世
15	東光寺板位仏群	石室仏	丘陵斜面	中世
16	新田遺跡	数有地	自然堤防	古代
17	岩切城跡	城跡跡	丘陵	中世

第2図 今市遺跡と周辺の遺跡

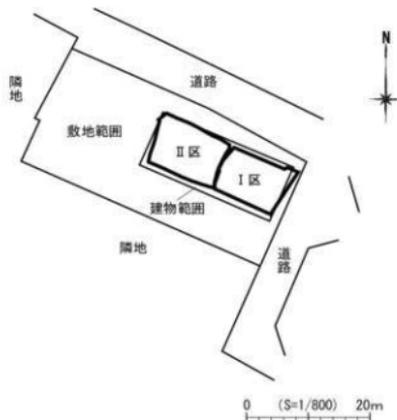


第3図 第3次調査区位置図

第2節 第3次調査

1. 調査要項

遺跡名	今市遺跡 (宮城県遺跡登録番号01222)
調査地点	仙台市宮城野区岩切字三所北 28 - 37
調査期間	平成30年12月10日 ～平成31年1月21日
調査対象面積	197.99㎡
調査面積	約125.0㎡
調査原因	集合住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育生涯学習部文化財課 調査調整係
担当職員	主事 妹尾一樹 文化財教諭 栗和田洋郎

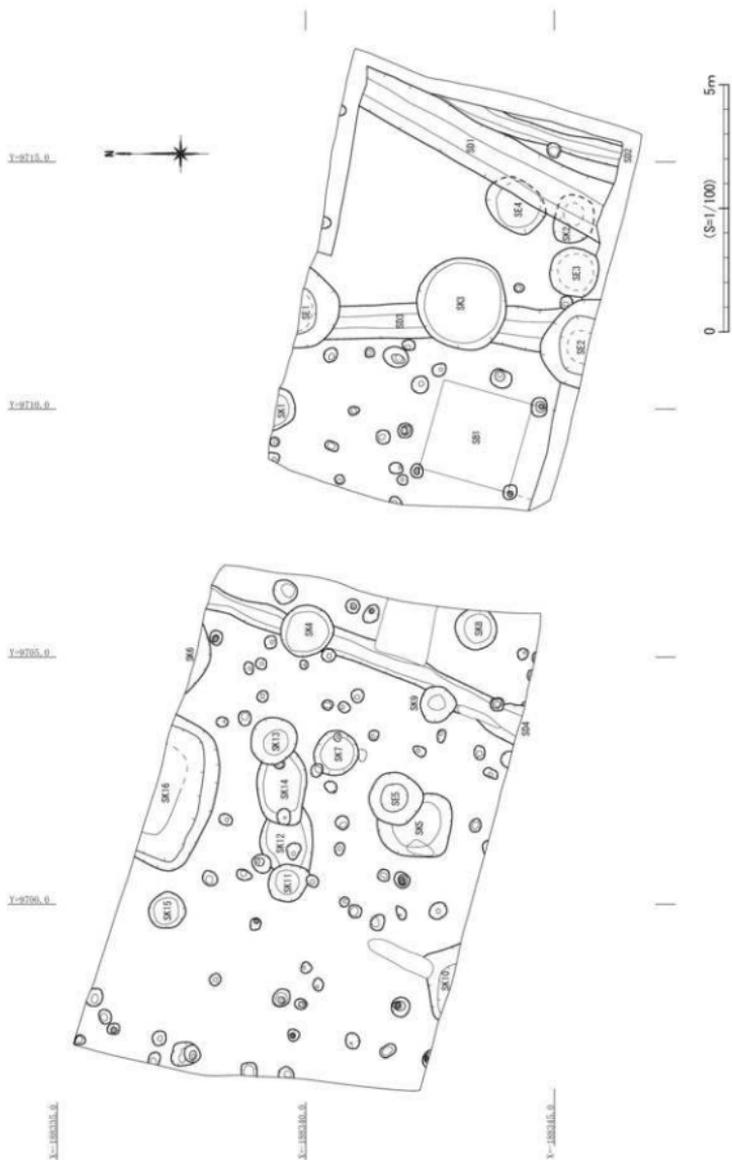


第4図 第3次調査区配置図

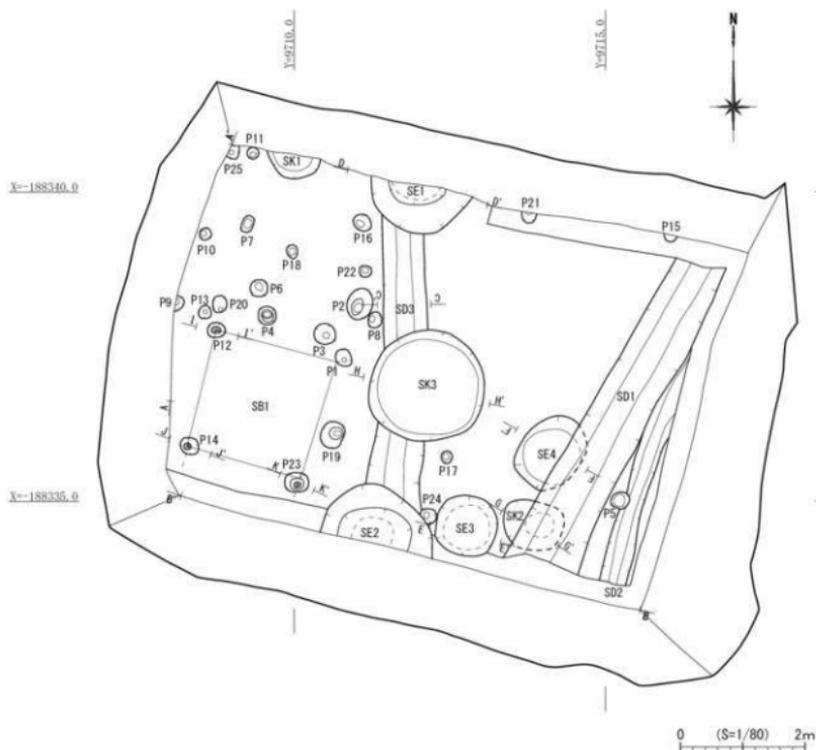
2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成30年5月7日付で申請者より提出された「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」（平成30年5月11日付H30 教生文103-11）に基づき、平成30年12月10日～平成31年1月21日に実施した。調査では対象地内東部に9.0×6.0m、西部に10.0×7.0mの調査区を設定し、それぞれをI区、II区とした。調査時の排土置き場確保のためI区から調査を行い、調査終了後、I区を埋戻したのち、II区の調査を行った。I区、II区共に重機で盛土および基本層I層を除去し、基本層II層上面で遺構の確認作業を行った。

調査では必要に応じて調査区配置図（S=1/100）、遺構平面図・断面図（S=1/20）、I区南壁・西壁断面図（S=1/20）、II区南壁・西壁断面図（1/20）を作製し、記録写真はデジタルカメラにて撮影した。



第5図 第3次調査区平面図

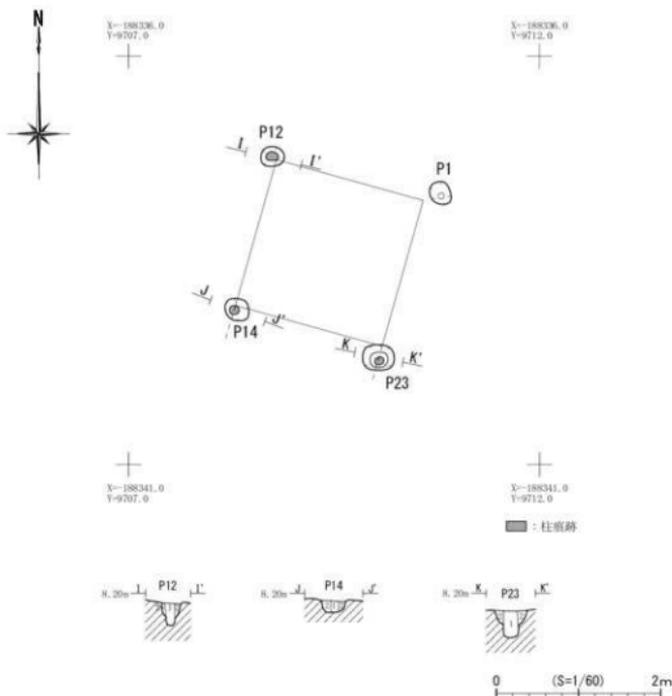


第6図 I区調査区平面図

3. 基本層序

今回の調査では、厚さ0.6～1.0mの盛土の下に基本層を3層確認した。遺構の検出面はⅡ層上面で、Ⅰ区における標高は8.0～8.1m、Ⅱ区では8.1～8.2m程度である。また、Ⅱ区では以前の集合住宅の建築工事に伴う掘削時にⅡ層上面が一部削平されていることを確認した。

- Ⅰ層：10YR4/4 褐色粘土質シルト。炭化物を含み、焼土粒を少量含む。盛土以前の畑地耕作土層と考えられる。層厚は1～29cmである。
- Ⅱ層：10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト。砂を多量に含み、酸化鉄を少量含む。今回の遺構検出面である。
- Ⅲ層：10YR5/4 にぶい黄褐色粘土層。酸化鉄を斑状に含む。SK1 土坑などの各遺構調査時に、検出面からおおよそ25～30cm下で確認した。



第7図 I区SB1掘立柱建物跡平面・断面図

4. 発見遺構と出土遺物

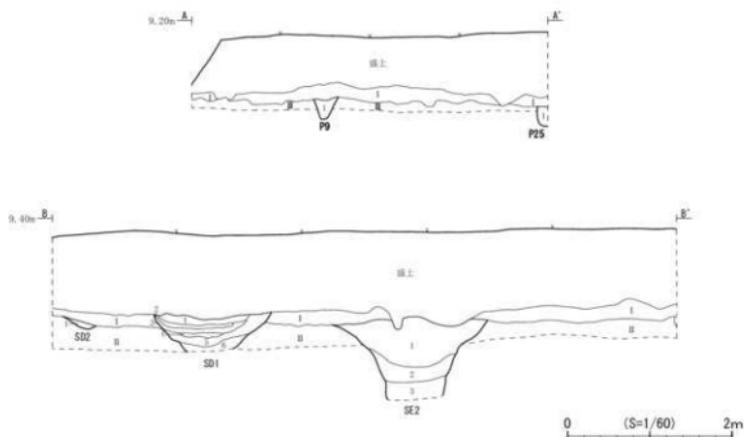
【I区】

(1) 掘立柱建物跡

SB1 掘立柱建物跡 (第6・7図)

調査区南西部で検出した。P1・12・14・23から構成される。建物の規模は東西・南北1間を確認した。西辺柱列を基準とした主軸方向N-16°-Eである。東側と北側では柱穴が確認できなかったことから、南側や西側の調査区外に延びている可能性がある。柱間隔は東西柱列が北から208cm、186cm、南北柱列が西から195cm、212cmである。

柱穴の規模は径25～39cm、検出面からの深さは15～33cmである。柱痕跡はP12・14・23で確認され、直径は8～17cmである。遺物は、P12から非ロクロ土師器2点、中世陶器1点、P14からロクロ土師器2点、須恵器1点が出土している。出土遺物から詳細な時期は不明であるが、中世と考えられる。



第8図 I区西・南壁断面図

(2) 溝跡

SD1 溝跡 (第6・8図)

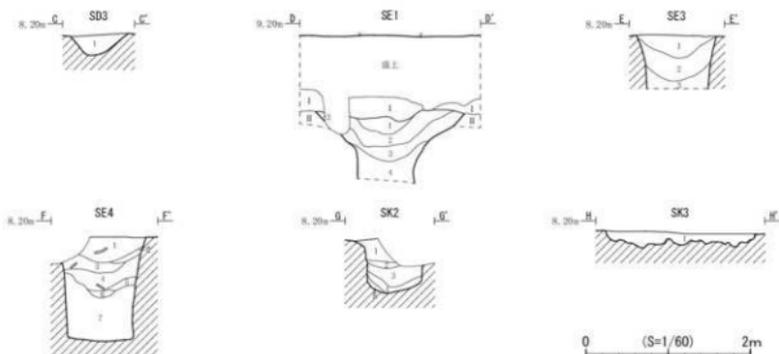
調査区の東部で検出した北東から南西方向の溝跡で、その両端は調査区外に延びる。SD2 溝跡、SE4 井戸跡、SK2 土坑よりも新しい。規模は検出長 5.5m、上端幅 145cm、下端幅 60cm、検出面からの深さは 55cm である。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は 6 層に分層でき、下面では砂がラミナ状に堆積する。

遺物は非ロクロ土師器 6 点、ロクロ土師器 4 点、須恵器 1 点、中世陶器 2 点が出土している。壁面観察の結果、掘り込み面は 1 層上面であることを確認した。1 層上面から掘り込まれていることから、現代に近い時期であると考えられる。

SD2 溝跡 (第6・8図)

調査区東部で検出した南北方向の溝跡で、両端は調査区外に延びる。SD1 溝跡、P5 よりも古い。規模は検出長 4.5m、上端幅 40cm、下端幅 12cm、検出面からの深さは 17cm である。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、下面は酸化鉄が集積している。

遺物はロクロ土師器 1 点、馬歯 (写真 4-1) が出土している。遺構の詳細な時期は不明である。



遺構名	層位	色調	土質	備考・遺人物
SD3	1	WYR1/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄、II層砂を含む。
	2	WYR2/3 黒色	粘土	炭化物を含む。
SE1	3	WYR3/1 黒色	粘土	I層化、炭化物を含む。
	4	WYR3/2 黒褐色	粘土質シルト	砂、炭化物を含む。
	5	WYR3/3 黒褐色	粘土質シルト	II層ブロック、砂を少量含む。
	6	WYR3/4 黒褐色	粘土質シルト	II層ブロック、炭化物を少量含む。
SE3	1	WYR3/1 黒褐色	粘土質シルト	II層ブロック、炭化物を少量含む。
	2	WYR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物、酸化鉄を少量含む。
	3	WYR2/2 黒褐色	粘土質シルト	II層ブロック、炭化物を少量含む。
SE4	1	WYR3/1 黒褐色	粘土	炭化物、II層砂を少量含む。
	2	WYR3/1 黒褐色	粘土	炭化物、II層砂を含む。
	3	WYR3/4 に近い黄褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
	4	WYR3/2 黒褐色	粘土	炭化物、II層砂を含む。
	5	WYR3/4 に近い黄褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
	6	WYR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
	7	WYR2/2 黒褐色	粘土	炭化物、II層砂を少量含む。
SK2	1	WYR1/1 褐色区	粘土質シルト	II層砂ブロック、炭化物を含む。
	2	WYR2/1 黒褐色	粘土	炭化物を極少量含む。
	3	WYR3/1 黒褐色	粘土	砂を少量含む。
	4	WYR3/1 黒褐色	粘土	砂を含む。
	5	WYR3/3 暗褐色	シルト質粘土	炭化物を含む。
SK3	1	WYR3/1 黒褐色	粘土	に近い黄褐色粘土ブロック、炭化物を少量含む。

第9図 I区溝跡・井戸跡・土坑断面図

SD3 溝跡 (第6・9・10図)

調査区中央部で検出した南北方向の溝跡で、その両端は調査区外に延びる。SE1・2井戸跡、SK3土坑、P24よりも古い。規模は検出長3.9m、上端幅70cm、下端幅20cm、検出面からの深さは28cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層である。

遺物は非ロクロ土師器1点、ロクロ土師器76点、須恵器16点が出土している。そのうち土師器2点を掲載した(第10図1・2)。2は非ロクロ成形の土師器底部、1はロクロ成形による甕の口縁部である。遺構の時期はロクロ成形の土師器が主体的に出土しているため、9～10世紀頃と考えられる。

(3) 井戸跡

SE1井戸跡 (第6・9図)

調査区中央の北壁際で検出した表掘りの井戸跡である。SD3溝跡よりも新しい。平面形は円形とみられ、北側は調査区外へと延びる。規模は東西長165cm、南北長75cm以上である。検出面から90cmの深さまで掘り下げたが、安全を考慮し、完掘はしていない。堆積土は4層に分層した。遺物は非ロクロ土師器が1点出土しているが小片のため、掲載していない。遺構の時期はSD3溝跡との重複関係から古代以降と考えられる。

SE2 井戸跡 (第6・8図)

調査区中央の南壁際で検出した素掘りの井戸跡である。SD3溝跡、P24よりも新しい。平面形は円形とみられ、南側は調査区外へと延びる。規模は東西長185cm、南北長100cm以上である。検出面から100cm程度掘り下げたが、安全を考慮し、完掘はしていない。堆積土は3層に分層した。

遺物は非ロクロ土師器11点、ロクロ土師器22点、須恵器6点、中世陶器1点、礫石器2点、鉄滓2点が出土している。出土遺物から遺構の詳細な時期を限定することはできないが、中世と考えられる。

SE3 井戸跡 (第6・9図)

調査区南部で検出した素掘りの井戸跡である。平面形は円形を呈する。規模は東西・南北共に100cmで、検出面から70cmの深さまで掘り下げたが、安全を考慮し、完掘はしていない。堆積土は3層に分層した。

遺物は非ロクロ土師器3点、ロクロ土師器8点、須恵器2点、中世陶器1点、礫石器1点が出土している。そのうち中世陶器(写真3-5)を掲載した。産地は瀬戸で、皿の体部片と考えられ、体部上半で段をもつ。折縁深皿の可能性もある。瀬戸窯において折縁深皿は13世紀中葉頃から認められる(藤沢1995)。そのため、遺構の時期は13世紀中葉以降と考えられる。

SE4 井戸跡 (第6・9・10図)

調査区東部で検出した素掘りの井戸跡である。平面形は円形とみられ、東側はSD1溝跡に切られる。規模は東西長110cm、南北長120cmである。検出面からの深さは130cmである。堆積土は7層に分層され、底面付近では礫が点在する。

遺物はロクロ土師器7点、須恵器1点、陶器34点、礫石器4点、石製品1点のほか、木片が出土している。そのうち陶器3点(第10図3・4、写真3-6)、礫石器1点(写真3-9)、石製品1点(写真3-8)を掲載した。

第10図3は中世陶器甕の受口状の口縁部で、4は肩部破片である。在地産と考えられ、その特徴から時期は13世紀後半～14世紀頃と推定される。写真3-6は陶器底部破片で、器面が剥落している。底径は18～26cm程度で、大型の甕とみられる。全体的に黒色を呈する。写真3-8は、黒色の扁平な小礫で、丸みをもち全体的に光沢をもつ。1点のみの出土のため断定できないが、碁石の可能性もある。また、写真3-9は底面で検出した礫であり、端部に焼け面が認められた。遺構の時期は、出土遺物から13世紀後半～14世紀前半頃と考えられる。

(4) 土坑

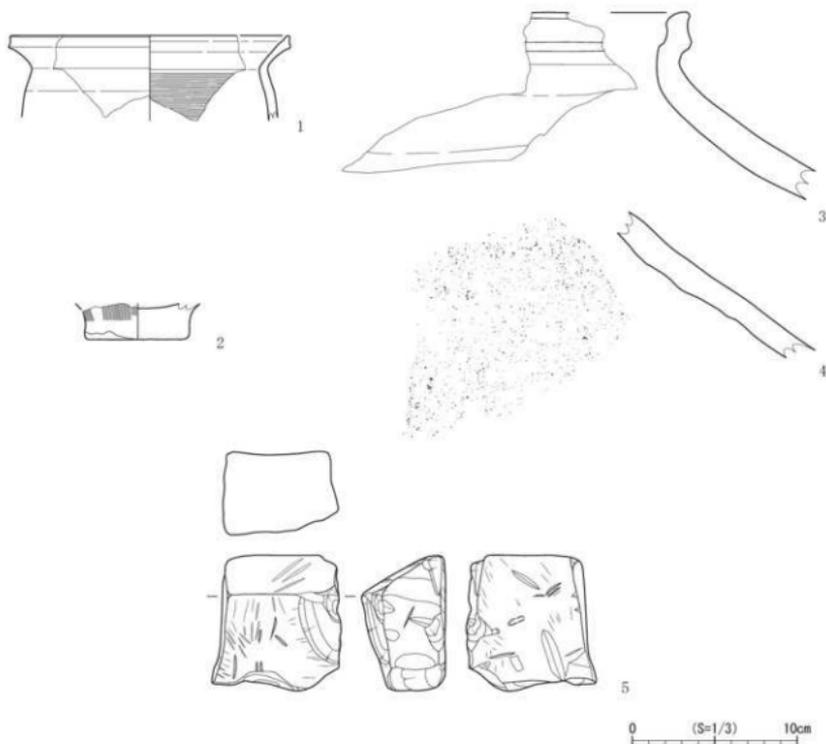
SK1 土坑 (第6・9図)

調査区北西側で検出した。平面形は検出部で半円形を呈し、北側は調査区外へと延びる。規模は東西長85cm、南北長40cm以上で検出面からの深さは20cmである。断面形はU字形を呈する。堆積土は単層である。

遺物はロクロ土師器が2点、在地産と考えられる中世陶器が2点出している。遺構の詳細な時期を限定することはできないが、出土遺物から13世紀以降と考えられる。

SK2 土坑 (第6・9図)

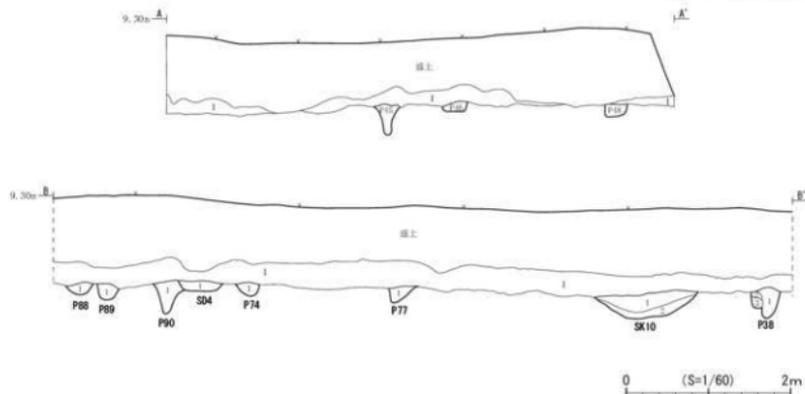
調査区南東側で検出した。平面形は検出部で半円形を呈し、東側はSD1溝跡に切られる。規模は東西長100cm、南北長75cmであり、検出面からの深さは68cmである。断面形はU字形を呈する。堆積土は5層に分層した。なお、遺物が出土していないため、時期は不明である。



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-1	SE3	葦織土	土製器	甕	(16.8)	-	(5.2)	口縁部：ロクロナデ 体部：ロクロナデ	口縁部：ロクロナデ 体部：多岐ヘラナデ	粘土織布 砂粒含む	3-1
2	C-1	SE3	葦織土	土製器	甕	-	5.6	(2.2)	体部下縁：ハケメ 底部：本薬瓶・ナデ	底部：ヘラナデ	粘土織布 砂粒多量含む	3-2
3	Ic-1	SE4	7層	陶器	甕	-	-	(11.6)	口縁部：ロクロナデ 体部：ロクロナデ	口縁部：ロクロナデ 体部：ナデ	産地：在地(白石) 粘土織布 砂粒含む	3-3
4	Ic-2	SE4	7層	陶器	大甕	-	-	-	ナデ 馬子足の押印	ナデ	産地：在地 両面黒點色	3-4
-	Ic-2	SE3	葦織土	陶器	茶碗 深皿?	-	-	-	ロクロ調製・軸	産地：古瀬戸 漆喰あり 上部に段をもつ	写真掲載のみ	3-5
-	Ic-4	SE4	7層	陶器	甕	-	(16.5)	(4.0)	ナデ	最近周辺の磁片、発熱のためが磁器 全体に黒色。写真掲載のみ		3-6

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
5	K-1	SK3	葦織土	石製品	紙石	8.3	7.7	5.1	平坦な紙面と僅次の紙面 平坦な紙面には先行した僅次の紙面の痕跡が部分的に残る 砂粒 重さ 316g	3-7
-	K-3	SE4	4層	石製品	墓石?	1.8	2.0	0.8	円形で丸みをもち扁平な小礫 黒色 重さ 5.5g 写真掲載のみ	3-8
-	K-2	SE4	7層	礫	-	24.0	15.5	4.0	一方の端面片面に地面あり 重さ 2210g 写真掲載のみ	3-9
-	D-1	SE2	葦織土	動物遺体	高麗	-	-	-	写真掲載のみ	4-1

第10図 I区出土遺物



遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
S04	1	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロックを含む。
SK10	1	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・黒層ブロック、埴土粒を少量含む。
	2	10YR5.1 黒褐色	粘土	砂を少量含む。
P38	1	10YR5.3 暗褐色	粘土	砂を少量含む。
	2	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロックを含む。
P45	1	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロックを少量、炭化物を含む。
	2	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロックを少量含む。
P46	1	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	黒層を少量含む。
P48	1	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	黒層を含む、炭化物を少量含む。
P74	1	10YR4.1 褐色	粘土質シルト	黒層ブロックを含む。
P77	1	10YR5.1 褐色	粘土質シルト	黒層ブロックを含む。
P88	1	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・黒層を含む。
P89	1	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロックを含む。
P90	1	10YR5.3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・黒層を少量含む。

第12図 II区西・南壁断面図

【II区】

(1) 溝跡

SD4 溝跡 (第11・12図)

調査区東部で検出した。一部攪乱により削平されている。北東から南西方向の溝跡で、その両端は調査区外へと延びる。SK4・9土坑、P39・50よりも古く、P90よりも新しい。規模は検出長6.65m、上端幅約55cm、下端幅約35cm、検出面からの深さは13cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層である。

遺物は非クロコ土師器2点、クロコ土師器4点、陶器1点が出土している。遺構の詳細な時期は不明である。

(2) 井戸跡

SE5 井戸跡 (第11・13図)

調査区の中央部南側で検出した素掘りの井戸跡である。SK5土坑よりも新しい。平面形は円形を呈し、規模は東西長105cm、南北長108cmで検出面からの深さは67cmである。堆積土は7層に分層した。

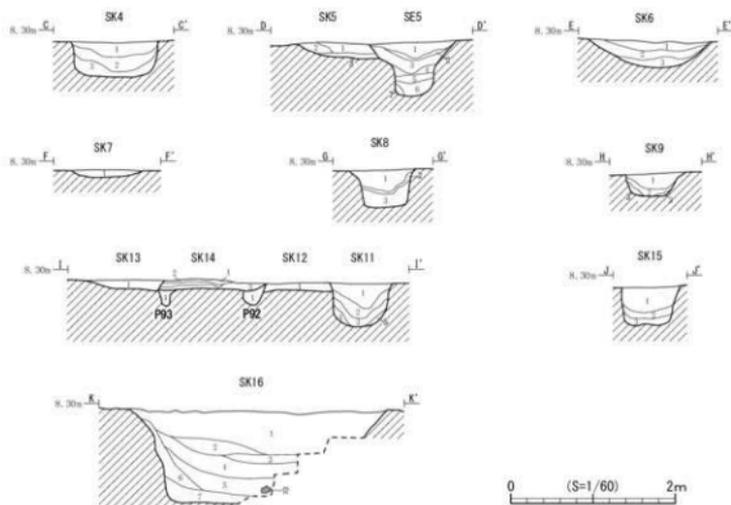
遺物はクロコ土師器21点、須臾器2点が出土している。遺構の時期は、SK5土坑と重複することから10世紀以降と考えられる。

(3) 土坑

SK4 土坑 (第11・13図)

調査区の東側で検出した。SD4溝跡よりも新しい。平面形は円形を呈し、規模は東西・南北共に105cmで検出面

第2節 第3次調査



遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
SK5	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・砂を含む。
	2	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
	3	HVR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物、砂を少量含む。
	4	HVR5-1 に近い黄褐色	砂	礫～粗砂を多量含む。
	5	HVR2-2 黒褐色	シルト	礫砂を含む。
	6	HVR5-4 に近い黄褐色	砂	礫～粗砂、炭化物を少量含む。
	7	HVR2-2 黒褐色	砂	礫～粗砂を含む。
SK4	1	HVR3-2 黒褐色	シルト質粘土	炭化物、砂を少量含む。
	2	HVR3-2 黒褐色	シルト質粘土	草屑ブロック、炭を少量含む。
	3	HVR5-4 に近い黄褐色	粘土	草屑ブロックを多量含む。
SK5	1	HVR2-2 黒褐色	粘土質シルト	砂・焼土粒を含む。
	2	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	砂・焼土粒を含む。
	3	HVR5-4 に近い黄褐色	砂	粗砂を含む。
SK6	1	HVR4-4 褐色	粘土質シルト	炭化物を少量、礫 (φ 1mm) を含む。
	2	HVR3-3 暗褐色	粘土	炭化物を少量、砂を含む。
	3	HVR2-2 黒褐色	粘土	炭化物を少量、砂を含む。
SK7	1	HVR6-3 に近い黄褐色	シルト	砂・礫 (φ 1～3mm)・炭化物・焼土粒を含む。
	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	砂・炭化物を少量含む。
	2	HVR2-2 黒褐色	粘土	炭化物を少量含む。
SK8	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	砂・炭化物、焼土粒を少量含む。
	2	HVR5-6 黄褐色	砂	暗褐色粘土ブロックを少量含む。
	3	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	砂を少量含む。
SK1	1	HVR3-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒・砂を含む。
	2	HVR4-4 褐色	砂質シルト	砂を少量、炭化物を少量含む。
	3	HVR5-4 に近い黄褐色	粘土	砂、酸化鉄を少量含む。
	4	HVR4-4 褐色	砂	酸化鉄を含む。
	5	HVR4-4 褐色	砂	酸化鉄を含む。
SK2	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	炭・焼土粒少量、砂を含む。
	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・砂を少量含む。
SK4	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。焼土層。
	2	HVR2-2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量含む。焼土層。
	3	HVR3-3 暗褐色	シルト	炭化物、砂を少量含む。焼土層。
SK15	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・草屑ブロックを含む。
	2	HVR3-3 暗褐色	粘土	に近い黄褐色粘土ブロックを少量含む。
	3	HVR3-3 暗褐色	粘土	に近い黄褐色粘土ブロックを含む。
SK16	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土粒・砂を含む。
	2	HVR2-1 黒色	粘土質シルト	炭化物を含む。
	3	HVR2-1 黒色	粘土質シルト	草屑ブロック・炭化物を含む。
	4	HVR5-3 に近い黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少量、砂を含む。
	5	HVR2-1 黒色	粘土質シルト	草屑ブロックを含む。
	6	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	草屑ブロックを含む。
	7	HVR2-1 黒色	シルト	砂を多量を含む。
P92	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	に近い黄褐色粘土ブロックを含む。
P90	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	に近い黄褐色粘土ブロックを含む。

第13図 II区井戸跡・土坑断面図

からの深さは46cmである。断面形は幅広いU字形を呈する。堆積土は3層に分層した。

遺物はロクロ土師器4点、中世陶器1点が出土している。遺構の詳細な時期は不明であるが、中世と考えられる。

SK5 土坑 (第11・13・14図)

調査区の中央部南側で検出した。SE5 井戸跡よりも古い。平面形は円形を呈し、規模は東西長128cm、南北長150cmで検出面からの深さは20cmである。断面形はU字形を呈する。堆積土は3層に分層した。

遺物は非ロクロ土師器5点、ロクロ土師器37点、須恵器1点のほか、焼けた粘土塊が出土している。そのうちロクロ土師器を5点掲載した(第14図1～5)。いずれもロクロ成形によるもので1は坏、2～5は甕である。遺構の時期は、出土遺物から9世紀頃と考えられる。

SK6 土坑 (第11・13図)

調査区北東部の北壁際で検出した。平面形は検出部で半円形を呈し、北側は調査区外へと延びる。規模は東西長145cm、南北長30cm以上で、検出面からの深さ37cmまで掘り下げたところ壁面に到達したため、下端は確認していない。堆積土は3層に分層した。

遺物はロクロ土師器1点、須恵器1点が出土している。遺構の詳細な時期は不明であるが、出土遺物から9世紀以降と考えられる。

SK7 土坑 (第11・13図)

調査区中央部東側で検出した。P69よりも古い。平面形は円形を呈し、規模は東西・南北共に93cm、検出面からの深さは10cmである。断面形はU字形を呈する。堆積土は単層である。

遺物は非ロクロ土師器13点、ロクロ土師器36点、鉄滓1点のほか、焼けた粘土塊が出土している。遺構の時期は出土遺物から9世紀頃と考えられる。

SK8 土坑 (第11・13図)

調査区南東部で検出した。平面形は円形を呈し、規模は東西長80cm、南北長85cm、検出面からの深さは50cmである。断面形はU字形を呈する。堆積土は3層に分層した。遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明である。

SK9 土坑 (第11・13図)

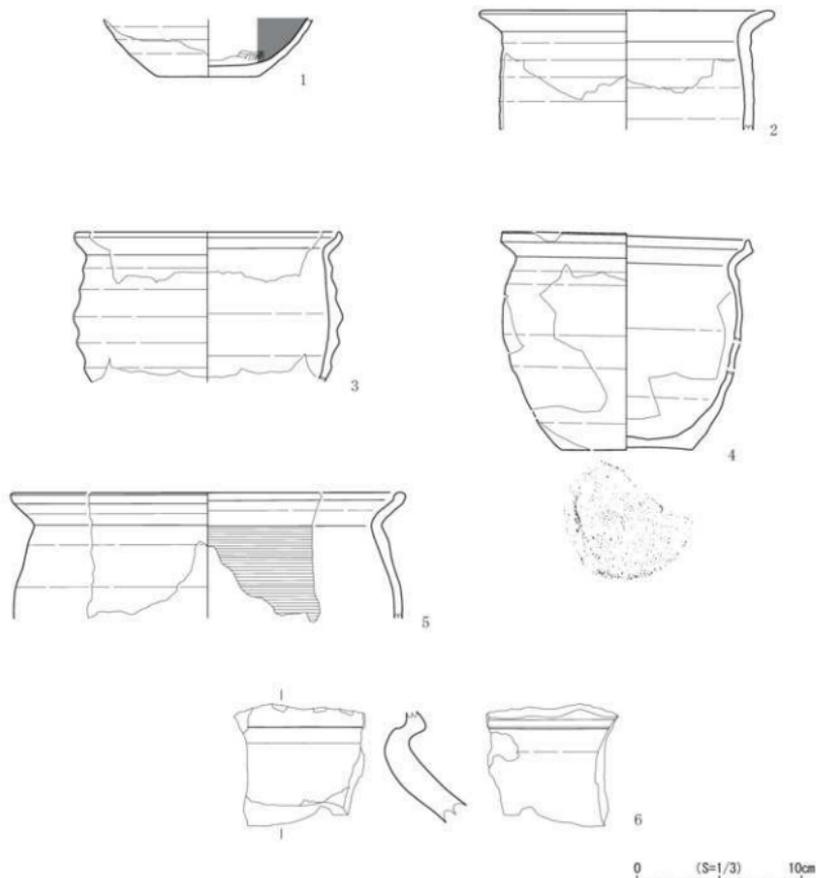
調査区南東部で検出した。SD4溝跡よりも新しい。平面形は円形を呈し、規模は東西・南北共に73cmで検出面からの深さは30cmである。断面形はU字形を呈する。堆積土は3層に分層した。

遺物は鉄滓が1点出土している。遺構の時期は不明である。

SK10 土坑 (第11・12・14図)

調査区中央部南壁際で検出した。一部攪乱により削平されている。平面形は検出部で半円形を呈し、南側は調査区外へと延びる。規模は東西長160cm、南北長65cmである。検出面から36cm程度掘り下げたところ、壁面に到達したため下端は確認していない。堆積土は2層に分層した。

遺物はロクロ土師器が10点、中世陶器が1点出土している(第14図6)。遺構の時期は中世と考えられる。



図面 番号	登録 番号	出土 層様	層位	種別	器種	寸法 (cm)			外面	内面	備考	写真 図面	
						口径	高さ	器高					
1	D-4	SK5	堆積土	土師器	鉢	-	6.3	13.43	ロタロナダ	底：同軸糸切り 無調整	ヘラミガキ一帯色処理	粘土織密 砂粒含む	4-2
2	D-8	SK5	堆積土	土師器	甕	17.6	-	17.33	ロタロナダ	ロタロナダ		粘土織密 砂粒含む	4-3
3	D-7	SK5	堆積土	土師器	甕	16.0	-	19.33	ロタロナダ	ロタロナダ		粘土織密 砂粒含む	4-4
4	D-5	SK5	堆積土	土師器	甕	15.0	8.0	13.4	ロタロナダ	底：同軸糸切り 無調整	ロタロナダ	粘土織密 砂粒含む	4-5
5	D-6	SK5	堆積土	土師器	甕	23.63	-	17.73	ロタロナダ	同軸ヘラナダ		粘土織密 砂粒含む	4-6
6	Ic-5	SK10	検出面	陶器	甕	-	-	17.53	ナダ	自然釉	ナダ口：沈澱1条	粘土織密 石膏粒含む (口縁部片 産地：在野 (I) 区) 13~14c	4-7

第14図 II区土坑出土遺物

SK11 土坑 (第11・13図)

調査区中央部で検出した。SK12土坑よりも新しく、P65よりも古い。平面形は半円形を呈し、規模は東西77cm、南北81cmで検出面からの深さは56cmである。断面形U字形を呈する。堆積土は5層に分層した。遺物は非ロクロ土師器10点、ロクロ土師器6点、須恵器2点、赤焼土器2点が出土している。遺構の時期は出土遺物から概ね10世紀以降と考えられる。

SK12 土坑 (第11・13図)

調査区中央部で検出した。平面形は楕円形を呈し、東側はSK14土坑、西側はSK11土坑に切られる。また、P68よりも古く、P91よりも新しい。規模は東西133cm、南北105cmで検出面からの深さは12cmである。断面形はU字形を呈する。堆積土は単層である。遺物は非ロクロ土師器1点、ロクロ土師器3点、焼けた粘土塊が出土している。出土遺物やSK11土坑との重複関係から、遺構の時期は9～10世紀頃と考えられる。

SK13 土坑 (第11・13図)

調査区中央部で検出した。SK14土坑よりも新しい。平面形は円形を呈し、規模は東西96cm、南北92cmで検出面からの深さは15cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層である。遺物は非ロクロ土師器が2点出土している。遺構の詳細な時期は不明である。

SK14 土坑 (第11・13図)

調査区中央部北側で検出した。東側はSK13土坑に切られるが、SK12土坑、P92、93よりも新しい。平面形は検出部で楕円形を呈する。規模は東西132cm、南北97cmで検出面からの深さは11cmである。断面形はU字状を呈する。堆積土は3層に分層した。堆積土中には多量の炭化物が含まれ、1層は焼土粒を含む。

遺物は非ロクロ土師器3点、ロクロ土師器21点、陶器1点、礫石器2点、鉄製品1点、鉄滓11点、焼けた粘土塊が出土している。遺構の詳細な時期は不明である。

SK15 土坑 (第11・13図)

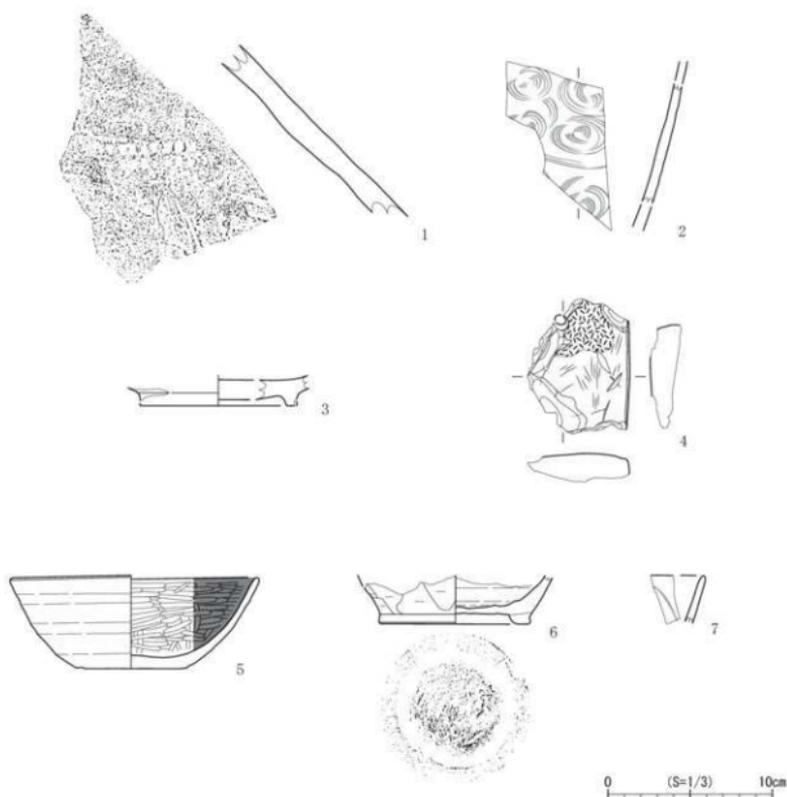
調査区の北西部で検出した。平面形は円形を呈し、規模は東西・南北共に75cmで検出面からの深さは50cmである。断面形はU字状を呈する。堆積土は3層に分層した。遺物はロクロ土師器3点、須恵器1点が出土している。遺構の時期は、出土遺物から9世紀以降と考えられる。

SK16 土坑 (第11・13・15・16図)

調査区中央部北壁際で検出した。平面形は検出部で半隅丸方形を呈し、規模は東西3.0m、南北1.2m以上で検出面からの深さは120cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は7層に分層した。

遺物はロクロ土師器47点、須恵器10点、中世陶器6点、磁器2点、瓦質土器8点、石製品1点の他、鉄製品6点、鉄滓3点、土製品10点、動物骨といった遺存体が出土している。そのうち陶器1点(第15図1)、中国産白磁2点(同図2・3)、石製品(同図4)、土製品(第16図1)、動物骨(写真5-4・5)を掲載した。

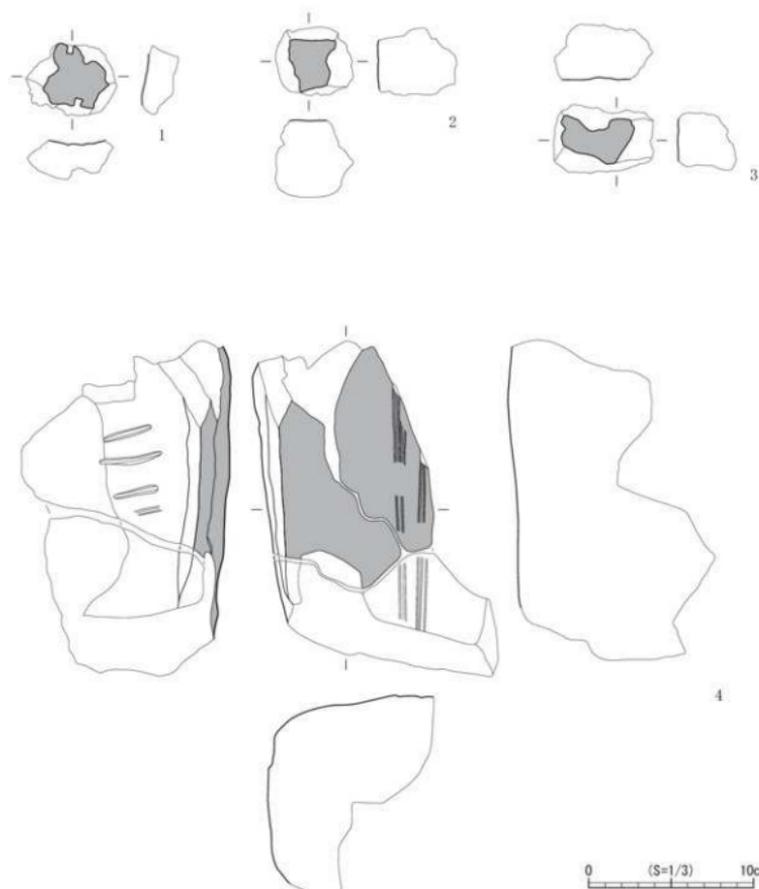
第15図1は常滑産甕の体部片で、外面には押印が施される。2・3は中国産の白磁である。2は内外面に施軸され、外面は3本単位の刷毛による渦文と上下を区画するような横方向への施文が認められる。内外面に施軸が認められるため鉢の体部破片としたが、梅瓶の体部下半の可能性もある。12～14世紀頃と考えられる。3は碗の高台付底部である。4は片岩製の温石であり、穿孔は両側から行われる。第16図1は一部平坦面が残り、受熱痕が



図録番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	1c-6	SK16	単體土	瓦器	甕	-	-	(10.3)	ナゲ→兼状列印	ナゲ	粘土調赤 石質粒含む 体部片 産地：常陸	4-9
2	J-1	SK16	単體土	磁器	鉢	-	-	(10.4)	素文		粘土調赤 砂質片 白磁 産地：中国 12～14c	4-9
3	J-2	SK16	単體土	磁器	碗	-	(9.6)	(1.9)	素	磁	粘土調赤 白磁 産地：中国	4-10
5	D-3	基本層	Ⅱ層	土器器	甕	13.0	6.7	5.7	コタロナゲ 底：同軸糸切り 無調整	ヘラキザキ→黒色処理	粘土調赤 白磁 産地：中国 両面骨針をむずらに含む 9/10 残	4-11
6	F-1	基本層	Ⅱ層	瓦器器	盆	-	9.2	(3.0)	ヘラキザキ 高台：ナゲ 底：ナゲ→ヘラ擦き「×」	コタロナゲ	粘土調赤	5-1
7	J-2	基本層	Ⅱ層	磁器	碗	-	-	(3.0)	素文		粘土調赤 口縁部片 産地：中国（遼東部系）	5-2

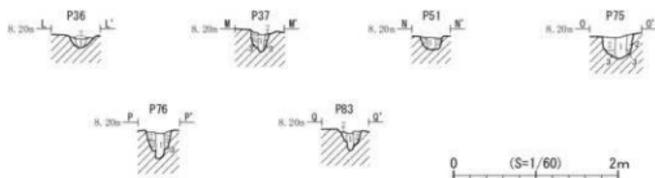
図録番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
4	K-4	SK16	単體土	石製品	泓石	06.3)	06.2)	(1.7)	表面内面に受熱による割断面 実測した面には土層が残るが、その裏面には土層が残っていない 上面に径7mmの孔が1孔ある 片刃 重さ120.0g	5-3
-	D-2	SK16	単體土	動物遺体	鹿骨	(33.0)	9.5	10.5	写真掲載のみ	5-4
-	D-3	SK16	単體土	動物遺体	鹿骨	(15.5)	4.5	4.0	写真掲載のみ	5-5

第15図 II区土坑・基本層出土遺物(1)



調査番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	群種	法量 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	P-3	SK16	準雑土	土製品	陶管	(4.4)	(3.3)	(2.4)	片型の一部 臍物(スサ)が多く含まれていた痕跡があり 製品は不明であるが外形は曲線状として斜めに立ち上がる 重さ 35.0g	5-6
2	P-1	基本層	草層	土製品	陶管	(4.2)	(4.6)	(4.7)	外形の一部 受熱痕あり 砂粒を含む 製品は不明であるが外形は平坦な面が垂直に立ち上がる 重さ 49.6g	5-7
3	P-2	基本層	草層	土製品	陶管	(4.2)	(6.0)	(3.3)	片型の一部 受熱痕あり 砂粒を含む 製品は不明であるが外形は平坦な面が垂直に立ち上がる 重さ 52.0g	5-8
4	P-4	基本層	草層	土製品	陶管	(9.0)	(12.9)	(12.0)	内部の一部 受熱痕あり 一部残存 表面に直線的に浅い溝が平行に彫られる 全体の形状は上に開く直方体状 重さ 325.0g	5-9

第16図 II区土坑・基本層出土遺物(2)



遺構名	層位	色調	土質	備考・遺人物
P36	1	HVR3-1 黒褐色	シルト質粘土	柱痕跡。
	2	HVR3-1 に近い黄褐色	シルト	砂を含む。
P37	1	HVR3-1 黒褐色	粘土	柱痕跡。
	2	HVR3-3 暗褐色	シルト質粘土	砂を含む。
	3	HVR3-4 に近い黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄・砂を含む。
P51	1	HVR2-2 黒褐色	粘土	柱痕跡。
	2	HVR5-4 に近い黄褐色	シルト質粘土	砂を少量含む。
P75	1	HVR2-2 黒褐色	粘土	柱痕跡。
	2	HVR3-3 暗褐色	シルト質粘土	砂を含む。
	3	HVR5-4 に近い黄褐色	シルト質粘土	砂を含む。
P76	1	HVR3-2 黒褐色	粘土	炭化物を含む。柱痕跡。
	2	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	砂を少量。籾(φ1~2mm)を含む。
	3	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	
P83	1	HVR3-3 暗褐色	粘土質シルト	砂を少量含む。柱痕跡。
	2	HVR3-3 暗褐色	シルト	砂を少量。黒鉛ブロックを含む。

第17図 II区ピット断面図

認められる土製品で、胎土にはスサ抜けによる空洞が観察できる。鋳型の可能性がある。写真5-4・5はウマの骨で、4は大腿骨、5は焼骨と考えられる。出土遺物から遺構の時期は、13～14世紀頃と考えられる。

(4) ピット (第17図)

II区では68基確認した。P36、P37、P38、P51、P75、P76、P83では柱痕跡を確認しているが、掘立柱建物跡を構成するようなプランは確認できなかった。遺物は非ロクロ土師器5点、ロクロ土師器55点、須恵器9点、赤焼土器4点、鉄滓、骨片が出土している。

(5) 遺構外出土遺物 (第15・16図)

遺構外からは、非ロクロ土師器8点、ロクロ土師器151点、須恵器5点、赤焼土器3点、陶器1点、磁器1点、礫石器1点、土製品、鉄製品が出土している。そのうちロクロ土師器1点(第15図5)、須恵器1点(同図6)、中国産青磁1点(同図7)、土製品3点(第16図2～4)を掲載した。

第15図5は内面黒色処理の施されたロクロ土師器の坏で、底部切り離しは回転系切りである。II層上面にて土圧により破損したかのような状態で出土しており、何らかの遺構に伴う可能性が考えられたが、遺構プランは確認できなかった。特徴から9世紀後半～10世紀前半頃と考えられる。6は須恵器壺の高台付底部である。底面には「×」のヘラ記号を施す。7は中国産の青磁碗の口縁部破片である。内外面に施軸し、外面には蓮弁文を施す。産地は龍泉窯系で13～14世紀頃と考えられる。第16図2・3は一部平坦面が残り、受熱痕の認められる土製品で、胎土は砂粒を多く含む。4は二面を残す受熱痕をもつ土製品で、表面には直線的に彫られた浅い溝が数条走る。全体形は不明だが、上方に開く直方体状と推定される。2・3と比べ胎土は緻密である。これらは鋳型の可能性がある。

5. まとめ

今回の調査地点は今市遺跡の西部に位置する。本調査区の北東側では第1次調査、南側では第2次調査が実施されている。これまでの調査では竅穴住居跡や掘立柱建物跡、溝跡、土坑、井戸跡などが検出されており、それらの遺構は出土遺物から古墳時代と古代、中世、近世の時期に該当することが確認されている。

今回の遺構検出面の標高はⅠ区で約8.1m、Ⅱ区で約8.2mであり、Ⅰ区の方が0.1m程低い。南側で行われた第2次調査でも、西から東にかけて遺構検出面の標高が低くなっており、同様の状況がうかがえる。

今回の調査ではⅠ区から掘立柱建物跡1棟、溝跡3条、井戸跡4基、土坑3基、ビット21基を、Ⅱ区では溝跡1条、井戸跡1基、土坑13基、ビット68基を検出した。各遺構からは非クロコ成形の土師器が出土しているが、出土遺物や重複関係から考えると遺構の時期は9世紀が上限である。今回の調査では、近世陶磁器が確認されておらず、時期比定できる遺物は14世紀を下らない。また、これまでの調査結果を加味すると、詳細な変遷は不明なもの、今回の調査では9～10世紀および13～14世紀頃にかけての2時期の遺構が検出されたと考えられる。

弘安八年(1285年)の留守家広談状から、宮城郡に冠屋市場と河原宿五日市場が存在していたことが知られている。このうち河原宿五日市場については、「岩切の若宮前周辺および七北田川南岸の三所北・三所南と今市の間を含む地」(仙台市史編さん室2000)であったと推定されている。第1次調査において、留守氏の書状に記載されている時期の遺構と遺物は確認されているものの、遺構の密度や構成と遺物の種類と量の点から市場としては貧弱な点が指摘されている。しかし、第2次調査では、遺構の構成は不明であるものの、遠隔からの輸入陶磁器、鋳造関連遺物、服飾具など多様な遺物に加え錯雑が出土しており、貨幣流通の場であったことが考えられ、周辺に市場が存在していた可能性が指摘されている。

今回の調査では、これまでの調査と同様に13～14世紀頃の遺構が確認できた。しかし、出土した遺物の種類を見ていくと、各種の土器がほとんどであり、既往の調査と比較した場合、きわめて単調な印象を受ける。また出土点数を見たときに、土師器の方が破損しやすく、数量的に多く見積もられることを考慮しても、中世遺物の出土量が少ないことが指摘できる。よって、今回の調査は、市場と判断するには根拠に欠ける結果となった。

SK16土坑からは渦文を描く白磁が出土している。類例は、広島県草戸千軒町遺跡出土の優品である白磁渦文梅瓶に代表される。宮城県内では仙台市今泉城跡(仙台市教委1983)、南小泉遺跡16次調査(仙台市教委1990)、高清水町(現栗原市)観音沢遺跡(宮城県教委1980)などから出土しており、城館や邸宅、寺院関係といった一般庶民との生活とは離れた性格の遺跡から出土する傾向が指摘されている(内野1992)。今後、遺跡の性格を考慮するうえで貴重な資料となろう。また、同遺構中からは温石が出土している。中世と考えられる温石は、仙台市内では王ノ壇遺跡(仙台市教委2000)、洞ノ口遺跡(仙台市教委2005)、鍛冶屋敷前遺跡(仙台市教委2018)などから出土している。さらに、鋳型の可能性が考えられる土製品が出土しているが詳細は不明である。今後の資料の蓄積を待ちたい。

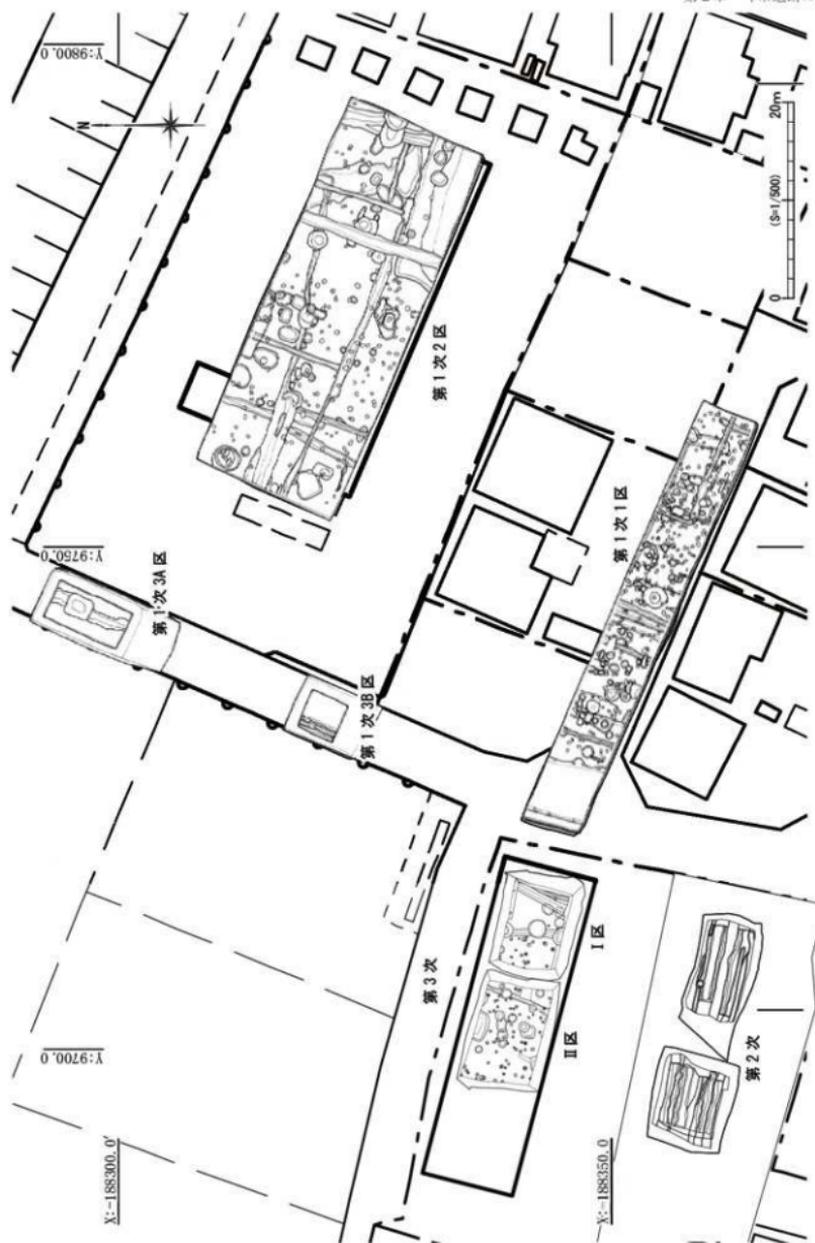
また、本調査区から南に12.0mほど離れた地点で行われた第2次調査では東西方向に走る屋敷の区画溝が確認され、周辺には屋敷地が広がっていることが想定された。その溝の北側に当たる今回の調査区では、SB1掘立柱建物跡を検出したが、1×1間を確認したのみで詳細は不明である。しかし、第1次調査で確認された建物跡と方向や柱間を比べてみると類似点が多く、一連の遺構であった可能性も考えられる。さらに、第2次調査の溝と直交するように走るSD2・3・4溝跡を検出したが、規模を比較すると小規模であり、堆積状況や出土遺物も異なるため別の機能をもった溝跡である可能性が高い。この地周辺に屋敷地が広がっていたかどうかについては今後の調査の蓄積により明らかになってくるだろう。

引用・参考文献

- 今井敦 2000 『日本の美術410 宋の青磁・白磁』 至文堂
 内野正 1992 「青白磁梅瓶小考」『研究論集XI』 東京都理蔵文化財センター
 入間田宜夫・大石直正編 1992 『よみがえる中世7 みちのくの都 多賀城・松島』 平凡社
 仙台市史編さん室 2000 『仙台市史通史編2 古代中世』

第2節 第3次調査

- 仙台市教育委員会 1983 『今泉城跡—名取川下流域における中世城館跡の調査—』 仙台市文化財調査報告書第58集
- 仙台市教育委員会 1990 『南小泉遺跡 第16～18次発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第140集
- 仙台市教育委員会 2000 『王ノ壇遺跡—都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡—発掘調査報告書1』 仙台市文化財調査報告書第249集
- 仙台市教育委員会 2002 『今市遺跡 発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第260集
- 仙台市教育委員会 2005 『洞ノ口遺跡—第1次・2次・4次・5次・7次・10次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第281集
- 仙台市教育委員会 2018 『鍛冶屋敷前遺跡—第3次発掘調査報告書—』 仙台市埋蔵文化財調査報告書第465集
- 仙台市教育委員会 2018 『洞ノ口遺跡ほか』 仙台市文化財調査報告書第468集
- 藤沢良祐 1995 「古瀬戸」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 松井 章 2008 『動物考古学』京都大学出版会
- 宮城県教育委員会 1980 「観音沢遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書IV』 宮城県文化財調査報告書第72集
- 宮城県教育委員会 1996 『一本杉窯跡群』 宮城県文化財調査報告書第172集
- 山本信夫 1995 「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社



第18図 過年度調査区との対応関係



1. I区遺構完掘状況（東から）



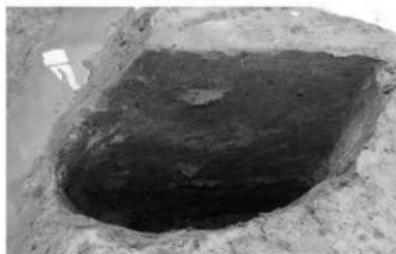
2. SD3 溝跡土層断面（北から）



3. SE1 井戸跡土層断面（南から）



4. SE2 井戸跡土層断面（北から）



5. SE4 井戸跡土層断面（北から）

写真図版 1 今市遺跡第3次調査（1）



1. II区遺構完掘状況（東から）



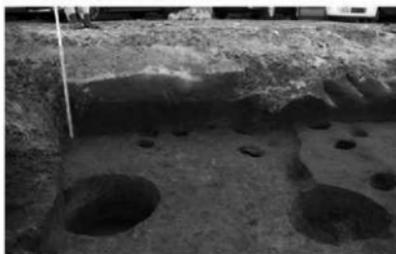
2. 第15図3土師器坏出土状況（北から）



3. SK14土坑土層断面（北から）

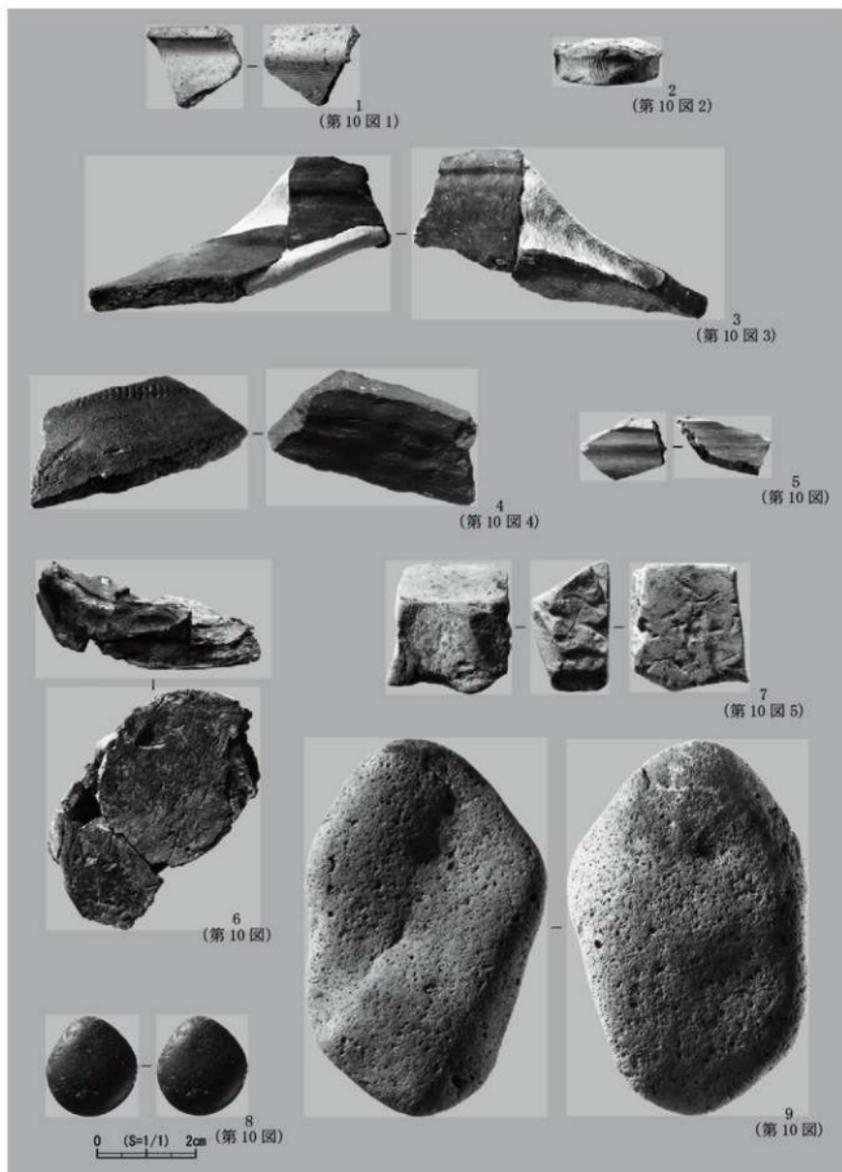


4. SK16土坑土層断面（北から）

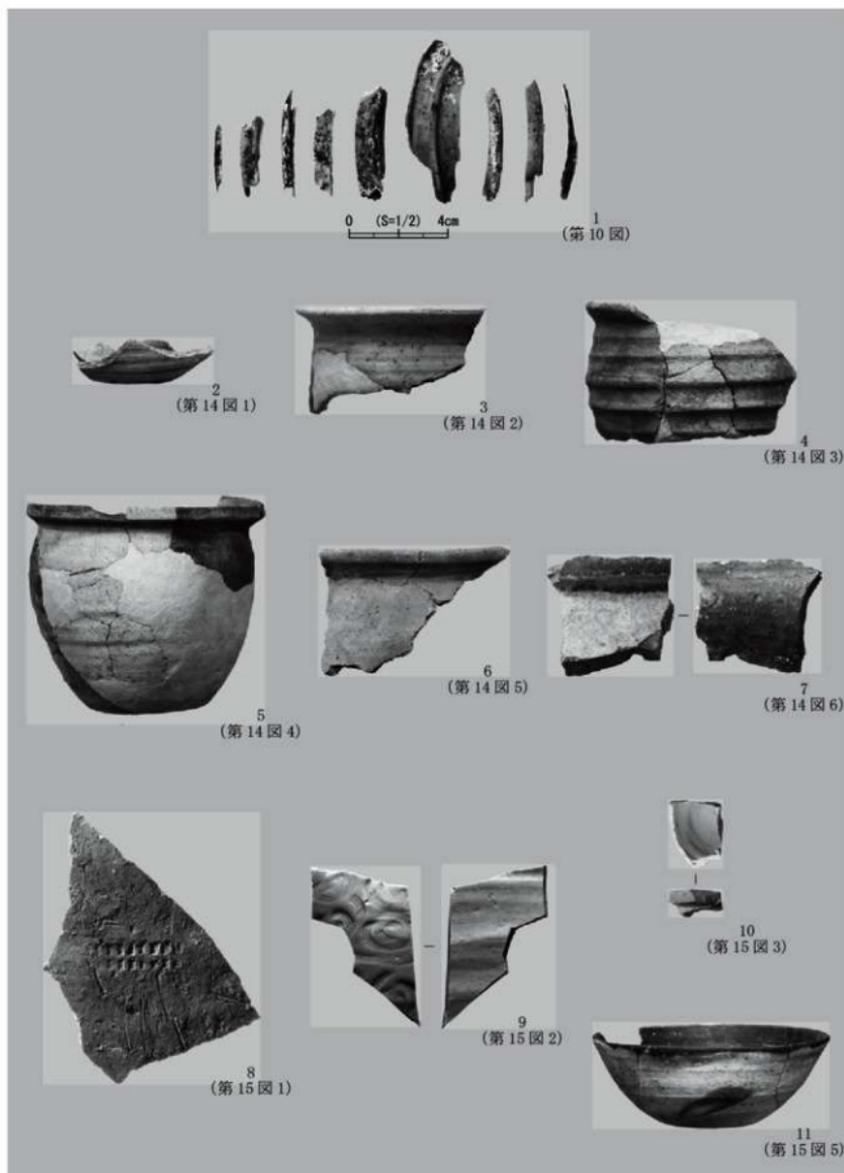


5. II区南壁土層断面（北から）

写真図版2 今市遺跡第3次調査（2）



写真図版3 今市遺跡第3次調査出土遺物(1)



写真図版4 今市遺跡第3次調査出土遺物(2)



写真図版5 今市遺跡第3次調査出土遺物(3)

第3章 薬師堂東遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

薬師堂東遺跡は、JR 仙台駅の東南東 2.3 km の仙台市若林区木ノ下 3 丁目に所在し、西には陸奥国分寺跡が隣接している。これまで本遺跡では、仙台市高速鉄道東西線建設事業に伴い、平成 18・19・21 年度に試掘調査を行い、その結果を受け平成 21・22・23 年度に本発掘調査が行われている。これらの調査では近世の墓域をはじめ、中世の掘立柱建物跡や古代では竪穴住居跡、梵鐘鋳造遺構、鋳造関連遺構が確認されている。特に梵鐘鋳造遺構は、東北地方では初例となる平安時代前半のもので、貞観 11 年 (869 年) の震災で被害を被った陸奥国分寺等の施設の修理・修復に伴う可能性があると考えられている。

このように薬師堂東遺跡は、古代から近世にかけて幅広い時代の陸奥国分寺周辺の様相を知るうえで、重要な遺跡である。

第2節 第2次調査

1. 調査要項

遺跡名	薬師堂東遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01567)
調査地点	仙台市若林区木ノ下 3-3-31
調査期間	平成 30 年 7 月 17 日～31 日
調査対象面積	314.0 m ²
調査面積	約 66.0 m ²
調査原因	共同住宅・店舗・自宅の建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課 調査調整係
担当職員	主事 柳澤 楓 文化財教諭 佐藤文征



第 19 図 薬師堂東遺跡と周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	薬師堂東遺跡	瓦葺跡・基	自然埋没	奈良・平安・近世
2	陸奥国分寺跡	寺院	自然埋没	奈良・平安
3	国分寺東遺跡	瓦葺跡	自然埋没	平安・中世
4	陸奥国分寺跡	寺院	自然埋没	奈良・平安
5	志波遺跡	散石堀	自然埋没	平安・中世

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の本発掘調査は、平成 30 年 2 月 20 日に実施した試掘調査の結果をもとに行なった。試掘調査は、建築範囲内に 3.0 × 6.0 m のトレンチを 3ヶ所設定したが、建築範囲の東側にあたる 3 トレンチでは基本層 II 層上面で南北方向に延びる溝跡が 1 条検出され、古瓦も出土したことから、一部遺跡範囲の拡大 (平成 30 年 4 月 24 日付、H30 教生文第 432 号で宮城県に連達) を行い、本発掘調査を実施することとなった。

今回の調査は、平成 30 年 5 月 29 日付で申請者より提出された「埋蔵文化財の取り扱いについて (協議)」(平成 30 年 5 月 31 日付 H30 教生文第 105 - 021 号で回答) に基づき、平成 30 年 7 月 17 日に着手した。

当初の予定では、建築範囲内の東側に幅 8.0 m × 長さ 9.0 m の調査区を設定する予定であったが、重機等の出入りの関係上困難が生じたため、調査区の幅を縮小し調査を行った。



第20図 第2次調査区位置図

重機により盛土および基本層Ⅰ層を除去した後、Ⅱ層およびⅢ層上面で遺構検出作業を行い、溝跡2条、土坑5基、ピット5基を確認した。

調査では適宜、平面図および断面図 (S=1/20) を作成し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。

埋戻し、機材撤収を7月31日に行い、申請者側に現場を引き渡し、調査を終了した。

3. 基本層序

今回の調査では、盛土10 cm～30 cm (主に碎石) の下に基本層を大別で3層、細別で4層確認した。今回の調査の遺構検出面は、Ⅱ層およびⅢ層上面である。

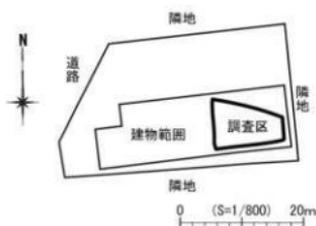
Ⅰ a 層：10YR3/4 暗褐色粘土質シルト。大小の礫を少量含む。

多量のビール瓶やガラス片、布きれなどの生活ゴミや土管が見られた。層厚は15 cm～40 cmである。

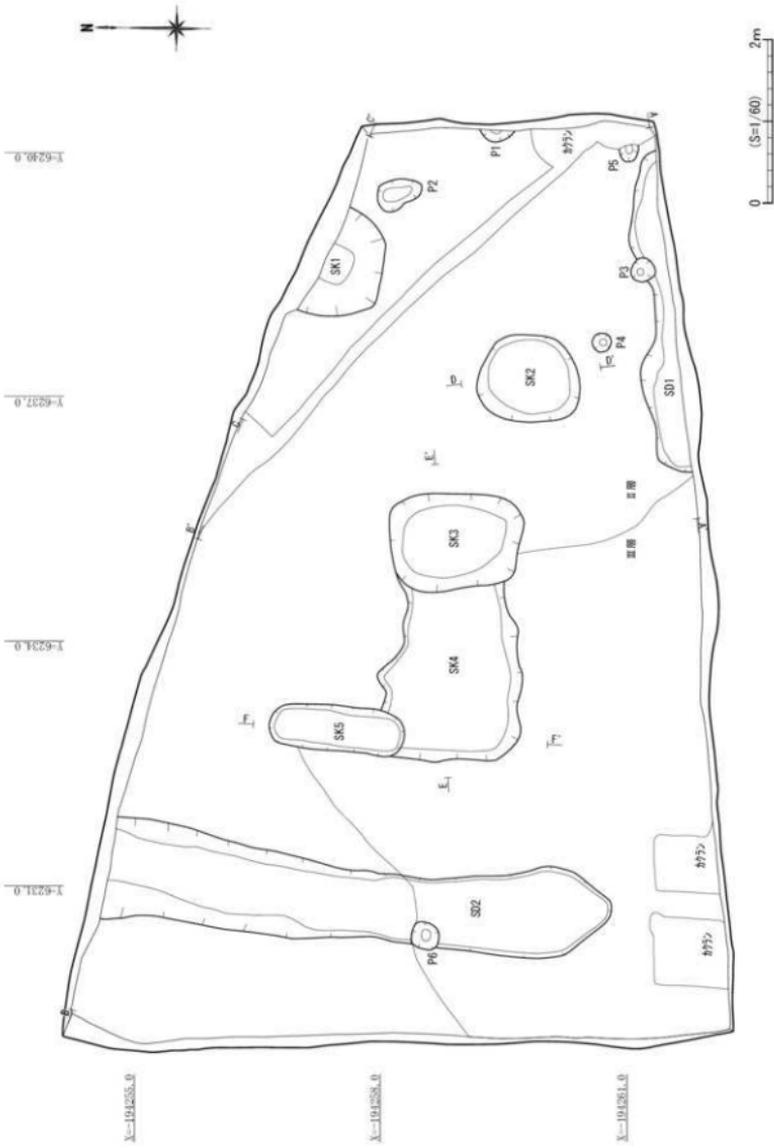
Ⅰ b 層：10YR3/4 暗褐色粘土質シルト。Ⅱ層ブロック (φ 2 cm～5 cm) を斑状に含む。部分的に確認した層である。層厚は約15 cmである。

Ⅱ 層：10YR5/8 黄褐色粘土質シルト。酸化鉄粒 (φ 2 mm) を含む。層厚は不明。

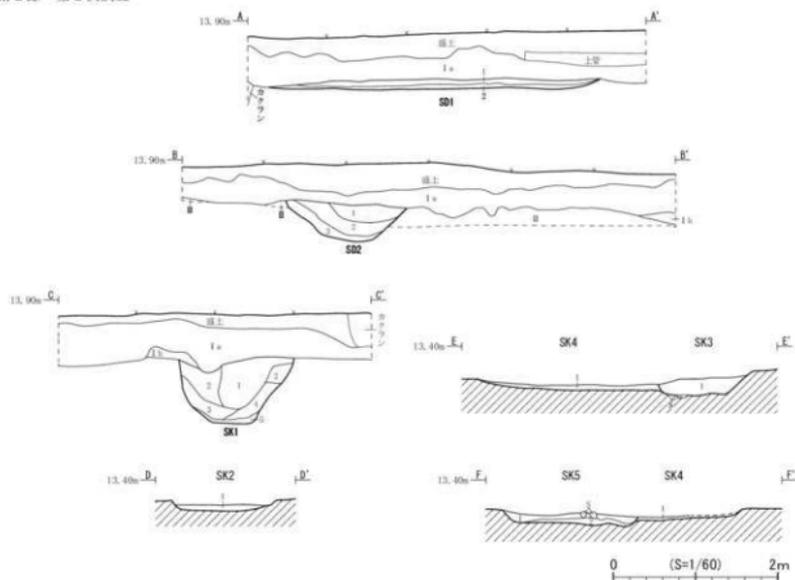
Ⅲ 層：10YR5/6 黄褐色礫層。調査区のおよそ西側南半分で基本層Ⅰ層の下に確認した。層厚は不明である。



第21図 第2次調査区配置図



第22図 第2次調査区平面図



遺構名	層位	色調	土質	備考・埋入物
SD1	1	10YR3-3 暗褐色	粘土質シルト	炭化粒 (φ 5mm) 少量、目層ブロック (15mm) 少量含む。資料も瓦当破片出土
	2	10YR3-2 暗褐色	粘土質シルト	草層主体とする。
SD2	1	10YR3-4 暗褐色	粘土質シルト	炭化粒 (φ 5mm) 少量、酸化鉄粒 (φ 2mm) を複数含む。植物根を含む。
	2	10YR3-2 暗褐色	粘土質シルト	草層ブロック (φ 2cm) 少量、酸化鉄粒 (φ 2mm) を複数含む。
	3	10YR3-3 暗褐色	粘土質シルト	草層ブロック (φ 5cm) を複数含む。10YR2/2 粘土ブロックを一部含む。酸化鉄粒 (φ 2mm) を複数含む。
SK1	1	10YR3-4 暗褐色	粘土質シルト	炭化粒 (φ 2mm) 少量、目層ブロック (φ 5mm) 少量、小礫少量含む。
	2	10YR3-4 暗褐色	粘土質シルト	草層を主体とする。小礫少量含む。
SK2	1	10YR3-2 暗褐色	粘土	草層 (φ 5cm) 少量、炭化粒 (φ 2mm) を複数含む。
	2	10YR3-3 暗褐色	粘土質シルト	草層 (φ 5mm) を複数含む。
	3	10YR3-2 暗褐色	粘土	炭化粒 (φ 2mm) を少量含む。
SK3	1	10YR3-4 暗褐色	粘土質シルト	草層ブロック (φ 2~5cm) を含む。
SK4	1	10YR3-4 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒 (φ 2mm) を複数含む。白色砂 (φ 5mm) を少量含む。
SK4	1	10YR3-4 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒 (φ 2mm) を複数含む。白色砂 (φ 5mm) を少量含む。
SK5	1	10YR3-4 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒 (φ 2mm) を複数含む。白色砂 (φ 5mm) を少量含む。
	2	10YR2-3 黒褐色	粘土	ほぼ均質。

第23図 第2次調査区断面図

4. 発見遺構と出土遺物

(1) 溝跡

SD1 溝跡 (第23・24図)

調査区の南東隅で確認した東西方向に延びる溝跡である。部分的な検出であり、大部分は調査区外に延びる。検出長 4.0m、幅 0.5m 以上、深さ約 12cm である。断面形は皿形を呈し、堆積土は 2層確認した。遺物は土師器片、軒丸瓦が出土した。軒丸瓦は重弁蓮華文軒丸瓦の瓦当部片 (第24図1) である。

SD2 溝跡 (第23・24図)

調査区の西側で確認した南北方向に延びる溝跡である。検出長 6.1m、幅約 1.2m、深さ 45cm である。断面形は浅い「U」字形を呈し、堆積土は 3層確認され、レンズ状堆積を呈している。溝は北から南にかけて浅くなり調査区内で途切れている。なお、この延長線上の調査区南壁では確認できないことから、南壁までは延びないと考えられる。

遺物は土師器片、丸瓦が出土した。丸瓦は玉縁付の破片 (第24図2) である。

(2) 土坑

SK1 土坑 (第23・24図)

調査区の北東隅で確認した。北側が調査外のため詳細は不明であるが、東西長1.3mで深さ80cmである。断面形は不整形な桶形を呈し、堆積土は5層確認した。遺物は平瓦の破片(第24図3)が出土した。

SK2 土坑 (第23図)

平面形は円形で、大きさは南北1.2m、東西1.05m、深さは8cm程である。断面形は皿形を呈し、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK3 土坑 (第23・24図)

平面形は隅丸の長方形で、大きさは南北1.5m、東西1.2m、深さは20cm程である。断面形は逆台形を呈し、堆積土は単層である。SK4土坑と重複しており、それよりも新しい。

遺物は陶器、土師質土器、丸瓦が出土した。陶器には19世紀中頃の大堀相馬産の徳利(第24図7)、18～19世紀頃とされる鉛釉楽焼系の水滴(6)がある。その他、土師質土器の灯明皿(8)、玉縁付丸瓦(4)が出土した。

SK4 土坑 (第23図)

平面形は不整形な長方形である。大きさは東西2.0m以上、南北1.4m、深さは10cm程である。断面形は皿状を呈し、堆積土は単層である。SK3・5土坑と重複しており、それらよりも古い。遺物は、陶磁器の破片が少量出土している。

SK5 土坑 (第23図)

平面形は長方形で、大きさは南北1.7m、東西0.6m、深さは15cm程である。断面形は逆台形を呈し、堆積土は2層確認した。SK4土坑と重複しており、それよりも新しい。遺物は出土していない。

(3) ビット

調査区全体で5基確認した。規模は直径20cm～40cmで、平面形は円形と楕円形のものがある。いずれも柱痕跡は確認されなかった。堆積土は単層である。遺物はP3から土師器片が出土した。

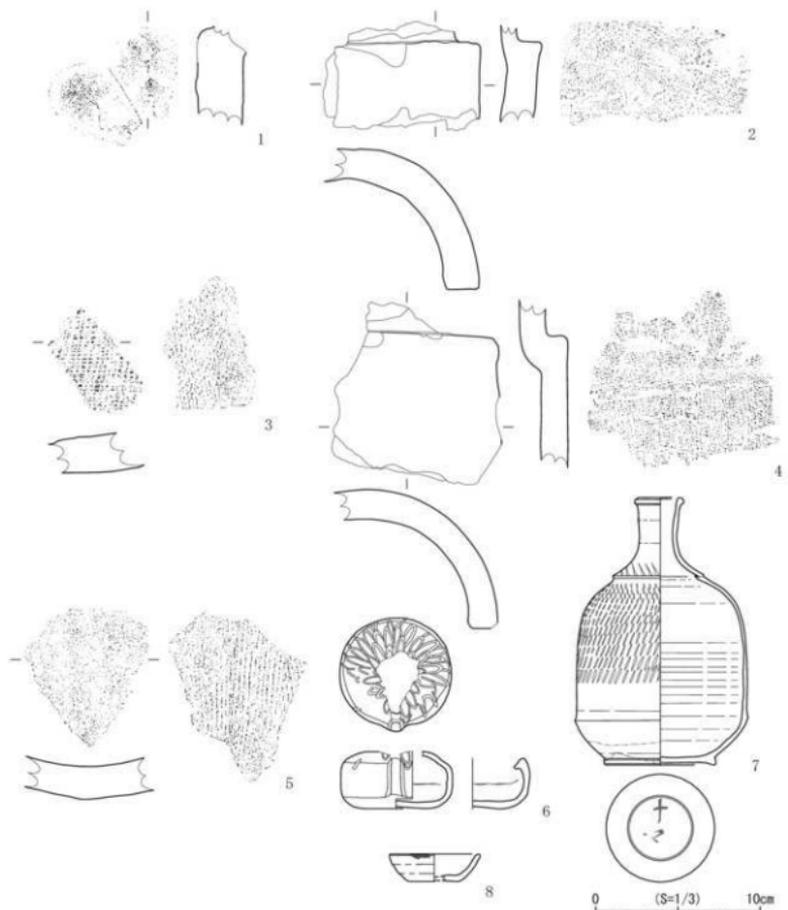
5. まとめ

今回の調査地点は薬師堂東遺跡の西に位置し、平成30年2月20日に行われた試掘調査の結果をもとに、遺跡範囲が拡大された箇所である。

今回の調査では、II層およびIII層上面で、溝跡2条、土坑5基、ビット5基を確認した。これらの遺構からは、古代の遺物としてSD1溝跡から重弁蓮華文軒丸瓦の瓦当部片、SD2溝跡からは試掘調査時も含め、瓦片が出土した。一方、SK3土坑からは18～19世紀中頃と考えられる鉛釉楽焼系の水滴や19世紀中頃の大堀相馬産の徳利が出土した。これまでの調査でも、古代から近世と幅広い時代の遺構・遺物が確認されているように、今回の調査地点からもその様相を確認することができた。

引用・参考文献

仙台市教育委員会 2016 『薬師堂東遺跡II 一仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書XI一』 仙台市文化財調査報告書第443集



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	F-1	SH1	1	瓦	射丸瓦	-	-	-	垂弁蓮華文射丸瓦 瓦当部片	8-1
2	F-2	SK2	1	瓦	丸瓦	(6.0)	(8.6)	(8.6)	玉縁付丸瓦 側面にヘラケズテ 凸面：ロクロナデ 凹面：粘土粒散・布目散	8-2
3	G-1	SK1	層積土	瓦	平瓦	(5.9)	-	-	凸面：縦位方向の縄タタキ目（細い縄目） 凹面：粗い布目散・縄目あり	8-3
4	F-3	SK3	1	瓦	丸瓦	(10.7)	(10.2)	(8.3)	玉縁付丸瓦 凸面：側面にヘラケズテ・縄タタキ目・ロクロナデ 凹面：側面にヘラケズテ・粘土粒散・布目散	8-4
5	G-2	溝橋検出地	-	瓦	平瓦	(10.2)	(7.8)	(2.6)	凸面：平行タタキ目 凹面：ナデ	8-5

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外蓋	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
6	1c-1	SK3	1	陶器	水滸	-	5.0	(3.4)	扁平台輪周形 上半部に彫刻の菊文花文 陶質		18~19c 楽焼素	8-6
7	1c-2	SK3	1	陶器	埴輪	2.5	6.5	16.4	焼灼 胎跡 底筋：「十」の壺巻		産地：大塚相馬 19c 華末～明治	8-7
8	1a-1	SK3	1	土器質土器	蓋	5.4	3.0	1.7	ロクロナデ 底筋：回転糸切	ロクロナデ	打明蓋 口唇部にタール付着	8-8

第24図 第2次調査出土遺物



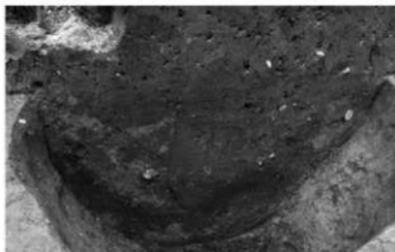
1. 東側遺構検出状況（東から）



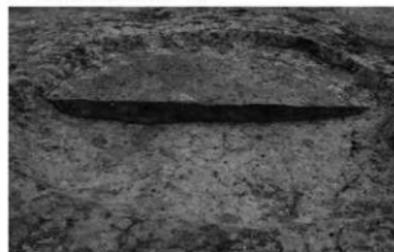
2. 西側遺構検出状況（西から）



3. SD2 溝跡断面（南から）



4. SK1 土坑断面（南西から）



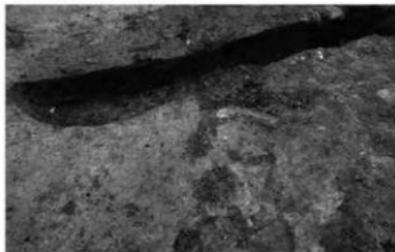
5. SK2 土坑断面（西から）



6. SK3 土坑断面（南から）



7. SK4 土坑断面（南から）



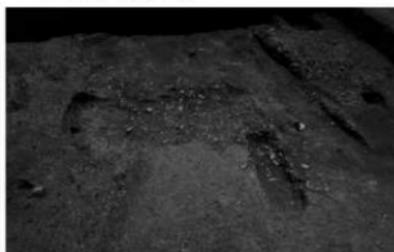
8. SK5 土坑断面（西から）



1. 調査風景（南西から）



2. 東側遺構完掘状況（北から）



3. 中央遺構完掘状況（北から）



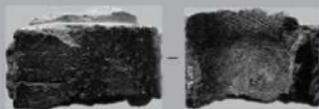
4. SD2 溝跡完掘状況（南東から）



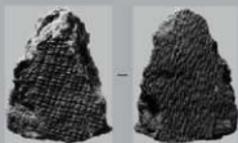
5. 遺構完掘状況全景（西から）



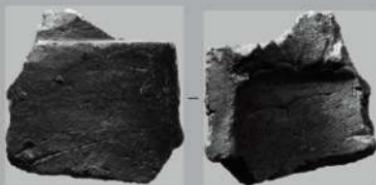
1
(第24図1)



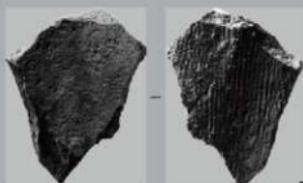
2
(第24図2)



3
(第24図3)



4
(第24図4)



5
(第24図5)



6
(第24図6)



7
(第24図7)



8
(第24図8)

写真図版 8 薬師堂東遺跡第2次調査出土遺物

第4章 鍛冶屋敷A遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

鍛冶屋敷A遺跡は、市の南部、JR長町駅の南西約3kmに位置する。名取川の左岸、標高15～20mの自然堤防上に立地する。縄文時代から奈良・平安時代、中世にかけての集落跡である。

縄文時代の遺構では後期中葉から後期後葉の竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑・遺物包含層が確認され、さらに上層では列石を伴う配石遺構が発見されている。遺物には後期中葉から晩期中葉にかけての土器・石器・土製品・石製品がある。

奈良・平安時代の遺構には竪穴住居跡の他、竪穴遺構、土坑、溝跡、掘立柱建物跡などが確認された。遺物には土師器、須恵器、土製品、金属製品、石製品などがあり、羽口や鉄滓などの鍛冶に係る遺物も見られる。石製品では「謹解 申請稲事 合（謹んで解し申し請う稲の事 合わせて・）」という解文が線刻された砥石が発見されている。

第2節 第4次調査

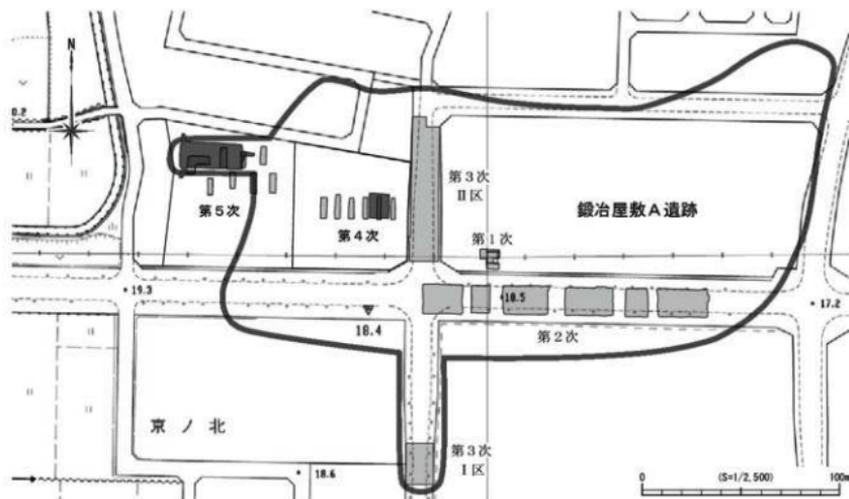
1. 調査要項

遺跡名	鍛冶屋敷A遺跡（宮城県遺跡登録番号01085）		
調査地点	仙台市富沢駅西土地区画整理事業地内保留地19街区55画地		
調査期間	平成30年1月22日～24日（確認調査） 平成30年2月13日～28日（本発掘調査）		
調査対象面積	680.0㎡		
調査面積	確認調査：計161.0㎡ 本発掘調査：計125.0㎡		
調査原因	ホテルの建築工事		
調査主体	仙台市教育委員会		
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係		
担当職員	確認調査：係長 平岡亮輔 主事 小林 航	文化財教諭 及川 基	
	本発掘調査：主事 小林 航 三浦一樹	文化財教諭 及川 基	佐藤慶一



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	鍛冶屋敷A遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・古代～平安
2	富沢駅跡	城跡跡・集落跡	自然堤防	縄文・平安～近世
3	鍛冶屋敷南遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・古代～中世
4	鍛冶屋敷北遺跡	住宅地	自然堤防・後背湿地	縄文・古代～近世
5	八木松遺跡	集落跡	自然堤防	古代～平安
6	宮崎遺跡	集落跡	自然堤防	平安
7	豆ノ中遺跡	集落跡	自然堤防	平安
8	川崎遺跡	聚落地	自然堤防	縄文晩・古代
9	川崎遺跡	集落跡	自然堤防	縄文晩
10	上野遺跡	集落跡	陸上	縄文中・古代～平安
11	山田寺里遺跡	水田跡・屋敷跡	段立・自然堤防	縄文・古代～平安・近世
12	南ノ東遺跡	聚落地	自然堤防	弥生・平安
13	船渡南遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～弥生・古代～平安
14	富田南西遺跡	聚落地	自然堤防	古代～平安
15	堀ノ内遺跡	聚落地	自然堤防	古墳～平安
16	山の麓跡	集落跡・水田跡	自然堤防・後背湿地	縄文～近世

第25図 鍛冶屋敷A遺跡と周辺の遺跡



第26図 第4・5次調査区位置図

2. 調査に至る経過と調査方法

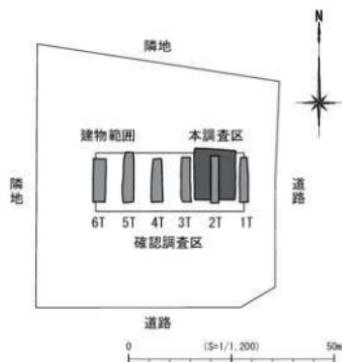
今回の調査は、申請者より平成29年5月29日付で提出された「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」（平成29年6月2日付H29教文第103-013号で回答）に基づき実施した。

確認調査は平成30年1月22日に着手した。調査区は本体建物範囲に10.0×2.0mのトレンチを6箇所を設定し、東から順に1～6トレンチの調査区番号を付与した。最終的に、いずれの調査区も設定よりやや大きめの範囲を調査した。

遺構検出作業は、重機で盛土および基本I～II層を除去し、III a層上面で行った。結果、2トレンチでは性格不明遺構1基を、5トレンチでは溝跡2条、ビット3基を、6トレンチではビット2基を検出した。埋戻しは各調査区の記録作業が終了する毎に行い、平成30年1月24日に確認調査を終了した。

確認調査の結果、特に性格不明遺構に対し精査が必要であると判断されたため本発掘調査のための協議を行い、平成30年2月13日に本発掘調査に着手した。調査区は確認調査時の2トレンチを中心とした10.0×12.5mの範囲で設定し、重機により盛土およびI・II層を除去し、III a層上面で遺構検出作業を行った。

その結果、性格不明遺構が竪穴遺構であることを確認し、その他に土坑2基およびビット3基を検出した。竪穴遺構は南北1箇所、東西2箇所のベルトを設定し、断面の観察を行いながら精査を行い、床面施設として柱穴2基および土坑1基、ビット3基、炉跡2基を確認した。本発掘調査は2月28日に現場を申請者側に引き渡すことで終了した。



第27図 第4次調査区配置図

遺構の記録は、確認調査では遺構平面図（S=1/50）、必要に応じて調査区壁面断面略図（S=1/20）、調査区壁断面図（S=1/20）を作成した。本発掘調査では遺構平面図（S=1/50）、調査区東壁断面図（S=1/20）、ベルト断面図（S=1/20）を作成し、必要に応じて遺構断面図（S=1/20）を作成した。記録写真はいずれもデジタルカメラにて撮影した。

3. 基本層序

盛土（層厚75～100cm）の下で、基本層を大別6層、細別8層確認した。

- I 層：10YR5/8 黄褐色粘土。現代水田耕作土である。
- II a 層：10YR4/4 褐色粘土質シルト。酸化鉄、マンガンを粒状に含む。
- II b 層：10YR4/4 褐色粘土質シルト。マンガンを粒状に多く含む。確認調査では、遺物（土器片）を少量含むことを確認した。
- III a 層：10YR4/4 褐色粘土質シルト。灰黄褐色および黒褐色粘土をブロック状に含む。確認調査では、灰白色火山灰を上面付近の一部に含むことを確認した。
- III b 層：10YR3/3 暗褐色粘土。しまりがやや弱く粘性がやや強い。
- IV 層：10YR4/6 褐色粘土質シルト。砂を均質に含む。
- V 層：10YR3/3 暗褐色粘土。粘性がやや強い。
- VI 層：10YR4/6 褐色粘土質シルト。

4. 確認調査の発見遺構と出土遺物

確認調査では、III a 層上面で溝跡2条、性格不明遺構1基、ピット5基を確認した。遺物は遺構堆積土から土師器や縄文土器が出土し、遺構外では、主にIII a 層上面から土師器が少量出土した。

2 トレンチ

SX1 性格不明遺構（SI1 堅穴遺構、第28図）

調査区中央で検出した。検出時の規模は南北7.6m、東西1.6mである。調査区東壁際に深さ約35cmのサブトレンチを入れ、断面観察を行った。遺物は土師器が出土した。本調査の結果、SI1 堅穴遺構とした。

5 トレンチ

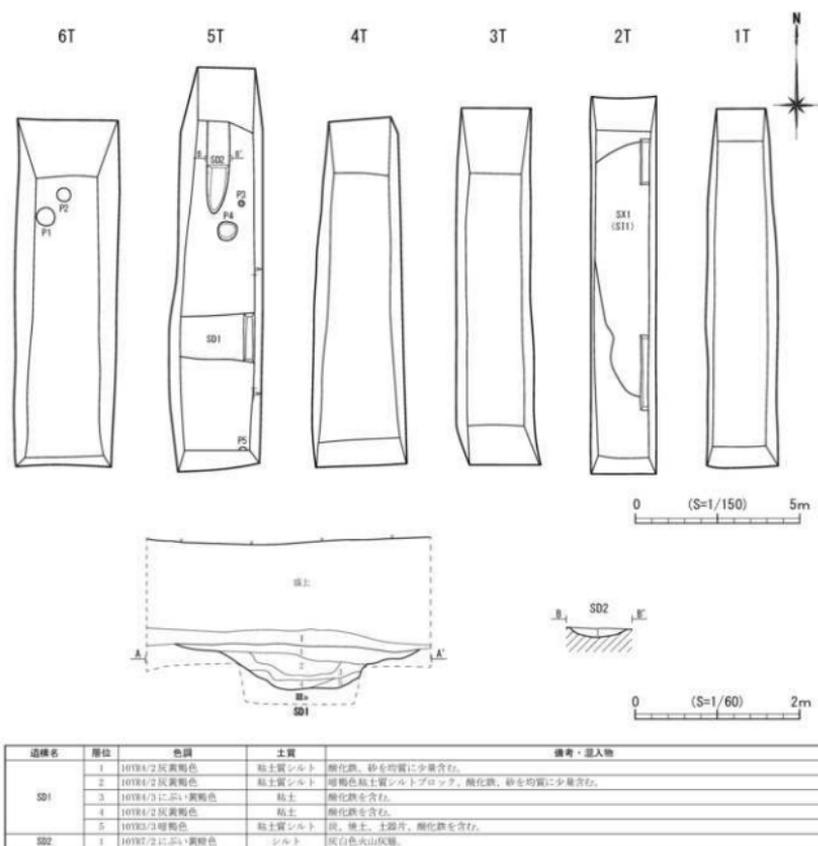
(1) 溝跡

SD1 溝跡（第28図）

調査区中央南側で確認した。検出した規模は幅1.5～2.0m、長さ2.2m以上である。東西は調査区外に延び、隣接するトレンチでは検出されていない。深さは0.7mで、断面形は浅いU字形を呈し、上部は左右に大きく広がる。堆積土は5層に分層した。遺物は土師器が少量出土したほか、遺構底面から縄文土器片が2点出土した。

SD2 溝跡（第28図）

調査区北側で確認した。検出した規模は幅0.7m、長さは2.7m以上で、北側は調査区外に延びる。深さは0.1mで、断面形は浅いU字形を呈する。堆積土は、二次堆積した灰白色火山灰を主体とする単層である。直下のIII a 層には灰白色火山灰が斑点状に混入しているが、これは上層から貫入した植物根の影響と考えられる。遺物は出土しなかった。



第28図 第4次確認調査区平面・断面図

(2) ビット (第28図)

調査区北半および南端で計3基確認した。P4は直径0.5m、深さ0.1m程度のビットである。堆積土は単層で、遺物は土師器が出土した。

6 トレンチ

(1) ビット (第28図)

調査区北端で2基確認した。P1は直径0.5m、深さ9cm、P2は直径0.4m、深さ10cmで、いずれも堆積土は単層である。いずれのビットからも土師器が出土した。

5. 本発掘調査の発見遺構と出土遺物

本発掘調査ではⅢa層上面で竪穴遺構1基、土坑2基、ビット3基を確認した。遺物は竪穴遺構から主に土師器が出土し、その他須恵器、陶器、石製品、金属製品、縄文土器が出土した。その他遺構および基本層からも土師器が少量出土している。

(1) 竪穴遺構

SI1 竪穴遺構 (第29・30・32～36図)

確認調査時のSX1性格不明遺構である。

【位置】調査区の中央～東部にかけて確認した。

【規模・形態】規模は南北8.0m、東西6.0m以上である。東辺は調査区外へ延びるため確認できなかったが、東側にはほぼ隣接する確認調査区(1トレンチ)で検出されなかったことから、東西規模は6.5m前後であると推定される。平面形は方形を呈する。

【方向】おおそ真北を基準とする。

【堆積土】堆積土は大別8層、細別19層に分層した。2層中および3層の一部に灰白色火山灰がブロック状に含まれる。また、床面直上の数箇所ですら20～30cm程度の焼土の塊を確認した。

【壁面】検出面から床面までの深さは約30～40cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【床面】おおそ平坦だが外周はやや低くなる。床面は掘方を20～50cm埋め戻して構築されている。

【柱穴】床面で主柱穴2基を確認した。北西部のSI1-P1は南北70cm、東西90cmの規模で、深さは95cm、柱痕跡の直径は35cmである。堆積土は柱痕跡を含め4層に分層した。北東部のSI1-P2は南北80cm、東西70cm以上の規模で、深さは90cm、柱痕跡の直径は30cmである。堆積土は柱痕跡を含め5層に分層した。他の3基のビットは直径20～35cmの小規模なもので堆積土は単層である。遺物は各ビットの層上部から土師器・須恵器が出土している。

【周溝】南辺でのみ確認した。幅10cm、深さは床面から20cmである。

【炉跡】床面の中央東側で2箇所の被熱硬変範囲を確認した。地床炉と考えられる。炉跡1は規模30cm×70cmで片側が凹んだ楕円形を呈する。炉跡2は長軸30cm、短軸15cmの楕円形を呈する。

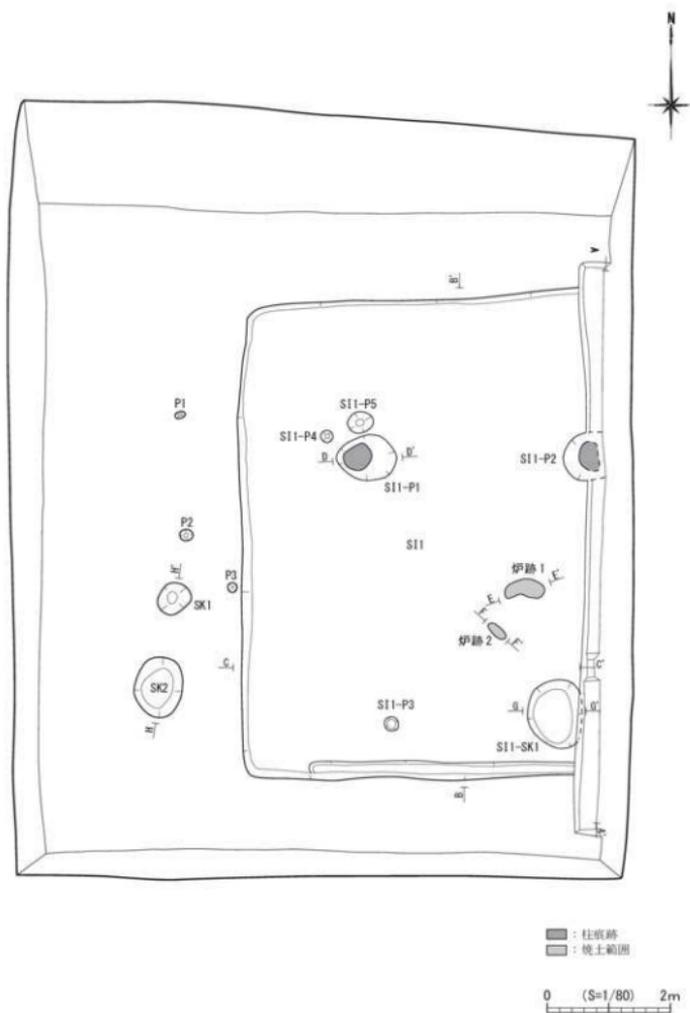
【その他の施設】南東部の床面で土坑1基を確認した。南北110cm、東西90cm、深さは45cmである。底面には直径約10cmのビット状の落ち込みを確認した。堆積土は5層に分層した。炭・焼土を多く含み、土師器・須恵器が比較的多数出土している。配置からは柱穴、あるいは柱穴を二次的に利用した捨て穴の可能性もある。

【出土遺物】縄文土器、土師器、須恵器、陶器、石製品、金属製品が出土した。遺物の大部分は堆積土3層から出土している。そのうち図化したのは36点である。

土師器は坏、甕、瓶、壺が出土した。土師器坏の器形の特徴(底径/口径比、法量など)と赤焼土器を伴わないことから、鍛冶屋敷A遺跡第3次調査時の報告書(仙台市教育委員会2018)における細分のうちB期(9世紀中頃～後半)に対応する。A期に近い特徴はほぼ見られず、全体的にC期に近い特徴を有することから、9世紀でも末葉に属すると考えられる。

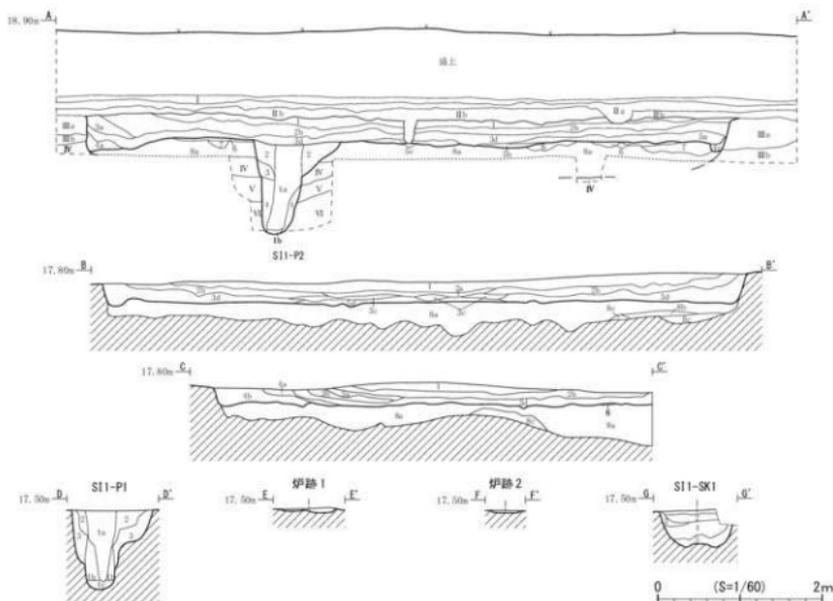
第32図6・7は上下に重なった状態で出土した土師器坏である(6が上)。二次的に被熱し、内面黒色処理が消失したものも出土している(1・9)。

第33図5は把手付きの甕である。器形や調整の類例としては亶理町の館南園遺跡出土の土師器甕(宮城県教育委員会1991)があるが、本資料とは把手の形状が異なる。把手部分については、与兵衛沼窪跡出土の土師器甕(仙台市教育委員会2010)、郡山遺跡第167次調査出土の須恵器把手付鉢(仙台市教育委員会2013)の2点が形状・



第29図 第4次本調査区平面図

第2節 第4次調査



遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
S11	1	HVR4/4 褐色	粘土質シルト	マンガン粒を含む。
	2a	HVR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	埴土を少量・灰白火山灰を粒状に少量含む。
	2b	HVR4/4 褐色	粘土質シルト	灰白火山灰を粒状・ブロック状。炭粒を極少量含む。
	3a	HVR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰白火山灰を粒状。炭粒・埴土を含む。
	3b	HVR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	マンガン・酸化鉄・黑色炭を少量含む。
	3c	HVR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰白火山灰を粒状。炭粒・埴土を含む。
	3d	HVR3/4 暗褐色	粘土質シルト	マンガン粒・炭粒・埴土粒を少量含む。
	4a	HVR4/4 褐色	粘土質シルト	マンガン粒を少量含む。
	4b	HVR4/4 褐色	粘土質シルト	酸化鉄。マンガン粒を少量含む。
	4c	HVR3/3 暗褐色	粘土質シルト	に近い黄褐色粘土質シルトブロックを含む。炭粒。
	5a	HVR3/3 暗褐色	粘土質シルト	埴土・炭粒を少量含む。
	5b	7.0VR2/3 暗褐色	粘土質シルト	に近い黄褐色粘土質シルトブロック・埴土・炭を含む。
	5c	7.0VR2/3 暗褐色	粘土質シルト	埴土粒を少量含む。
	5d	HVR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭粒。埴土粒を少量。褐色粘土質シルトを塊状に含む。部分的に層下部に炭粒が層状に堆積。
	6	HVR5/4 に近い黄褐色	粘土質シルト	埴土粒・炭粒を少量含む。炭屑。
	7	HVR4/6 褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土質シルトブロックを含む。炭屑。
	8a	HVR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色・灰黄褐色粘土質シルトブロック・炭粒を極少量含む。腐方。
8b	HVR4/4 褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土・砂心層状に含む。腐方。	
8c	HVR4/4 褐色	粘土質シルト	腐方に類似。腐方。	
S11-P1	1a	HVR3/3 暗褐色	粘土	灰黄褐色粘土質シルト・炭粒・埴土粒・褐色粘土ブロックを含む。粒炭屑。
	1b	HVR3/3 暗褐色	粘土	しまりや中弱い。
	1c	HVR5/2 灰黄褐色	粘土	柱状締結部。
S11-P2	2	HVR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土粒ブロック・炭粒・埴土を含む。
	3	HVR4/6 褐色	粘土	暗褐色粘土粒を含む。
	4	HVR4/6 褐色	粘土質シルト	しまりや中弱い。
S11-SK1	1	HVR3/3 暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルトブロック・埴土粒・炭粒を含む。
	2	HVR4/6 褐色	粘土質シルト	マンガン少量。埴土粒を極少量含む。
	3	HVR4/3 に近い黄褐色	粘土	灰黄褐色・に近い黄褐色粘土を塊状に少量。埴土を少量含む。
S11 伊藤 1	4	7.0VR2/3 暗褐色	粘土質シルト	埴土を粒状・ブロック状に少量。褐色粘土ブロック。炭屑。埴土を少量。青小片を極少量含む。層下部に炭粒が層状に堆積。
	5	HVR3/3 に近い黄褐色	粘土	灰黄褐色粘土ブロックを含む。
S11 伊藤 2	1	7.0VR2/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルトブロック・炭粒を含む。
	1	7.0VR2/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルトブロック・炭粒を含む。

第 30 図 S11 竪穴遺構断面図

調整ともに類似する。隣接する鍛冶屋敷前遺跡の調査（仙台市教育委員会 2018）でも把手付土師器類が出土しているが、部分資料なうえ、把手の形状は前述のいずれとも異なる。

第33図7は、きわめて小型の壺で用途や性格は不明である。器形に類似性のあるものとして下飯田東遺跡第1次調査出土の灰釉陶器小瓶（仙台市教育委員会 2017）が挙げられるが、本資料のに近い器高があり、細部形状も異なる。

須恵器は坏、甕、壺、円面硯が出土した。須恵器坏はいずれも焼成不良により軟質である。円面硯（第34図5・6）は脚部に円形の透かしがある透脚圓足硯で、内堤の無いドーム状の硯部を有することなどから、9世紀に属すると考えられる（関根 2014）。製造年代は、5が9世紀半ばまで、6が9世紀前半まで遡る可能性がある。

第35図8は東海産とみられる緑釉陶器蓋である。カエシの無い形状で、口端部の立ち上がりは欠損している。部分的な破片資料ではあるが、形状の特徴、釉の特徴（淡黄緑色で細貫入が多く、内外面に均質に施釉される）は名古屋市熊ノ前2号窯（NN249窯）出土の緑釉陶器蓋（名古屋考古学会 1984・愛知県史編さん委員会 2015）と類似性がみられ、K-90号窯式期（9世紀後半）に位置づけることができる。

石製品は砥石、礮石器を掲載した。第36図1は凝灰岩製の砥石で、4面が砥面であり、凹状の痕跡も見られる。2はデイサイト製の礮石器で、2面が磨面である。デイサイト製の礮石器は掲載図以外にも3点出土している。また、使用痕等が見られないため遺物としては扱わないが、堆積土中から軽石が複数、床面付近から珪化木が数点出土している。

金属製品は刀子（第36図3）1点を掲載した。その他、比較的小さい鉄滓2点が出土した。

(2) 土坑

SK1 土坑（第31図）

調査区南西部に位置する。規模は南北、東西ともに約50cmで平面形はやや菱形に近い楕円形である。深さは15cmで、堆積土は2層に分層した。遺物は土師器が少量出土した。

SK2 土坑（第31図）

調査区南西部に位置する。規模は南北105cm、東西80cmで、平面形は楕円形を呈する。深さは14cmで、堆積土は単層である。遺物は土師器が少量出土した。

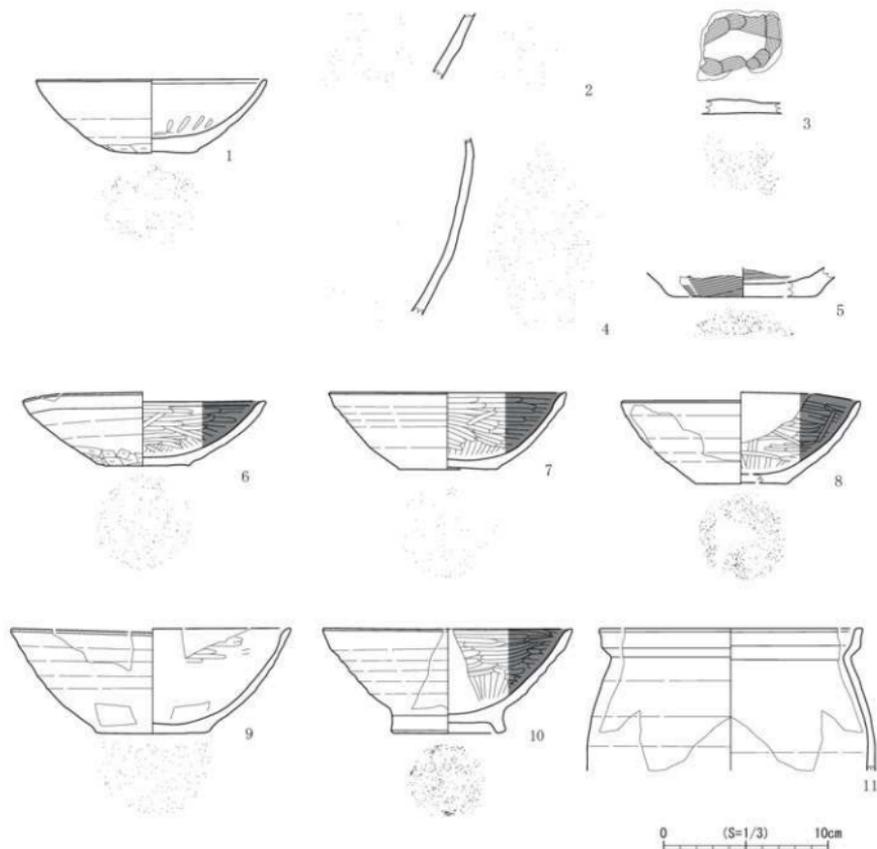
(3) ビット

調査区西部で3基確認した。いずれも小規模であり、堆積土は単層である。遺物は土師器が少量出土した。



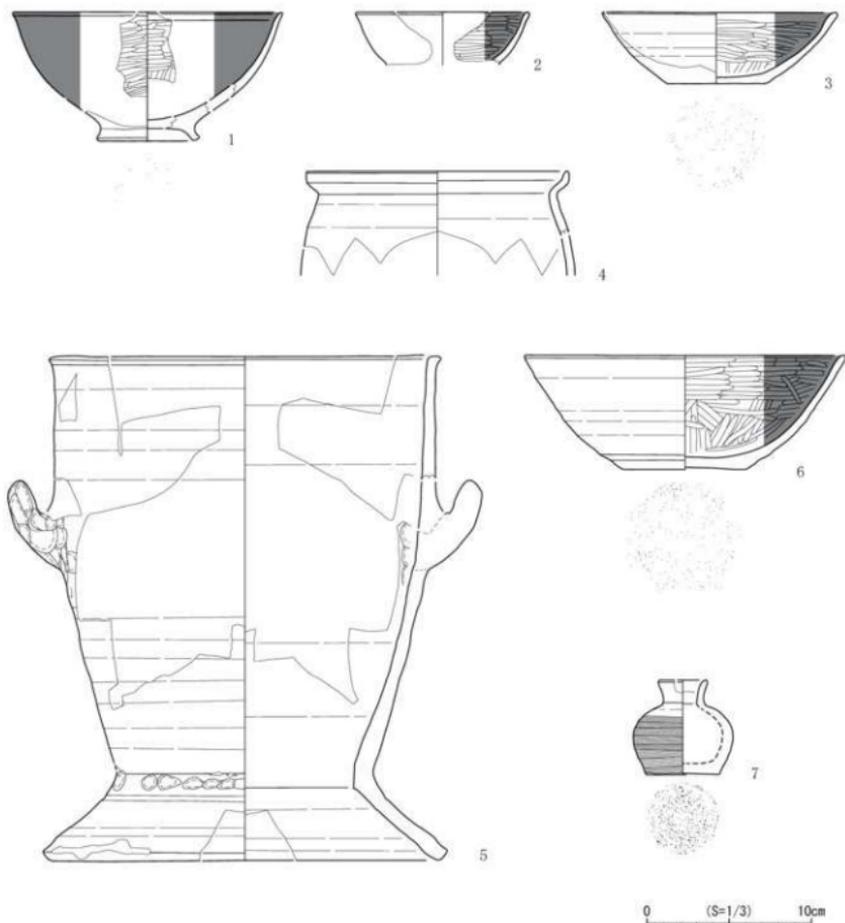
遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色粘土質ブロック、酸化鉄、炭粒、マンガン粒、灰白色火山灰を少量含む。
	2	10YR/1 褐色	粘土質シルト	マンガン粒、黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。
SK2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	マンガン粒、炭粒、塵土粒を極少量含む。

第31図 SK1・2土坑断面図



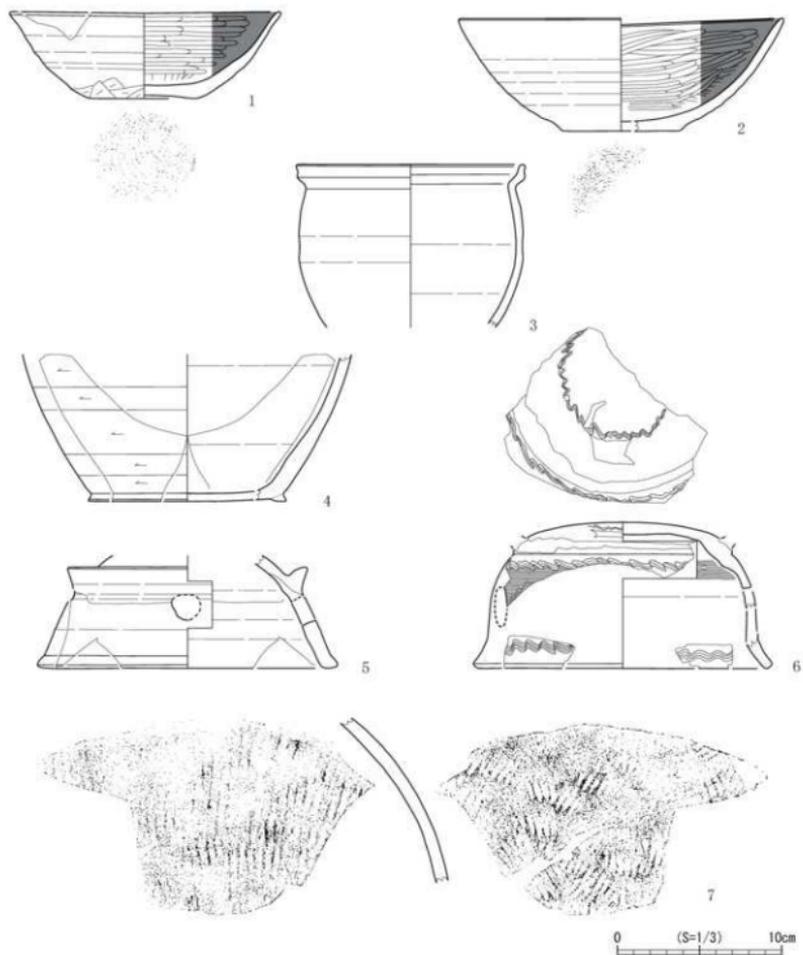
調査番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	注量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-6	S11	準横土	土師器	杯	13.8	5.1	4.5	ロクロナデ 体下端：平時ヘラケズリ底：平時ヘラケズリ	受熱により器面剥落 黒色処理？	胎土断面 砂粒・陶練骨封含む 1/2 程度	13-1
2	D-19	S11	2a	土師器	甕	-	-	(4.1)	ハケメ	回転ハケメ	胎土断面 右高粒下・砂粒 含む	13-2
3	D-21	S11	2b	土師器	甕	-	(5.1)	(6.9)	底：ムシロ状の圧痕	ハラナデ	胎土断面 右高粒下・砂粒 含む	13-4
4	D-18	S11	1-2a	土師器	甕	-	-	(16.8)	ハケメ→横方向に擦痕	回転ハケメ	胎土断面 右高粒下・砂粒 含む	13-3
5	D-20	S11	2b	土師器	甕	-	(6.4)	(1.8)	ハケメ 底：ムシロ状の圧痕	ハラナデ	胎土断面 右高粒下・砂粒 含む	13-5
6	D-1	S11	2a	土師器	杯	14.6	5.6	4.5	ロクロナデ 体下端：平時ヘラケズリ底：回転糸切り→平時ヘラケズリ	ヘラミダキ→黒色処理	ヘラケズリ工具先端や砥状 胎土断面 砂粒・陶練骨封含む ほぼ完了	13-6
7	D-2	S11	2a	土師器	杯	14.4	6.0	4.7	ロクロナデ 底：刺繍糸切り 無調整	ヘラミダキ→黒色処理	胎土断面 砂粒・陶練骨封含む 1/2 程度	13-7
8	D-6	S11	2a	土師器	杯	(14.4)	5.6	-	ロクロナデ 底：回転糸切り→平時ヘラケズリ	ヘラミダキ→黒色処理	胎土断面 砂粒・陶練骨封含む 2/3 程度	13-8
9	D-7	S11	2a	土師器	杯	(17.0)	6.8	6.4	ロクロナデ 底：回転糸切り→平時ヘラケズリ	受熱により器面剥落 黒色処理？	胎土断面 砂粒・陶練骨封含む 1/2 程度	13-9
10	D-5	S11	2a+2a	土師器	高台付杯	(15.0)	7.0	6.4	ロクロナデ 高台接合部内外面に波痕 底：ツマキ→(底面を調査) 底：ツマキ(切り跡不明)	ヘラミダキ→黒色処理	胎土断面 砂粒・陶練骨封含む 2/3 程度	13-10
11	D-17	S11	2a	土師器	甕	(16.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	胎土断面 砂粒・陶練骨封含む 口→体上1/3 程度	13-11

第 32 図 S11 竪穴遺構出土遺物 (1)



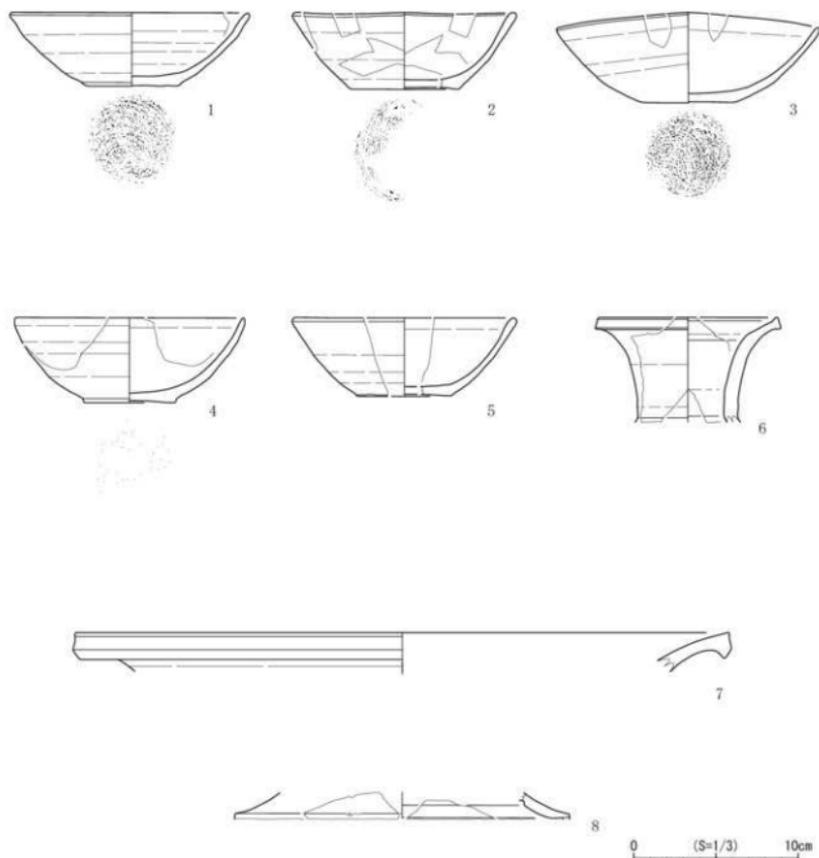
調査 番号	遺物 番号	出土 遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)		外面	内面	備考	実測 図版	
						口径	底径					
1	D-10	S11	1-3b	土師器	高台付 杯	(16.4)	6.2	(7.9)	口唇：ヘラミガキ 口内面下～底：ナゲ 黒色処理	胎土顕著 赤粒・高練骨封含む 1/2残	13-12	
2	D-9	S11	3d	土師器	杯	(10.4)	-	(3.2)	口唇：ナゲ ヘラミガキ→黒色処理	胎土顕著 赤粒・高練骨封含む 口～体上至1/4残	13-13	
3	D-3	S11	3d	土師器	杯	14.1	6.0	4.4	口唇：ナゲ 底：割断糸切り 無調整	ヘラミガキ→黒色処理	胎土顕著 赤粒・高練骨封含む 3/5残	13-14
4	D-16	S11	3d	土師器	甕	(15.8)	-	(6.3)	口唇：ナゲ	胎土顕著 赤粒・高練骨封含む 口～体上至1/5残	13-15	
5	D-12	S11	3d	土師器	甕	(23.8)	(23.4)	26.8	口唇：ナゲ 体下至：割断ヘラミガキ 肥子2ヶ所(ユビオサエ ヘラミガキ)	胎土顕著 赤粒・高練骨封含む 口～体上至1/2残	14-1	
6	D-4	S11	4	土師器	埴	19.4	7.4	7.0	口唇：ナゲ 底：ナゲ調整 (切り離し技法不明)	ヘラミガキ→黒色処理	胎土顕著 赤粒・高練骨封含む 1/2残	13-16
7	D-11	S11	深面	土師器	甕	2.8	4.4	5.9	口唇：ナゲ 体下至：割断ヘラミガキ 底：割断糸切り 無調整	口～底：口唇：ナゲ	胎土顕著 赤粒・高練骨封含む 9/10残	13-17

第33図 S11 竪穴遺構出土遺物(2)



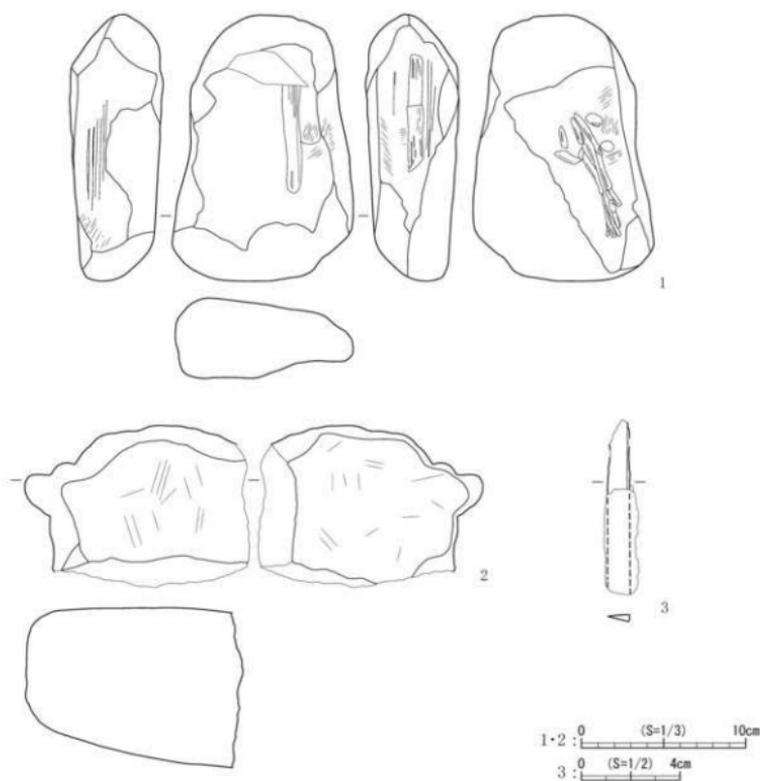
第34図 S11 竪穴遺構出土遺物(3)

調査番号	発見番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図番
						口径	底径	器高				
1	D-11	S11-SK1	準縄土	土師器	杯	16.4	6.6	5.3	ロクロナデ 体下端、子持土ヘラケズリ 底、刺傷痕切リ 無調整	ヘラミダキ→黒色地肌	粘土調密 砂粒、尚網骨針含む 段部に多少の土塊	14-2
2	D-15	S11-SK1	準縄土	土師器	杯	(19.6)	(7.2)	6.9	ロクロナデ 底、刺傷痕切リ 無調整	ヘラミダキ→黒色地肌	粘土調密 砂粒、尚網骨針含む 2/3 残	14-3
3	D-13	S11-P2	準縄土	土師器	壺	(13.8)	-	(10.0)	ロクロナデ 体下半: 踏面剥落	ロクロナデ	粘土調密 砂粒、尚網骨針含む 口→体上半1/4残	14-4
4	E-4	S11	準縄土	灰土器	壺	-	(12.4)	-	ロクロナデ→刺傷ヘラケズリ	ロクロナデ	粘土調密 砂粒含む 体下半→底 1/4残	14-5
5	E-5	S11	準縄土	灰土器	円面碗	(14.3)	(18.4)	(6.9)	ロクロナデ	ロクロナデ→ナデ	粘土調密 砂粒含む 踏面透かし孔 1個 1/3 残	14-6
6	E-7	S11	1-2a	灰土器	円面碗	-	-	(9.4)	ロクロナデ→シキメ→段状文 踏の中央部遺留	ロクロナデ→シキメ→段状文	粘土調密 砂粒、尚網骨針含む 透かし孔 1/3 残 踏面部? 踏部?	14-7
7	E-11	S11	1-2b	灰土器	壺	-	-	(10.1)	平行タタキ	当て 黒状文	粘土調密 砂粒、尚網骨針含む	15-9



図録番号	発見番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-9	S11	2a	須恵器	杯	(14.3)	5.7	4.6	ロタロナデ 底：回転糸切り 無調整	ロタロナデ	粘土調整 砂粒・陶片封含む 受熱による変色 4/5 残	15-1
2	E-2	S11	1-3a	須恵器	杯	(13.3)	6.6	4.7	ロタロナデ 底：回転糸切り 無調整	ロタロナデ	粘土調整 砂粒含む 焼成不良軟質 1/4 残	15-2
3	E-1	S11	2a+3a+3d	須恵器	杯	(15.8)	5.6	5.5	ロタロナデ 底：回転糸切り 無調整	ロタロナデ 底～底：回転ナデ	粘土調整 砂粒・陶片封含む 焼成軟質 1/2 残	15-3
4	E-10	S11	3d	須恵器	杯	(13.8)	5.6	5.2	ロタロナデ 底：回転糸切り 無調整	ロタロナデ 底～底：回転ナデ	粘土調整 砂粒含む 残存 1/2	15-4
5	E-2	S11	3d	須恵器	杯	(13.4)	5.8	4.8	ロタロナデ 底：回転糸切り 無調整	ロタロナデ	粘土調整 砂粒含む 残存 1/2	15-5
6	E-8	S11	2b+3d	須恵器	盃	(16.4)	-	16.4	ロタロナデ	ロタロナデ	粘土調整 砂粒・陶片封含む 口 1/5 残	15-6
7	E-6	S11	2a+3d	須恵器	甕	(26.6)	-	(2.6)	ロタロナデ	ロタロナデ	粘土調整 砂粒含む 口 1/4 残	15-7
8	1e-1	S11	3d	緑釉陶器	蓋	(26.4)	-	(1.7)	ロタロナデ	ロタロナデ	粘土調整 残存 1/6	15-8
-	A-1	S11	築構土	陶文土器	瓦葺	-	-	(13.6)	原形跡多量 R (1+1-1) 下部・層き	ミガキ	粘土調整 砂粒 片～片の小破片あり 写真図版の5	15-10

第 35 図 S11 竪穴遺構出土遺物 (4)



図録番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	材質	法量 (cm)			備考	写真記録
						長さ	幅	厚さ		
1	K-2	S11	準縄土	石製品	砥石	26.3	10.8	5.7	砥面4面 砥度目 重さ 725.0g	15-11
2	K-1	S11	準縄土	石器	網石器	(13.3)	9.8	9.8	磨面2面 デイサイト (石炭山山群) 重さ 1990.0g	15-12
3	V-1	S11	床面	鉄製品	刀子	(7.1)	(1.4)	0.3	先端欠損	15-13
-	K-3	S11	準縄土	石器	網石器	-	-	-	磨面が1面に認められる デイサイト (石炭山山群) 重さ 2590.0g 写真撮影のみ	15-14
-	K-4	S11	準縄土	石器	網石器	-	-	-	磨面が1面に認められる デイサイト (石炭山山群) 重さ 2290.0g 写真撮影のみ	15-15

第36図 S11 堅穴遺構出土遺物 (5)

6. まとめ

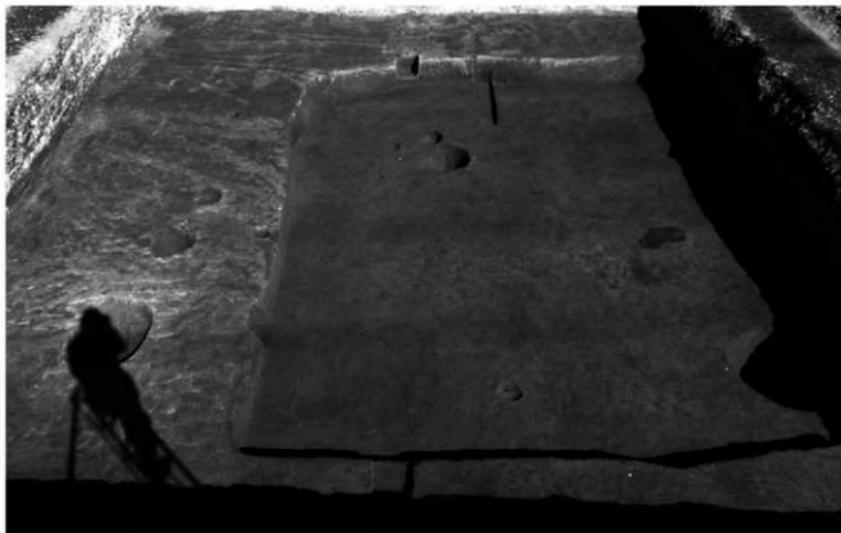
確認調査では性格不明遺構1基(後に堅穴遺構とした)、溝跡2条、ピット5基を確認し、遺物は土師器、縄文土器が出土した。本発掘調査では堅穴遺構1基、土坑2基、ピット3基を確認した。遺物は主に堅穴遺構から、縄文土器、土師器、須恵器、陶器、石製品、鉄製品が出土した。

堅穴遺構は約8.0×6.5m(推定)の規模で、2基の主柱穴を有し、カマドを有さない。堆積土および床面からの出土遺物はいずれも9世紀代に属すると判断され、遺構全体では9世紀中頃～後半に位置づけられる。堆積土には灰白色火山灰が含まれるため、廃絶は9世紀末頃と考えられる。東側に隣接する第3次調査Ⅱ区でも複数の堅

穴住居跡・竪穴遺構が確認されているが（仙台市教委 2018）、これらは 10 世紀前半およびそれ以降に属しており、本遺構は時期がやや古い。特徴的な出土遺物としては、小型の土師器壺、土師器把手付甗、円面硯、緑釉陶器蓋が挙げられる。

参考文献

- 仙台市教育委員会 2018 『鍛冶屋敷A遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか』 仙台市文化財調査報告書第 466 集
- 仙台市教育委員会 2017 『仙台東災害復旧関連区画整理事業関係遺跡発掘調査報告 I』 仙台市文化財調査報告書第 457 集
- 仙台市教育委員会 2013 『郡山遺跡第 167・180・196 次調査』 仙台市文化財調査報告書第 412 集
- 仙台市教育委員会 2010 『与兵衛沼窟跡』 仙台市文化財調査報告書第 366 集
- 宮城県教育委員会 1991 『館南団遺跡ほか』 宮城県文化財調査報告書第 144 集
- 関根章義 2014 「古代陸奥国における陶硯の受容と展開」『季刊 古代文化』第 66 巻 3 号
- 村田晃一 2018 「陸奥中部における陶硯の生産と消費（1）」『宮城考古学』第 20 号
- 高橋 透 2018 「陸奥国府域における 10 世紀の土器様相」『宮城考古学』第 20 号
- 愛知県史編さん委員会 2015 『愛知県史 別編 窯業 1 古代 猿投系』
- 名古屋考古学会・増子康真編 1984 『名古屋市熊ノ前古窯址群』



1. S11 完掘状況（南から）



2. 調査区東壁断面1（西から）



3. 調査区東壁断面2（西から）



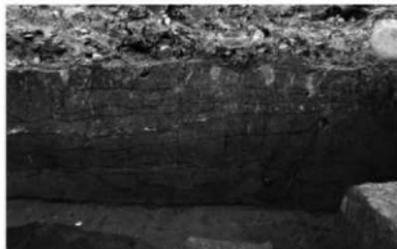
4. 調査区東壁断面3（西から）



5. 調査区東壁断面4（西から）



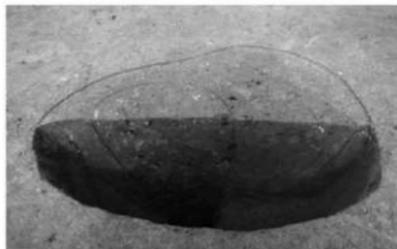
1. 調査区東壁断面5 (西から)



2. 調査区東壁断面6 (西から)



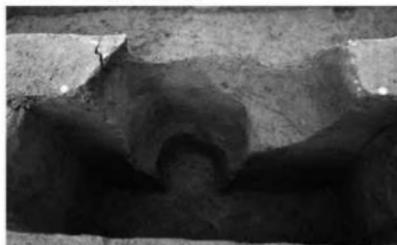
3. S11 掘方調査状況 (南から)



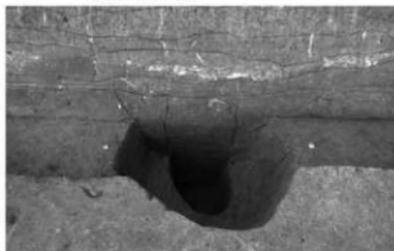
4. S11-P1 半截 (南から)



5. S11-P1 完掘 (南から)



6. S11-P1 断割り (南から)



7. S11-P2 完掘 (西から)



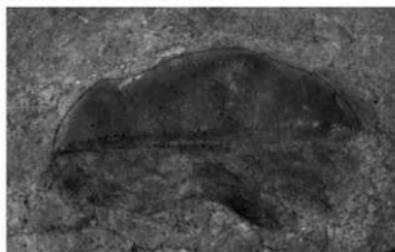
8. S11-P2 断割り (西から)



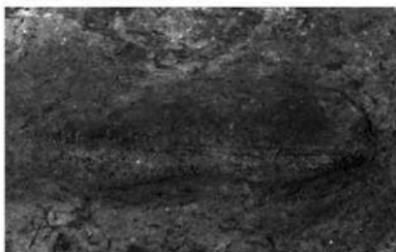
1. S11-SK1 半截 (南から)



2. S11-SK1 完掘 (南から)



3. S11 炉跡1 半截 (南東から)



4. S11 炉跡2 半截 (南西から)



5. 土師器坏出土状況1 (東から)



6. 土師器坏出土状況2 (南から)



7. 土師器坏出土状況3 (南東から)



8. 土師器壺出土状況 (西から)



1. SK1 半截 (東から)



2. SK2 半截 (東から)



3. 確認調査2トレンチ全景 (北から)



4. 確認調査5トレンチ全景 (北から)



5. 確認調査5トレンチSD1断面 (西から)



6. 確認調査5トレンチSD2断面 (南から)



7. 確認調査6トレンチ全景 (北から)



8. 本調査作業風景 (南東から)

写真図版 12 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査 (4)



写真図版 13 鍛冶屋敷 A 遺跡第4次調査出土遺物 (1)



写真図版 14 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査出土遺物(2)

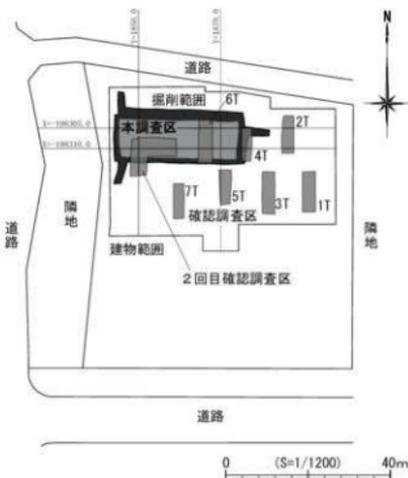


写真図版 15 鍛冶屋敷 A 遺跡第4次調査出土遺物 (3)

第3節 第5次調査

1. 調査要項

遺跡名	鍛冶屋敷A遺跡 (宮城県遺跡登録番号01085)
調査地点	仙台太白区富沢駅西土地区画整理事業地内保留地19街区56画地
調査期間	試掘・確認調査 平成30年3月5日～8日 確認調査(2回目) 平成30年4月5日 本発掘調査 平成30年6月4日 ～7月3日
調査対象面積	2,006.76㎡(敷地面積:4,379.17㎡)
調査面積	試掘・確認調査:約188.5㎡ 確認調査(2回目):約70.0㎡ 本発掘調査:約330.0㎡
調査原因	店舗の建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課 調査調整係
担当職員	試掘・確認調査 主事 小林 航 文化財教諭 佐藤慶一 確認調査(2回目) 主任 及川謙作 主事 小林 航 文化財教諭 佐藤文征 尾形隆寛 栗和田祥郎 本発掘調査 主任 及川謙作 文化財教諭 佐藤文征

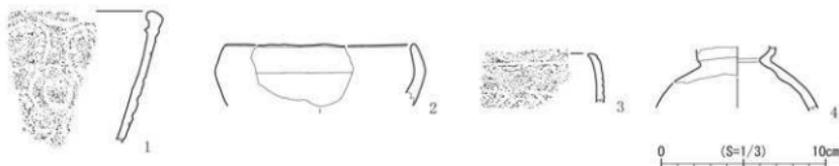


第37図 第5次調査区配置図

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成30年1月17日付で申請者より提出された「埋蔵文化財の取り扱いについて(協議)」(平成30年1月24日付H29教生文第103-076号で回答)に基づき実施した。対象地は第4次調査区の西側にあたる。平成30年3月5日から8日にかけて南北方向のトレンチを7ヶ所設定し、試掘・確認調査を実施した。その結果、第6トレンチから溝跡(本発掘調査時のSD1溝跡)と遺物包含層(Ⅱa層)が検出され、遺物包含層から縄文土器などが出土した。その後4月5日に遺物包含層の広がりを確認するため、追加の確認調査を実施した。その結果、溝跡よりも南側には遺物包含層は広がらず、事業予定地内の北側に広がっていることが確認された。

これら2回の試掘・確認調査で遺構が検出された範囲が埋蔵文化財包蔵地外であったことから、遺構が検出された範囲を中心に「遺跡範囲の訂正について(通知)」(平成30年4月20日付H30教生文第343号)を宮城県に通知した。その後、宮城県から「遺跡範囲の変更について(通知)」(平成30年5月9日付文第361号)が通知され遺跡範囲が変更された。



発掘 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	形状	法量 (cm)		外周	内面	備考	写真 図番
						口径	底径				
1	A-2	4F	-	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	ミガキ(磨滅) 縄文 竹葉炭 土器に土を刺穿	ミガキ 炭化物付着	石英・長石・赤雲母・砂粒含む	19-1
2	A-1	4F	-	縄文土器	鉢	(11.4)	(3.7)	ミガキ(磨滅)	ミガキ	石英・長石・赤雲母を含む	19-2
3	A-3	3F	-	縄文土器	鉢	-	(3.4)	ミガキ(磨滅)	ミガキ	石英・長石・赤雲母・砂粒含む	19-3
4	A-6	3F	-	縄文土器	皿	-	(3.7)	ミガキ	白：ミガキ 黒：ミガキ、オサユ	石英・長石・砂粒・海綿骨を含む	19-4

第38図 試掘・確認調査出土遺物

本発掘調査に先立ち、事業者と平成30年5月14日付で委託契約を締結し、本発掘調査は6月4日に着手した。重機で盛土および水田耕作層である基本層Ⅰ層を掘り下げ、Ⅱa・b層上面で遺構検出作業を行った。その結果、溝跡1条、土坑11基、土器埋設遺構2基、性格不明遺構1基、ピット51基、遺物包含層が検出された。また基本層中および各遺構から縄文土器、土師質土器、陶器、石器、石製品、漆器碗などの木製品などが出土した。特に遺物包含層であるⅡa層からは縄文時代後期の土器をはじめ、剥片石器などが多数出土した。7月3日に本発掘調査を終了した。

遺構の精査前に調査区配置図をS=1/100で、遺構平面図と調査区南壁、各遺構断面図をS=1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。また調査に先立ちトータルステーションを用いて公共座標(3級基準点「QE600401」)から座標とレベルを移設した。

3. 基本層序

調査区内の盛土厚は約1.7mであり、その下で基本層を大別4層確認した。現地表面から遺構検出面であるⅡ層上面までの深さは約1.8mである。

Ⅰ層 : 10YR3/2 黒褐色シルト。層厚は約10 cmで、造成以前の水田耕作土である。

Ⅱa層 : 10YR3/3 暗褐色シルト。層厚は約0～30 cmで、今回の調査の遺構検出面の一部であり、調査区の北側で検出された縄文時代後期の遺物包含層である。炭化物粒(φ 5mm)を部分的に多量に含む。

Ⅱb層 : 10YR3/4 暗褐色、もしくは10YR4/2 灰黄褐色の粘土質シルト。層厚は約25 cmで、SD1 溝跡に近い場所は酸化鉄(φ 5mm)を斑状に含む。今回の調査の遺構検出面の一部である。

Ⅲ層 : 10YR3/2 黒褐色粘土。層厚は25 cmで、酸化鉄を斑状に含む。

Ⅳ層 : 10YR4/3 に近い黄褐色粘土質シルト。層厚は20 cm以上で、酸化鉄を斑状に含む。円礫(φ 20mm)を少量含む。

4. 発見遺構と出土遺物

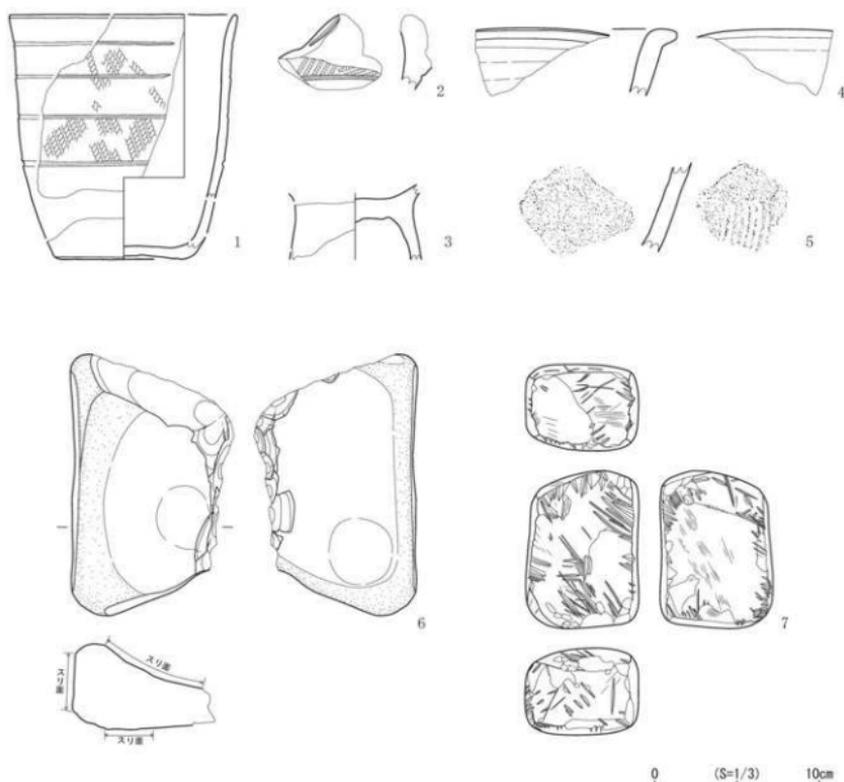
(1) 溝跡

SD1 溝跡 (第39・40図)

調査区の南側で検出された。SK3・5～9・11 土坑、SX1 性格不明遺構と重複し、SK7・8・9・11 土坑より新しく、SK3・5・6 土坑、SX1 性格不明遺構よりも古い。方位はW-4°-Nの東西方向だが、調査区の南東端で南に屈曲し



第39図 第5次調査平面・断面図

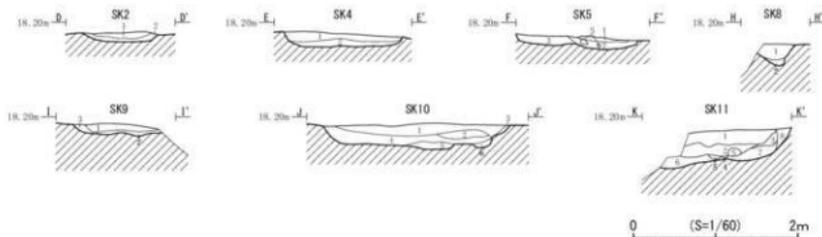


図録番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	群種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	A-2	S01	赤煉土	陶文土器	深鉢	13.63	8.1	116.40	ヒツギ年(磨製)紅陶文	ヒツギ年→ヒツギ年	石角・長石・砂粒・青銅片を含む	19-5
2	A-46	S01	赤煉土	陶文土器	深鉢	-	-	14.63	ヒツギ年(紅陶文)	ヒツギ年	石角・長石・砂粒を含む	19-6
3	B-1	S01	赤煉土	陶文土器	片付鉢	-	-	14.33	磨製 部分的にヒツギ年	ヒツギ年	石角・長石・砂粒を含む	19-7
4	19-5	S01	赤煉土	瓦葺土器	環鉢	-	-	14.13	ヒツギロコナゲ	ヒツギロコナゲ	石角・炭粒・砂粒を含む	19-8
5	19-6	S01	赤煉土	瓦葺土器	環鉢	-	-	15.20	ヒツギロコナゲ	磨目了蓋		19-9
-	1e-1	S01	赤煉土	陶器	甕	-	-	-	ナゲ	ナゲ	口縁部片 産地：築山12c 代相面に漆付着 写真掲載のみ	19-10
-	1e-2	S01	赤煉土	陶器	甕	-	-	-	ナゲ	ナゲ	体部片 産地：湯失 中世 写真掲載のみ	19-11
-	1e-3	S01	赤煉土	陶器	甕	-	-	-	ナゲ	ナゲ	体部片 産地：不明 中世 写真掲載のみ	19-12
-	1e-4	S01	赤煉土	陶器	甕	-	-	-	ナゲ	ナゲ	体部片 産地：在地(白石石) 中世 写真掲載のみ	19-13

図録番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	群種	法量 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
6	B-2	S01	赤煉土	磁石器	磁石	15.9	6.43	5.1	断面4面 電山貯 重さ1,100.0g	19-15
7	B-3	S01	赤煉土	石製品	磁石	9.7	6.9	5.3	断面4面と横長の断面あり 磨製粗面砂 重さ605.0g	19-14
-	B-1	S01	赤煉土	磁石器	石角?	-	-	-	ゲイサイト1面の丸縁付形状 重さ1,100.0g 写真掲載のみ	19-16
-	1-1	S01	赤煉土	漆器	碗	-	-	-	外面：黒漆 内面：赤漆 写真掲載のみ	19-17

第40図 S1溝跡出土遺物

第3節 第5次調査



遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
SK2	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック (φ 2cm) を少量含む。炭化物 (φ 1cm) を少量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物 (φ 1cm) をやや多量に含む。焼土粒 (φ 2mm) を少量含む。
SK4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒 (φ 2～5mm) を少量含む。Ⅱ a 層ブロック (φ 2cm) を複数に含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
SK5	1	10YR4/1 灰黄褐色	シルト	酸化鉄粒 (φ 2mm) を複数に含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	砂質シルトが混じる。炭化物粒 (φ 2mm) を少量含む。下層土の層にマンガン粒 (φ 2mm) が散在して埋積。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	酸化鉄粒 (φ 5mm) を少量含む。
SK8	1	10YR4/1 に近い黄褐色	粘土質シルト	灰白色シルト粒 (φ 5mm) を複数に含む。炭化物粒 (φ 5mm) を少量含む。
	2	10YR4/2 に近い黄褐色	砂質シルト	酸化鉄粒 (φ 5mm) を少量含む。
SK9	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	マンガン粒 (φ 5mm) を複数に多量含む。炭化物粒 (φ 2mm) を少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒 (φ 2mm) を少量含む。
SK10	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅱ a 層ブロック主体。
	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック (φ 1cm) を複数に多量に含む。炭化物粒 (φ 2～5mm) を少量含む。人為埋積層。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ b 層ブロック (φ 5cm) を複数に多量に含む。人為埋積層。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック主体。人為埋積層。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック (φ 1cm) を複数に含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅱ b 層ブロック (φ 1cm) を複数に含む。酸化鉄ブロック (φ 1cm) を含む。
SK11	6	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ b 層ブロック (φ 2cm) を少量含む。
	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒 (φ 2mm) を複数に多量に含む。炭化物粒 (φ 5mm) を少量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒 (φ 2～5mm) を複数に含む。炭物を多量に含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒 (φ 5mm) を少量含む。
	4	10YR4/4 藍色	粘土	ほぼ均質。
	5	10YR4/4 藍色	シルト	層ブロック主体。炭化物粒 (φ 5mm) を少量含む。
SK11	6	10YR3/1 に近い黄褐色	砂質シルト	層ブロック主体。酸化鉄粒 (φ 3mm) を複数に含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 1cm) を少量含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 3mm) を少量含む。

第 41 図 土坑断面図

で途切れている。検出された長さは約 28.0m で、調査区の西側にさらに延びる。幅は約 1.2～2.6m である。調査区中央部で幅が広がり、底面南側に一段落ち込んだ段が形成されている。

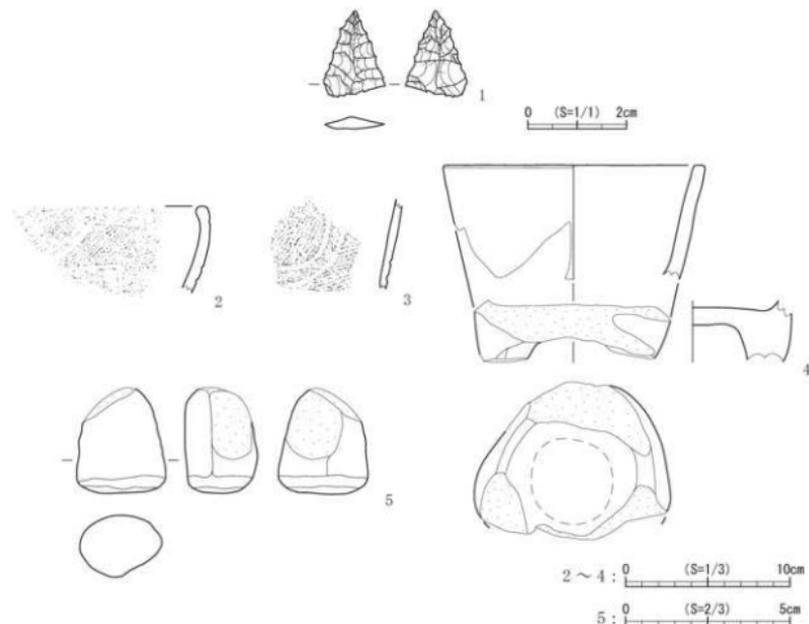
断面形状は逆台形を呈し、深さは約 45～65cm である。堆積土は 11 層に細分した。堆積状況から数度にわたって掘り直しが行われたものと考えられる。また最上層はシルトもしくは砂質シルトで酸化鉄ブロックを斑状に含んでおり、水性堆積層と考えられる。場所によっては大量の円礫が混入している。堆積土最上層の上面には、人の足跡が直線的に並んで確認された。この足跡は向きから東から西に移動した際の痕跡と考えられる。

遺物は堆積土中から縄文土器、陶器、瓦質土器の播鉢、木製品の椀、砥石などの石製品、石皿などの礫石器が出土した。陶器は 12 世紀代の渥美のほか、白石などの在地産の甕がある。出土遺物の様相から、遺構の時期は中世(15～16 世紀)と考えられる。

(2) 土坑

SK1 土坑 (第 39 図)

調査区の東部で検出された。平面形はやや不整形な楕円形を呈する。規模は南北約 80cm、東西約 50cm で、深さは約 5cm である。堆積土は 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト単層である。遺物は出土していない。



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						高さ	幅	厚さ		
1	K-4	SK3	単層土	打製石器	石鏃	1.7	1.3	0.2	基部折損 重量0.5g	20-1
5	P-1	SK7	単層土	土製品	土俵	3.2	3.7	2.3	土俵の脚部? 石灰・長石・砂粒含む	20-5

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
2	K-15	SK7	単層土	縄文土器	深鉢	-	-	(3.3)	ヒゲキ 1.8 光面縄文	ヒゲキ	石灰・長石・黒雲母・砂粒含む	20-2
3	K-16	SK7	単層土	縄文土器	深鉢	-	-	-	ヒゲキ 無筋1.縄文	ナゲ	石灰・砂粒含む	20-3
4	K-14	SK7	単層土	縄文土器	付録鉢	-	-	(7.4)	ヒゲキ (無筋)	ヒゲキ	石灰・長石・黒雲母・砂粒・陶片骨片含む	20-4
-	Te-7	SK3	単層土	陶器	甕	-	-	-	ナゲ	ナゲ	体面片 中世 産地不明 写真図版のみ	20-6

第42図 SK3・7土坑出土遺物

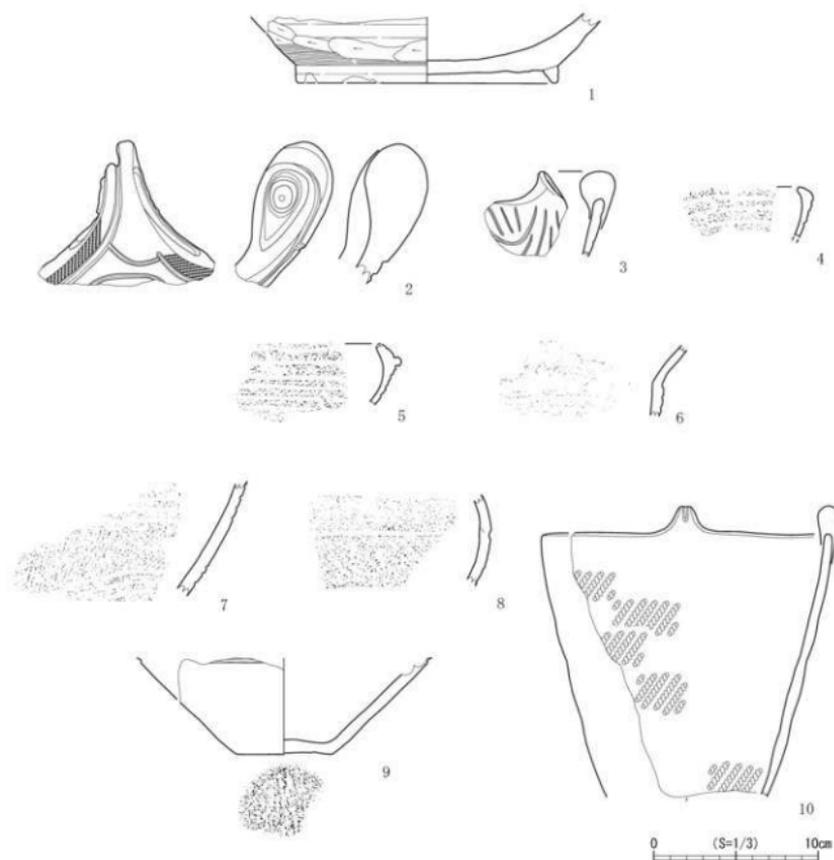
SK2土坑 (第39・41図)

調査区の東部で検出された。平面形はやや東西に長い不整形な楕円形を呈する。規模は東西約1.5m、南北約1.1mで、深さは約10cmである。堆積土は2層に細分した。断面形は浅い皿型を呈する。遺物は出土していない。

SK3土坑 (第39・42図)

調査区の中央部で検出された。SD1溝跡と重複し、これよりも新しい。平面形はやや東西に長い不整形な楕円形を呈する。規模は東西約1.9m、南北約1.4mで、深さは約50cmである。堆積土は10YR3/2黒褐色粘土質シルトの単層で、礫が多数混入しており、中には40cmを超えるものも存在する。西壁部分には礫が敷き詰められた状態で検出された。断面形は逆台形を呈する。

遺物は石鏃と中世陶器の甕の破片が出土している。遺構の時期は中世以降と考えられる。



図番 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	1c-6	SK10	4・5	陶器	高台付 鉢	-	115.4)	4.3)	1)	1)	1)	20-7
2	1-4	SK11	堆積土	縄文土器	深鉢	-	-	9.9)	1)	1)	1)	20-8
3	1-8	SK11	堆積土	縄文土器	深鉢	-	-	15.2)	1)	1)	1)	20-8
4	1-5	SK11	堆積土	縄文土器	鉢	-	-	13.1)	1)	1)	1)	20-10
5	1-6	SK11	堆積土	縄文土器	鉢	-	-	13.2)	1)	1)	1)	20-11
6	1-10	SK11	堆積土	縄文土器	深鉢	-	-	4.2)	1)	1)	1)	20-12
7	1-3	SK11	堆積土	縄文土器	鉢	-	-	-	1)	1)	1)	20-13
8	1-11	SK11	堆積土	縄文土器	鉢	-	-	-	1)	1)	1)	20-14
9	1-9	SK11	堆積土	縄文土器	鉢	-	5.8	15.9)	1)	1)	1)	20-15
10	1-7	SK11	堆積土	縄文土器	深鉢	117.6)	-	117.9)	1)	1)	1)	20-16

第 43 図 SK10・11 土坑出土遺物

SK4 土坑 (第39・41 図)

調査区の中央部で検出された。P26 と重複し、これよりも古い。平面形状はやや横長の隅丸方形を呈する。規模は東西約 1.4m、南北約 0.9m、深さ約 15cm で、断面形状は浅い皿型を呈し、底面は平坦である。堆積土は 2 層に細分した。遺物は出土していない。

SK5 土坑 (第39・41 図)

調査区の中央部、やや南寄りの場所で検出された。SD1 溝跡と重複し、これよりも新しい。平面形は円形の掘り込みと隅丸方形の掘り込みが一体化した形状をしている。規模は直径約 0.8 ~ 1.1m、深さ約 40cm で、断面形は浅い皿型を呈する。堆積土は 3 層に細分され、いずれの層にも円礫が含まれている。

遺物は出土していない。他の遺構との重複関係から、遺構の時期は中世以降と考えられる。

SK6 土坑 (第39 図)

調査区の中央部、やや南寄りの場所で検出された。SD1 溝跡と重複し、これよりも新しい。平面形は隅丸方形を呈している。規模は東西約 0.7m、南北約 0.6m で、深さ約 10cm である。堆積土は 10YR3/3 暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。他の遺構との重複関係から、遺構の時期は中世以降と考えられる。

SK7 土坑 (第39・42 図)

調査区の南東隅で検出された。SD1 溝跡、SX1 性格不明遺構と重複し、これよりも古い。遺構の北側が SD1 溝跡に削平されており、また南側が調査区外になるため全体の形状は不明だが、平面形はやや歪な楕円形を呈する。規模は東西約 1.3m、南北約 1.1m で、深さ約 20cm で断面形は浅い皿型を呈する。堆積土は 2 層に細分され、いずれも酸化鉄粒を含む。

遺物は縄文土器の深鉢、台付鉢などが出土した。他の遺構との重複関係から、遺構の時期は中世以前と考えられる。

SK8 土坑 (第39・41 図)

調査区の中央部、やや南寄りの場所で検出された。SD1 溝跡と重複し、これよりも古い。平面形は円形を呈している。規模は直径約 0.5m と推定される。深さは約 25cm で、断面形はやや開いた V 字形を呈する。堆積土は 2 層に細分した。

遺物は出土していない。他の遺構との重複関係から、遺構の時期は中世以前と考えられる。

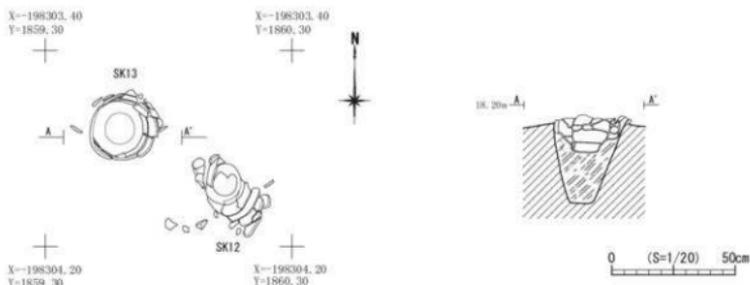
SK9 土坑 (第39・41 図)

調査区の西側、やや南寄りの場所で検出された。SD1 溝跡と SK10 土坑と重複し、SD1 溝跡よりも古く、SK10 土坑よりも新しい。南側が SD1 溝跡に削平されているため、全体の形状は不明だが、平面形は隅丸方形を呈しているものと推定される。規模は東西約 1.9m、南北約 1.1m で、深さ約 10cm で断面形は浅い皿型を呈する。堆積土は 2 層に細分した。

遺物は出土していない。他の遺構との重複関係から、遺構の時期は中世と考えられる。

SK10 土坑 (第39・41・43 図)

調査区の西側で検出された。SK9 土坑と重複し、これよりも古い。平面形は楕円形を呈している。規模は直径約 2.3 ~ 3.0m、深さは約 30cm で、断面形はやや開いた皿型を呈し、壁は緩やかに斜めに立ち上がる。堆積土は 6 層に細



第44図 SK12・13 土器埋設遺構平面・断面図

分され、いずれの層もⅡ a・b 層ブロックを多く含む。そのうち最上層の1～3層は人為堆積層であると考えられる。底面は平坦で、西端の底面から壁部分にかけてピットが1基検出された。ピットの規模は直径約40cmで、深さは約5cmである。

遺物は底面から陶器の台付鉢が出土した。遺構の重複関係および出土遺物の様相から、遺構の時期は12世紀代以降の中世と考えられる。

SK11 土坑 (第39・41図)

調査区の南側の中央部やや東寄りの地点で検出された。SD1 溝跡と重複しこれよりも古い。遺構の北側がSD1 溝跡に削平されているため全体像は不明だが、直径約2.0mの円形を呈するものと推測される。深さは約50cmで、断面形状はやや開いた箱形を呈する。堆積土は8層に細分され、下層に炭化粒などを比較的多く含んでいる。

遺物は堆積土中から縄文土器の鉢や深鉢などが多数出土した。遺構の重複関係と出土遺物の様相から、時期は縄文時代後期中葉と考えられる。

(3) 土器埋設遺構

SK12・13 土器埋設遺構 (第44図)

調査区の北西側で、2基の土器埋設遺構が、東西に隣り合う形で検出された。遺物包含層を直径約40cm、深さ約35cmの規模で掘り込み、その中に底面を打ち欠いた粗製の深鉢が正位に埋め込まれていた。

土器はいずれも遺物包含層出土資料とほぼ同時期の縄文時代後期中葉頃であると考えられる。

(4) 性格不明遺構

SX1 性格不明遺構 (第39図)

調査区の南東隅で検出された。SD1 溝跡とSK7 土坑、P1と重複し、SD1 溝跡、SK7 土坑よりも新しく、P1よりも古い。南東側が調査区外に広がっている。平面形は方形であると推定される。規模は南北約2.5m、東西約2.9m以上で、深さは約15cmで、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に細分され、堆積状況から人為堆積の可能性がある。

遺物は堆積土中から縄文土器の深鉢の底部などが出土している(第45図3)。他の遺構との重複関係から、遺構の時期は中世以降であると考えられる。



調査番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	部種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図録
						口径	底径	高さ				
1	A-12	SK12	埴壇土	縄文土器	深鉢	-	11.8	131.63	ミガキ 底・縁多数は縄文 底行状：ミガキヘラ状上縁ケズリ ミガキ 底・胴(CB)	ミガキ 体下半：垂状にこげ	石英・長石・砂粒含む	20-17
2	A-13	SK13	埴壇土	縄文土器	深鉢	-	14.0	136.7	ミガキ 上縁 縄文 底行状：ミガキ	ミガキ 体下：こげ	石英・雲母・砂粒含む	21-1
3	A-17	SK1	埴壇土	縄文土器	深鉢	-	10.8	15.0	ミガキ 底：胴代底(厚縁)	ナゲ?	石英・長石・黒雲母・砂粒含む	21-2

第45図 SK12・13土器埋設遺構・SK1性格不明遺構出土遺物

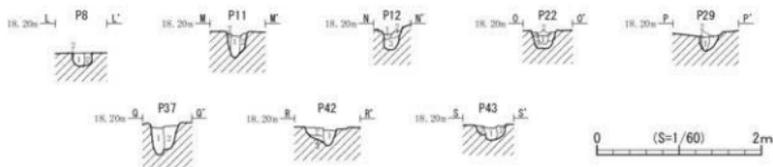
(5) ビット (第46図)

SD1 溝跡の北側を中心に調査区全体からはビットが51基検出された。概ね他の遺構よりも新しい。平面形状は円形を呈するものが大部分だが、隅丸方形を呈するものもある。直径は15～50 cmで、深さは10～50 cmである。8基のビットから直径約10～20 cmの柱痕跡が検出された。場所によって粗密があり、SD1 溝跡に沿うような形で配置されているようにも見受けられるが、建物などを構成するかは不明である。

遺物は縄文土器の破片などが出土している。

(6) 遺物包含層 (第47～49図)

調査区の北西側から東側にかけて分布するII a層である。検出範囲は東西約25.8m、南北7.8mで、さらに調査区の北東側に広がる。層の厚さは最大で約30 cmで、調査区の北側に向かって層は厚くなる。縄文土器や石鏃、剥片、石錐等の石器類が多数出土した。



遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
P8	1	10YR2.2 黒褐色	粘土	炭化物粒 (φ 1mm) を少量含む。柱状跡。
	2	10YR3.4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック主体。炭化物粒 (φ 3mm) を中量含む。
P11	1	10YR3.2 暗褐色	粘土	Ⅱ a 層ブロック (φ 2mm) を複数に含む。炭化物粒 (φ 5mm) を少量含む。柱状跡。
	2	10YR4.4 暗色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック (φ 2mm) を複数に少量含む。縦方埋土。
P12	1	10YR3.2 暗褐色	粘土	マンガン粒 (φ 1mm) を少量含む。柱状跡。
	2	10YR3.4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック (φ 1cm) を複数に含む。マンガン粒 (φ 1mm) を少量含む。縦方埋土。
	3	10YR3.4 暗褐色	砂質シルト	Ⅱ a 層ブロック主体。縦方埋土。
P22	1	10YR2.3 黒褐色	粘土	炭化物粒 (φ 5mm) を少量含む。
	2	10YR3.3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック (φ 1cm) を少量含む。
	3	10YR4.3 に近い黄褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック主体。
P29	1	10YR2.1 黒色	粘土	炭化物粒 (φ 2mm) を少量含む。柱状跡。
	2	10YR3.4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック (φ 2cm) を複数に少量含む。縦方埋土。
P37	1	10YR2.2 黒褐色	粘土	炭化物粒 (φ 1mm) を微量含む。
	2	10YR3.4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック (φ 1cm) を少量含む。炭化物粒 (φ 5mm) を少量含む。
P42	1	10YR2.2 黒褐色	粘土	炭化物粒 (φ 2mm) を微量含む。
	2	10YR3.3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒 (φ 2～5mm) を少量含む。縦方埋土。
	3	10YR4.3 に近い黄褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック主体。縦方埋土。
P43	1	10YR3.2 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒 (φ 2mm) を少量含む。柱状跡。
	2	10YR3.4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅱ a 層ブロック (φ 1cm) を複数に含む。炭化物粒 (φ 2mm) を少量含む。縦方埋土。

第46図 ビット断面図

縄文土器は深鉢が主体的で、台付鉢、注口付土器のほか、脚付浅鉢等の小型の器種もこれに加わる。深鉢の器形は体部が外傾し口縁部が緩く内湾するもの(第47図3)や口縁部に向かって直線的に外傾するもの(13)、口縁部に向かって緩く外反するもの(14～16)、口縁部に向かって内湾するもの(第48図1)がある。

鉢は口縁部近くで「く」字状に強く屈曲する第47図9と、それが弱い10～12が特徴的である。脚付浅鉢も同様に体部が「く」字状に屈曲している(第48図5)。器形に着目すれば、口縁部がやや外反する点でやや異なるが大野田遺跡Ⅶ層Ⅱ区のSK294土坑出土の鉢に近い(仙台市教育委員会2014)。

第48図6の注口土器は完形で出土した。体部が「く」字状に非常に強く屈曲している。口縁部突起は口縁部の粘土を指でつまんで作り出したと考えられ、突起の端部をやや内傾させている。

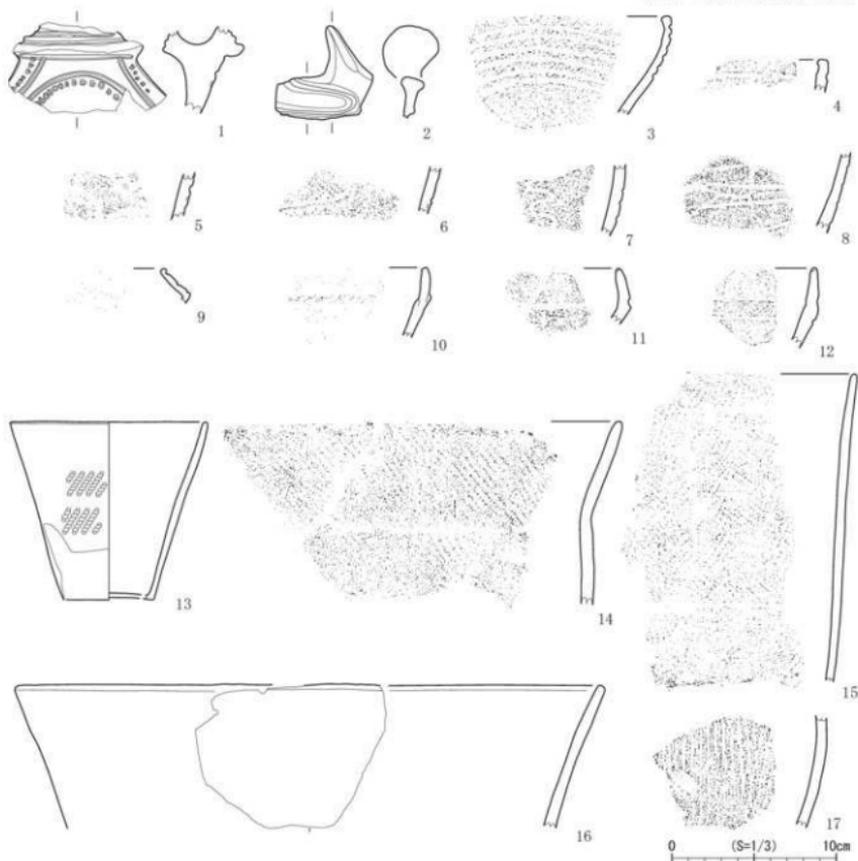
文様は沈線と列点刺突文で区画した内部に充填縄文を施すものや、口縁部の下部に縄文を施したのちに横位の沈線を施したのみみられる。第47図3・7などは、王ノ壇遺跡SI101竪穴遺構出土資料に類例が求められる(仙台市教育委員会2000b)。鉢・深鉢にはLR縄文やRL縄文が地文として認められ、第47図15のような羽状縄文もみられる。

注口土器は全体的に摩滅が著しいが、体上部に沈線により「S」字・「の」字状の文様が組み合うように描かれている。確認できる文様は3単位あるが、その配置に規則性は見出せない。

これらの文様は宮城県内では王ノ壇遺跡の他に、石巻市宝ヶ峯遺跡出土の資料に類例が求められる(齋藤報恩会編1991)。

石器は石畿のほか石匙、磨製石斧、石錘などが出土している。石器の特徴として、玉髄を多く用いている点が挙げられる。石畿は4点図化した、うち3点は玉髄製であり、また、石匙の未製品の可能性がある第49図5・6も同様である。さらに、写真掲載としたが玉髄の原石(写真23-9)も出土している。

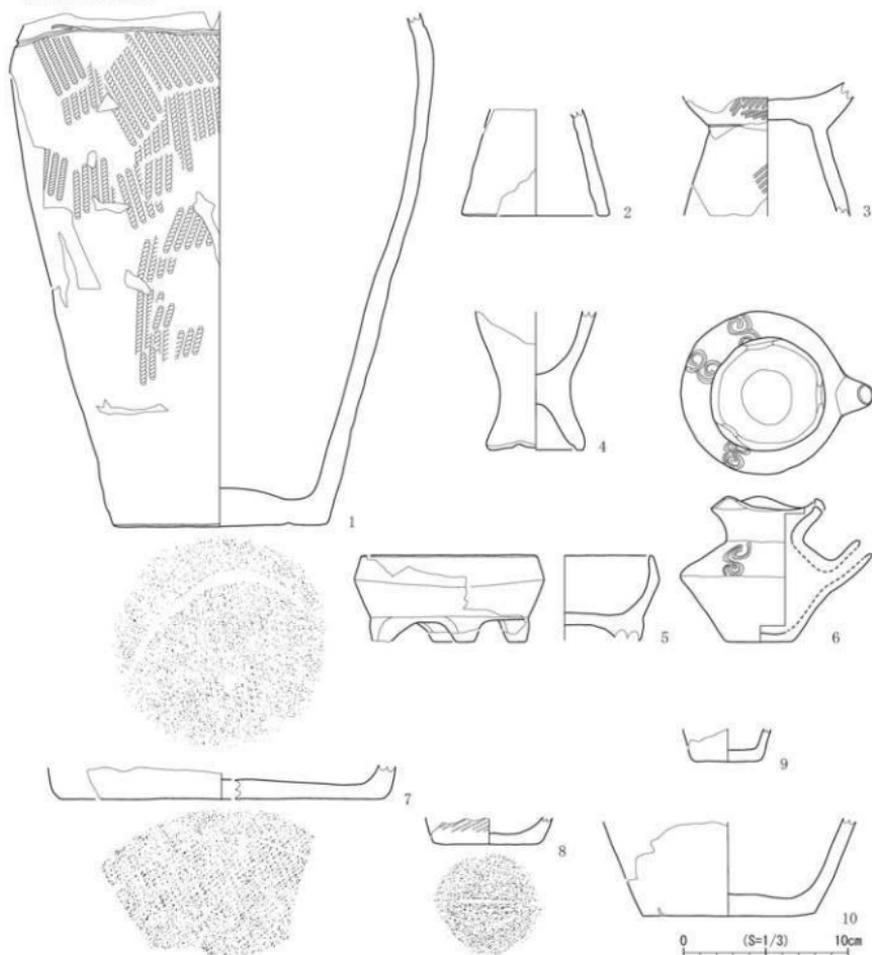
石錘は扁平な粘板岩の両面に、十字に溝を刻んだものである。刻み方と石材が異なるものの類例は大野田遺跡のSR501河川跡から出土している。



図面番号	発祥番号	出土遺構	層位	種別	部種	寸法 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	A-23	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	-	-	-	ミガキ	ミガキ	石高・長石・砂粒・南瀬骨針含む	21-2
2	A-25	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	-	-	(5.7)	摩滅	摩滅	石高・長石・黒雲母・砂粒含む	21-4
3	A-11	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	-	-	(6.0)	ミガキ	ミガキ	石高・長石・砂粒・南瀬骨針含む	21-5
4	A-28	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	-	-	2.0	ミガキ	ミガキ	石高含む	21-6
5	A-43	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	-	-	(2.9)	摩滅	ミガキ	石高・長石・砂粒含む	21-7
6	A-22	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	-	-	-	摩滅	ミガキ	石高・長石・砂粒含む	21-8
7	A-31	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	-	-	-	摩滅	ミガキ	石高・長石・黒雲母・砂粒含む	21-9
8	A-18	-	Ⅱa	縄文土器	鉢	-	-	-	ミガキ	ミガキ	石高・長石・砂粒・黒雲母・南瀬骨針含む	21-10
9	A-20	-	Ⅱa	縄文土器	鉢	-	-	(2.1)	ケズリ	ケズリ	石高・長石・黒雲母・南瀬骨針含む	21-11
10	A-19	-	Ⅱa	縄文土器	鉢	-	-	(4.2)	ミガキ	ミガキ	石高・長石・黒雲母・砂粒・南瀬骨針含む	21-12
11	A-21	-	Ⅱa	縄文土器	鉢	-	-	(3.4)	ミガキ	ミガキ	石高・長石・砂粒・南瀬骨針含む	21-13
12	A-30	-	Ⅱa	縄文土器	鉢	-	-	(5.1)	ケズリ	ケズリ	石高・長石・砂粒・南瀬骨針含む 口縁部ケズリ	21-14
13	A-23	-	Ⅱa	縄文土器	鉢	11.8	(5.4)	16.9	ミガキ (摩滅)	ミガキ (摩滅)	石高・長石・黒雲母・砂粒含む	21-15
14	A-32	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	130.4	-	(11.2)	ミガキ	ケズリ	石高・長石・砂粒含む	21-16
15	A-40	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	-	-	(18.8)	摩滅	摩滅	石高・長石・黒雲母・砂粒含む	21-17
16	A-26	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	33.2	-	-	ミガキ (黒文)	ミガキ	石高・長石・黒雲母・南瀬骨針含む	21-18
17	A-39	-	Ⅱa	縄文土器	TS84	-	-	-	ミガキ	ミガキ	石高・長石・黒雲母含む	21-19

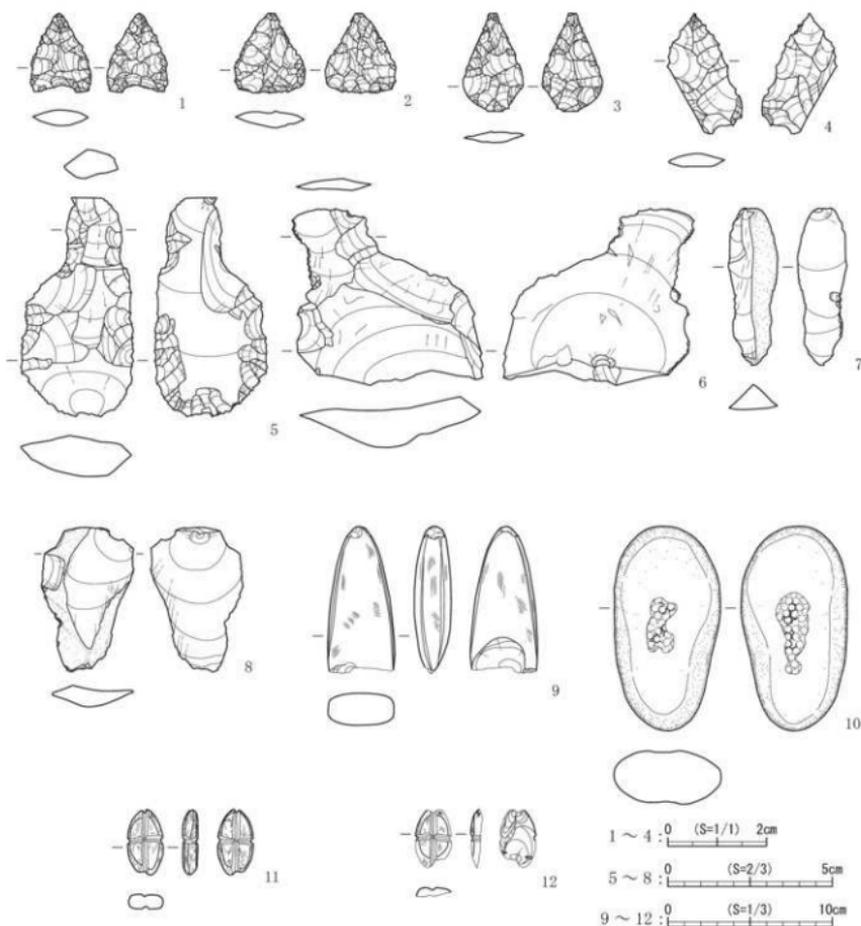
第 47 図 遺物包含層出土遺物 (1)

第3節 第5次調査



図録 番号	登録 番号	出土 過程	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	A-27	-	II a	縄文土器	深鉢	-	13.0	(31.5)	一部ミガキ(摩滅) 縄文 器・銅代装	ミガキ 体下: 垂状に二げ	石灰・長石・黒雲母・砂粒含む	22-1
2	A-34	-	II a	縄文土器	台付鉢	-	(8.0)	(6.5)	ミガキ	ケズリ-粗いミガキ 残付着	石灰・長石・金雲母・砂粒含む	22-2
3	A-24	-	II a	縄文土器	台付鉢	-	-	(8.1)	ミガキ(摩滅) 1本縄文	管・ヘラ状土器による ケズリ 体: 摩滅	石灰・長石・黒雲母・砂粒含む	22-3
4	A-37	-	II a	縄文土器	台付鉢	-	5.4	(8.5)	ナゲ・ミガキ	ミガキ	石灰・長石・砂粒含む	22-4
5	A-35	-	II a	縄文土器	脚付 浅鉢	(10.4)	(8.0)	(5.2)	一部ミガキ(摩滅)	一部ミガキ(摩滅)	石灰・長石・黒雲母・砂粒含む	22-5
6	A-42	-	II a	縄文土器	浅口 土器	6.9	3.9	8.9	ミガキ(摩滅) 足土物と平小に付着 5.7の「字状文様」は砂粒残存	ナゲ・ミガキ	口縁部突起3個付 石灰・黒石・砂粒含む	22-6
7	A-29	-	II a	縄文土器	浅鉢	-	(20.0)	(1.9)	摩滅 底: 銅代装	摩滅	石灰・長石・砂粒含む	22-7
8	A-36	-	II a	縄文土器	鉢	-	5.8	(1.6)	ミガキ 無磨ミ 縄文 器: ミガキ 本葉装	ヘラ状工具によるナゲ 状ケズリ	石灰・長石・砂粒含む	22-8
9	A-44	-	II a	縄文土器	スニ チムプ	-	4.2	(2.0)	ミガキ 底: 板付着	ケズリ	石灰・長石・黒雲母・砂粒・海綿 質粒含む	22-9
10	A-28	-	II a	縄文土器	深鉢	-	10.4	(5.8)	ナゲ ミガキ	ナゲ	石灰・長石砂粒含む	22-10

第48図 遺物包含層出土遺物(2)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	寸法 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	K-9	-	B-a	打製石器	矛頭	1.6	1.2	0.3	玉軸 重さ 0.5g	22-11
2	K-20	-	B-a	打製石器	矛頭	1.6	1.4	0.3	玉軸 重さ 0.7g	22-12
3	K-8	-	B-a	打製石器	矛頭	12.0	1.2	0.2	矢頭・瓦割片類 玉軸 重さ 0.4g	22-13
4	K-6	-	B-a	打製石器	石鏃	2.5	1.2	0.2	折込 未製品の可能性あり 玉軸 重さ 0.8g	22-14
5	K-10	-	B-a	打製石器	石鏃	6.7	3.4	1.2	石鏃 未製品の可能性あり 玉軸 重さ 36.9g	23-1
6	K-13	-	B-a	打製石器	刮削	5.4	3.6	1.1	石鏃 未製品の可能性あり 玉軸 重さ 31.5g	23-2
7	K-11	-	B-a	打製石器	刮削	4.8	1.5	0.25	柱状燧石片 重さ 4.1g	23-3
8	K-21	-	B-a	打製石器	不定形石器	4.4	2.8	0.6	柱状燧石片 重さ 6.8g	23-4
9	K-17	-	B-a	磨製石器	磨製石棒	0.0	1.0	2.0	定角式石棒 刀部折損 砂岩 重さ 123.0g	23-5
10	K-7	-	B-a	磨石	磨石	12.5	6.5	3.3	磨石表面に附 定山岩 重さ 320.0g	23-6
11	K-19	-	B-a	石製品	石鏃	4.0	2.1	0.9	粘板岩 重さ 11.0g	23-7
12	K-14	-	B-a	石製品	石鏃	13.5	3.2	0.5	上下両面からの両面剥離による折損 粘板岩 重さ 4.8g	23-8
-	K-16	-	B-a	原石	-	-	-	-	玉軸 重さ 1745.0g 写真掲載のみ	23-9

第49図 遺物包含層出土遺物 (3)



調査 番号	登録 番号	出土 遺構	層位	種別	詳細	寸法 (cm)			外面	内面	備考	写真 図録
						口径	底径	高さ				
1	A-45	-	検出前	縄文土器	ミニ チュア	2.2	1.3	1.7	ナデ (摩滅)	ナデ	石高・長石・砂粒含む	23-10
2	1a-1	-	検出前	土師質土器	小皿	19.0	13.4	-	ロクロナデ 切り廻しに同軸溝切り	ロクロナデ		23-11
-	1c-9	-	検出前	陶器	甕	-	-	-	ナデ	ナデ 自然釉	河原川 中世 原埋・重埋 写真掲載あり	23-12

第50図 遺構検出面出土遺物

(7) その他の出土遺物 (第50図)

その他の出土遺物としては、遺構検出面から縄文時代のミニチュア土器や土師質土器(カワラケ)、常滑産の陶器などが出土している。これらの遺物は本来遺物包含層や土坑、溝跡などの遺構に含まれていたものと考えられる。

5. まとめ

今回の調査区は第2次調査区の北東側に、第4次調査区の東側に位置する。鍛冶屋敷A遺跡ではこれまでの調査で縄文時代後期中葉の竪穴住居跡や土坑等から縄文土器などが多数出土している。また平安時代の竪穴住居跡も検出されており、羽口や鉄鏝、砥石など、鍛冶に関わる遺物も出土している。また詳細な時期は不明であるが、ピットなどで構成された掘立柱建物跡や、土師質土器(カワラケ)などが出土した土坑も存在することから、中世の遺構群も展開していたものと考えられている。

今回の調査区からは中世の溝跡や土坑等が検出された。SD1 溝跡は東西方向の溝跡で、堆積土中から瓦質土器の挿鉢や漆器などが出土した。瓦質土器の年代は15～16世紀頃と考えられる。またSK10 土坑からも中世の時期の陶器の捏鉢が出土した。それ以外の遺構は出土遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、新旧関係などから大部分は中世のものと考えられる。

また調査区の北東側を中心に広い範囲で遺物包含層が検出され、多数の縄文土器と石器類などが出土した。石器は石鏝や石匙の未成品などが出土しており、それらの石材には玉髄や珪質頁岩、珪化凝灰岩が利用されている。石鏝に限れば、玉髄が利用される傾向にある。縄文時代後期前葉～中葉の石材利用の状況は、本遺跡から東へ約1.5～2.0kmの距離にある大野田遺跡、王ノ壇遺跡でも玉髄や珪質頁岩、鉄石英を用いており、周辺域と同様の傾向が今回の調査でも確認されたことになる。

また遺物包含層を掘り込む形でSK12、13 土器埋設遺構も検出され、底部を打ち欠いて穿孔された粗製の土器が出土した。またSK11 土坑からも多数の縄文土器が出土した。

これらの遺構の時期はいずれも縄文時代後期中葉頃のものが中心で、これは第2次調査で出土したものとほぼ同時期であり、一連の遺構群を形成していた可能性がある。

引用・参考文献

斎藤報恩会編 1991 『宝ヶ峯』

仙台市教育委員会 1986 『東北電力鉄塔関係遺跡調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第91集

仙台市教育委員会 2000a 『鍛冶屋敷A 遺跡 鍛冶屋敷前遺跡』 仙台市文化財調査報告書第245集

仙台市教育委員会 2000b 『王ノ壇遺跡』 仙台市文化財調査報告書第249集

仙台市教育委員会 2014 『大野田遺跡』 仙台市文化財調査報告書第424集

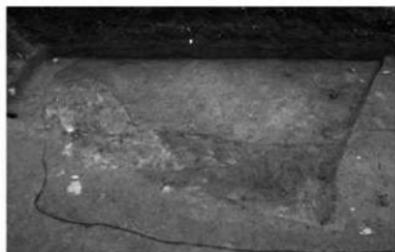
仙台市教育委員会 2018 『鍛冶屋敷A 遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか』 仙台市文化財調査報告書第466集



1. II層上面遺構検出状況（西から）



2. II層上面遺構完掘状況（西から）



1. SX1 性格不明遺構完掘状況（北から）



2. SD1 溝跡土層断面（東から）



3. SD1 溝跡・遺物包含層土層断面（南東から）



4. SD1 溝跡土層断面（西から）



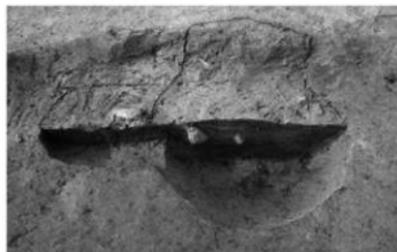
5. SK2 土坑土層断面（東から）



6. SK3 土坑完掘状況（南から）



7. SK4 土坑土層断面（南から）



8. SK5 土坑土層断面（南から）



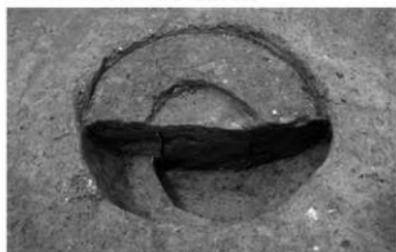
1. SK9 土坑土層断面 (西から)



2. SK10 土坑土層断面 (西から)



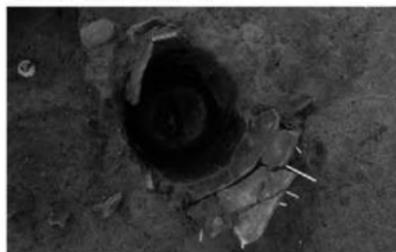
3. SK11 土坑層断面 (西から)



4. P43 土層断面 (南から)



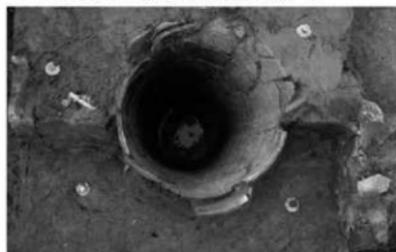
5. P42 土層断面 (南から)



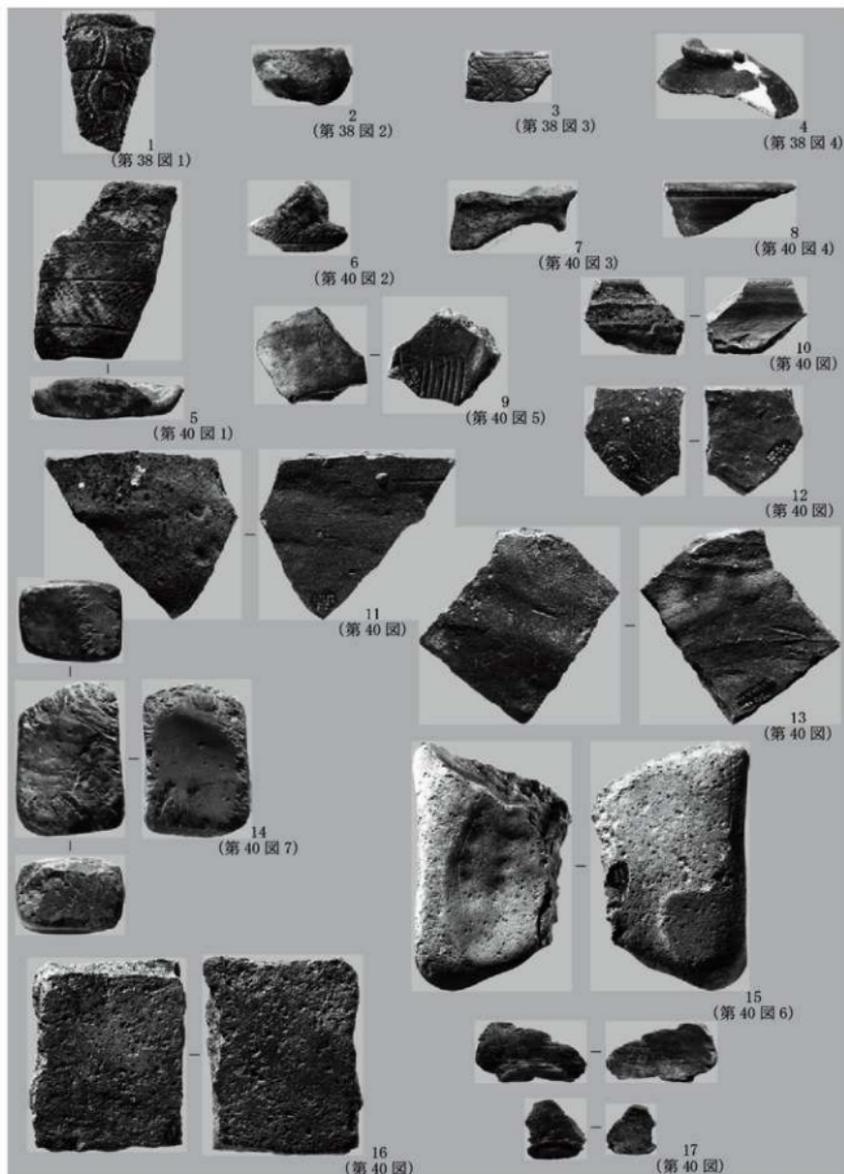
6. SK12 土器埋設遺構完掘状況 (北から)



7. SK13 土器埋設遺構断面 (南から)



8. SK13 土器埋設遺構完掘状況 (南から)



写真図版 19 鍛冶屋敷 A 遺跡第5次調査出土遺物 (1)



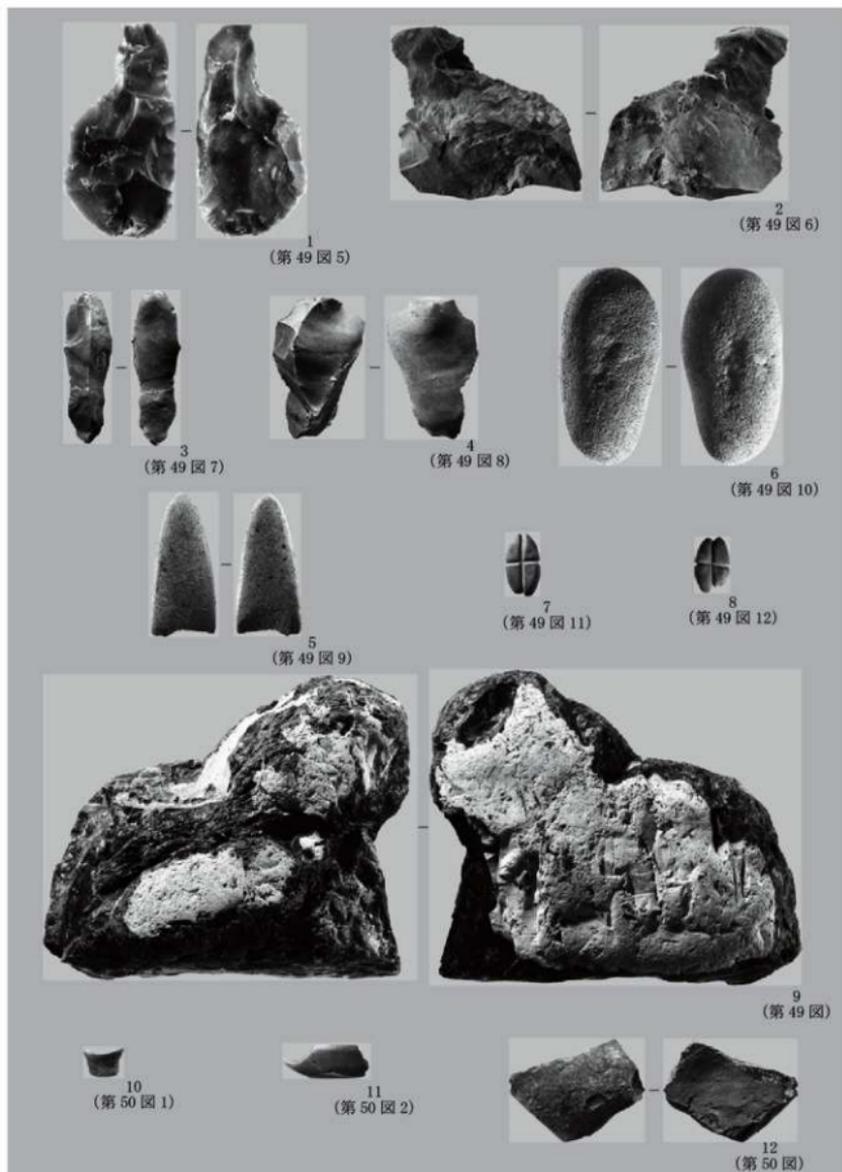
写真図版20 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査出土遺物(2)



写真図版 21 鍛冶屋敷 A 遺跡第 5 次調査出土物 (3)



写真図版 22 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査出土遺物(4)



写真図版 23 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査出土遺物(5)

第5章 郡山遺跡の調査

第1節 遺跡の概要

郡山遺跡は仙台市太白区郡山二〜六丁目に所在する。北を広瀬川、南を名取川に挟まれ、その両河川の合流点から北西約2kmに位置する。遺跡の範囲は東西約800m、南北約900mで、面積は約60haに及んでいる。その一部は、平成18年に「仙台郡山官衙遺跡群 郡山遺跡 郡山廃寺跡」として国史跡に指定されている。

郡山遺跡は、昭和54年(1979)に初めて発掘調査が行われ、昭和55年(1980)から継続的な調査が行われてきた。官衙は「Ⅰ期官衙」と「Ⅱ期官衙」の2つの時期がある。Ⅰ期官衙は7世紀中頃から後半にかけて機能し、陸奥国の拠点となる城柵跡と考えられる。そのⅠ期官衙を取り壊し、建物や堀などの施設の方向を真北基準に変えて設けられたのが、Ⅱ期官衙である。Ⅱ期官衙は7世紀末から8世紀初頭にかけて機能し、多賀城以前の陸奥国府と考えられている。

郡山遺跡の周辺には、西側に長町駅東遺跡と西台畑遺跡が位置しており、6世紀末葉から8世紀初頭の堅穴住居跡が600軒以上発見されている。また、南西約1.5kmには方形に区画された溝の内側に、大型掘立柱建物跡が規則性をもって配置されている大野田官衙遺跡があり、建物の規模や出土遺物などから、郡山Ⅱ期官衙との関係性が考えられている。

第2節 第273次調査

1. 調査要項

遺跡名	郡山遺跡(宮城県遺跡登録番号01003)
調査地点	仙台市太白区郡山三丁目1番、2番1
調査期間	平成29年11月27日～12月12日
調査対象面積	143.79㎡(敷地面積:920.41㎡)
調査面積	約107.25㎡
調査原因	道路整備工事および埋設管設置工事を伴う宅地造成工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課 調査調整係・整備活用係
担当職員	調査調整係 主事 三浦一樹 文化財教諭 大友 渉 整備活用係 文化財教諭 三浦昂也



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	郡山遺跡	官衙跡、寺院跡	自然埋没	縄文、弥生、古墳、古代
2	西台畑遺跡	集落跡、農垣基	自然埋没	縄文、弥生、古墳、古代
3	長町駅東遺跡	集落跡	自然埋没	弥生、古墳、古代
4	北目畑跡	稲作跡、集落跡、水田跡	自然埋没	縄文、弥生、古墳、古代、近世
5	久米遺跡	散布地	自然埋没	古墳、古代

第51図 郡山遺跡と周辺の遺跡

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成29年11月10日付で申請者より提出された「埋蔵文化財の取扱いについて(協議)」(平成29年11月13日付H29教生文第103-056号で回答)に基づき、平成29年11月27日～12月12日に実施した。

調査区は対象地内に南北約4.0m×東西約34.0mで設定した。重機を用いて盛土および基本層Ⅰ～Ⅱ層を除去し、Ⅲ層上面で遺構検出作業をおこなった。その結果、溝跡5条およびピット7基を検出した。



第 52 図 郡山遺跡調査地点位置図

調査では適宜、平面図 (S=1/40) および断面図 (S=1/20) を作成した。写真記録はデジタルカメラにより撮影した。遺構精査および記録保存終了後、現場を申請者側に引き渡し、調査を終了した。

3. 基本層序

今回の調査では、盛土 (層厚 0.4 ~ 0.6m) の下に基本層を 4 層確認した。I・II 層は盛土以前の耕作土と考えられる。今回遺構検出作業をおこなったのは III 層上面である。

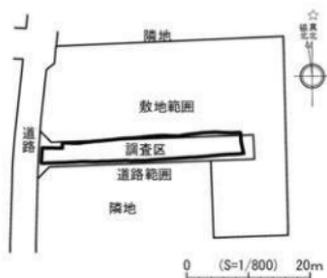
I a 層：10YR7/2 にぶい黄橙色シルト。酸化鉄を多く含む。

I b 層：7.5YR2/2 黒褐色シルト。酸化鉄をブロック状に含む。10YR3/4 暗褐色シルトをやや多く含む。



第53図 第273次調査区位置図

- II a 層：10YR8/4 浅黄褐色砂質シルト。
 II b 層：10YR5/4 にぶい黄褐色シルト。7.5YR3/1 黒褐色シルトを斑状に含む。東側はグライ化している
 II c 層：10YR4/4 褐色シルト。10YR6/8 明黄褐色シルトを下部に含む。調査区東側で確認される。
 III 層：10YR7/6 明黄褐色シルト。10YR3/3 暗褐色シルトをブロック状に含む。
 IV 層：10YR7/6 明黄褐色シルト。III層よりも粘性が強い。



第54図 第273次調査区配置図

4. 発見遺構と出土遺物

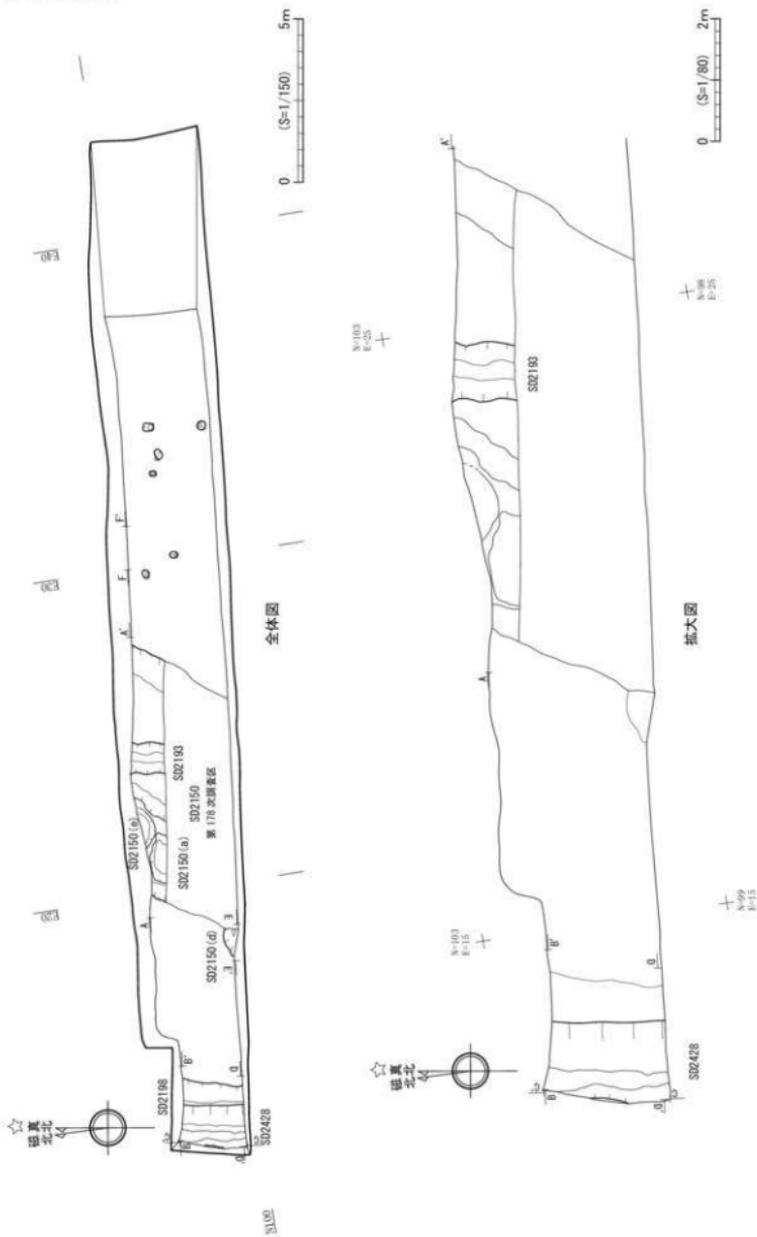
今回の調査では、調査区中央において第178次調査1区で確認されたSD2119 およびSD2150、SD2193 溝跡を検出した。そのうちSD2119 溝跡は断面において確認したのみである。また、SD2150 溝跡よりも新しいとされる「土坑状の窪み」（仙台市教委 2007、p. 28）であるSD2150-a・dと、新たにeも検出した。

さらに、調査区西側においてはSD2198 溝跡を検出し、ほぼ同位置でそれよりも新しいSD2428 溝跡も検出した。また、ピットを7基検出した。

(1) 溝跡

SD2119 溝跡（第56図）

位置やその形状から、第178次調査1区で確認されたSD2119 溝跡の延長と推定される。今回の調査では北壁断面でのみ確認した。検出長は上端幅0.7m、深さ0.3m程度である。断面形は浅い「U」字形を呈する。堆積土は単層である。検出面はII b 層上面であることから、上層の耕作に伴って形成された可能性がある。SD2150 溝跡を切る。



第55図 第273次調査区平面図(1)

溝跡・ピット堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
SD2119	1	10YR6/1 浅黄褐色	シルト	2.5Y7/2 灰黄色シルトを塊状にわずかに含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色シルトをブロック状に非常に多く含む。
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	酸化鉄を粒状に多く含む。
	3	10YR3/1 に近い黄褐色	シルト	酸化鉄を非常に多く含む。部分的に3.5Y6/8 黄褐色砂がわずかに混じる。
	4	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	酸化鉄を多く含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	7.5YR5/6 明褐色シルトを下部に多く含む。
	6	7.5YR4/1 暗灰色	シルト	10YR6/6 明黄褐色シルトを下部に多く含む。
	7	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	酸化鉄を多く含む。10YR4/4 暗褐色シルトをわずかに含む。
	8	10YR5/1 に近い黄褐色	シルト	酸化鉄を非常に多く含む。2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト粒をわずかに含む。
	9	10YR5/2 灰黄褐色	砂	酸化鉄を下部に多く含む。東側はグライ化している。
	10	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を非常に多く含む。
	11	10YR4/1 暗灰色	シルト	酸化鉄を含む。10YR5/1 暗灰色シルトをごくわずかに含む。
	12	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄を塊状に多く含む。7.5YR4/1 暗灰色シルトを含む。
	13	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄を塊状にやや多く含む。10YR2/6 明黄褐色シルトをブロック状に含む。
SD2150	14	10YR5/1 に近い黄褐色	シルト	酸化鉄を塊状に少量含む。
	15	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	グライ化している。
	16	10YR5/1 暗灰色	砂質シルト	東側はグライ化している。酸化鉄を塊状に非常に多く含む。10YR2/2 黒褐色砂質シルトを層状に含む。
	17	10YR6/1 暗灰色	砂	酸化鉄をブロック状に非常に多く含む。
	18	2.5Y4/1 黄灰色	粘質シルト	酸化鉄を含む。
	19	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を塊状に多く含む。東側はグライ化している。10YR2/2 黒褐色砂質シルトを下部に層状に含む。
	20	10YR4/6 褐色	シルト	10YR4/2 灰黄褐色シルトをごくわずかに含む。
	21	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	10YR4/2 灰黄褐色シルトをわずかに含む。
	22	10YR4/4 褐色	シルト	東側はグライ化している。酸化鉄をわずかに含む。
	23	10YR6/6 明黄褐色	砂	酸化鉄を層状に多く含む。10YR5/2 灰黄褐色シルトを層状に多く含む 西側に10YR3/3 暗褐色シルトをブロック状に含む。
	24	10YR5/2 灰黄褐色	粘質シルト	酸化鉄を塊状に多く含む。
	25	10YR2/2 黒褐色	粘土	酸化鉄を塊状に含む。10YR7/6 明黄褐色シルトを塊状に含む。
	26	10YR4/6 褐色	シルト	酸化鉄を多く含む。10YR6/6 明黄褐色シルトを含む。
	SD2193	1	10YR4/4 褐色	シルト
2		10YR4/2 灰褐色	シルト	酸化鉄を非常に多く含む。
SD2198	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄を塊状に多く含む。10YR5/6 黄褐色砂質シルトをブロック状に含む。
	2	7.5YR4/1 暗灰色	シルト	酸化鉄を非常に多く含む。10YR5/6 黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	酸化鉄を塊状に多く含む。10YR5/6 黄褐色砂質シルトを西側に多く含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	酸化鉄を多く含む。10YR5/6 黄褐色砂質シルトを少量含む。
	5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を含む。
SD2428	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	酸化鉄を少量含む。10YR7/8 黄褐色シルトを塊状に多量に含む。	
	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR7/8 黄褐色シルトを少量含む。酸化鉄を塊状に少量含む。	
	10YR4/4 褐色	シルト	7.5YR4/2 灰褐色シルトをブロック状に多く含む。	
	10YR3/1 黒褐色	シルト	酸化鉄を5層より多く含む。7.5YR4/3 褐色シルトを塊状に多く含む。	
	5YR4/4 褐色	シルト	7.5YR4/2 灰褐色シルトをブロック状に3層より多く含む。黄褐色シルトを少量含む。	
	10YR4/1 暗灰色	シルト	10YR3/3 暗褐色シルトを含む。黄褐色シルトを5層より多く含む。	
	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	酸化鉄を多く含む。	
	10YR4/1 暗灰色	シルト	10YR4/6 褐色シルトを多く含む。	
	10YR3/1 黒褐色	シルト	10YR4/6 褐色シルトをブロック状に含む。10YR4/6 褐色砂をブロック状に含む。	
9	10YR4/4 褐色	シルト	酸化鉄をごくわずかに含む。	

SD2150 溝跡 (第56・57図)

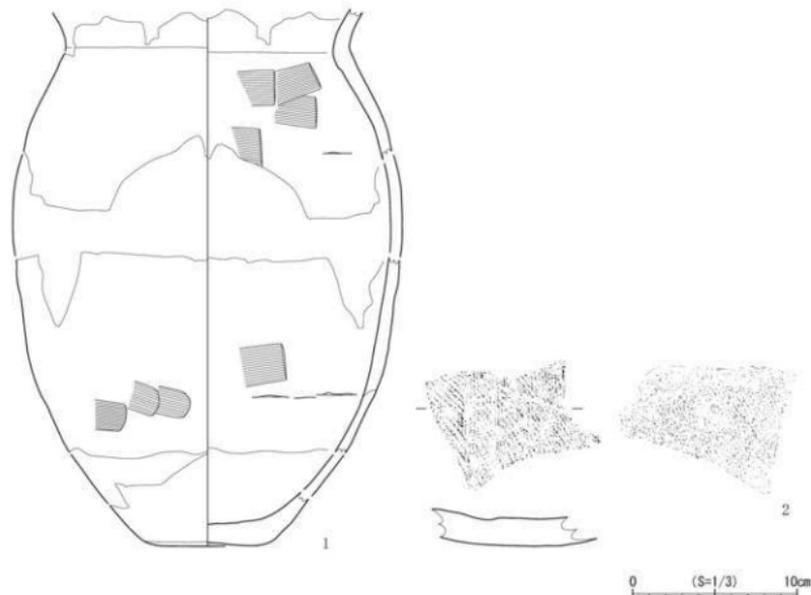
第178次調査の1区からの延長部分を検出した。北東から南西方向に延びる大規模な溝跡である。検出長は約0.6～1.1m、上端幅は約7.4～7.5mと推測される。深さは西側で約0.4～0.6m、東側で約1.0～1.1mと推測される。

過年度調査と同様、西壁下で幅約1.9mの平坦面を検出し、その東側で一段深く落ち込む様子を確認した。西側の平坦面では過年度調査で確認された「土坑状の窪み」であるa・d、新たにeを今回の調査で確認しており、本溝跡北側においても同様の窪みを確認できた。この窪みについて過年度報告では「溝が機能していたある時期、溝の半分は堆積途中で掘られたものと推定」(p.31)されている。「土坑状の窪み」a・dに関しては過年度調査報告にその詳細を譲る。今回検出されたeの深さは約5～8cmである。堆積土は北壁断面図の12層に対応し、溝の堆積土へ連続する様子が看取された。よって、この部分は溝が機能していた時期に掘り込まれたと考えられるが、その性格は不明である。

堆積土は26層確認した。当初、東西2つの溝跡が切り合っている可能性を考慮し調査を進めたものの、明確にすることはできなかった。1層を除き全て自然堆積層である。1層は過年度調査でも確認されている人為的な埋戻し層である。明黄褐色シルトブロックを非常に多く含む。東側の下層では砂質シルトと砂の五層が確認でき、水平に堆積していることから水成堆積層と考えられる。

遺物は2・10・18層から比較的多くの土師器片が出土している。特に18層からは土師器甕が出土した(第57図1)。

本溝跡はSD2119・2193溝跡に切られる。



調査番号	発見番号	出土遺構	層位	種別	部種	流量 (cm)		外面	内面	備考	写真図版	
						口径	底径					
1	G-1	SD2150	18	土師器	甕	-	6.6	-	体下部：ヘラナゲ	ヘラナゲ	石室・砂積土むき 口・体：1/3倍	26-2-1

調査番号	発見番号	出土遺構	層位	種別	部種	流量 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
2	G-1	基本層	第	瓦	平瓦	-	-	2.3	凸面：隅田き目・縦横方位のナゲ 凹面：糸切り板・和目板・焼青板	26-2-2

第57図 SD2150 溝跡・基本層出土遺物

SD2193 溝跡 (第55・56図)

位置やその形状から、第178次調査1区で確認されたSD2193溝跡の延長と推定される。検出長は長さ1.0m、上端幅0.9～1.0m、下端幅0.1～0.15m、深さ0.3m程度である。やや蛇行しながら南北方向へ延びる。堆積土は2層ある。SD2150溝跡を切る。遺物は出土していない。

SD2198 溝跡 (第56図)

調査区西側で検出された、北北東から南南西方向に延びる溝跡である。第178次調査2区で東肩部および下端が検出されたSD2198溝跡の延長部分に相当すると考えられる。過年度調査では1条の溝跡とされていたが、今回の調査ではSD2198を切るSD2428溝跡の存在が明らかになった。

SD2198溝跡の検出長は約2.0m、上端幅はSD2428溝跡に切られるため不明である。下端幅は約0.6～0.7m、深さは約0.7～0.8mである。堆積土は5層に分層した。下層の4・5層は砂質シルトを主体としていることから水路として機能していた可能性がある。

遺物は、土師器片2点と須恵器片1点が出土したが時期は不明である。

SD2428 溝跡 (第55・56図)

SD2198 溝跡を切る溝跡で、北北西から南南東方向に延びる可能性がある。当初、本溝跡を平面ではSD2198 溝跡と同一のものと考えていたが、SD2198 溝跡を切る状況が北・南壁断面で確認された。

検出長は長さ約2.0m、上端幅は約1.1～1.2m、下端幅約0.2～0.3m、深さは約0.4～0.6mとSD2198 溝跡より浅い。堆積土は9層確認した。最下層である9層には砂が混入することから、水路として機能していた可能性がある。遺物は土師器片が1点出土したが時期は不明である。

(2) ピット (第56図)

P1はSD2119 溝跡の西隣に位置しており、北壁断面で確認された。規模は上端幅約14cm、深さ約24cmである。堆積土は単層である。SD2150 溝跡を切る。遺物は出土していない。

調査区東側でも数基のピットが確認された。いずれも柱痕跡は確認されず、遺物も出土していない。直径10～16cm程度で深さは20～40cm程度である。堆積土は7.5R3/4～4/4 暗褐色から褐色シルトを主体とする。いずれもⅢ層由来の明黄褐色シルトブロックを含む。

その他出土遺物 (第57図)

遺構検出時に基本層Ⅲ層より、平瓦の破片が1点出土している(第57図2)。

5. まとめ

今回の調査地点は郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙の中央東寄りに位置し、第152次および第171次調査の南側、第178次調査1区の一部に該当する。第178次調査で検出された北東-南西方向にのびる大溝の存在が想定されていた。

当初の想定通り、第152・178次調査で確認されていた4条の溝跡が今回の調査でも確認され、新たに、SD2198 溝跡を切るSD2428 溝跡を確認した。遺物はSD2150とSD2198、SD2428 溝跡から土師器片などが出土した。特にSD2150 溝跡第18層からは、甕の口縁部～底部破片が出土した。過年度調査報告でも指摘されているが、SD2150 溝跡はその方向から、Ⅰ期官衙に伴う遺構と考えられる。甕のみでの時期比定は難しいが、その器形や調整を考慮すれば、おおよそ7世紀後半に収まるものと考えられる。

SD2198 溝跡は第178次調査においてSD2150 溝跡を切ることやその方向から、Ⅱ期官衙に関係する溝跡もしくは、それより新しい遺構の可能性がある。SD2428 溝跡も同様の可能性があるが、今回の調査では明らかにすることはできなかった。

引用・参考文献

- 仙台市教育委員会 2004 『宮城県仙台市郡山遺跡24』 仙台市文化財調査報告書第269集
仙台市教育委員会 2006 『宮城県仙台市郡山遺跡26』 仙台市文化財調査報告書第296集
仙台市教育委員会 2007 『宮城県仙台市郡山遺跡27』 仙台市文化財調査報告書第307集



1. SD2198・SD2428 溝跡検出状況（南から）



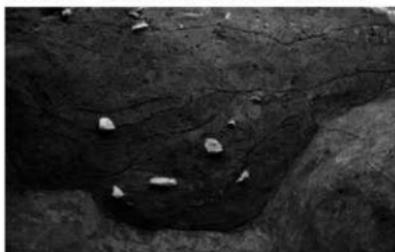
2. SD2150 溝跡検出状況（南東から）



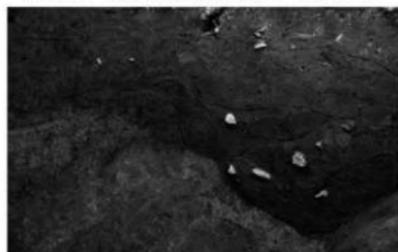
3. SD2198・SD2428 溝跡完掘状況 1（南東から）



4. SD2198・SD2428 溝跡完掘状況 2（南西から）



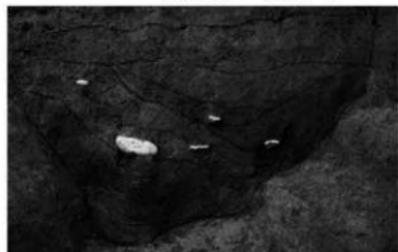
5. SD2198・SD2428 溝跡断面 1（南から）



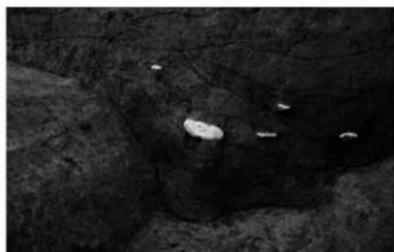
6. SD2198・SD2428 溝跡断面 2（南東から）



7. SD2198・SD2428 溝跡断面 3（東から）



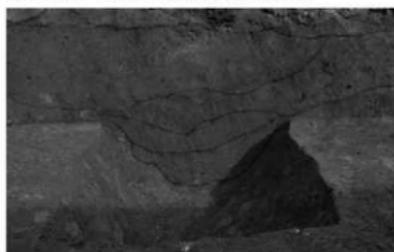
8. SD2198・SD2428 溝跡断面 4（北から）



1. SD2198・SD2428 溝跡断面5 (北から)



2. SD2193 溝跡完掘状況 (南から)



3. SD2193 溝跡断面 (南から)



4. SD2150 溝跡完掘状況 (南西から)



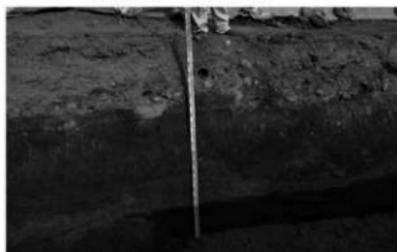
5. SD2150 溝跡断面1 (南西から)



6. SD2150 溝跡断面2 (南西から)



7. SD2150 溝跡断面3 (南西から)



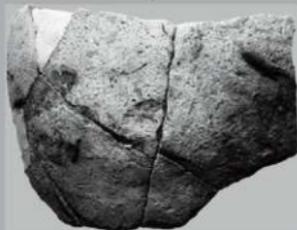
8. SD2150 溝跡スタッフ入り (南西から)



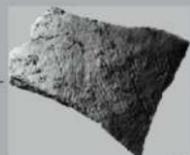
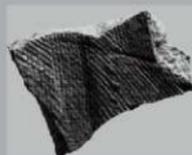
1. 調査区北東壁（南西から）



2. 調査区全景（北東から）



1
(第57図1)



2
(第57図2)

3. SD2150 溝跡出土遺物・基本層出土遺物

第3節 第275次調査

1. 調査要項

遺 跡 名	郡山遺跡（宮城県遺跡登録番号01003）
調 査 地 点	仙台市太白区郡山三丁目13番20号
調 査 期 間	平成29年12月14日～平成30年2月6日
調査対象面積	705.88㎡（敷地面積：1229.98㎡）
調 査 面 積	約295.64㎡
調 査 原 因	保育所の新築工事
調 査 主 体	仙台市教育委員会
調 査 担 当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担 当 職 員	主事 三浦一樹 文化財教諭 大友 渉

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成29年10月31日付で申請者より提出された「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」（平成29年11月8日付H29教生文第103-053号で回答）に基づき、平成29年12月14日～平成30年2月6日に実施した。本調査では、排土置き場などを考慮し、調査区を南北に二分し調査を進めた。

まず、対象地南側の南北約8.9m×東西約25.4mの範囲を、重機を用いて盛土および基本層Ⅰ～Ⅱ層を除去し、基本層Ⅲ層上面で遺構確認作業をおこなった。その結果、河川跡を検出した。河川堆積層上面においても遺構確認作業をおこなったところ、土坑4基およびピット6基を検出した。遺構精査と併行して、河川跡に直交するかたちでトレンチを設け河川跡の調査をおこなった。精査終了後、平面図（S=1/40）および断面図（S=1/20）を適宜作成した。写真記録はデジタルカメラにより撮影した。南側調査区は1月22日に重機を用いて埋戻しをおこない、南側の調査を終了した。



第58図 第275次調査区位置図

続いて、調査区北側の南北約7.1m×東西約9.8mの範囲を南側調査区と同様、重機により掘削をおこなった。そして河川堆積層上面で遺構検出作業をおこなったものの、遺構は確認されなかった。よって南側調査区から連続する方向で河川跡に直交するトレンチを設け精査をおこなった。精査終了後、平面図(S=1/40)および断面図(S=1/20)を適宜作成した。写真記録はデジタルカメラにより撮影した。北側調査区は2月6日に重機を用いて埋戻しをおこない、北側の調査を終了した。



第59図 第275次調査区配置図

3. 基本層序

今回の調査では、盛土(層厚0.4～1.0m)の下に基本層を8層確認した。I層は盛土以前の耕作土と推測される。今回遺構検出作業をおこなったのは、III層上面および河川堆積層1・4・8・9・16層上面である。

- I層：10YR5/6 黄褐色シルト。10YR5/2 灰黄褐色シルトを含む。
- II層：10YR6/6 明黄褐色シルト。2.5Y8/3 淡黄色シルトブロックを多く含む。
- III層：10YR7/4 にぶい黄褐色シルト。2.5Y8/3 淡黄色シルトブロックを多く含む。
- IV層：10YR7/6 明黄褐色砂質シルト。2.5Y8/3 淡黄色シルトブロックをII、III層よりも多く含む。
- V層：10YR7/4 にぶい黄褐色粘土。2.5Y8/2 灰白色粘土ブロックを多く含む。マンガン粒を微量に含む。
- VI層：10YR3/4 暗褐色粘土。2.5Y8/2 灰白色粘土ブロックを多く含む。マンガン粒を微量に含む。2.5Y7/4 淡黄色砂を微量に含む。
- VII層：10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト。2.5Y8/2 灰白色シルトブロックを多く含む。
- VIII層：10YR5/2 灰黄褐色粘土。酸化鉄を斑状に含む。マンガン粒を少量含む。

4. 発見遺構と出土遺物

南側調査区では河川跡と土坑4基、ピット6基を検出した。同様に北側調査区でも河川跡を確認した。

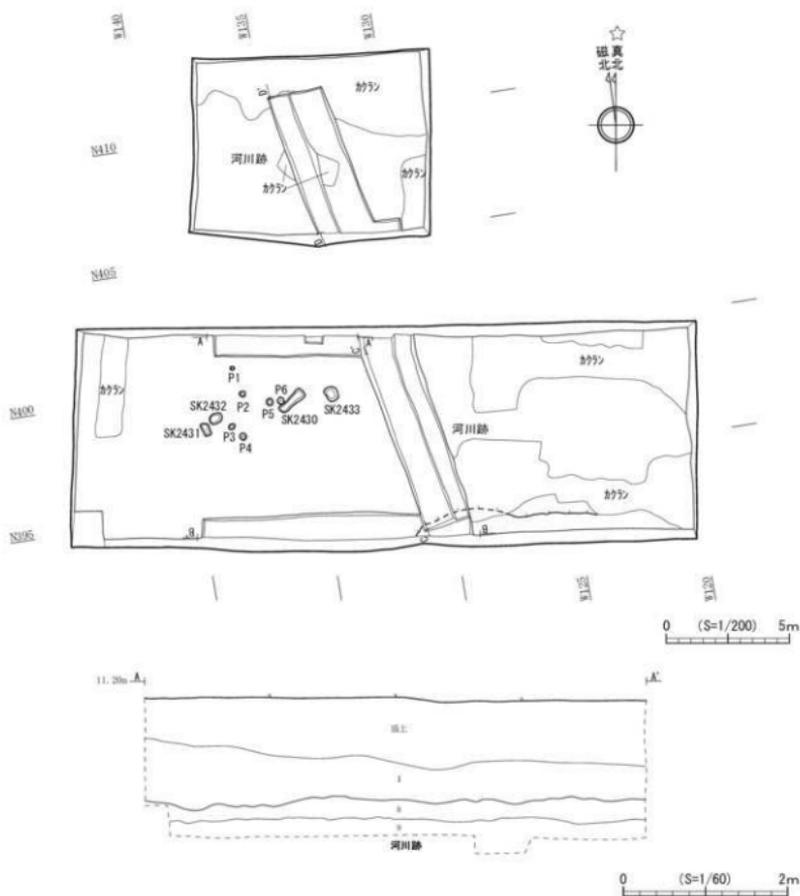
(1) 河川跡

河川跡 (第60・61図)

北側調査区で確認した大規模な河川跡である。南側調査区で河川跡の南岸の立ちあがりを確認した。東西方向に伸びていくと推測されるが、南側へ蛇行している様子も確認された。長さは26.0m以上、幅18.0m以上、深さ1.5m以上ある。

河川跡堆積土は21層確認した。南側調査区の南壁・中央トレンチでは主に砂と粘土、粘土質シルトが、北側調査区では主に粗砂と細砂が水平堆積している様相が確認された。

遺物は南側調査区の第13層より多量の土師器小破片などが出土した。北側調査区では遺物は出土していない。

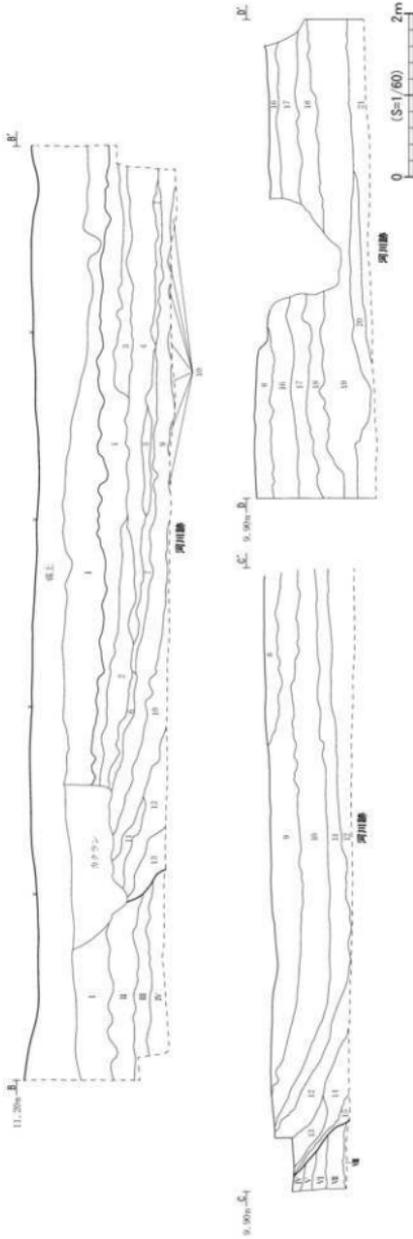


第60図 第275次調査区平面図・断面図(1)

(2) 土坑

SK2430～2433土坑(第60図)

河川堆積層4・8層上面で検出された土坑である。SK2430土坑の長軸は約1.2m、短軸は0.3～0.4mであり、深さは30cm程度である。平面形は長方形を呈する。SK2431～2433土坑の長軸は0.5～0.6m、短軸は0.3～0.5m、深さは25～30cm程度である。平面形は、SK2431・2433土坑はやや隅丸の長方形、SK2432土坑は楕円形である。いずれの土坑からも遺物は出土していない。



層位	土質	土質	備考
1	10187.6 明褐色シルト	10186.1 褐色シルトを帯びに含む。	砂質シルト
2	10187.1 に近い、黄褐色	10186.1 褐色シルトを帯びに含む。	シルト
3	10186.1 に近い、黄褐色	10186.1 褐色シルトを帯びに含む。	シルト
4	10187.1 に近い、黄褐色	10186.1 褐色シルトを少量含む。	砂
5	10185.6 黄褐色		砂
6	10185.1 に近い、黄褐色		砂
7	10185.1 に近い、黄褐色		砂
8	10185.1 に近い、黄褐色		砂
9	10185.1 に近い、黄褐色		砂
10	10185.6 黄褐色		粘土質シルト
11	10185.1 に近い、黄褐色		粘土
12	10185.6 黄褐色		粘土質シルト
13	10184.2 灰褐色		砂質シルト
14	10187.6 明褐色		粘土
15	10185.1 に近い、黄褐色		砂
16	10185.6 黄褐色		シルト
17	10180.2 灰白色		粘土質シルト
18	10185.6 黄褐色		粘土
19	10185.6 黄褐色		砂
20	2. 208.2 灰白色		細砂
21	10186.5 黄褐色		細砂

第 61 図 第 275 次調査区断面図 (2)

(3) ビット

河川堆積層4・8層上面で検出されたビットである。直径約20～30cmで、深さ10～30cm程度である。堆積土は、にぶい黄褐色シルト～砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

5. まとめ

今回の調査地点は郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙の北西部、大溝と外溝の中間に位置し、第14次調査区の一部および、第167次調査の東側、第190次調査の南から南西側に該当する。第167・190次調査では東西方向に延びる大規模な河川跡が検出されており、今回の調査でもその存在が想定されていた。

当初の想定通り河川跡を検出し、南岸の立ち上がりを確認することができた。この河川跡は東西方向へ延びていくと考えられるが、今回の調査では南側へ蛇行している様子が確認された。遺物は小破片が多いため図化できなかったが、第13層から土師器などが出土した。河川堆積層上面では土坑4基およびビット6基を確認したが柱痕跡は確認されず、また、遺物も出土していないため時期・性格ともに不明である。

参考文献

- 仙台市教育委員会 1982 『宮城県仙台市郡山遺跡Ⅱ』 仙台市文化財調査報告書第38集
仙台市教育委員会 2011 『郡山遺跡第190次調査』 仙台市文化財調査報告書第389集
仙台市教育委員会 2013 『郡山遺跡第167・180・196次調査』 仙台市文化財調査報告書第412集



1. 北側調査区完掘状況 1 (東から)



2. 北側調査区完掘状況 2 (北から)



3. 河川跡断面 1 (東から)



4. 河川跡断面 2 (東から)



5. 河川跡断面 3 (北東から)

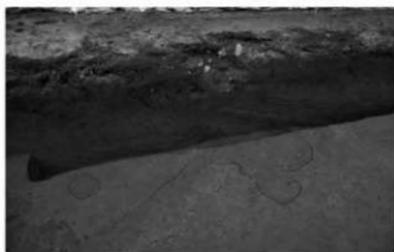
写真図版 27 郡山遺跡第 275 次調査 (1)



1. 南側調査区遺構検出状況（南西から）



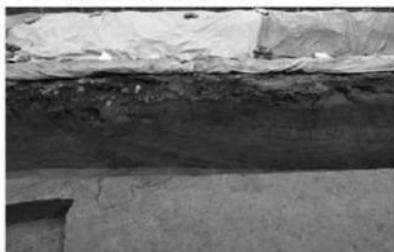
2. 河川跡南岸検出状況（北東から）



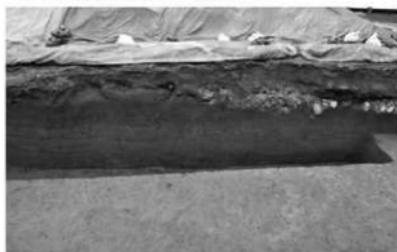
1. 河川跡南岸近景（北東から）



2. 河川跡南壁断面1（北東から）



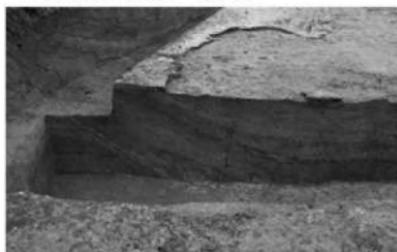
3. 河川跡南壁断面2（北から）



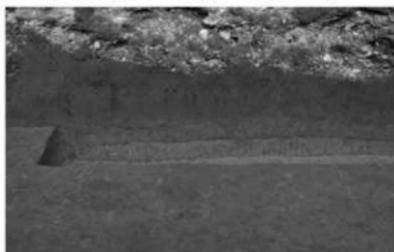
4. 河川跡南壁断面3（北から）



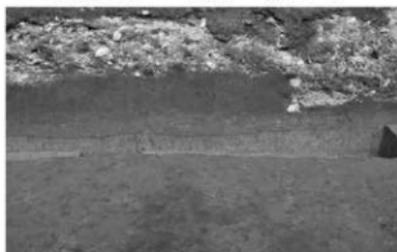
5. 河川跡中央トレンチ断面1（南西から）



6. 河川跡中央トレンチ断面2（南西から）



7. 河川跡北壁断面1（南から）



8. 河川跡北壁断面2（南から）

第4節 第276次調査

1. 調査要項

遺 跡 名	郡山遺跡（宮城県遺跡登録番号 01003）		
調 査 地 点	仙台市太白区郡山6丁目13番20		
調 査 期 間	確認調査：平成30年2月2日 本発掘調査：平成30年4月9日～5月31日		
調査対象面積	636.88㎡		
調 査 面 積	約350.0㎡		
調 査 原 因	事務所兼倉庫建築工事		
調 査 主 体	仙台市教育委員会		
調 査 担 当	仙台市教育局生涯学習部文化財課 調査調整係・整備活用係		
担 当 職 員	調査調整係 主任 及川謙作	主事 柳澤 楓	文化財教諭 大友 渉
	整備活用係 主事 五十嵐 愛	文化財教諭 三浦昂也	

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は申請者より平成30年1月9日付で提出された「埋蔵文化財の取り扱いについて（協議）」（平成30年1月15日付H29教生文第103-071号で回答）に基づき実施した。対象地は郡山遺跡の南西端にあたり、平成8年に調査が行われた第112次調査区の南側、平成12年に調査が行われた第136次調査区の西側にあたる。

確認調査は平成30年2月2日に着手し、建築予定地内にトレンチを2ヶ所（東西2.7～3.0m、南北3.0～10.0m）設定した。その結果、遺構が確認されたため、当日に埋戻しを行い、改めて申請者と協議することとした。

協議の結果、本発掘調査を実施することとなり、平成30年4月9日に調査に着手した。調査区は建築予定範囲



第62図 第276次調査区位置図

のうち既存建物部分を除いた範囲を対象として設定し、郡山道路の座標から、トータルステーションを用いて基準点の移設を行った。

重機により盛土およびⅠ・Ⅱ層を掘り下げ、Ⅲ層上面で遺構検出作業を行った。調査の記録は、調査区平面図・断面図(S=1/20)、遺構断面図(S=1/20)を作成し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。5月31日に調査を終了した。



第63図 第276次調査区配置図

3. 基本層序

盛土(厚さ0.5～0.9m)下に基本層を大別6層、細別7層確認した。遺構検出面はⅢ層上面である。

Ⅰa層: 10YR3/3 暗褐色シルト。酸化鉄(φ2mm)を斑状に、炭化粒(φ5mm)を少量含む。旧耕作土である。調査区で部分的に確認した。

Ⅰb層: 10YR4/4 褐色シルト。炭化粒(φ5mm)を少量含む。旧耕作土である。調査区ほぼ全域で確認された。

Ⅱ層: 10YR3/4 暗褐色シルト。炭化粒(φ5mm)を少量含む。旧耕作土である。調査区全域で確認された。

Ⅲ層: 10YR4/4 オリーブ褐色粘土質シルト。白色砂を斑状に含む。

Ⅳ層: 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト。酸化鉄(φ2mm)を斑状に多量に、炭化粒(φ5mm)を少量含む。

Ⅴ層: 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト。

Ⅵ層: 10YR3/1 黒褐色砂。円礫(φ2～5cm)を部分的に多量に含む。酸化鉄粒(φ2mm)が上層との境に集積する。

4. 発見遺構と出土遺物

基本層Ⅲ層上面で、材木列跡1条、竪穴住居跡8軒、溝跡10条、土坑3基、性格不明遺構5基、ビット約300基を確認した。また、各遺構及び基本層中から土師器や須恵器などの遺物が出土した。

(1) 材木列跡

SA2435 材木列跡 (第64・65図)

調査区の北東部で検出された東西方向に延びる材木列跡である。規模は検出長が約2.2mで調査区外にさらに延びる。方向はE-N¹⁰-Sで、掘方の上端幅が20～25cm、下端幅が15～20cmである。遺構検出面から底面までの深さは約5cmで、直径15～20cmの柱痕跡が部分的なものも含めて11ヶ所検出された。柱痕跡の深さは一定ではない。堆積土は2層確認された。1層は柱痕跡で、2層が掘方埋土である。遺物は土師器小片1点が出土した。

(2) 竪穴住居跡

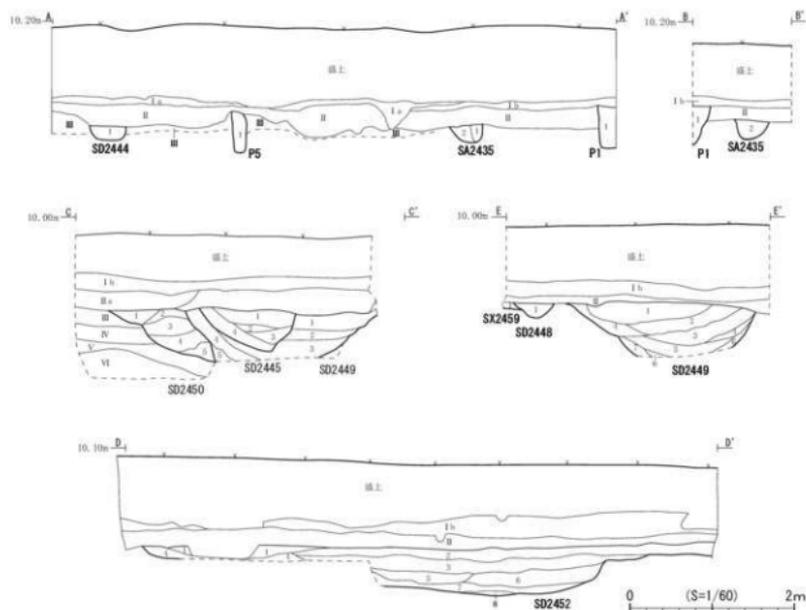
SI2436 竪穴住居跡 (第66・67図)

【位置】 調査区の北東側で検出された。

【重複】 SI2437 竪穴住居跡、P30・35より新しく、P12・27・31～33・71・74・80より古い。

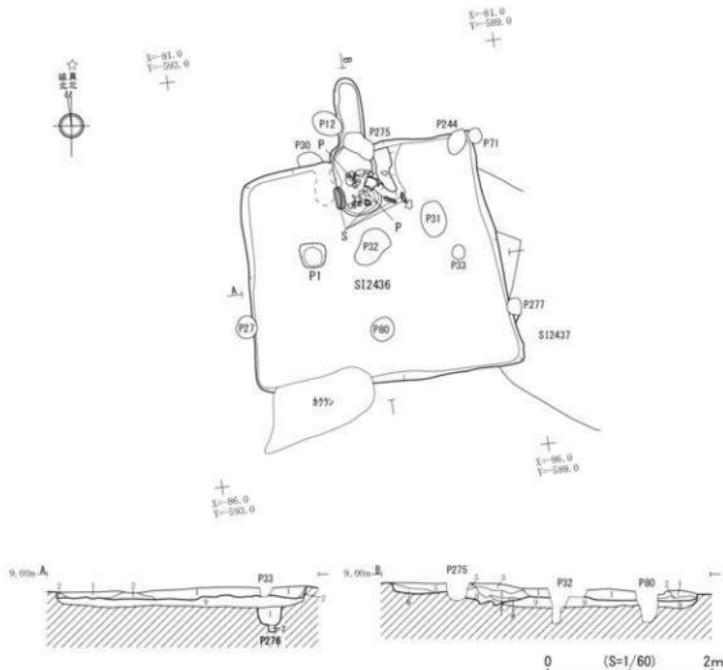
【規模・形態】 東西方向が2.90～3.25m、南北方向が2.55～2.95mを測る、やや歪な隅丸方形である。

【方向】 カマド煙道を基準とした方向はN-8°-Wである。



道標名	層位	色調	土質	備考・混入物
SA2435	1	10YR3/1 暗褐色	シルト	粒塊跡。
	2	10YR4/1 褐色	シルト	層層ブロックを含む。極方。
SD2444	1	10YR3/1 暗褐色	粘土質シルト	層層ブロック (φ 2cm) を少量含む。ややグライ化。
	2	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 1cm)・白色砂 (φ 3mm) を少量含む。
SD2445	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	ほぼ均質。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 2mm) を少量含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物 (φ 1cm)・層層 (φ 5mm) を少量含む。
SD2448	1	10YR2/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 5mm) を少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物 (φ 1~3mm) を含む。炭化物 (φ 3~10mm)・白色砂 (φ 2mm) をわずかに含む。
SD2449	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物 (φ 1~3mm) を含む。黒褐色粘土質シルト (φ 2~5cm)、白色砂 (φ 2mm) をわずかに含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	オリーブ褐色シルトブロック (φ 2cm)・炭化物 (φ 5~20mm)・黒褐色粘土質シルト (φ 2cm) を含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	オリーブ褐色粘土質シルトを境目に、炭化物 (φ 1cm) を含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	オリーブ褐色ブロック・黒褐色粘土質シルト (φ 10cm) を含む。一部グライ化。
	6	2.5Y4/1 オリーブ褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質ブロック (φ 2~5cm)、砂 (φ 2~5mm) を層状に含む。一部グライ化。
SD2450	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	一部グライ化。
	1	2.5Y4/1 オリーブ褐色	シルト	層層ブロック主体。白色砂 (φ 2mm) を少量含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	円礫 (φ 2cm) を少量含む。
	3	2.5Y4/1 オリーブ褐色	シルト	層層ブロック主体。白色砂 (φ 2mm) を少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土	層層ブロックを境状に含む。
SD2452	5	2.5Y4/1 黒褐色	粘土	層層ブロック主体。白色砂 (φ 2mm) を少量含む。
	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	白色砂 (φ 2mm) を少量。暗褐色ブロック (φ 2cm) を含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	層層ブロック (φ 5cm) を少量含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	層層ブロックとの境に層状に含む。
	4	10YR2/3 暗褐色	粘土質シルト	層層ブロック (φ 1~5cm) を含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	砂粒 (φ 1~5mm)、層層ブロック (φ 1cm) をわずかに含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	層層ブロック (φ 5cm) を含む。ややグライ化。
	7	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	層層主体。グライ化。
SX2459	8	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	グライ化。
	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	層層ブロック (φ 2cm) を少量含む。
P1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
PS	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	

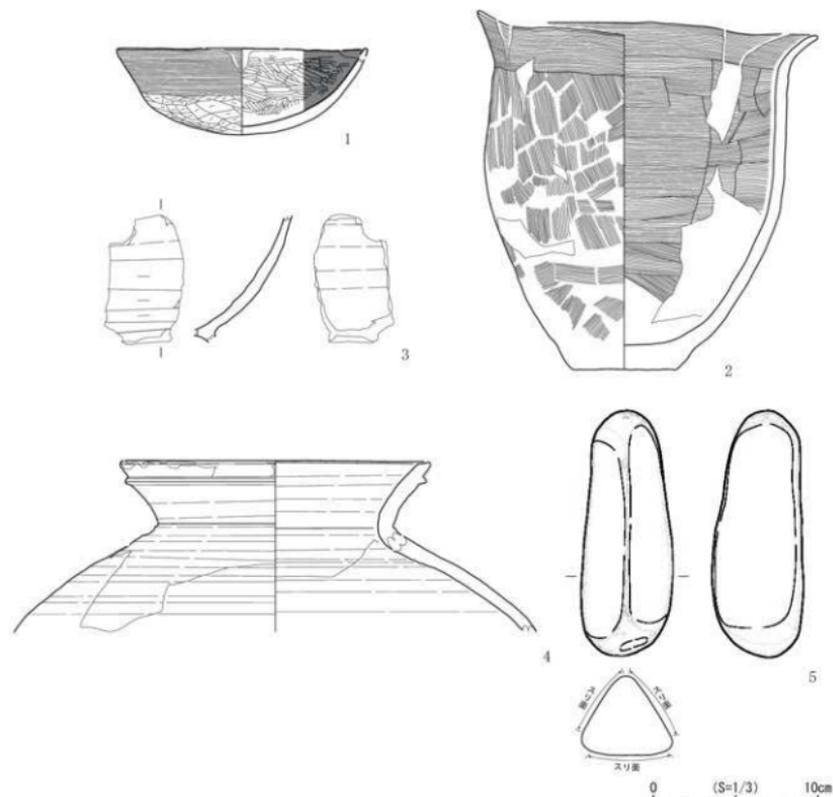
第64図 調査区断面図



第 66 図 S12436 竪穴住居跡平面・断面図

- 【堆積土】堆積土は9層に細分した。住居堆積土が1・2層、カマド堆積土が3～8層、住居掘方埋土が9層となる。
- 【壁面】遺構検出面から床面までの深さは14～30cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。
- 【床面】掘方埋土上面を床面としている。柱穴は確認されない。
- 【カマド】カマドは住居北辺の中央部に付設されている。軸は、西軸が遺存状況が不良であるが、東軸は長さ約70cm、幅25～35cmを測る。軸は壁面に対してハの字状に付設されるが、燃焼部の規模は奥行き約90cm、幅約45cmで、底面には被熱による赤変が認められる。検出した煙道部の規模は、長さ約90cm、幅約30cm、深さ10～13cmで断面形状は皿形を呈する。
- 【その他の施設】カマドの南西側の床面でピットを1基(P1)検出した。平面形は隅丸方形を呈する。径は約30cm、深さは約20cmである。柱痕跡は確認されていない。この他住居掘方より下でピットを1基(P276)検出した。

遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
S12436	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化粒(φ3mm)を少量、草屑ブロック(φ2～5cm)を含む、住居堆積土。
	2	10YR4/2に濃い黄褐色	シルト	草屑ブロック(φ2～5cm)を含む、住居堆積土。
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	草屑ブロック(φ2～5cm)、炭化物を少量含む、カマド堆積土。
	4	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物(φ5～10mm)・粘土(φ1～5mm)を少量含む、カマド堆積土。
	5	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物(φ5～10mm)・粘土(φ1～5mm)を少量含む、カマド堆積土。
	6	10YR6/9明黄褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土ブロック(φ5mm)を塊状に含む、カマド堆積土。
	7	7.5YR4/6褐色	粘土質シルト	粘土ブロック(φ2cm)を含む、カマド堆積土。
	8	10YR4/6褐色	粘土質シルト	炭化物(φ5～10mm)・粘土粒(φ1～5mm)を塊状に含む、カマド堆積土。
	9	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物(φ5mm)を少量含む、草屑主体、飯房。
P276	1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	炭層(φ2cm)を塊状に含む、グライ化、採取穴。
	2	10YR2/1黒色	粘土質シルト	炭化粒(φ5mm)を少量含む、柱痕。



図録番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	C-1264	S12436	床面	土師器	卍	15.4	—	6.3	口：ヨコナヅ 体：ナヅリ	ミザキ 原色処理?		37-1
2	C-1266	S12436	カマド	土師器	壺	20.9	6.5	22.2	口：ヨコナヅ 体：ナヅ	口：ヨコナヅ 体：ヘラナヅ		37-2
3	E-618	S12436	基礎土	埴師器	不明	—	—	—	口：ヨコナヅ 胴：ヘラナヅ	口：ヨコナヅ		37-3
4	E-612	S12436	床面	埴師器	壺	18.8	—	10.63	口：ヨコナヅ	口：ヨコナヅ		37-4
—	C-1265	S12436	カマド	土師器	壺	—	16.43	17.13	ヘラナヅリ ナヅ詰めミザキ	ヘラナヅ	写真掲載のみ	37-6

図録番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真掲載	
						長さ	幅	厚さ			
5	K-380	S12436	床面	磨石器	磨石	15.2	5.6	5.0	磨面3面 重さ500g		37-5
—	K-369	S12436	カマド	磨石器	磨石	17.2	6.1	6.5	重さ442g 写真掲載のみ		37-7
—	K-378	S12436	床面	磨石器	磨石	26.2	10.8	6.5	重さ330g 写真掲載のみ		37-8

第 67 図 S12436 竪穴住居跡出土遺物

平面形は円形を呈し、直径 28cm、深さ 30cm 程である。径 10cm の柱痕跡を確認した。

【出土遺物】床面から須恵器甕の上半部（第 67 図 4）が倒立した状態で出土しており、磨石 5 点（同図 5 など）、擦痕のある被熱を受けた甕（写真 37-8）が出土している。また、カマドから土師器甕（同図 2、写真 37-6）や、支脚とみられる被熱を受けた甕（写真 37-7）が出土した。

S12437 竪穴住居跡 (第68・69図)

【位置】調査区の北東側で検出された。

【重複】S12436 竪穴住居跡、P277 より古い。

【規模・形態】住居の南西隅のみ検出した。詳細は不明であるが、南辺1.5m以上西辺2.2m以上の方形で推定される。

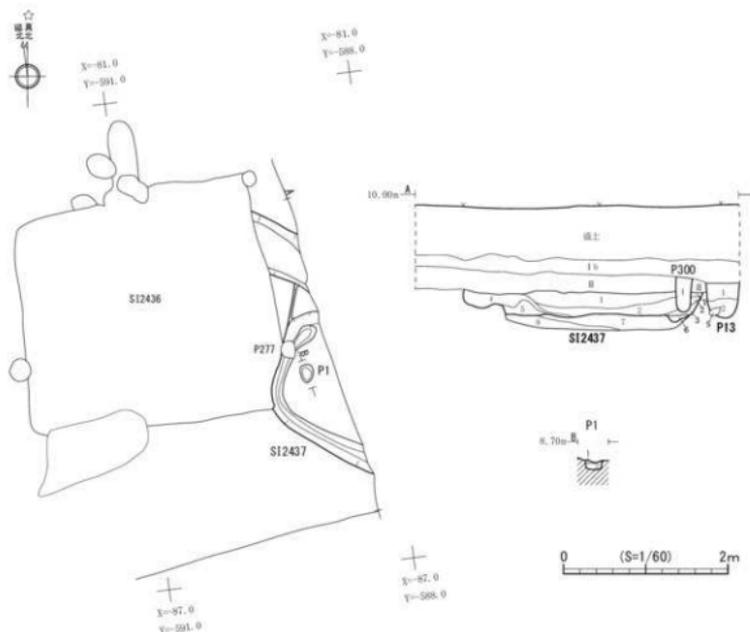
【方向】カマド煙道を基準とした方向はN-63°-Wである。

【堆積土】堆積土は8層に細分される。住居堆積土が1～3層、カマド関係堆積土が4・5層、周溝堆積土が6層、掘方埋土が7・8層となる。

【壁面】遺構検出面から床面までの深さは25～30cmで、壁は外傾気味に立ち上がり、南壁で約30cmを測る。

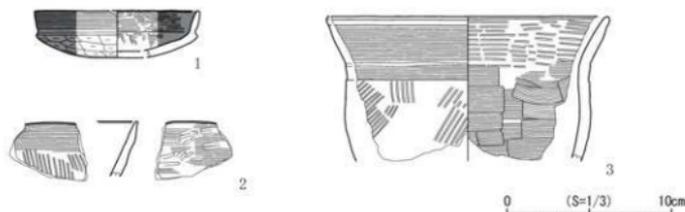
【床面】掘方埋土上面を床面としている。部分的な確認のため柱穴は不明である。

【周溝】西壁際から南壁際にかけて検出された。規模は、幅10～25cm、深さ5～10cmで、断面形は皿形を呈する。



遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
S12437	1	10YR4/6 褐色	シルト	炭化物・炭化灰をごくわずかに含む。住居堆積土。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	白色砂 (φ 2mm) を少量含む。住居堆積土。
	3	10YR2/3 黄褐色	粘土質シルト	11%の炭。住居堆積土。
	4	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 5～10mm)・炭化物 (φ 10mm)・黒層ブロックを含む。カマド堆積土。
	5	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 5～10mm)・炭化物 (φ 5～10mm)・暗褐色粘土ブロックを少量含む。黒層主体、カマド焼土。
	6	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土ブロック (φ 5mm) を含む。周溝。
	7	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 5mm)・炭化灰 (φ 5mm) をわずかに、黒層ブロック (φ 2cm) を散在に含む。掘方。
	8	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土ブロック (φ 2cm) をわずかに含む。黒層ブロック主体。掘方。
S12437-P1	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト	焼土粒を含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化灰・黒層ブロック (φ 2cm) を少量含む。
P13	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	
P300	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	

第68図 S12437 竪穴住居跡平面・断面図



図面番号	登録番号	出土遺構	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-1295	S12437	堆積土	土師器	片	16.2	(13.9)	2.9	ロ：ヨコナダ 底：ハケメ 黒色施釉	ヘラミガキ 黒色施釉		37-9
2	C-1293	S12437	堆積土	土師器	残?	—	—	—	ロ：ハケメ→ヨコナダ	ヘラミガキ状のナダ		37-10
3	C-1298	S12437-P1	堆積土	土師器	甕	(17.2)	—	(9.0)	ロ：ヨコナダ 底：ハケメ (一部摩滅)	ロ：ハケメ 底：ヘラミガキ 黒色施釉		37-11

第 69 図 S12437 竪穴住居跡出土遺物

【カマド】カマドは住居西辺に位置するが、南袖を部分的に検出したにすぎない。検出した煙道部の規模は、長さ約 60cm、幅約 55cm、深さ 10cm 程で、断面形は皿形を呈する。

【その他の施設】カマドの南側で小ピット (P1) を検出している。平面形は歪な円形を呈する。径は 15～20cm、深さは約 10cm である。柱痕跡は確認されない。

【出土遺物】堆積土から土師器杯 (第 69 図 1) が出土したほか、ピットから土師器甕 (同図 3) が出土した。

S12438 竪穴住居跡 (第 70・71 図)

【位置】調査区の東側で検出された。

【規模・形態】北側の東西辺が 4.0m で、南側が 3.0m、西側の南北辺が 3.6m で東側が 3.1m を測り、平面形は台形状の隅丸方形である。

【方向】カマド煙道を基準とした方向は N-40°-W である。

【堆積土】堆積土は 16 層に細分した。住居内堆積土が 1～4 層、カマド関係堆積土が 5・6・8～12 層、周溝堆積土が 7 層、掘方埋土が 13～16 層となる。

【壁面】遺構検出面から床面までの深さは 5～12cm で、壁は外傾気味に立ち上がるとみられ、残りのよい西壁や南壁で 12cm を測る。

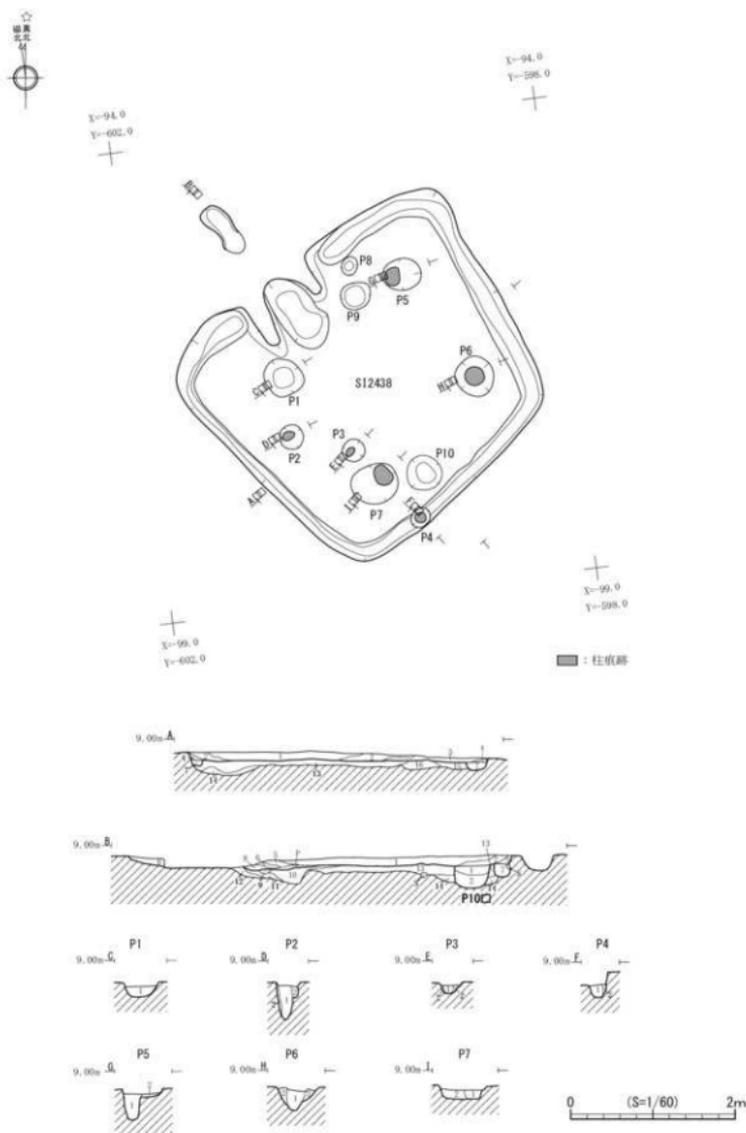
【床面】掘方埋土上面を床面としている。

【柱穴】床面で 10 基のピットを検出し、そのうち柱穴を 6 基 (P2・3・4・5・6・7) 確認した。平面形は円形を呈し直径 30～60cm、深さ 15～45cm で、径 15～25cm の柱痕跡が確認された。そのうち P5・6・7 は位置・規模等から、主柱穴であると考えられる。なお、P1 については柱痕跡は確認できなかったが、位置関係からすると主柱穴である可能性がある。このほか、掘方底面でピットを 2 基 (P11・12) 検出した。

【周溝】周溝の規模は幅 15～40cm、深さ 10～20cm である。断面形は皿形ないし U 字形を呈する。

【カマド】カマドは住居北辺のほぼ中央に位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ約 55cm、幅 20～60cm で、西袖が長さ約 85cm、幅 15～65cm である。袖は壁面に対してハの字状に付設される。燃焼部の規模は奥行き約 1.0m、幅 30～50cm であり、燃焼部およびカマドの南～東側に炭化物の分布が確認された。煙道部は先端部のみ検出しているが、全体の長さは約 1.2m と推定される。幅 20～25cm、深さ 5～10cm とみられ、断面形状は皿形を呈する。

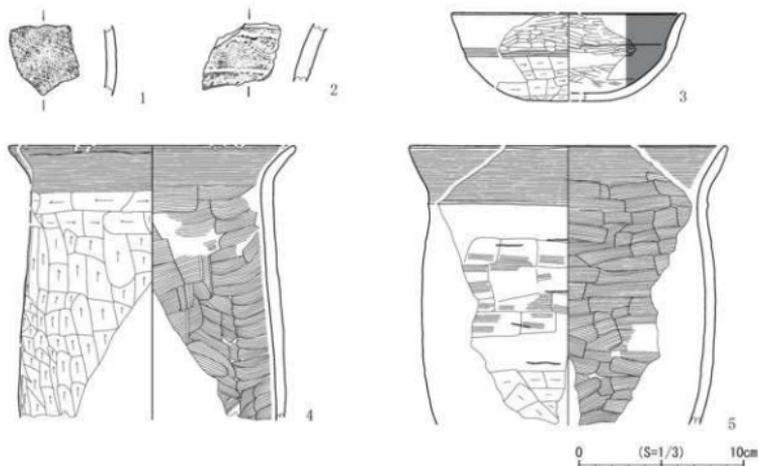
【出土遺物】床面から土師器甕 (写真 38-7) や磨石 (写真 38-8) が出土したほか、カマド付近で土師器甕 (第



第70図 S12438 竪穴住居跡平面・断面図

S12438 竪穴住居跡堆積土計表

遺構名	層位	色調	土質	備考・遺入物
S12438	1	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	ほぼ均質、住居堆積土。
	2	HVRC-4 褐色	粘土質シルト	黒層ブロック (φ 2cm) を少量含む、住居堆積土。
	3	HVRC-4 褐色	粘土質シルト	ほぼ均質、住居堆積土。
	4	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	ほぼ均質、住居堆積土。
	5	HVRC-3 に近い黄褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 5mm)・炭化物 (φ 5mm) をわずかに含む、カマド堆積土。
	6	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック、炭化物 (φ 5~10mm) をわずかに含む、カマド堆積土。
	7	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	オレンジ褐色ブロック (φ 1cm) を少量含む、陶器。
	8	HVRC-3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 5~10mm)・炭化物 (φ 5~10mm) を均等に含む、カマド堆積土。
	9	HVRC-3 暗褐色	粘土質シルト	オレンジ褐色粘土質シルトを下部に含む、カマド堆積土。
	10	2.5H-4 オリーブ褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 1cm)・炭化物 (φ 1cm) を少量含む、カマド層。
	11	2.5H-4 オリーブ褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 1cm)・炭化物 (φ 1cm) を少量、黒色粘土ブロックを含む、カマド層。
	12	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 1cm)・炭化物 (φ 1cm) を含む、カマド層。
	13	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロック主体、一部グラライ化、融方。
	14	HVRC-2 黒褐色	粘土質シルト	黒層ブロック主体、融方。
	15	HVRC-2 暗褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 1cm) をわずかに含む、融方。
	16	HVRC-4 褐色	粘土質シルト	黒色粘土 (φ 1cm) を含む、融方。
S12438-P1	1	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	
S12438-P2	1	HVRC-3 暗褐色	粘土質シルト	柱敷跡。
	2	HVRC-3 暗褐色	粘土質シルト	オレンジ褐色粘土質シルトブロック (φ 3cm) を含む、融方。
S12438-P3	1	HVRC-3 暗褐色	粘土質シルト	柱敷跡。
S12438-P4	1	HVRC-3 暗褐色	粘土質シルト	柱敷跡。
	2	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	融方。
S12438-P5	1	HVRC-3 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロックを少量、炭化物 (φ 1cm) をわずかに含む、柱敷跡。
	2	2.5H-4 オリーブ褐色	砂質シルト	融方。
S12438-P6	1	HVRC-3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 5mm) をわずかに含む、柱敷跡。
	2	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	オレンジ褐色粘土質シルトを含む、融方。
S12438-P7	1	HVRC-4 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロックを少量含む、柱敷跡。
	2	HVRC-3 に近い黄褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土ブロック (φ 2cm) 少量、黒層ブロック (φ 5cm) を含む。



調査番号	遺構番号	出土遺構	層位	種類	形状	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真掲載	
						口径	底径	器高					
	1	B-307	S12438	準柱土	布生土器	不明	-	-	-	黒 縄文付加象		38-1	
	2	E-419	S12438	準柱土	須石器	壺	-	-	-	顔状沈積		38-2	
	3	C-1275	S12438	準柱土	土師器	埴	(14.2)	-	5.0	口：ロコナダ 体：ヘラケズリ	ロコナダ 体：ヘラケズリ ヘラケズリ 黒色地埋		38-3
	4	C-1282	S12438	カマド	土師器	壺	(17.5)	-	(16.8)	口：ロコナダ 体：ケズリ	口：ロコナダ 体：ヘラケズリ		38-4
	5	C-1271	S12438-P11	準柱土	土師器	壺	(19.4)	-	(17.2)	口：ロコナダ 体上：ケズリ状のナダ	口：ロコナダ 体：ヘラケズリ		38-5
	-	C-1270	S12438-P10	準柱土	土師器	壺	-	-	-	ヘラケ	ヘラケ		38-6
	-	C-1273	S12438	床面	土師器	壺	-	-	-	口：ロコナダ 体：ヘラケズリ	口：ロコナダ 体：ヘラケズリ	写真掲載のみ	38-7
	-	K-370	S12438	床面	礎石	礎石	13.0	6.9	2.5	重さ 220g		写真掲載のみ	38-8

第 71 図 S12438 竪穴住居跡出土遺物

71 図4) が出土している。また、堆積土から土師器環(同図3)や須恵器甕(同図2)、弥生土器片(同図1)などが出土した。また、P10・11から土師器甕(写真38-6、同図5)が出土した。

SI2439 竪穴住居跡(第72・73図)

【位置】調査区の南東部で検出された。

【重複】SI2440 竪穴住居跡より新しく、SD2446 溝跡、P83・84・87・89・90～95・97・118・131・134・226・249・265・267・270・271より古い。

【規模・形態】住居跡の西側のみを検出したため詳細は不明であるが、規模は北辺が2.3m以上、西辺が5.25mで、平面形は方形とみられる。

【方向】西辺を基準とした方向はN-40°-Wである。

【堆積土】堆積土は9層に細分される。住居内堆積土が1～3層、周溝堆積土が4層、カマド関係堆積土が5・9層、掘方埋土が6～8層となる。

【壁面】遺構検出面から床面までの深さは10～30cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がり、南壁で約15cmを測る。

【床面】掘方埋土上面を床面としている。

【柱穴】床面および周溝で6基のビットを検出した。そのうち柱穴を1基(P4)確認した。P4はカマドの西側で検出され、平面形は楕円形を呈する。規模は35～50cm、深さは約20cmで、径15cm程の柱痕跡を確認した。

【周溝】周溝の規模は、幅16～30cm、深さ8～15cmで、断面形は皿形を呈する。

【カマド】住居北辺に位置し煙道部のみ検出した。煙道部の規模は推定長1.8m、幅60cmで、断面形は皿形を呈する。

【出土遺物】堆積土から土師器環(第73図1・3)などが出土したほか、周溝から磨石(写真38-16)、掘方埋土から須恵器環(同図5)が出土している。また、P4から鉄釘(同図7)、P5から土師器甕(同図4)が出土した。

SI2440 竪穴住居跡(第74・75図)

【位置】調査区の南東部で検出された。

【重複】SI2439 竪穴住居跡、SD2446 溝跡、P75～77・86・95・97～106・112～118・120・122・124・133・134・219・228～232・236・239・241～243・249より古い。

【規模・形態】住居跡の東側はSI2439 竪穴住居跡と重複しているが、規模は北辺が約4.5m、西辺が約4.5mで、平面形は正方形と推定される。

【方向】西辺を基準とした方向はN-48°-Wである。

【堆積土】堆積土は5層に細分される。住居内堆積土が1・2層、周溝堆積土が3層、掘方埋土が4・5層となる。

【壁面】遺構検出面から床面までの深さは8～15cmで、壁は外傾気味に立ち上がるとみられ、西壁で約8cmを測る。

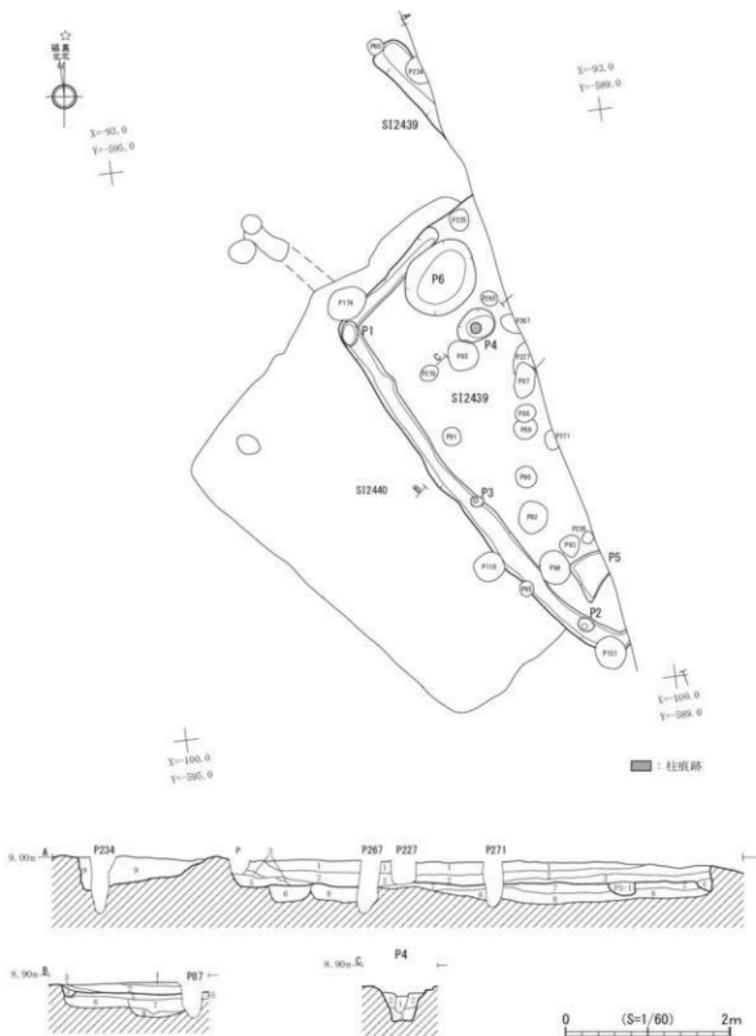
【床面】掘方埋土上面を床面としている。

【柱穴】床面および周溝で9基のビットを検出した。P9は平面形がやや歪んだ円形で、径は40cm、深さ5cmほどである。位置等から主柱穴とも判断されるが、他の柱穴との組み合わせが不明である。なお、P3・4・5で径8～10cmの柱痕跡が確認されている。

【周溝】周溝の規模は、幅5～25cm、深さ3～7cmで、断面形はU字形を呈する。

【カマド】住居北辺に位置する。煙道部のみ検出であり、燃焼部の詳細は不明である。煙道部は先端部分のみ検出しているが、全体の長さは約1.1mと推定され、幅は20～25cmで、断面形は皿形を呈する。

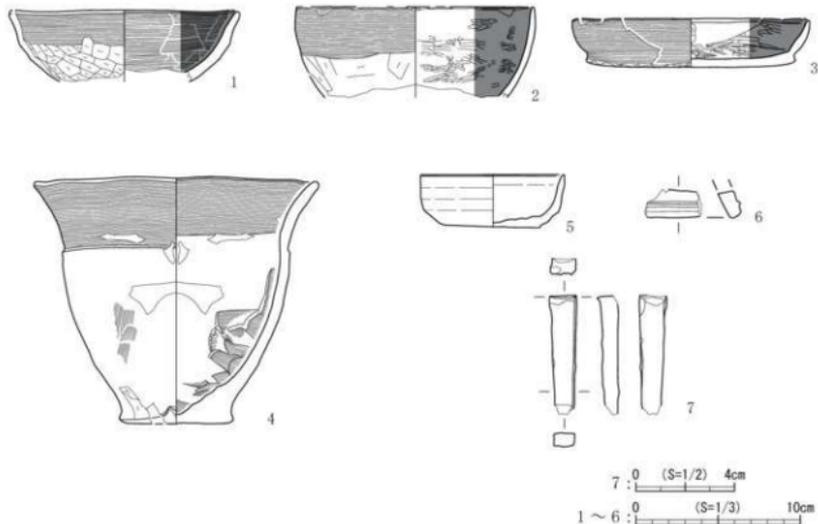
【出土遺物】床面から土師器甕が2点(第75図1・2)出土したほか、堆積土や掘方埋土から土師器片や磨石が出土した。



第72図 SI2439 竪穴住居跡平面・断面図

S12439 竪穴住居跡堆積土計表

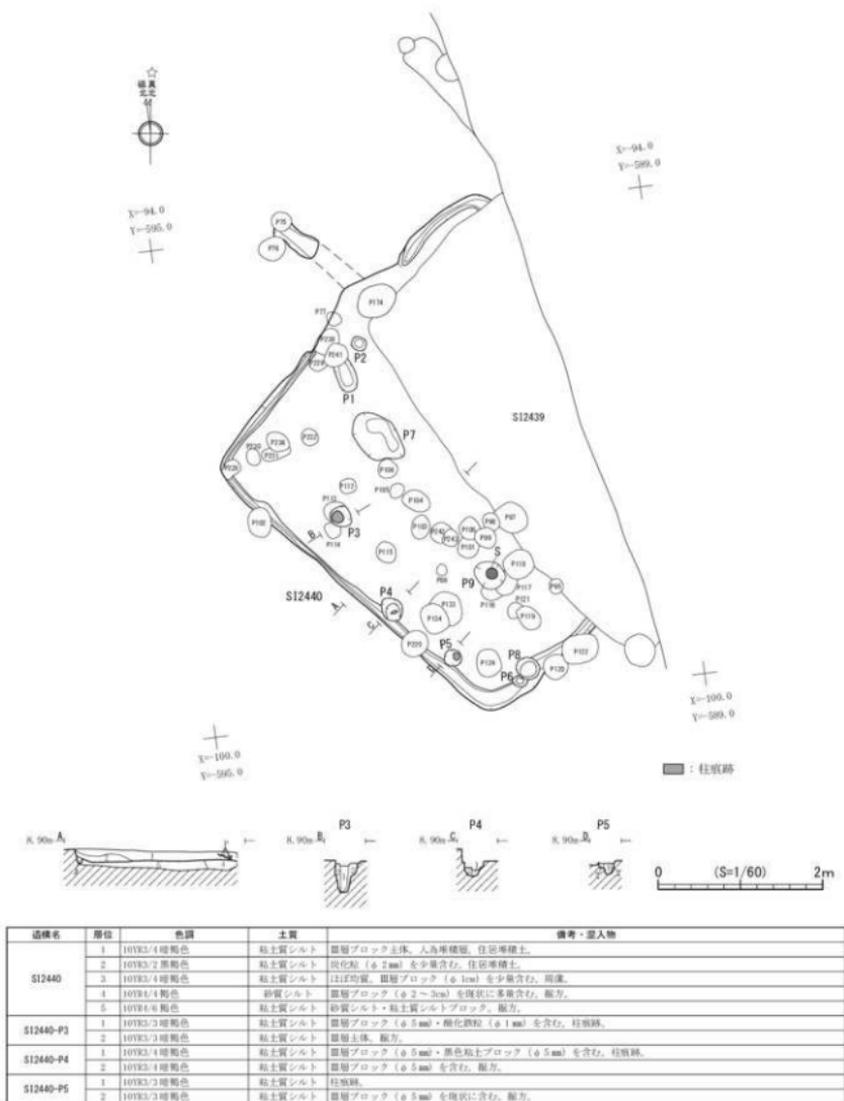
遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
S12439	1	HWK3:4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物(φ1cm)を少量、白色砂(φ2mm)を微状に含む。住居堆積土。
	2	HWK3:3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物(φ2~5mm)を少量、白色砂(φ2mm)を微状に含む。住居堆積土。
	3	HWK3:3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物(φ1cm)・黒層ブロック(φ1cm)を少量含む。住居堆積土。
	4	HWK3:4 暗褐色	粘土	炭化物(φ3mm)・白色砂(φ2mm)を少量含む。瓦片。
	5	HWK3:4 暗褐色	シルト	黒層ブロック主体、粘土(φ5mm)を少量、白色砂(φ2mm)を微状に含む。カマド焼跡土。
	6	HWK3:2 暗褐色	粘土	炭化物(φ5mm)・白色砂(φ2mm)を少量含む。飯方。
S12439-P4	7	HWK3:4 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ1cm)・白色砂(φ2mm)を微状に含む。炭化物(φ2~7mm)を少量含む。飯方。
	8	HWK3:4 暗褐色	砂質シルト	黒層ブロックを微状に含む。炭化物(φ5mm)を少量、白色砂(φ2mm)を少量含む。飯方。
	9	HWK2:3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物(φ2~5mm)を微状に多量含む。層の表面に炭化物等類(幅2cm)、カマド焼跡土。
	1	HWK3:3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物(φ1cm)をわずかに、融化物(φ1mm)をごくわずかに含む。柱焼跡。
S12439-P5	2	HWK3:4 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ1~3mm)を含む。飯方。
	3	HWK3:4 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ1~3cm)を微状に含む。粘土質シルトが下層との間に堆積。(6層)



調査番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図録
						口径	口径	器高				
1	C-1312	S12439	堆積土	土器跡	杯	(14.6)	—	(4.4)	口:ロコナゲ 体:ケズリ	ロコナゲ		28-9
2	C-1311	S12439	堆積土・飯方母土	土器跡	杯	(14.4)	—	(3.6)	口:ロコナゲ 体:ケズリ	ヘラヒガク 黒色染層?	内面に黒色の付着物あり	28-10
3	C-1309	S12439	堆積土	土器跡	杯	13.5	12.8	3.0	口:ロコナゲ 体:融跡;ヘラヒガク	ヘラヒガク 黒色染層		28-11
4	C-1313	S12439-P5	堆積土	土器跡	壺	(17.5)	7.0	13.4	口:ロコナゲ 体上:ナゲ 体下:ケズリ大部分摩耗 底:木炭焼	口:ロコナゲ 体上:ナゲ 体下:ナゲ	被蝕	28-12
5	F-628	S12439	飯方	飯器跡	杯	8.8	5.8	3.2	口:ロコナゲ 底:割痕へ切り取られた	口:ロコナゲ		28-13
6	F-630	S12439	堆積土	飯器跡	円筒状?	—	—	—	口:ロコナゲ	口:ロコナゲ	丸みを持つ隆帯が一周、孔が縁部から出る	28-14

調査番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図録
						長さ	幅	厚さ		
7	N-156	S12439-P4	堆積土	陶製品	釘	(4.9)	0.8~1.2	0.6~0.9		28-15
-	E-371	S12439	川床	磁石跡	磁石	11.4	9.7	3.4	重さ:300g 写真掲載のみ	28-16

第73図 S12439 竪穴住居跡出土遺物



第74図 S12440 竪穴住居跡平面・断面図



調査 番号	発見 番号	出土 経緯	層位	種別	部種	寸法 (cm)			材質	内面	備考	写真 図説
						口径	底径	器高				
1	C-1341	S12440	床面	土師器	甕	17.2	7.7	29.6	口: ココナダ 体: ハケメー→部ナダ 底: ヘラナダ	口: ココナダ (厚紙) 底: ヘラナダ		29-1
2	C-1345	S12440	床面	土師器	甕	14.4	5.5	29.8	口: ココナダ 体: ハケメー→部ナダ	口: ココナダ 底: ヘラナダ	被熱	29-2

第75図 S12440 竪穴住居跡出土遺物

S12441 竪穴住居跡 (第76・77図)

【位置】調査区の中央部やや西よりで検出された。

【重複】SD2448・2449・2451 溝跡より古い。

【規模・形態】東辺長4.1m、南辺長1.8mまで確認した。SD2449 溝跡より西側は遺存不良で平面形は不明だが、方形を呈すると思われる。

【方向】カマドを基準とした方向は、N-48°Eである。

【堆積土】堆積土は7層確認した。住居内堆積土が1層、カマド堆積土が2～7層となる。

【壁面】遺構検出面から床面までの深さは、10cm程度である。壁は緩やかに立ち上がる。

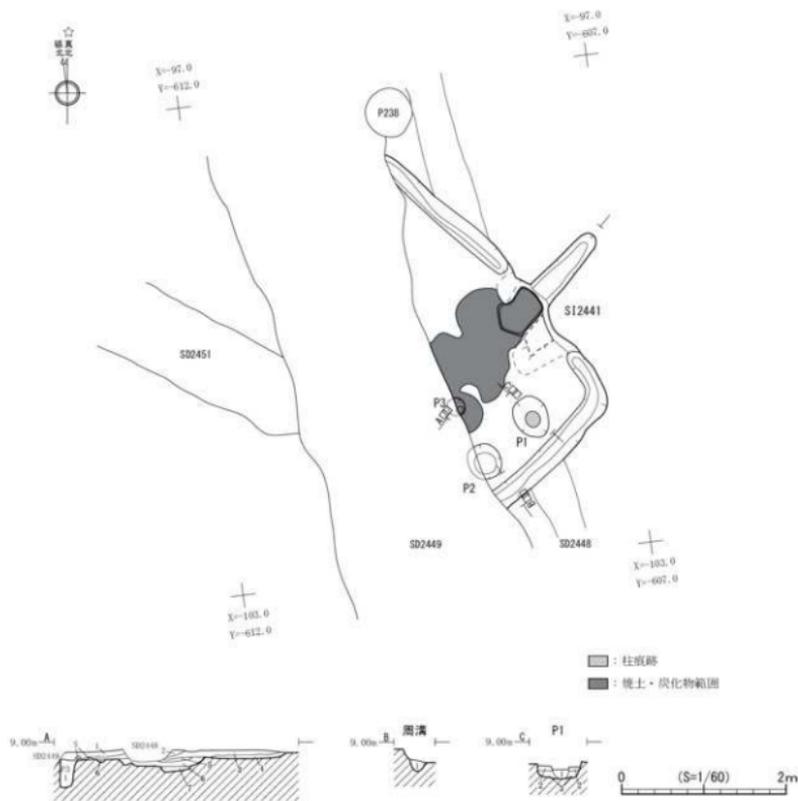
【周溝】住居の東壁・南壁で確認した。規模は幅20～30cm、深さ12～14cmで、断面形はU字状を呈する。

【床面】掘方底面を床面としている。

【柱穴】床面で3基のビットを検出し、そのうちP1は主柱穴と考えられる。平面形は円形を呈し直径50cm、深さ15cmで、径20cm程の柱痕跡を確認した。

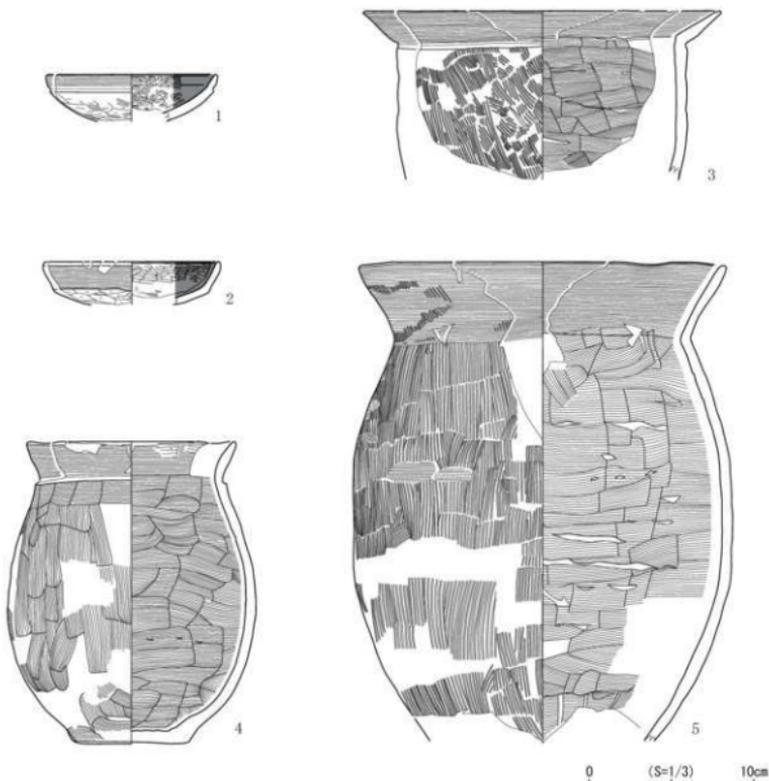
【カマド】東壁のやや南よりで壁面に直交して付設され、袖が僅かに残存する。規模は北袖が長さ27cm、幅20cm、南袖が長さ44cm、幅30cmで、燃焼部の規模は奥行き45cm以上、幅38cmである。底面で被熱痕跡は確認できないが、燃焼部から床面の広範囲にわたり焼土・炭化物が広がる。煙道部の規模は、長さ1.0m、幅30cm、深さ10cmである。

【出土遺物】床面で土師器甕(第77図4)が正立した状態で出土した他、土師器2点(同図3・5)が出土している。また周溝や堆積土から土師器坏(同図1・2)が出土した。



遺構名	層位	色調	土質	備考・埋入物
S12441	1	H0YK3/3 暗褐色	粘土質シルト	埋戻黄色粘土ブロック (φ 20cm) を含む。カマド基礎土。
	2	H0YK3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 5~10mm)・焼土粒 (φ 5~10mm) を含む。住居基礎土。
	3	H0YK3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 5~50mm)・炭化物 (φ 5~50mm) を混状に、酸化鉄粒 (φ 1mm) を含む。一部ドライ化。カマド基礎土。
	4	H0YK3/2 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄 (φ 1mm) を含む。ドライ化が著しい。カマド基礎土。
	5	H0YK3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 1~5mm)・炭化粒 (φ 1~5mm) をわずかに含む。カマド基礎土。
	6	H0YK3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 5~30mm)・炭化物 (φ 5~30mm) を多量含む。カマド基礎土。
	7	H0YK3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒 (φ 5~10mm)。酸化鉄を混状に含む。カマド基礎土。
S12441-周溝	1	H0YK3/1 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄 (φ 5mm)。下方にドライ化した土を含む。
S12411-P1	1	H0YK3/1 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒 (φ 1mm)・草屑ブロック (φ 10cm) を含む。
	2	H0YK3/3 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒 (φ 1mm)・草屑ブロック (φ 10cm)・炭化物 (φ 5~10mm)・焼土粒 (φ 5~10mm) を含む。
S12441-P3	1	H0YK3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化粒 (φ 5mm) を少量。酸化鉄粒 (φ 1mm) を含む。埋土主体。ドライ化。
	2	H0YK3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化粒 (φ 5mm) をわずかに。酸化鉄粒 (φ 1mm) を含む。

第 76 図 S12441 竈穴住居跡平面・断面図



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)		外面	内面	備考	写真図版
						口徑	底徑				
1	C-1286	S12441	厚積土	土師器	杯	(10.4)	-	(2.99)	口：ヨコナダ 体：ヘラナダリ—部ヘラミダギ	ヘラミダギ 黒色粘土	39-3
2	C-1285	S12441	明産	土師器	杯	(10.6)	-	(2.7)	口：ヨコナダ 体：ヘラナダリ	ヘラミダギ 黒色粘土	39-4
3	C-1288	S12441	灰面	土師器	甕	(21.8)	-	(10.4)	口：ヨコナダ 体：ハケメ	口：ヨコナダ 体：ヘラナダ 輪積痕	39-5
4	C-1267	S12441	灰面	土師器	甕	(12.8)	7.2	18.7	口：ヨコナダ 体：ヘラナダ	口：ミダギ 体：ヘラナダ 輪積痕	39-6
5	C-1268	S12441	灰面	土師器	甕	(22.0)	-	(29.6)	口：ハケメ—ヨコナダ 体：ハケメ—ナダ	口：ヨコナダ 体：ヘラナダ 輪積痕	39-7

第77図 S12441 竪穴住居跡出土遺物

S12442 竪穴住居跡 (第78・79図)

【位置】調査区の北西部で検出された。

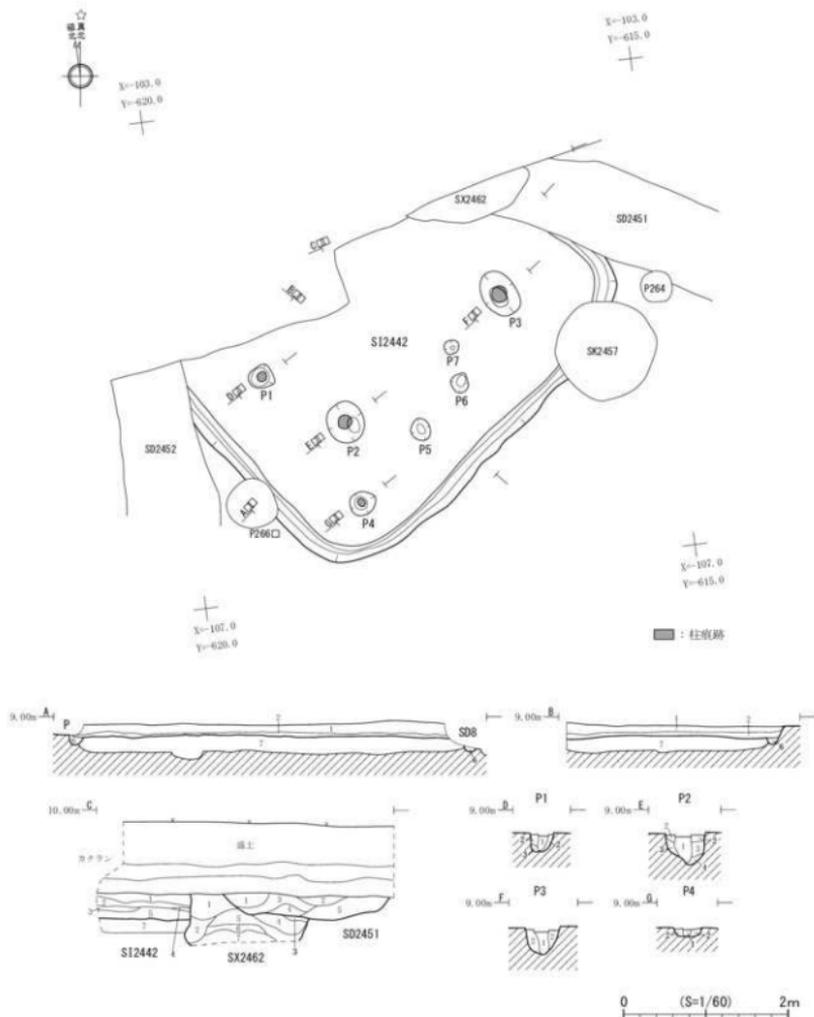
【重複】SD2451・2452 溝跡、SK2457 土坑、SX2462 性格不明遺構、P266 より古い。

【規模・形態】検出規模は、南辺が4.8m、西辺で2.5mまで確認した。平面形は隅丸方形と思われる。

【方向】住居西辺を基準とした方向は、N-43°-Wである。

【堆積土】堆積土は7層確認した。住居堆積土が1～5層、周溝堆積土が6層、住居掘方埋土が7層となる。

【壁面】遺構検出面から床面までの深さは15～30cmで、壁はやや外傾して立ち上がり、南壁で15cmを測る。

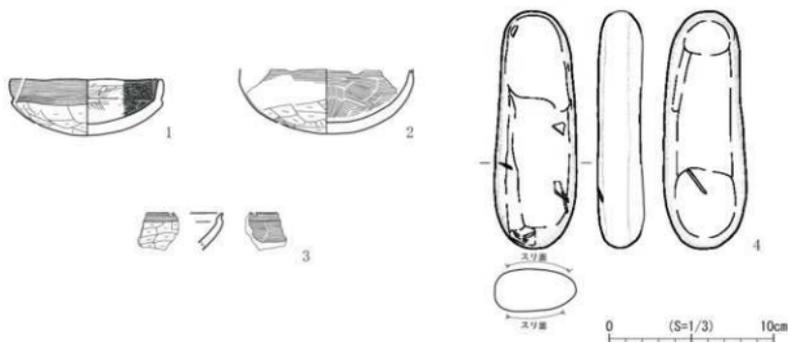


第78図 S12442 竪穴住居跡平面・断面図

遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
S12442	1	H07K3-1 黒褐色	粘土質シルト	燻化炭粒 (φ 1mm)・黒鉛ブロック (φ 5~10mm) を含む。住居準層土。
	2	H07K3-3 暗褐色	粘土質シルト	黒鉛ブロック (φ 1~2mm) を含む。住居準層土。
	3	H07K3-3 暗褐色	粘土質シルト	白色砂 (φ 2mm) を少量含む。住居準層土。
	4	H07K2-2 黒褐色	粘土	黒鉛ブロック (φ 1mm) を少量含む。住居準層土。
	5	2.D14.4 オリーブ褐色	粘土質シルト	黒鉛ブロック主体。燻化炭 (φ 1~2mm) を複数含む。白色砂 (φ 2mm) を少量含む。住居準層土。
	6	H07K3-3 暗褐色	粘土質シルト	一部グライ化。周溝。
	7	H07K3-3 暗褐色	粘土質シルト	黒鉛土塊。燻化炭 (φ 1~5mm) を含む。グライ化。周溝。

S12442 竪穴住居跡ほか堆積土記表

遺構名	層位	色調	土質	備考・遺人物
S12442-P1	1	HVR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ 2cm)、上方に酸化鉄を縦筋状に含む。グライ化、柱痕跡。
	2	HVR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒層土塊、グライ化、腐方。
	3	HVR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化根(φ 5mm)をわずかに含む。腐方。
S12442-P2	1	HVR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ 1cm)を含む。グライ化、柱痕跡。
	2	HVR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒層土塊、炭化根(φ 5mm)をわずかに含む。グライ化、腐方。
	3	HVR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒層土塊、グライ化、腐方。
	4	HVR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒層土塊、ややグライ化、腐方。
S12442-P3	1	HVR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ 2cm)、上方に酸化鉄(φ 5mm)をわずかに含む。グライ化、柱痕跡。
	2	HVR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黒層土塊、上方に酸化鉄を縦筋状に含む。グライ化、腐方。
S12442-P4	1	HVR3/1 黒褐色	シルト	炭化根(φ 5mm)をわずかに含む。柱痕跡。
	2	HVR3/1 黒褐色	シルト	黒層ブロック(φ 2cm)を含む。グライ化、腐方。
S0451	1	HVR2/2 黒褐色	シルト	黒層ブロック(φ 2cm)を少量含む。
	2	HVR2/2 黒褐色	シルト	炭化根(φ 2mm)を少量含む。
	3	HVR2/2 黒褐色	粘土質シルト	白色砂(φ 2mm)を少量含む。
	4	HVR2/2 黒褐色	シルト	炭化根(φ 5mm)を少量含む。
SX362	1	HVR3/4 暗褐色	粘土質シルト	黒層ブロック土塊、炭化物(φ 1cm)を少量含む。
	2	HVR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ 2cm)、炭化根(φ 5mm)を少量含む。
	3	HVR2/1 黒色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ 2cm)、酸化鉄(φ 1~2mm)を少量含む。
	4	HVR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ 2cm)、炭化根(φ 1~2mm)を少量含む。
	5	HVR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物(φ 1cm)、酸化鉄(φ 1~2mm)を少量含む。
	6	HVR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒層ブロック(φ 2cm)、炭化根(φ 5mm)、白色砂(φ 2mm)を少量含む。
	7	HVR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒層ブロック土塊、白色砂(φ 2mm)、炭化根(φ 5mm)を少量含む。



調査番号	発掘番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)		外面	内面	備考	写真図録
						口径	底径				
1	C-1276	S12442	赤褐色土	土師器	杯	9(2.2)	—	3.5	口:ヨコナゲ 体:ヘラケズリ	ヘラミギキ 黒色地付	40-1
2	C-1278	S12442	赤褐色土	土師器	杯	10(6.1)	—	(4.0)	口:ヨコナゲ 体:ケズリ	口:ヘラミギキ 体:ナゲ	40-2
3	C-1277	S12442-P2	赤褐色土	土師器	杯	—	—	(2.3)	口:ヨコナゲ 体:ケズリ	口:ヨコナゲ 体:ナゲ	40-3
-	C-1279	S12442	赤褐色土	土師器	杯	9(6.1)	—	(3.0)	口:ヨコナゲ 体:ヘラケズリ	口残部:ヘラミギキ 黒色地付	40-5

調査番号	発掘番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図録
						長さ	幅	厚さ		
4	R-373	S12442	赤褐色土	磁石	磨石	14.7	5.1	2.7	断面2面 打巻物有り 重さ210g	40-4

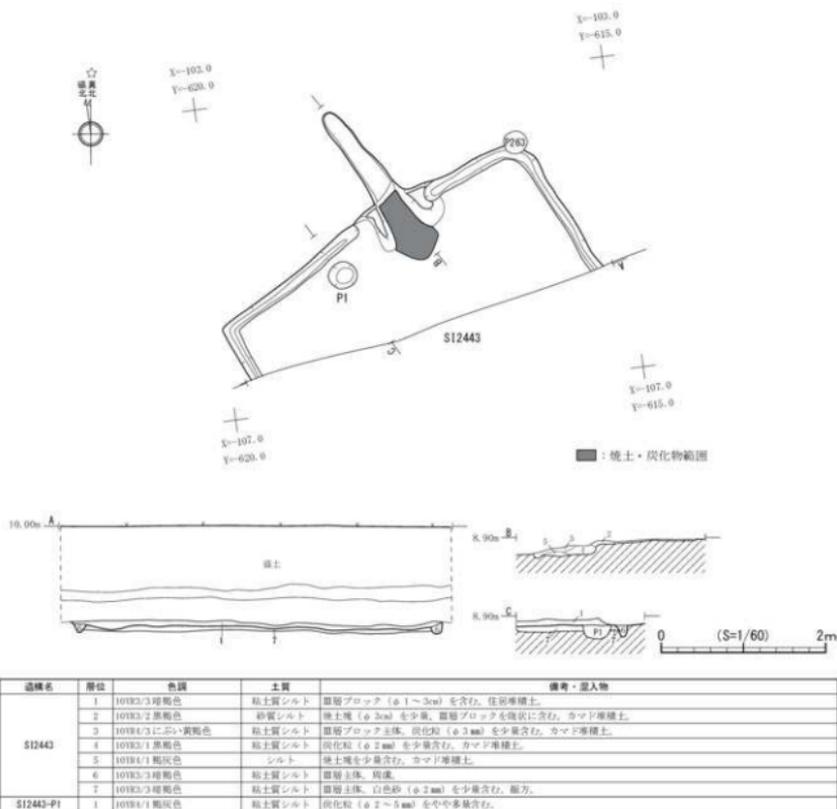
第79図 S12442 竪穴住居跡出土遺物

【床面】住居掘方埋土上面を床面としている。

【柱穴】ビットが7基検出された。位置・規模等からP2・3は主柱穴と考えられる。平面形はほぼ円形で、P2は長軸45cm、深さ40cmの規模で、径15cmの柱痕跡が確認された。P3は長軸60cm、深さ35cmの規模で、径20cmの柱痕跡が確認された。

【周溝】検出した住居の壁面沿いで確認した。規模は幅15~30cm、深さ7~10cmで、断面形はU字状を呈する。

【出土遺物】遺物は堆積土から土師器が3点(第79図1・2、写真40-5)出土したほか、床面や堆積土から磨石が3点(同図4ほか)出土している。また、P2から土師器杯(同図3)が出土した。



第80図 S12443 竪穴住居跡平面・断面図

S12443 竪穴住居跡 (第80・81図)

【位置】 調査区の南西部で検出された。

【重複】 P263 より古い。

【規模・形態】 北辺が4.3m、東辺は1.9mまで確認した。平面形は方形である。

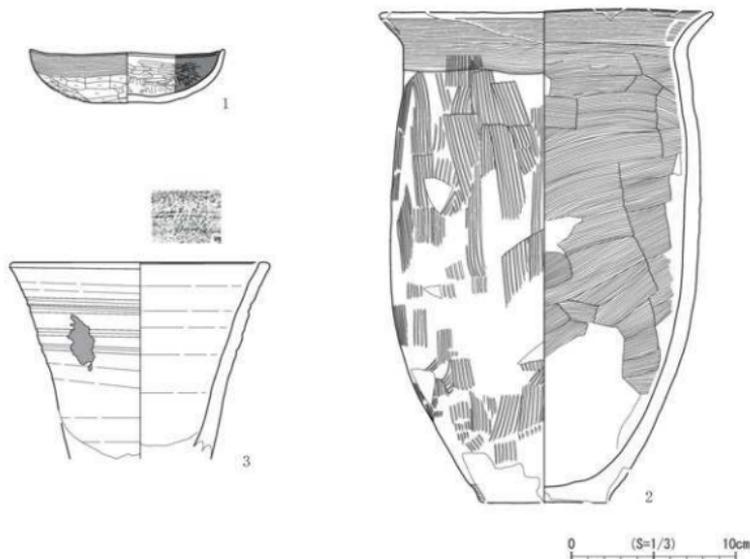
【方向】 カマドを基準とした方向は、N-38°-Wである。

【堆積土】 7層確認され、住居堆積土が1層、カマド堆積土が2~5層、周溝埋土が6層、住居掘方埋土が7層となる。

【壁面】 遺構検出面から床面までの深さは5~12cmで、壁はやや外傾して立ち上がるとみられ、西壁で6cmを測る。

【床面】 掘方埋土である7層上面を床面としている。

【周溝】 検出した住居範囲の壁面沿いで確認した。規模は幅15~20cm、深さ10~14cm、断面形はU字状を呈する。



調査 番号	発見 遺構	出土 遺構	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真 図録
						口径	底径	器高				
1	C-1281	S12443	掘方埋土	土師器	杯	(12.0)	(13.8)	3.0	口：ヨコナゲ 体：ヘラケズリ	ヘラキガキ 黒色処理	復原のための黒色処理がとんでい る	40-6
2	C-1316	S12443	床面	土師器	甕	20.2	(16.0)	30.0	口：ヨコナゲ 体：ハケメ 体下：ナゲ	口：ヨコナゲ一部ハケ メ 体：ヘラナゲ		40-7
3	F-620	S12443	床面	須恵器	壺	(15.6)	—	(12.1)	口：ヨコナゲ 2条1筋の文様が2段に びらねあり	口：ヨコナゲ		40-8
-	C-1317	S12443	周溝	土師器	甕	—	9.8	(27.2)	体：ハケメ	体：ヘラナゲ 底：ハケメ	写真掲載のみ	40-9

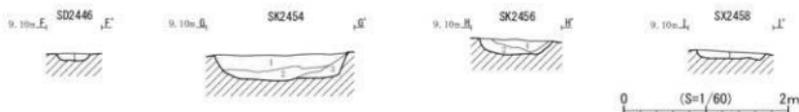
第81図 S12443 竪穴住居跡出土遺物

【カマド】北壁中央のやや東よりで、壁面に直交して付設される。袖の規模は西袖が長さ60cm、幅17cm、東袖が長さ52cm、幅15cmである。煙道部の規模は、長さ1.2m、幅0.3m、深さ12cmである。燃烧部の規模は、奥行き96cm、幅56cmである。底面の被熱痕跡は確認できなかったが、燃烧部および焚口部には炭化物・焼土がみられた。【その他の施設】ピットを1基確認した。径34cmの円形で、深さ15cm程である。柱痕跡は確認されなかった。【出土遺物】床面から土師器甕（第81図2）が出土したほか、須恵器壺（同図3）が出土している。また、周溝から土師器甕（写真40-9）が出土した。

(3) 溝跡

SD2444 溝跡（第64・65図）

調査区北東側で検出された南北方向に延びる溝跡で、方向はN-19°-Wである。P82・83より新しく、P34・38・39・51・52より古い。規模は検出長10.4m程で、上端幅35～50cm、下端幅20～40cm、深さ15cm程である。断面形は皿形を呈し、堆積土は単層である。遺物は須恵器小片が1点、土師器小片が出土している。



遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
SD2446	1	H03E3-3 黒褐色	シルト	黄褐色粘土質シルトを混在させる。
	2	H03E2-3 黒褐色	シルト	炭化物を少量、黒色粘土ブロック・明黄褐色粘土ブロックを含む。
SK2454	1	H03E2-3 黒褐色	粘土質シルト	明黄褐色粘土ブロック、炭化物を少量含む。
	2	H03E2-3 黒褐色	シルト	オレンジ褐色シルト・黒褐色粘土ブロックを含む。
	3	H03E0-9 明黄褐色	シルト	
SK2456	1	H03E2-3 黒褐色	シルト	黒褐色粘土を含む。
	2	H03E2-3 黒褐色	シルト	黒褐色粘土・緑褐色赤褐色粘土ブロックを含む。
SX2458	1	H03E3-1 緑褐色	シルト	黄褐色粘土質シルトを少量含む。

第 82 図 溝跡・土坑・性格不明遺構断面図

SD2445 溝跡 (第 64・65 図)

調査区中央部で検出された南北方向に延びる溝跡である。SD2449 溝跡より新しい。上端幅 1.1m、下端幅 30cm、深さ 50cm 程である。断面形は逆三角形を呈し、堆積土は 4 層である。遺物は土師器片が少量出土している。

SD2446 溝跡 (第 65・82 図)

調査区南東側で検出された東西方向に延びる溝跡である。P110・228・230・231・232・237 より新しく、P109・236 より古い。検出長は約 3.0m で、上端幅が 25～45cm、下端幅が 20～30cm である。深さは約 10cm で、断面形は皿形を呈する。堆積土は単層である。遺物は土師器小片が少量出土している。

SD2447 溝跡 (第 65 図)

調査区南東側で検出された南北方向に延びる溝跡である。P247 より新しい。規模は検出長が約 1.2m で、上端幅が約 30cm、下端幅が約 23cm である。深さは 3～6cm で、断面形は皿形を呈する。堆積土は単層である。遺物は土師器小片が少量出土している。

SD2448 溝跡 (第 64・65・83 図)

調査区中央部で検出された南北方向に延びる溝跡で、方向は N-17°-W である。SI2441、SX2459 より新しい。規模は検出長 6.8m、上端幅 50cm、下端幅 30cm、深さ 18cm 程である。断面形は皿形を呈し、堆積土は単層である。遺物は土師器環の小片 (第 83 図 1) などが出土している。

SD2449 溝跡 (第 64・65・83・84 図)

調査区中央部で検出された南北方向に延びる溝跡で、方向は N-18°-W である。SD2445 溝跡より古く、SI2441 竅穴住居跡、SD2450・2451 溝跡より新しい。規模は検出長 8.3m、上端幅 1.7～2.2m、下端幅 30～50cm、深さ 1.2m 程である。断面形は逆台形を呈する堆積土は 7 層確認した。下層は円礫を多く含んでいる。遺物は須恵器の甕とみられる破片 (第 83 図 4) や、土師器の環 (写真 41-9)、蓋 (第 83 図 2)、須恵器高台付杯 (同図 3)、磨石 (第 84 図 1～3ほか) が多数出土しており、漆が付着したもの (写真 41-15) もある。

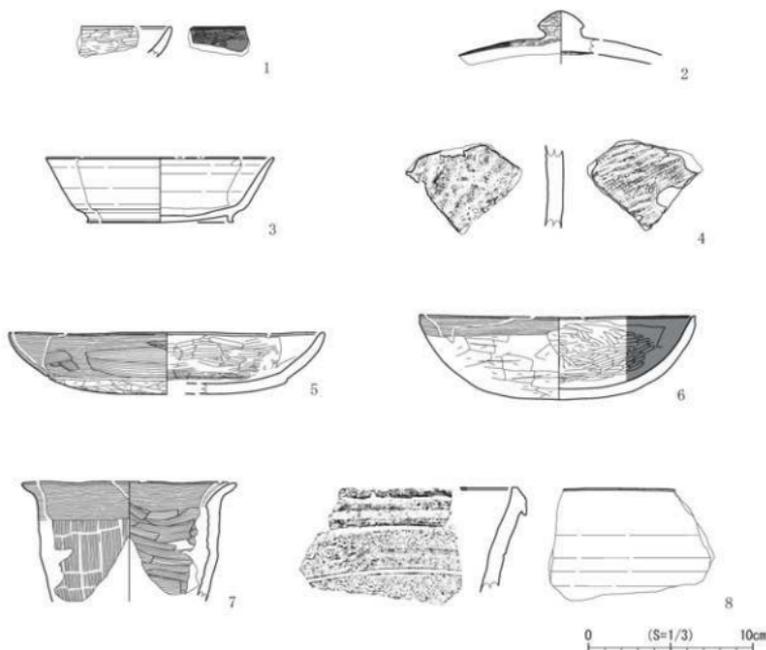
SD2450 溝跡 (第 64・65 図)

調査区中央部で検出された北西から南東方向に延びる溝跡である。SD2449 溝跡より古い。規模は検出長

2.7m、上端幅1.0m、下端幅20cm、深さ70cm程で断面形は皿形を呈する。堆積土は5層確認した。遺物は土師器片や磨石が出土している。

SD2451 溝跡 (第65・78・83図)

調査区中央部やや西よりで検出された、北西から南東方向に延びる溝跡で方向はN-38°-Wである。SD2449 溝跡、P251・264より古く、SI2441・2442 堅穴住居跡、SX2462 性格不明遺構より新しい。規模は検出長6.3m、上端幅0.9~1.0m、下端幅0.5~0.8m、深さ26cm程である。断面形は逆台形を呈し、底面は比較的平坦である。堆積土は



調査 番号	発見 番号	出土 遺構	層位	種別	形状	法量 (cm)			外周	内面	備考	写真 図説
						口徑	底径	深さ				
1	C-1307	SD2448	準積土	土師器	環	—	—	(1.9)	ヘラミガキ	ヘラミガキ 黒色処理	—	—
2	C-1304	SD2449	準積土	土師器	蓋	(12.4)	—	(3.3)	ヘラミガキ・ケズリ 黒色処理	ヘラミガキ 黒色処理	定規筋のつきみ	41-1
3	E-626	SD2449	準積土	灰煎器	高台付 環	(13.9)	(9.6)	4.6	ロクロナデ 底：割断ヘラミガキ	ロクロナデ	—	41-2
4	E-627	SD2449	準積土	土師器	甕	—	—	—	—	あて瓦板	—	41-3
5	C-1306	SD2451	準積土	土師器	環	(19.3)	(14.4)	3.8	口：ヨコナデ・ヘラミガキ 体：黒いヘラミガキ	ヘラミガキ	—	41-4
6	C-1305	SD2451	準積土	土師器	環	(16.9)	—	5.1	口：ヨコナデ 体：ヘラミガキ一部・ヘラミガキ	ヘラミガキ 黒色処理	—	41-5
7	C-1299	SD2451	準積土	土師器	甕	(13.2)	—	(7.4)	口：ヨコナデ 体：ハケメ	口：ヨコナデ 体：黒いヘラミガキ	—	41-6
8	E-623	SD2451	準積土	灰煎器	甕	—	(6.9)	—	一条の穴跡の上下にやや傾いた蓋状跡	ロクロナデ	—	41-7
-	C-1300	SD2451	準積土	土師器	甕	—	6.7	(25.0)	ナデ 底：木炭層	ヘラミガキ	写真掲載のみ	41-8
-	C-1302	SD2449	準積土	土師器	環	—	—	—	口：ヨコナデ 体：ヘラミガキ	口：ヨコナデ 体：ミミガキ	写真掲載のみ	41-9
-	E-630	SD2451	準積土	灰煎器	甕	—	(6.4)	—	平行タタキ	ナデ	写真掲載のみ	41-10

第83図 溝跡出土遺物

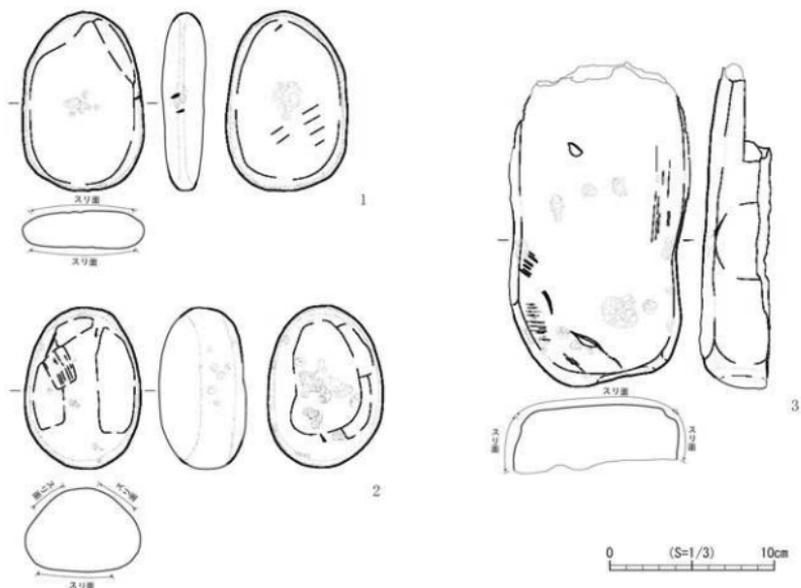
5層確認した。遺物は土師器の坏（第83図5・6）や、甕（同図7、写真41-8）、須恵器甕（同図8、写真41-10）などが出土している。

SD2452 溝跡（第64図）

調査区西端で検出された北東から南西方向に延びる溝跡で、方向はN-4°-Wである。SI2442 堅穴住居跡より新しい。規模は検出長6.8m、上端幅1.1m、下端幅30cm、深さ60cm程である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は8層確認した。遺物は土師器・須恵器の小片が出土したほか、鉄滓が1点出土している。

SD2453 溝跡

調査区中央部で検出された北西から南東方向に延びる溝跡で、方向はN-44°-Wである。P199より古い。規模は検出長3.7m、上端幅0.8m、下端幅0.6~0.7m、深さ11cm程である。断面形は皿形を呈する。堆積土は単層である。遺物は土師器の小片が出土している。



調査 番号	発見 番号	出土 遺構	層位	種別	材質	法量 (cm)			備考	写真 図説
						長さ	幅	厚さ		
1	K-396	SD2449	堆積土	礎石跡	礎石	11.0	7.4	2.6	断面2面 重さ230g	41-11
2	K-387	SD2449	堆積土	礎石跡	礎石	10.0	7.1	5.2	断面2面 重さ350g	41-12
3	K-389	SD2449	堆積土	礎石跡	礎石	29.0	10.1	13.0	断面2面 重さ1490g	41-13
-	K-386	SD2449	堆積土	礎石跡	礎石	12.3	9.0	2.6	重さ 80g 写真掲載のみ	41-14
-	K-390	SD2449	堆積土	礎石跡	礎石	7.7	7.4	2.6	重さ 100g 写真掲載のみ	41-15
-	K-382	SD2457	堆積土	礎石跡	礎石	11.7	5.0	3.1	重さ 280g 写真掲載のみ	41-16
-	K-383	SD2457	堆積土	礎石跡	礎石	5.3	5.4	3.0	重さ 122g 写真掲載のみ	41-17
-	K-384	SD2457	堆積土	礎石跡	礎石	8.0	4.5	3.3	重さ 150g 写真掲載のみ	41-18

第84図 溝跡・土坑出土遺物

(4) 土坑

SK2454 土坑 (第82図)

調査区の東部で検出された。P68・233より新しい。平面形は楕円形を呈し、規模は東西約1.75m、南北約1.0mで、深さは約30cmである。断面形は皿形を呈する。堆積土は3層に細分した。遺物は磨石1点のほか、土師器の小片が出土した。

SK2456 土坑 (第82図)

調査区中央部で検出された。平面形は楕円形で、規模は東西1.0m、南北74cm、深さ20cmである。断面形は逆台形を呈する。堆積土は2層に細分した。遺物は土師器・須恵器の小片が少量出土した。

SK2457 土坑

調査区の西側で検出された。SI2442 竪穴住居跡より新しい。平面形は円形で、規模は直径約62cm、深さは7cm程である。断面形は皿形を呈する。堆積土は2層に細分した。2層上面では炭化物が層状に堆積していた。遺物は土師器の小片や、磨石(写真41-16～18ほか)、鉄滓片が1点出土した。

(5) 性格不明遺構

SX2458 性格不明遺構 (第82図)

調査区の南東部で検出された。P222より古い。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は南北約2.6m、東西0.85～0.95mで、深さは約10cmである。断面形は皿形を呈する。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX2459 性格不明遺構 (第64図)

調査区の中央南端で検出された。SD2448 溝跡より古い。平面形は楕円形で、検出規模は東西2.3m、南北1.1m深さ5cm程である。断面形は皿形を呈する。堆積土は単層である。遺物は土師器片が少量出土した。

SX2460 性格不明遺構

調査区の南東部で検出された。SX2461 性格不明遺構より新しい。平面形は歪な楕円形を呈する。規模は南北が1.5m以上、東西が0.8m以上で、深さは8～14cmである。断面形は皿形を呈する。堆積土は単層である。遺物は土師器の小片が少量出土した。

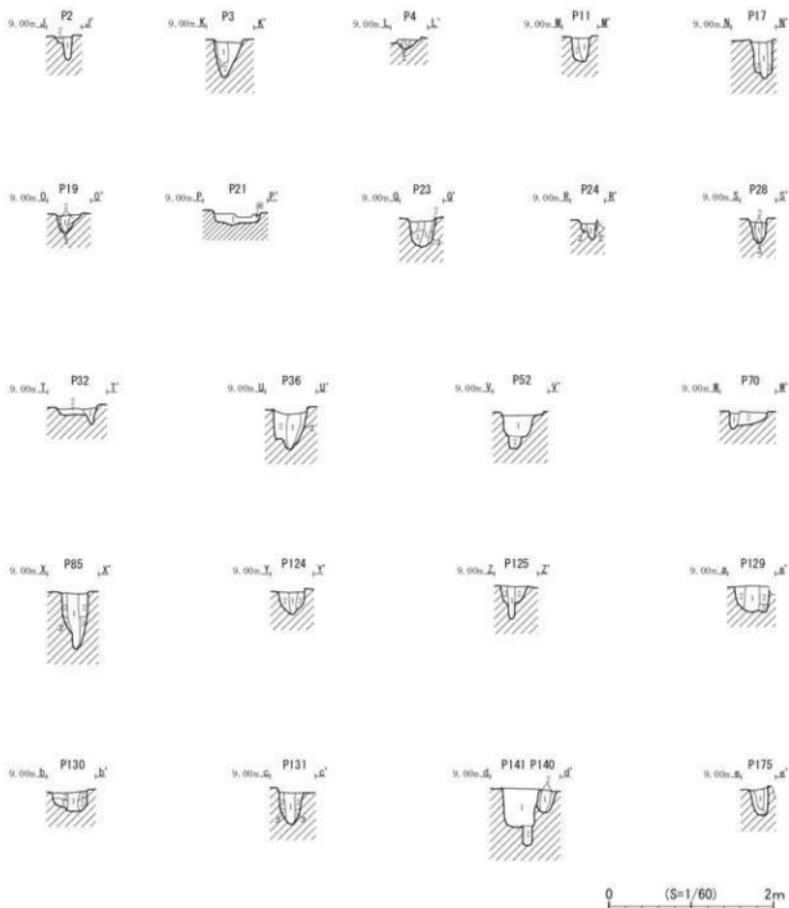
SX2461 性格不明遺構

調査区の南東部で検出された。SX2460 性格不明遺構・P200より古い。平面形は歪な隅丸長方形を呈する。規模は南北が1.6～1.7m、東西が1.0～1.1mで、深さは約5～10cmである。断面形状は皿形を呈する。堆積土は単層である。遺物は土師器の小片が少量出土した。

SX2462 性格不明遺構 (第78・79図)

調査区北西端で検出された。SD2451 溝跡よりも古く、SI2442 竪穴住居跡よりも新しい。平面形は歪な楕円形を呈する。検出規模は東西1.5m、南北0.4m、深さ60cm以上である。断面形状は歪な方形を呈し、壁面はやや直立気味に立ち上がる。堆積土は7層確認した。遺物は土師器の小片や磨石が少量出土した。

第4節 第276次調査



遺構名	層位	色調	土質	備考・埋入物
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	柱痕跡。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	堀方。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトを少量含む。柱痕跡。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	礫層ブロックを含む。堀方。
P4	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	柱痕跡。
	2	10YR5/9 黄褐色	粘土質シルト	礫層ブロックを含む。堀方。
P11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色ブロックを少量含む。柱痕跡。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	堀方。
P17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	柱痕跡。
	2	10YR5/9 黄褐色	シルト	礫層ブロックを含む。堀方。
P19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	明黄褐色を少量含む。柱痕跡。
	2	10YR6/9 明黄褐色	シルト	暗褐色粘土ブロックを含む。堀方。
	3	10YR6/9 明黄褐色	シルト	に白い黄褐色粘土ブロックを含む。堀方。
P21	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	明黄褐色シルトブロックを少量含む。
P141 P140	1			
	2			
P175	1			

第85図 ビット断面図

ピット堆積土註記表

遺構名	層位	色調	土質	備考・混入物
P23	1	10YR3-2暗褐色	シルト	柱状跡。
	2	10YR3-4暗褐色	シルト	明黄褐色粘土を少量含む。磁方。
	3	10YR6-9黄褐色	粘土	暗褐色粘土ブロックを少量含む。
P24	1	10YR3-3暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。柱状跡。
	2	10YR4-6褐色	シルト	暗褐色粘土ブロックを含む。磁方。
P28	1	10YR3-3暗褐色	シルト	柱状跡。
	2	10YR5-6黄褐色	シルト	磁方。
	3	10YR3-3暗褐色	粘土	磁方。
P32	1	10YR3-3暗褐色	シルト	柱状跡。
	2	10YR3-4暗褐色	シルト	明黄褐色シルトを塊状に含む。磁方。
P36	1	10YR3-3暗褐色	シルト	褐色ブロック、炭化物を少量含む。柱状跡。
	2	10YR4-6褐色	シルト	暗褐色粘土質シルトブロックを含む。磁方。
P52	1	10YR3-2黄褐色	シルト	磁器ブロックを中を含む。切欠。
	2	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	磁器ブロックを少量含む。柱状跡。
P70	1	10YR3-3暗褐色	シルト	柱状跡。
	2	10YR4-4褐色	シルト	磁器ブロックを含む。磁方。
P65	1	10YR3-2黄褐色	粘土質シルト	柱状跡。
	2	10YR3-4暗褐色	粘土質シルト	黄褐色シルトを小ブロック状に含む。磁方。
	3	10YR3-4暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック。砂粒を少量含む。磁方。
P96	1	10YR3-4暗褐色	粘土質シルト	炭化物をわずかに含む。柱状跡。
	2	10YR3-4暗褐色	粘土質シルト	磁器主体。黄褐色シルト、暗褐色粘土質シルトブロックを含む。磁方。
	3	10YR4-1暗褐色	砂質シルト	磁器主体。暗褐色粘土質シルトブロックを少量、砂を含む。磁方。
P124	1	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	明黄褐色ブロックを少量含む。柱状跡。
	2	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	磁器ブロックを含む。磁方。
P125	1	10YR3-4暗褐色	粘土質シルト	柱状跡。
	2	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルトを塊状に含む。磁方。
P129	1	10YR3-3暗褐色	シルト	黄褐色粘土ブロックを含む。柱状跡。
	2	10YR4-6褐色	シルト	黄褐色粘土ブロック・磁器ブロックを含む。磁方。
	3	10YR3-4暗褐色	シルト	磁器主体。黄褐色粘土質シルトを少量含む。磁方。
P130	1	10YR3-4暗褐色	粘土質シルト	炭化物をごくわずかに。黄褐色を塊状に含む。柱状跡。
	2	10YR3-4暗褐色	粘土質シルト	明黄褐色土を含む。磁方。
	3	10YR5-9黄褐色	砂	暗褐色粘土質シルトブロックを含む。磁方。
P131	1	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	柱状跡。
	2	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	黄褐色砂質シルトブロックを含む。磁方。
	3	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	暗褐色粘土質シルト・砂を少量含む。磁方。
P140	1	10YR3-4暗褐色	粘土質シルト	柱状跡。
	2	10YR4-6褐色	シルト	磁方。
P141	1	10YR4-6褐色	シルト	磁器ブロックを少量含む。切欠。
	2	10YR4-1褐色	粘土質シルト	柱状跡。
P175	1	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	炭化物を少量。にぶい黄褐色シルトを塊状に含む。柱状跡。
	2	10YR5-1にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土ブロック。下部に砂を含む。磁方。

ピット出土遺物観察表

調査番号	発見番号	出土遺構	層位	種別	図録	法量 (cm)			備考	写真図録
						長さ	幅	厚さ		
-	K-365	P52	塚層土	石製品	紙石	6.5	1.1 1.1 2.2	1.1 1.8	重さ: 29.6g 写真掲載のみ	80-10
-	S-157	P210	塚層土	鉄製品	刀子	5.9	1.2 1.8	0.6	重さ: 1.9g 写真掲載のみ	80-12
-	Q-10	P121	塚層土	漆	天下の漆	-	-	-	重さ: 総重4.6g 写真掲載のみ	80-11

(6) ピット (第85図)

今回の調査では、全体で約300基のピットを検出した。調査区の東側に多く密集しており、平面形は円形を呈するものが大半を占める。柱状跡が検出されたピットは23基である。遺物は主に土師器の小片が出土しているが、一部のピットからは動物の歯 (P121・写真40-11) や、砥石 (P52・写真40-10)、刀子 (P210・写真40-12) などが出土している。建物跡などを構成するような組み合わせは、本調査区内では確認されなかった。

5. まとめ

今回の第276次調査地点は郡山遺跡の南西部にあたり、長町駅東遺跡に隣接する。これまで行われた周辺の調査では、Ⅰ期・Ⅱ期官衙期の堅穴住居跡や溝跡等 (第112次) が確認されている。今回の調査では基本層Ⅲ層上面で、材木列跡1条 (SA2435)、堅穴住居跡8軒 (S12436～2443)、溝跡9条 (SD2444～2453)、土坑3基 (SK2454・2456・2457)、性格不明遺構5基 (SX2458～2462)、ピット約300基を検出した。

SA2435材木列跡は、方向からⅡ期官衙に関連する遺構の可能性が高いが、方四町Ⅱ期官衙の外溝南西隅から約

200m 離れていることや、検出範囲がわずかであることから詳細は不明である。

竪穴住居跡のうち、床面出土遺物のある住居跡は SI2436・2438・2440・2441・2443 の5軒である。官衙城の出土遺物と、同時期の遺物が出土しており、これまで周辺の調査で確認されている竪穴住居跡と同様、官衙と密接な関わりのある住居群と考えられる。郡山遺跡の南西部における調査事例は多くないが、今後周辺の調査が進むことで、長町駅東遺跡で確認されている竪穴住居跡との連続性などを検討することが可能になると考えられる。溝跡については、SD2449・2451 溝跡が官衙期の溝跡である可能性が考えられる。また SD2444 溝跡は第112次調査で検出された SD1699 溝跡に連続する溝の可能性もある。その他の溝跡については、詳細は不明である。

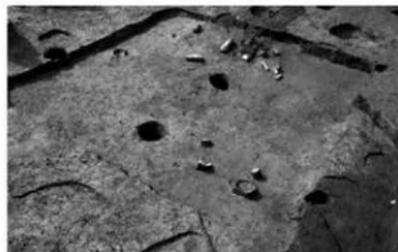
今回の第276次調査では、郡山遺跡の南西部において、郡山官衙期と考えられる材木列跡や竪穴住居跡が検出された。官衙の周辺にどのように遺構が分布するのか、これまでの調査成果や、今後の調査事例を重ねて検討を行っていく必要がある。

引用・参考文献

- 仙台市教育委員会 1997 『郡山遺跡 一第112次発掘調査報告書一』 仙台市文化財調査報告書第222集
仙台市教育委員会 2005 『郡山遺跡発掘調査報告書 総括編(1)』 仙台市文化財調査報告書第283集



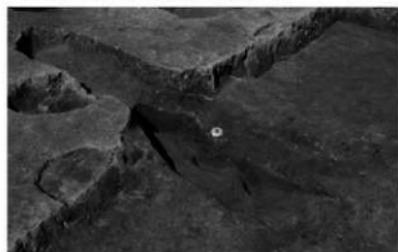
1. SA2435 材木列跡完掘状況 (南西から)



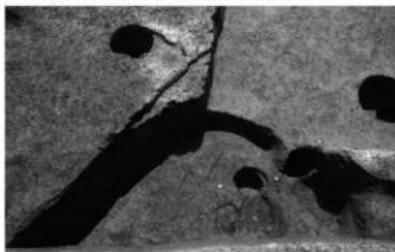
2. SI2436 床面検出状況 (南東から)



3. SI2436 カマド遺物出土状況 (南東から)



4. SI2436 カマド煙道土層断面 (南西から)



5. SI2437 床面完掘状況 (東から)



6. SI2437 完掘状況 (南西から)



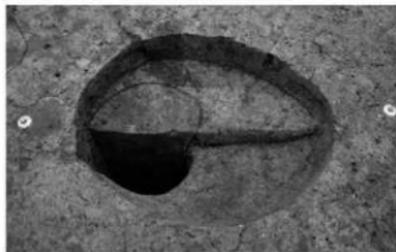
7. SI2438 土層断面 (西から)



8. SI2438 土層断面 (南から)



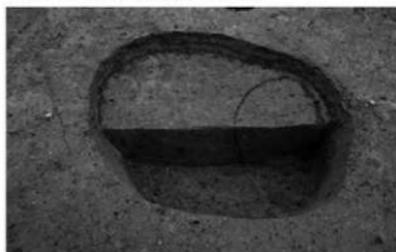
1. S12438 床面完掘状況 (南から)



2. S12438-P5 土層断面 (南から)



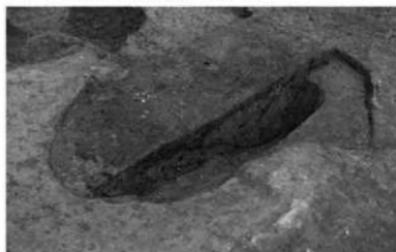
3. S12438-P6 土層断面 (南から)



4. S12438-P7 土層断面 (南から)



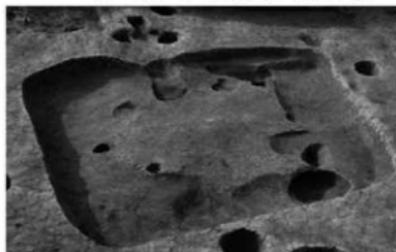
5. S12438-P11 土層断面 (西から)



6. S12438 カマド内ビット土層断面 (北西から)



7. S12438 床面検出状況 (南から)



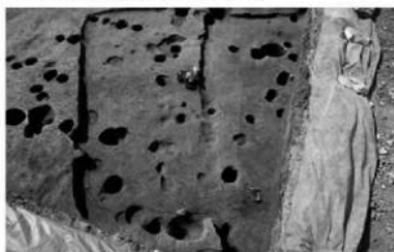
8. S12438 完掘状況 (南西から)



1. SI2439 床面完掘状況 (南から)



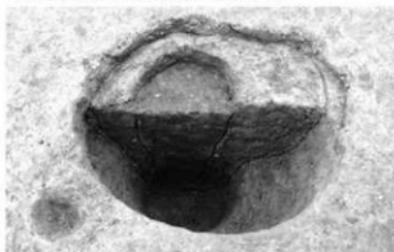
2. SI2439-P4 土層断面 (南から)



3. SI2440 床面検出状況 (南東から)



4. SI2440 土層断面 (南東から)



5. SI2440-P3 土層断面 (南から)



6. SI2440 遺物出土状況 (南から)



7. SI2439・2440 完掘状況 (南西から)



8. SI2441 床面・遺物検出状況 (南東から)



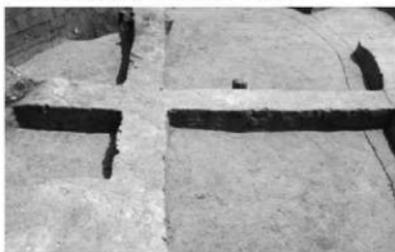
1. SI2441 床面検出状況 (南西から)



2. SI2441 炭化物層土層断面 (南から)



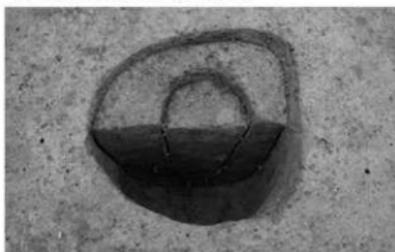
3. SI2441 床面完掘状況 (南から)



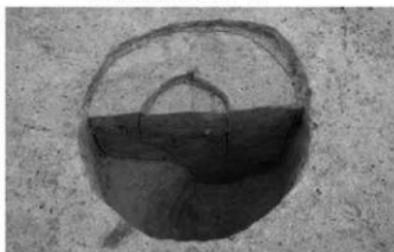
4. SI2442 土層断面 (南西から)



5. SI2442 床面検出状況 (北から)



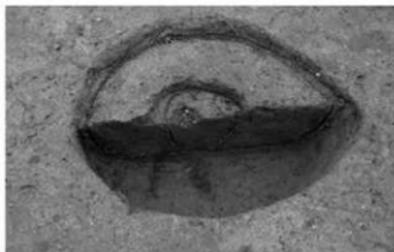
6. SI2442-P1 土層断面 (南から)



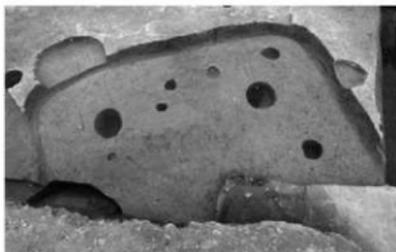
7. SI2442-P2 土層断面 (南から)



8. SI2442-P3 土層断面 (南から)



1. SI2442-P4 土層断面 (南から)



2. SI2442 床面完掘状況 (北から)



3. SI2443 床面検出・遺物出土状況 (東から)



4. SI2443 カマド煙道部土層断面 (東から)



5. SI2443 床面検出・遺物出土状況 (南から)



6. SI2443 掘り方完掘状況 (東から)



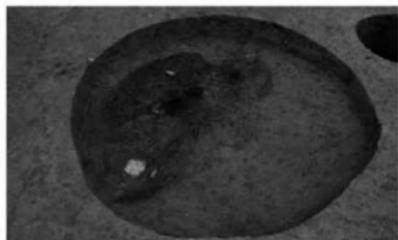
7. SI2443 南壁土層断面 (北から)



8. SI2448・2449 完掘状況 (南から)



1. SD2451 遺物出土状況（南東から）



3. SK2457 底面炭化物出土状況（南から）



2. SD2452 完掘状況（北から）



4. 北東側調査区調査区全景（南から）



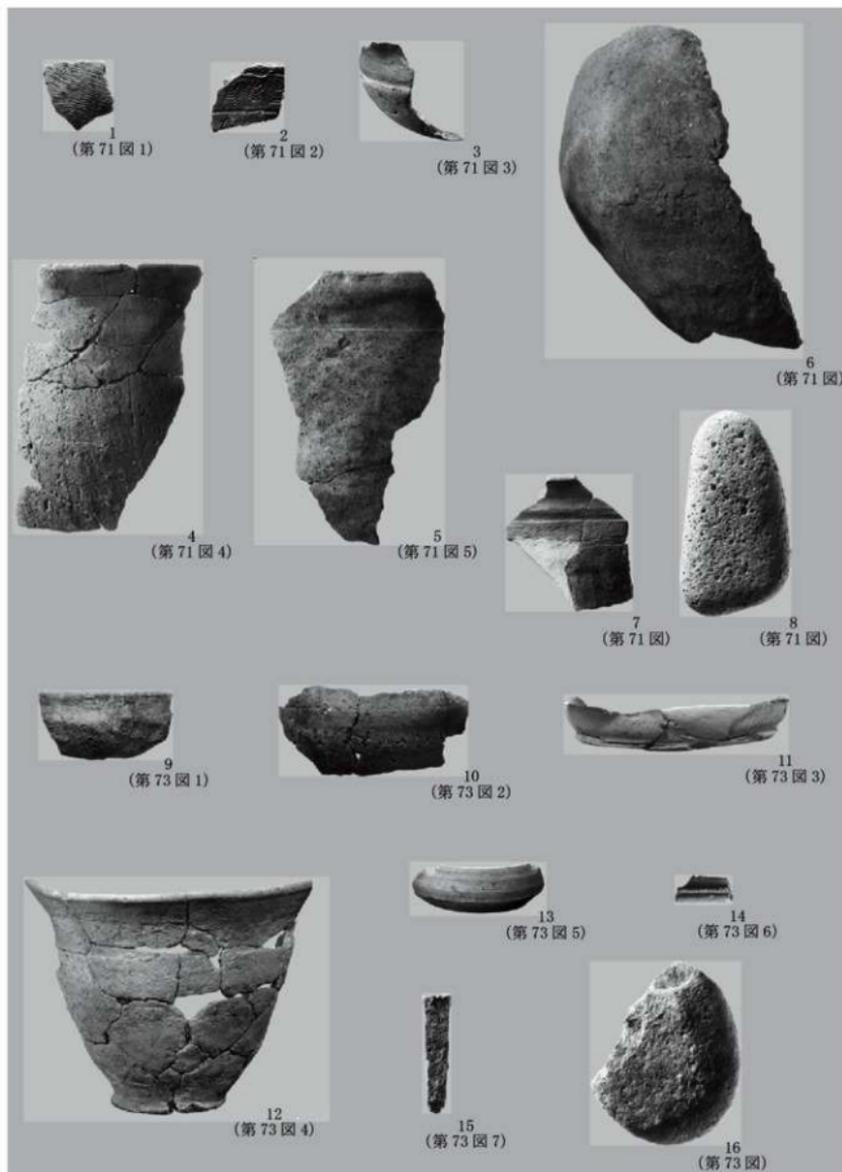
1. 調査区全景（南東から）



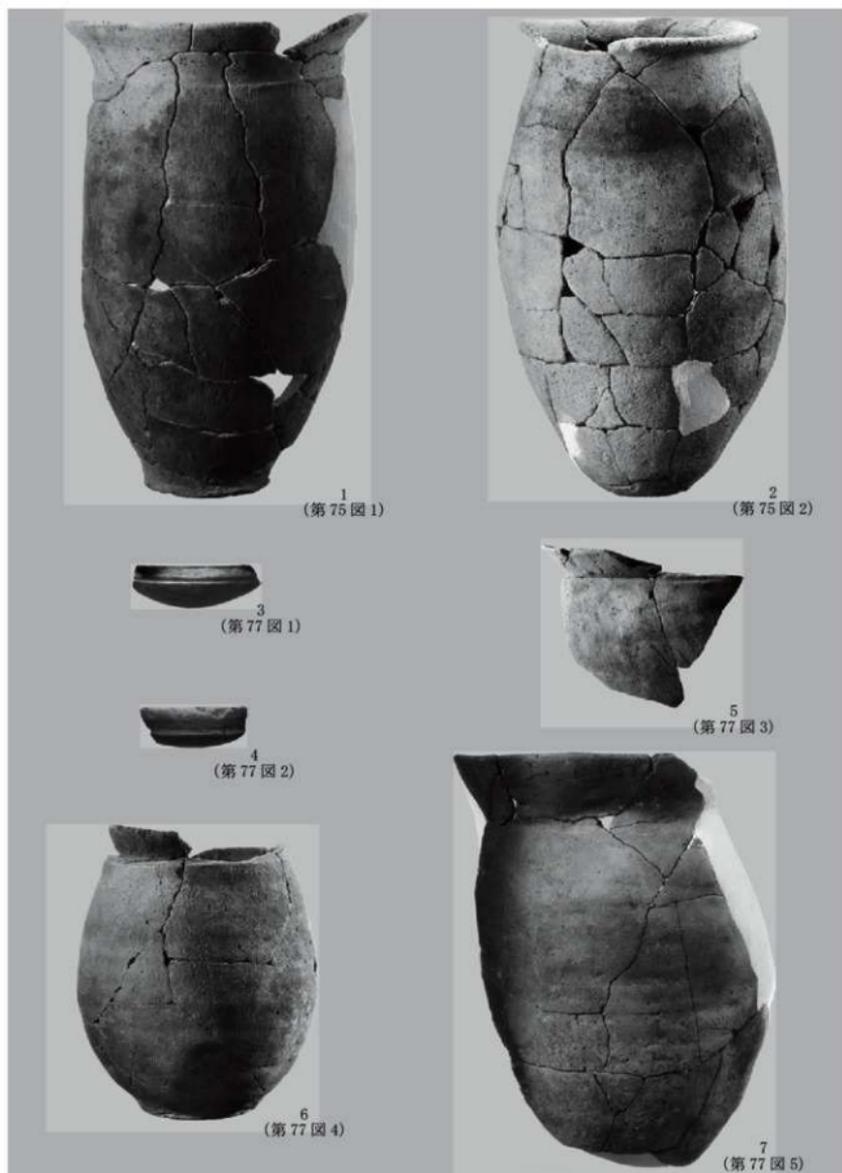
2. 調査区全景（南西から）



写真図版 37 郡山遺跡第276次調査出土遺物(1)



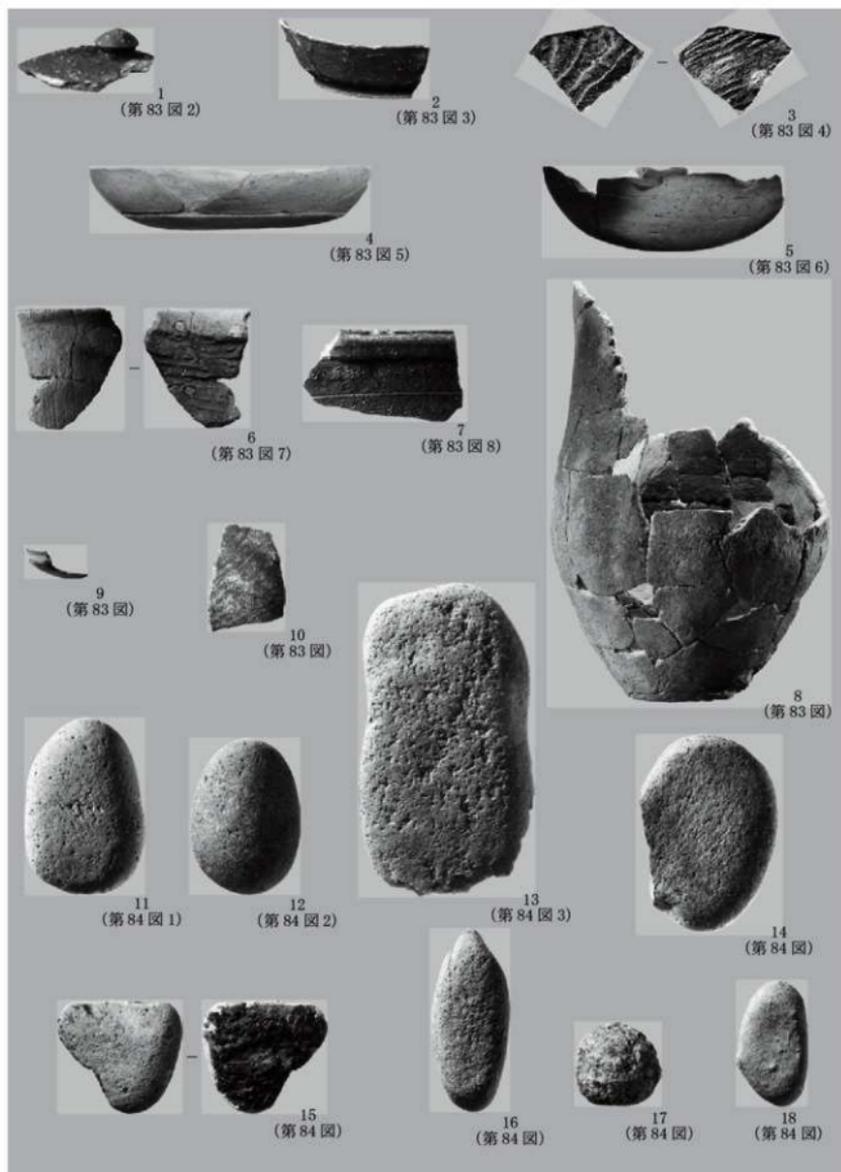
写真図版 38 郡山遺跡第276次調査出土遺物(2)



写真図版 39 郡山遺跡第276次調査出土遺物(3)



写真図版 40 郡山遺跡第276次調査出土遺物(4)



写真図版41 郡山遺跡第276次調査出土遺物(5)

第5節 第278次調査

1. 調査要項

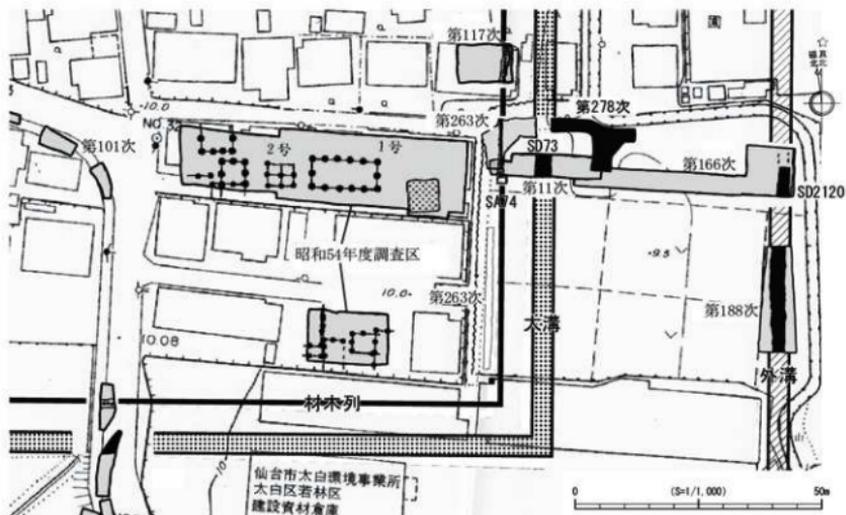
遺跡名	郡山遺跡（宮城県遺跡登録番号01003）
調査地点	仙台市太白区郡山三丁目208-1、208-3
調査期間	平成30年3月2日～3月14日
調査対象面積	114.80㎡
調査面積	約76.2㎡
調査原因	道路整備工事および上下水道本管理設工事を伴う造成工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係・整備活用係
担当職員	調査調整係 主事 三浦一樹 整備活用係 文化財教諭 三浦昂也

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成29年11月30日付で申請者より提出された「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」（平成29年12月11日付H29教生文第103-064号で回答）に基づき、平成30年3月2日～3月14日に実施した。

本調査は対象地内に面積約76.2㎡の調査区を設定した。重機を用いて基本層1層を除去し、II層上面で遺構検出作業をおこなった。その結果、溝跡4条および自然流路跡を検出した。その後、遺構精査をおこなった。調査では適宜、平面図（S=1/40）および断面図（S=1/20）を作成した。写真記録はデジタルカメラにより撮影した。

遺構精査および記録保存終了後、現場を申請者側に引き渡し、調査を終了した。



第86図 第278次調査区位置図

3. 基本層序

今回の調査では基本層を3層確認した。今回遺構検出作業をおこなったのはII層上面である。

I a 層：10YR5/6 にぶい黄褐色シルト。10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に多く含む。現耕作土である。

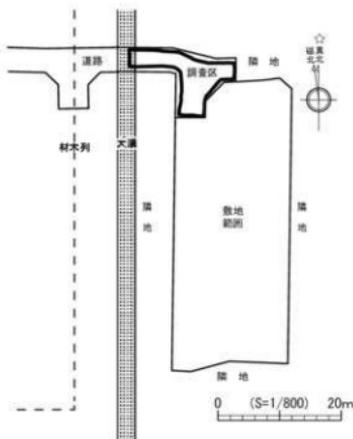
I b 層：10YR4/1 褐色シルト。天地返し土である。

II 層：2.5Y7/4 浅黄色シルト。マンガング粒、酸化鉄を斑状に含む。今回の遺構検出面である。

III 層：2.5Y8/2 灰白色粘土質シルト。酸化鉄を斑状に含む。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、第11・166・263次調査で確認されていたSD73およびSD76、SD78、SD2385溝跡のほかに、SD2465溝跡を検出した。なお、今回の調査でSD78溝跡は自然流路跡であることを確認した。



第87図 第278次調査区配置図

SD73 溝跡 (第89・90図)

調査区西側のII層上面で検出した。南北方向に延びる溝跡である。その位置から、第11次調査で確認されたSD73溝跡の延長で、II期官衙の大溝と推定される。長さは2.5m以上、上端幅0.3m以上、深さ0.1～0.4m以上である。今回の調査では溝跡の東側の立ち上がりの一部のみを精査できた。

堆積土は単層である。遺物は東壁に張り付く形で須恵器甕の体部片が1点出土した(第90図1)。SD2385・2465溝跡に切られる。

SD78 溝跡 (第89図)

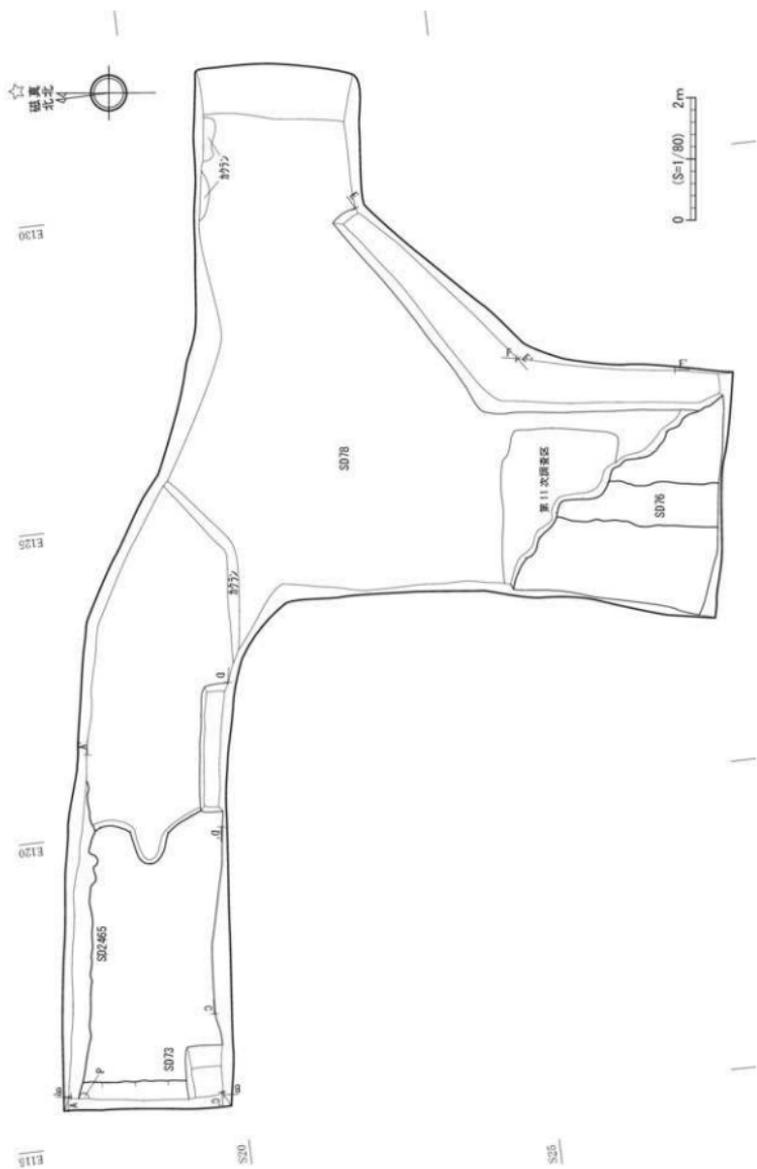
第11・166次調査で確認されたSD78溝跡を検出した。なお、今回過年度調査区の北側を広く精査した結果、本遺構は堆積状況などから自然流路跡と考えられる。北西-南東方向に向かって緩やかに屈曲する。検出長は直線距離で10.0m以上、幅は6.0m以上、深さは0.4m以上である。

また、本流路跡は第166次調査で検出されたSX2181性格不明遺構と堆積土の様相が類似することから同一の自然流路跡の可能性がある。SX2181性格不明遺構は、出土遺物からその時期は近世と考えられているため、今回の調査では一段掘り下げた段階で精査を終了した。堆積土は7層確認した。細砂～粗砂と粘質シルトが互層になっている。今回の調査では土師器・須恵器片や近世の瓦などが少量出土した。SD76溝跡を切る。

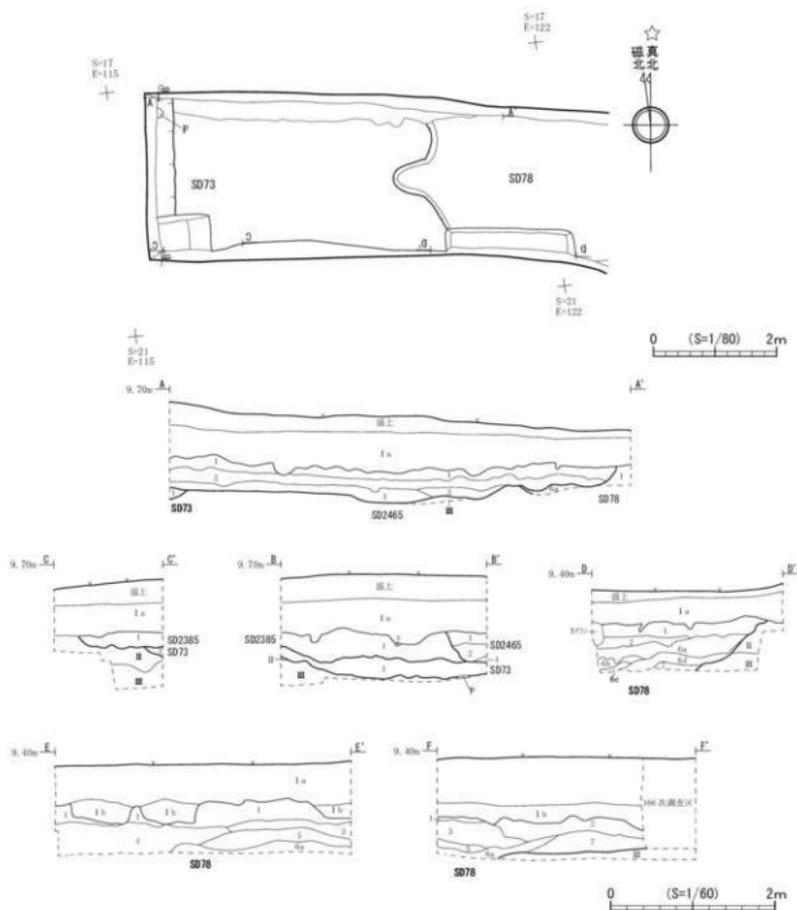
SD2385 溝跡 (第89図)

調査区西側の南・西壁において断面でのみ確認できた。南北方向に延びる溝跡と推測される。南・西壁断面図から、長さは2.3m以上、上端幅1.0m以上、深さ0.1～0.4m程度である。

堆積土は単層である。本溝跡の位置や標高、その形状から第263次調査で確認されたSD2385溝跡の延長である可能性がある。遺物は出土していない。SD2465溝跡に切られ、SD73溝跡を切る。



第88図 第278次調査区平面図(1)



遺構名	層位	土色	土性	備考
SD73	1	10YR3/1 黒褐色	粘質シルト	酸化鉄を粒状に少量含む。濃い黄褐色砂質シルトを層状に含む。マンガン粒を少量含む。
SD2385	1	10YR3/1 暗灰色	粘質シルト	酸化鉄を粒状に少量含む。濃い黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む。
	2	10YR3/2 灰黄褐色	粘質シルト	酸化鉄を塊状に含む。マンガン粒を少量含む。
SD2465	2	10YR3/2 灰黄褐色	粘質シルト	酸化鉄を塊状に含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	粘質シルト	酸化鉄を塊状に含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を塊状に含む。3層よりやや薄い。
	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	酸化鉄を塊状に多く含む。濃い黄褐色砂を少量含む。
自然遺跡跡 (SD78)	2	2.5YR3/2 暗灰黄色	粘質シルト	酸化鉄を塊状に多く含む。
	3	2.5YR3/2 に近い黄色	砂	1mm および 3mm 程度のオリゴ形砂と互層になる。酸化鉄を塊状に含む。
	3	10YR6/1 暗灰色	粘質シルト	酸化鉄を塊状に多く含む。灰白色粘質シルトブロックを多く含む。酸化鉄を塊状に含む。
	5	10YR7/1 灰白色	砂	酸化鉄を塊状に含む。2 ~ 3mm 程度の砂を含む。
	6a	10YR7/1 灰白色	砂質シルト	木片を少量含む。1mm 程度の砂を層状に含む。酸化鉄を塊状・層状に含む。
	6b	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色粘質シルトと互層になる。酸化鉄を塊状に含む。
	6c	10YR6/2 灰黄褐色	砂	灰黄褐色粘質シルトと互層になる。酸化鉄を塊状に含む。
	6d	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	木片を少量含む。1mm 程度の灰黄褐色砂を層状に含む。
	7	2.5Y7/2 灰黄色	砂	2 ~ 3mm 砂が主体となる。5mm 程度の砂をわずかに含む。

第 89 図 第 278 次調査区平面図 (2)・断面図

5. まとめ

今回の調査地点は、郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙の東辺南部、大溝の東側に位置する。今回の調査区は第11・166次調査の北側、第263次調査の東隣にあり、第11・166次調査区の一部に該当する。今回の調査では溝跡4条と自然流路跡を確認した。

Ⅱ期官衙の大溝であるSD73溝跡については、調査区西側で東側の立ち上がりを確認した。また、新たにSD2465溝跡を検出したが、その大部分は調査区外に延びるため全体形は不明である。さらに、SD2385溝跡と考えられる遺構も断面において確認した。SD2385溝跡が確認できる標高はおよそ8.6mであり、隣接する第263次調査で検出されたSD2385溝跡のそれとほぼ一致する。しかし、時期比定の可能な遺物が出土していないため、SD2385溝跡の可能性を指摘するに留める。なお、SD78溝跡は堆積土の層相から自然流路跡であると考えられ、第166次調査で検出されたSX2181性格不明遺構と同一の遺構の可能性がある。

参考文献

- 仙台市教育委員会 1982 『宮城県仙台市郡山遺跡Ⅱ』 仙台市文化財調査報告書第38集
仙台市教育委員会 2006 『宮城県仙台市郡山遺跡26』 仙台市文化財調査報告書第296集
仙台市教育委員会 2017 『杵形遺跡他発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第458集



1. SD2385・2465 溝跡検出状況（南東から）



2. SD78・2385・2465 溝跡検出状況（北東から）



3. SD73・76・78 溝跡検出状況（南東から）



4. SD73・76・78 溝跡検出状況（南から）



5. SD73 溝跡完掘状況（北から）



6. SD73 溝跡遺物出土状況（南東から）



7. SD2465 溝跡完掘状況（東から）



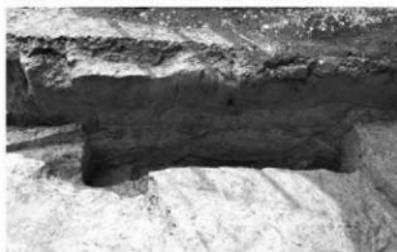
1. SD2385・2465 溝跡断面（南東から）



2. SD73・2385・2465 溝跡断面（東から）



3. SD73・2385 溝跡断面（北から）



4. SD78 溝跡断面（北から）



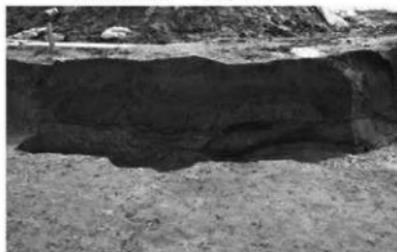
5. SD78 溝跡完掘状況 1（北から）



6. SD78 溝跡完掘状況 2（東から）



7. SD78 溝跡断面 1（北西から）



8. SD78 溝跡断面 2（北西から）



1. 調査区西側完掘状況（東から）



2. 調査区東側完掘状況1（東から）



3. 調査区東側完掘状況2（北西から）



4. 調査風景（北西から）



(第90図1)

5. SD73 溝跡出土遺物

第6節 第286次調査

1. 調査要項

遺 跡 名	郡山遺跡（宮城県遺跡登録番号01003）
調 査 地 点	仙台市太白区郡山三丁目2-2、2-6、2-7
調 査 期 間	平成30年9月13日～10月22日
調査対象面積	165.0㎡
調査面積	約134.75㎡
調査原因	汚水排水施設工事を伴う宅地造成工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 柳澤 楓 文化財教諭 尾形隆寛

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成30年7月12日付で申請者より提出された「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」（平成30年7月19日付H30教生文第105-050号で回答）に基づき実施した。

調査では対象地に、4.0×11.0m（南半）と6.0×15.0m（北半）の調査区を設定した。調査対象地は住宅に隣接していたため、調査区設定は安全面を考慮し、住宅と調査区の間に必要な幅をとり設定した。

重機により盛土（碎石を含む）およびⅠ・Ⅱ層の除去、人力によりⅢ層を除去した後、Ⅳ層上で遺構検出作業を行った。結果、竪穴住居跡1軒、溝跡7条、土坑4基、性格不明遺構1基、ピット36基を確認した。

調査では、適宜記録写真の撮影や平面図・断面図（S=1/20）の作成を行い進めた。



第92図 第286次調査区位置図

3. 基本層序

今回の調査では基本層を大別で5層、細別で11層確認した。今回遺構検出作業をおこなったのはIV層上面である。

I a 層：10YR3/1 黒褐色シルト。白色砂を含む。部分的な堆積層であり、層厚 20～40 cm である。

I b 層：10YR3/2 黒褐色粘土質シルト。炭化物（ ϕ 5～10mm）をわずかに含み、暗褐色粘土ブロックを少量含む。部分的な堆積であり、層厚 4～18 cm である。

I c 層：10YR3/3 暗褐色粘土質シルト。炭化粒（ ϕ 5 mm）・酸化鉄を少量含む。層厚 4～64 cm である。

I d 層：10YR3/3 暗褐色粘土質シルト。炭化粒（ ϕ 5 mm）・褐色粘土ブロックを含む耕作土である。層厚約 20 cm である。

II a 層：10YR4/4 褐色粘土質シルト。黒褐色粘土ブロック（ ϕ 5～10 cm）を斑状に含む耕作土である。部分的な堆積であり、層厚 10～30 cm である。

II b 層：10YR4/4 褐色粘土質シルト。炭化物（ ϕ 5～20mm）・白色砂を少量含む。天地返し層であり、耕作土である。層厚 10～30 cm である。

III a 層：10YR3/4 暗褐色粘土質シルト。IV層ブロック（ ϕ 2 cm）を少量含む。層厚 8～30 cm である。

III b 層：10YR3/3 暗褐色粘土質シルト。IV層ブロック（ ϕ 2 cm）を少量含む。部分的な堆積であり、層厚約 8 cm である。

III c 層：10YR3/4 暗褐色粘土質シルト。炭化粒・焼土粒（ ϕ 5 mm）少量含む。部分的な堆積であり、層厚約 14 cm である。

IV 層：10YR5/6 にぶい黄褐色粘土質シルト。暗褐色粘土を少量含む。今回の調査の遺構検出面である。部分的にグライ化している。層厚 40～50 cm である。

V 層：10YR4/6 褐色砂質シルト。酸化鉄（ ϕ 5 mm）を多量に含む。層厚は不明である。



第93図 第286次調査区配置図

4. 発見遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居跡

S12482 竪穴住居跡 (第95・96図)

【重複】SD2486・2487・2488 溝跡、SK2491 土坑と重複しており、各遺構より新しい。

【規模・形態】規模は、南北長 420 cm、東西検出長最大 260 cm である。平面形は方形を呈すると推定される。

【方向】カマドを基準にE-β-N である。

【堆積土】8層に分層した。1層は住居堆積土、2～6層はカマド関連の堆積土および構築土、7・8層は住居掘方埋土である。

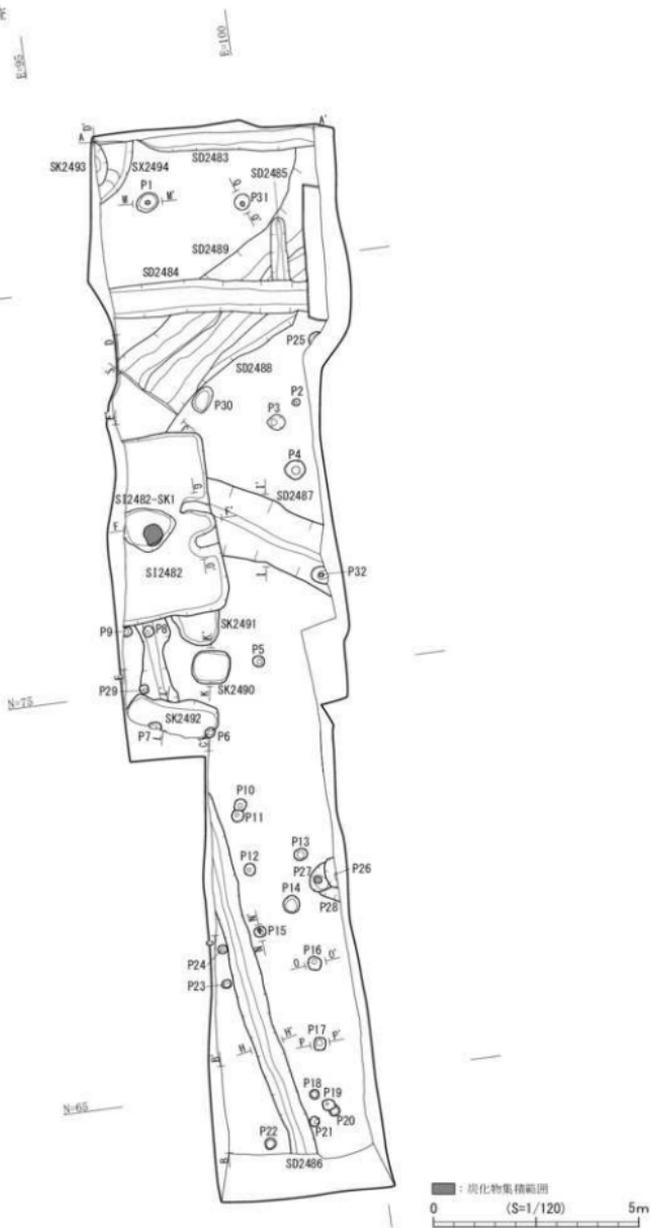
【壁面】やや外傾して立ち上がる。壁高は 14～30 cm である。

【床面】掘方埋土を床面としている。7層および8層上面が床面であり、概ね平坦である。

【柱穴】確認できなかった。

【周溝】確認できなかった。

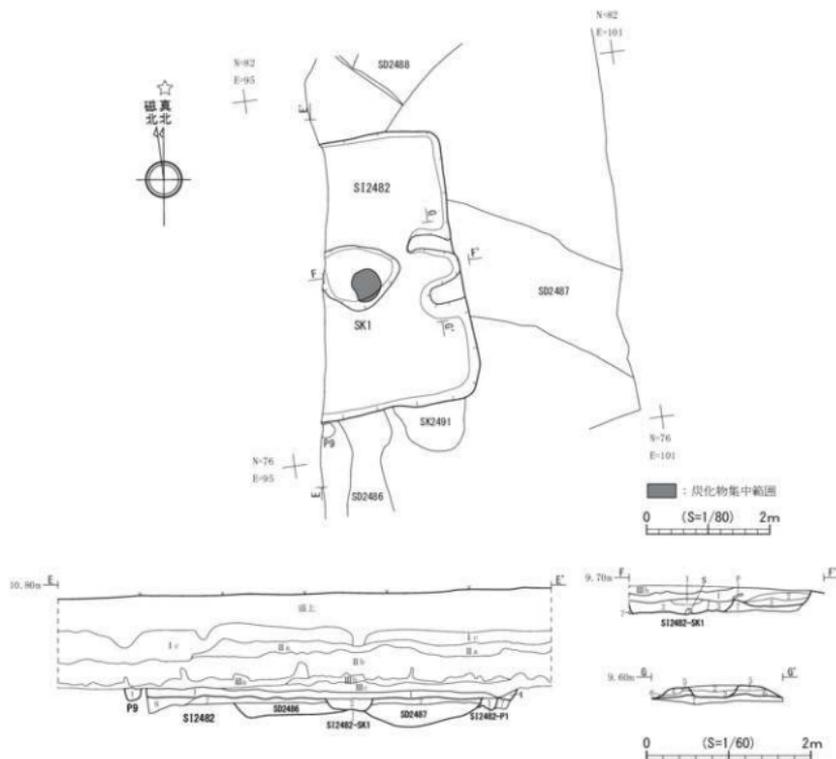
【カマド】住居東辺のほぼ中央部で確認した。袖部のみの確認で煙道は確認されなかった。袖の規模は、北袖が長さ 70 cm、幅 40 cm、南袖が長さ 74 cm、幅 66 cm で、袖はハの字状に付設されていた。燃焼部の規模は奥行き 74 cm、



第94図 第286次調査区平面図

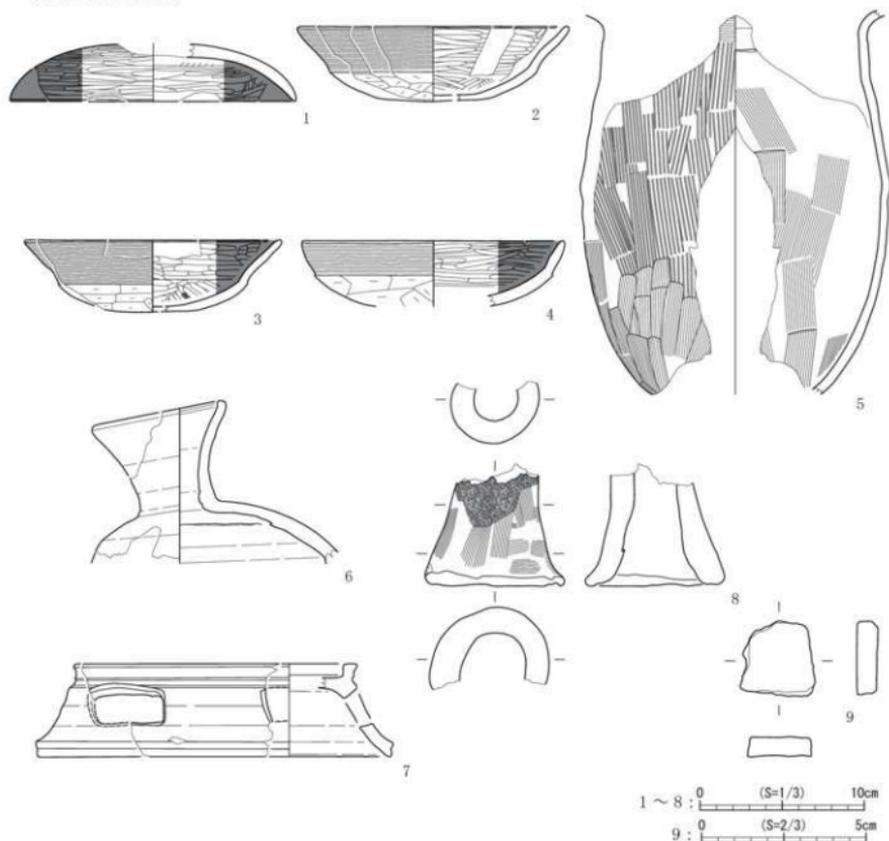
幅 60 cmであった。堆積土は、焼土・炭化物を多量に含んでいたが、底面で被熱痕跡は確認できなかった。

【その他の施設】床面で土坑1基 (SI2482-SK1)、ピット1基 (SI2482-P1) を確認した。SK1 土坑の平面形状は楕円形を呈する。規模は長軸 120 cm、短軸 100 cm、深さ約 18 cmで、堆積土は3層確認した。1層は炭化物を多量に含んでいた。遺物は土師器甕の底部が出土している。P1は壁断面で確認した。径約 20 cm、深さ 14 cmで柱痕跡は確認されなかった。



遺構名	層位	色調	土質	備考・埋入物
SI2482	1	10YR 2/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 1 ~ 5 cm) を多量、焼土 (φ 1 cm) を少量含む。
	2	10YR 2/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物 (φ 5 mm ~ 5 cm)・焼土 (φ 5 mm ~ 5 cm) を多量に含む。カマド。
	3	10YR 2/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 5 mm) をわずかに含む。カマド。
	4	10YR 2/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 2 cm) を少量含む。カマド跡。
	5	10YR 2/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロックを多量に含む。カマド跡。
	6	10YR 2/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 2 cm) を複数に含む。カマド跡。
	7	10YR 4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロックを複数に含む。住居痕跡。
	8	10YR 2/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 5 cm) を少量含む。住居痕跡。
SI2482-SK1	1	10YR 1/4 褐色	粘土	炭化物が残り (多量に含む)、IV層ブロック (φ 2 mm) をわずかに含む。
	2	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 5 mm) を少量含む。
	3	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロック (φ 5 cm) をわずかに含む。
SI2482-P1	1	10YR 2/3 暗褐色	粘土	はばり痕跡。

第 95 図 SI2482 竪穴住居跡平面・断面図



図版番号	登録番号	出土遺構	方位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-4	S12482	岸線土	土師器	甕	(17.4)	-	(3.5)	ヘラケズリ→ヘラミガキ 黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	胎土調査 1/5 残	49-1
2	C-5	S12482	カマド岸線土	土師器	罎	(16.4)	-	4.2	ロコロナダ 体:ヘラケズリ	ヘラミガキ	胎土調査 石灰・砂粒多く含む 経熱のため黒色処理が主 1/4 残	49-2
3	C-2	S12482	岸線土	土師器	甕	(15.6)	-	(4.4)	ロコロナダ 体:ヘラケズリ ナダ	ヘラミガキ→黒色処理	胎土調査 石灰・砂粒含む 1/8 残	49-3
4	C-1	S12482	岸線土	土師器	甕	16.0	-	(4.0)	ロコロナダ 体:ヘラケズリ	ヘラミガキ→黒色処理	胎土調査 石灰・砂粒・甍状骨片 含む 1/2 残	49-4
5	C-3	S12482	岸線土	土師器	甕	-	-	(23.2)	ロコロナダ 体上半:ヘラケズリ 体下半:ヘラナダ	ヘラナダ	胎土調査 石灰・砂粒含む 1/5 残	49-5
6	E-1	S12482	2	須恵器	平皿	(5.0)	-	10.0	ロコロナダ 部分的に自然釉	ロコロナダ	胎土調査 砂粒含む 口 2/3 残	49-6
7	E-2	S12482	岸線土	須恵器	円蓋縁	(17.2)	(21.6)	5.7	ロコロナダ	ロコロナダ	胎土調査 透かし孔付底面取り 透かし孔5個?	49-7

図版番号	登録番号	出土遺構	方位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
8	P-1	S12482	岸線土	土製品	羽口	(7.5)	(5.3 ~ 8.4)	-	ナダ ユビオサエー 経熱のため変色 重さ 177.8g	49-8

図版番号	登録番号	出土遺構	方位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						長径	短径	厚さ		
9	N-1	S12482	岸線土	地金7	-	2.3	2.3	0.6	厚さも均一な平板状 重さ 12.1g	49-9
-	N-2	S12482	岸線土	鉄片	-	-	-	-	厚さも均一な平板状 重さ 12.1g	49-10

第96図 S12482 竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】須恵器、土師器、土製品、鉄片、鉄滓などが出土した。

須恵器には平瓶や円面硯がある。平瓶(第96図6)は、口縁部から肩部が残存している。全体的に丸みを帯びており、口縁端部が僅かに内傾している。円面硯(7)は陸部から脚部にかけて、およそ1/4程度が残存している。脚部は「ハ」字状に開き端部付近で緩やかに外反していることから、8世紀初頭頃に位置づけられる。

土師器には坏、蓋、甕がある。住居内堆積土出土の坏2点、蓋1点、甕1点、カマド堆積土出土の坏1点を図化した。1の土師器蓋は、天井部がドーム状で、端部にカエリはなく緩やかである。蓋の出土例は少なく、1と同様に内外面に黒色処理の施されるものは、第70次・第112次調査で出土しているが、ツマミがある(第70次C-632)点や端部に稜を持つ(第112次図32・17)点で異なっている。2~4の土師器坏は、体部中位に段を持ち、段より上部は口縁部にかけて外傾する。底部は扁平および丸底である。5の土師器甕は長胴形で、頸部に僅かな段が確認できる。

その他に、フイゴの羽口(8)や、地金の可能性がある鉄片(9)、鉄滓が出土する等、鍛冶関連の遺物が確認された。

(2) 溝跡

SD2483 溝跡 (第98・99図)

調査区北端で検出した東西方向に延びる溝跡で方向はE-1°-Nである。検出長5.4m、上端幅40cm、下端幅30cm、深さ約50cmである。断面形は逆三角形を呈し、堆積土は4層である。SX2494性格不明遺構より新しく、SK2489土坑より古い。遺物は須恵器長頸壺(第99図1)、土製品(トリベ)、鉄滓など鍛冶関連のものが出土した。

SD2484 溝跡 (第98・99図)

調査区北部を東西方向に延びる溝で、方向はE-2°-Sである。検出長5.3m、上端幅80cm、下端幅40cm、深さ30cmである。SD2485・2487・2488・2489溝跡よりも新しい。断面形は皿状を呈し、堆積土は2層である。遺物は土師器坏(第99図2)や鉄滓が出土した。2は内外面に稜や段はなく、底部から体部にかけて緩やかに内弯しており、口縁端部が外反している。

SD2485 溝跡

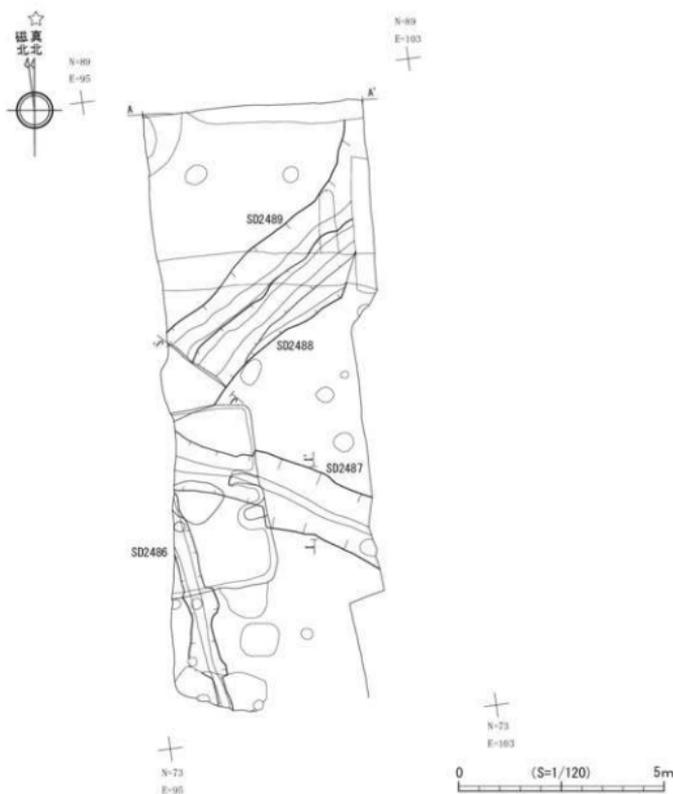
南北方向に延びる溝で、検出長2.5m、上端幅35cm、下端幅12cm、深さ18cmである。SD2488溝跡より新しく、SD2484溝跡より古い。断面形は皿状を呈し、堆積土は単層である。遺物は鉄滓が出土した。

SD2486 溝跡 (第97・98図)

調査区南端から北西方向に延びる溝で、方向はN-16°-Wである。検出長1.5m、上端幅50~70cm、下端幅20cm、深さ43cmである。S12482堅穴住居跡、SK2492土坑よりも古く、P33よりも新しい。断面形は皿状を呈し、堆積土は3層である。遺物は土師器片が出土した。

SD2487 溝跡 (第97・98図)

調査区の中央北よりで確認した南東から北西方向に延びる溝で、方向はW-24°-Nである。検出長5.4m、上端幅1.6m、下端幅10~20cm、深さ53cmである。S12482堅穴住居跡よりも古い。断面形は逆三角形を呈し、堆積土は6層である。遺物は土師器片と鉄滓が出土した。



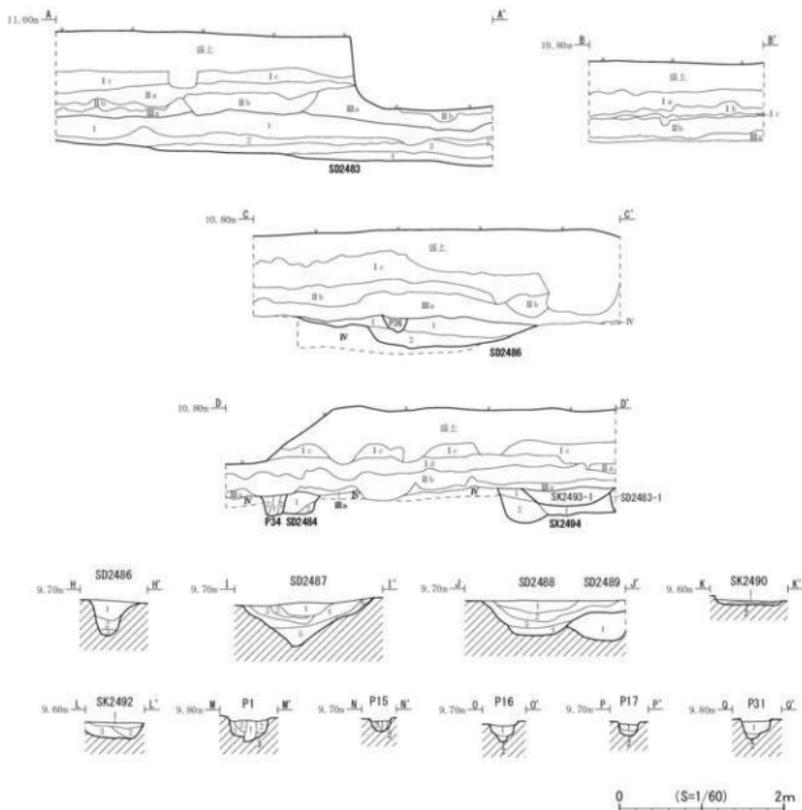
第97図 SD2486～2489溝跡重複地点平面図

SD2488 溝跡 (第97～99図)

調査区の北側で確認した南西から北東に延びる溝で、方向は $E-43^{\circ}-N$ である。検出長6.3m、上端幅1.7m、下端幅50cm、深さ43cmである。SI2482 竪穴住居跡、SD2484・2485 溝跡より古く、SD2489 溝跡より新しい。断面形は皿状を呈し、堆積土は4層である。土師器片が出土した。

SD2489 溝跡 (第97・98図)

調査区の北側で確認した南西から北東に延びる溝で、方向は $E-40^{\circ}-N$ である。検出長6.3m、上端幅70cm、下端幅35cm、深さ35cmである。SD2484・2485・2488 溝跡よりも古い。断面形は皿状を呈し、堆積土は単層である。SD2488 溝跡下部の遺構である。遺物は出土していない。



遺構名	層位	色調	土質	備考・遺人物
SD2483	1	10YR 2/3 黒褐色	粘土質シルト	団粒粒 (φ 5mm)・酸化鉄を少量含む。
	2	10YR 2/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 2cm) を少量含む。
	3	10YR 3/2 暗褐色	粘土	IV層ブロック (φ 5cm) を塊状に含む。
	4	10YR 3/2 暗褐色	シルト	IV層ブロックをわずかに含む。
SD2484	1	10YR 2/3 黒褐色	粘土質シルト	団粒粒 (φ 5mm)・酸化鉄を少量含む。
	2	10YR 2/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 2cm) を少量含む。
SD2486	1	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロックをわずかに含む。
	2	10YR 4/3 褐色	シルト	黄褐色砂を少量含む。
	3	10YR 4/8 褐色	粘土	IV層ブロック (φ 5cm) を少量含む。
SD2487	1	10YR 2/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 2cm) を少量含む。
	2	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色粘粘土ブロック (φ 5cm)・酸化鉄 (φ 2cm) を少量含む。
	3	10YR 2/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 5mm) を少量含む。
	4	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色砂を含む。
	5	10YR 3/2 暗褐色	シルト	白色砂を少量含む。
	6	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 2cm) を少量含む。
SD2488	1	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色砂、酸化鉄 (φ 5mm)・IV層ブロック (φ 2cm) を少量含む。
	2	10YR 3/2 に近い黄褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土 (φ 2cm) を少量、白色砂を含む。
	3	10YR 3/2 暗褐色	粘土	暗褐色粘土 (φ 2cm)・白色砂を少量、団粒粒 (φ 1~2mm) をわずかに含む。
	4	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層ブロック (φ 2cm)・白色砂を少量含む。IV層との間に酸化鉄が堆積する。
SD2489	1	10YR 4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	暗褐色粘粘土ブロックを多数含む。IV層との間に酸化鉄が堆積する。

第98図 溝跡・土坑・ピット断面図

土坑堆積土註記表

遺構名	層位	色調	土質	備考・遺人物
SK2490	1	10YR 2/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層ブロック(φ2mm)をわずかに含む。
	2	10YR 2/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層ブロック(φ5cm)を多数含む。
SK2492	1	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック(φ2cm)を少量含む。
	2	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック(φ5cm)を複数に含む。
	3	10YR 4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	IV層ブロック主体とする。
SK2493	1	10YR 2/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化灰(φ5mm)を少量含む。

性格不明遺構堆積土註記表

遺構名	層位	色調	土質	備考・遺人物
SX2494	1	10YR 4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	白色砂、IV層ブロック(φ5cm)を多数含む。
	2	10YR 4/4 褐色	シルト	暗褐色粘土(φ2cm)を少量含む。

ピット堆積土註記表

遺構名	層位	色調	土質	備考・遺人物
P1	1	10YR 2/3 黒褐色	粘土	IV層ブロック(φ5mm)をわずかに含む。柱状跡。
	2	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック(φ5cm)を少量含む。
	3	10YR 4/3 に近い黄褐色	粘土	白色砂を少量含む。
P9	1	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック(φ2cm)を少量含む。
	2	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化灰・焼土粒(φ3mm)を少量含む。柱状跡。
P15	1	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロックを多数に含む。
	2	10YR 4/3 褐色	粘土	IV層ブロック(φ2mm)を少量含む。
P17	1	10YR 2/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック(φ5mm)を少量含む。
	2	10YR 2/3 暗褐色	粘土	IV層ブロック(φ5mm)を少量含む。
P31	1	10YR 2/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック(φ5mm)を複数に含む。
	2	10YR 3/2 赤褐色	粘土	はげ骨殖。柱状。
P34	1	10YR 2/3 暗褐色	粘土	炭化物(φ2cm)を少量含む。柱状。
	2	10YR 3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック(φ5cm)を少量含む。腹方。
P36	1	10YR 2/3 黒褐色	粘土質シルト	はげ骨殖。

(3) 土坑

SK2490 土坑 (第98図)

調査区の中央部南よりで確認した。平面形は隅丸方形、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸90cm、短軸80cm、深さ6cmである。堆積土は2層で、遺物は土師器片と鉄滓が出土した。

SK2491 土坑 (第98・99図)

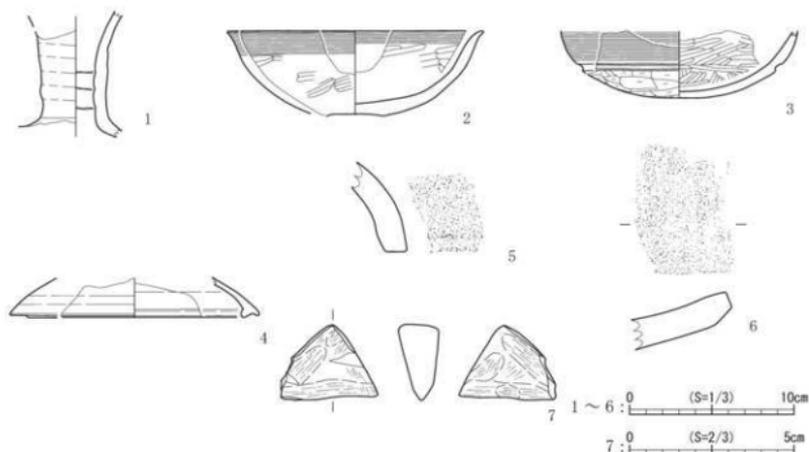
調査区の中央部南よりで確認した。SI2482 堅穴住居跡に北半分が切られている。平面形は楕円形、断面形は逆台形と推定される。確認した規模は長軸126cm、短軸94cm、深さ14cmで、堆積土は2層確認した。出土遺物は、土師器杯(第99図3)の他、土製品や鉄滓が出土した。3は体部中位に段があり、段より上部は内湾し、底部は丸底である。

SK2492 土坑 (第98・99図)

調査区の中央部南隅で確認した。平面形は隅丸長方形、断面形は逆台形と推定される。P2・6・7・8より古く、SD2486 溝跡より新しい。確認した規模は長軸約220cm、短軸約84cm、深さ20cmで、堆積土は3層確認した。出土遺物は土師器片や鉄滓が多数出土した他、丸瓦(第99図5)が出土した。

SK2493 土坑 (第98図)

調査区北西端で確認した。平面形は円形と推定され、断面形は皿状を呈する。SD2483 溝跡、SX2494 性格不明遺構より新しい。確認した規模は長軸108cm、短軸48cm、深さ21cmで、堆積土は単層である。出土遺物は、土師器片が僅かに出土した。



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	口径	器高				
1	E-3	SK283	I	須恵器	長瀬産				口：ロコナダ	口：ロコナダ	粘土継ぎ	図-10
2	C-6	SK284・288	厚積土	土師器	埴	(15.6)	3.4	3.1	口：ロコナダ 体：ヘラミガキ 底：凹面	口：ロコナダ 体：底：ヘラミガキ	粘土継ぎ 砂粒含む 1/6 残	図-11
3	C-7	SK281	厚積土	土師器	埴	-	-	(14.1)	口：ロコナダ 体：ヘラミガキ	ヘラミガキ→黒色処理	粘土継ぎ 石莖・角継ぎ跡含む 口～底部 1/4 残	図-12
4	E-4	-	-	須恵器	甕	13.2	-	(12.4)	口：ロコナダ 自然釉	口：ロコナダ カエリをもち	東海産か?	図-13

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
5	F-1	SK282	I	瓦	丸瓦	(4.1)	(3.1)	(5.5)	凸面：縦方向のナダ 凹面：布目瓦（継ぎ）	図-14
6	G-1	基本層	II	瓦	平瓦	(6.2)	-	(3.5)	凸面：縄目瓦・ナダ 側面上下面取付 凹面：布目瓦（継ぎ）・横平瓦	図-15
7	K-1	調査穴一底	-	石製品	砥石	2.2	3.0	1.2	柱間瓦片跡	図-16

第99図 溝跡・土坑・遺構外出土遺物

(4) 性格不明遺構

SX2494 性格不明遺構 (第98図)

調査区北西端で確認した。平面形は楕円形と推定され、断面は不整形である。SD2483 溝跡、SK2493 土坑より古い。堆積土は2層確認した。遺物は出土していない。

(5) ビット (第98図)

ビットは全部で36基確認した。そのうち、3基は壁断面でのみの確認である。柱痕跡が確認されたものは、P1・15・27・31・32・34の合計6基である。平面形は円形および楕円形で、規模は直径21～66cm、深さ4～44cmである。径10cm程の柱痕跡を確認した。また、P1・P31は建物跡を構成する可能性があり、柱間隔は230cmである。一部のビットからは、土師器や鉄滓が出土した。

その他の出土遺物 (第99図)

今回の調査では基本層II b層およびIII層から、多くの須恵器、土師器、石製品、土製品などが出土した。とくに土師器片は300点以上出土している。他にも羽口や鉄滓も多く確認されている。これらの出土遺物のうち、土師器、須恵器蓋 (第99図4) と平瓦 (6)、砥石 (7) を図示した。

5. まとめ

第286次調査地点は、郡山遺跡の東部、Ⅱ期官衙東辺材木列の内側に位置する。これまで行われた周辺の調査では、Ⅱ期官衙東辺の材木列（第69次調査・第105次調査）をはじめ、掘立柱建物跡、竪穴住居跡などが確認されている。これまでの周辺の調査結果から、Ⅱ期官衙に関わる遺構の検出が想定されていた。

今回の調査では、Ⅳ層上面で竪穴住居跡1軒、溝跡7条、土坑4基、ピット36基、性格不明遺構1基を確認した。遺構の時期は出土遺物から詳細に検討できるものは少ないが、Ⅱ期官衙を構成する遺構としてSI2482竪穴住居跡、SD2483・2484溝跡が挙げられる。

SI2482竪穴住居跡は、方向と出土した土器の特徴から、7世紀後半～8世紀初頭と推定されるⅡ期官衙段階の遺構であると考えられる。また、SD2483・2484溝跡も方向と出土遺物の特徴から、Ⅱ期官衙段階の遺構の可能性がある。

SI2482竪穴住居跡と重複するSD2486・2487・2488・2489溝跡は、SI2482竪穴住居跡よりも古い遺構であるため、Ⅰ期官衙の時期の可能性はあるが、調査地点がⅠ期官衙の外側に当たることや、方向も様々であることから、関連や時期の特定はできない。

今回の調査で出土した遺物の特徴としては、羽口や鉄滓など鍛冶関連のものが多く出土したことが挙げられる。それらは、竪穴住居跡やその周辺の遺構から多く出土しており、基本層からも同様の遺物が出土している。このことから、周辺一帯で鍛冶を行っていた可能性があり、今回の調査で確認したSI2482竪穴住居跡も、鍛冶関連の作業場として機能していた可能性が考えられる。

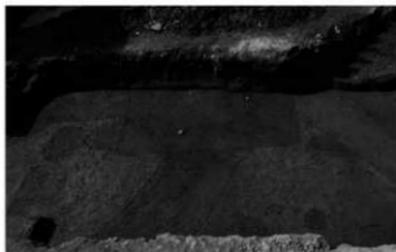
Ⅱ期官衙東辺地区は、Ⅱ期官衙造営において、どのような役割を担っていたのか、またそれ以前はⅠ期官衙外側の周辺地区としてどのように機能していたのか、周辺の調査成果を待ち、検討していく必要がある。

参考文献

- 仙台市教育委員会 1988 『郡山遺跡Ⅷ 一昭和62年度発掘調査概報一』 仙台市文化財調査報告書第110集
仙台市教育委員会 1995 『郡山遺跡XV 一平成6年発掘調査概報一』 仙台市文化財報告書第194集
仙台市教育委員会 2005 『郡山遺跡発掘調査報告書 一総括編一』 仙台市文化財調査報告書第283集
仙台市教育委員会 2005 『郡山遺跡 一第162次1区・第164次発掘調査報告書一』 仙台市文化財調査報告書第288集



1. 遺構検出状況（北から）



2. 遺構検出状況 竪穴住居跡周辺（東から）



3. S12482 床面検出状況（西から）



4. S12482 須恵器瓶出土状況（南から）



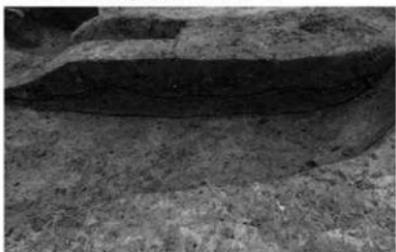
5. S12482 土師器出土状況（北から）



6. S12482 竪穴住居跡断面（南から）



7. S12482 カマド堆積土断面1（南西から）



8. S12482 カマド堆積土断面2（南から）



1. S12482 カマド北袖 (西から)



2. S12482 カマド南袖 (西から)



3. S12482-SK1 断面 (南から)



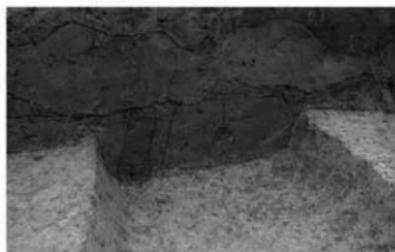
4. S12482 掘方埋土断面 (南から)



5. S12482 完掘状況 (西から)



6. SD2483 溝跡断面 (南西から)



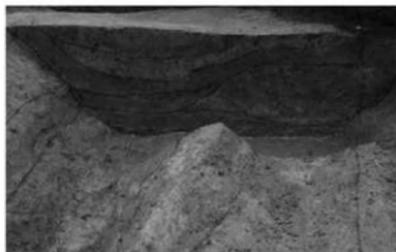
7. SD2484 溝跡断面 (東から)



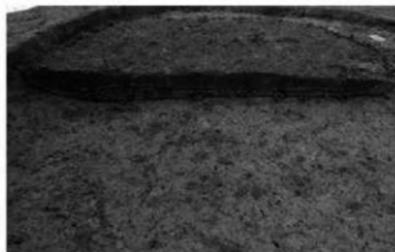
8. SD2486 溝跡断面 (南東から)



1. S12482、SD2486・2487 断面（東から）



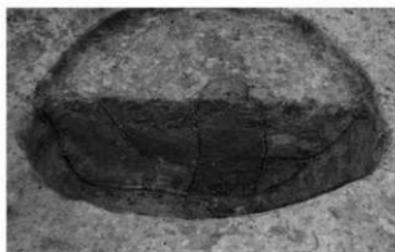
2. SD2488・2489 溝跡断面（北東から）



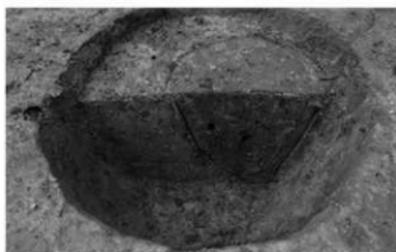
3. SK2490 土坑断面（東から）



4. SK2492 土坑断面（東から）



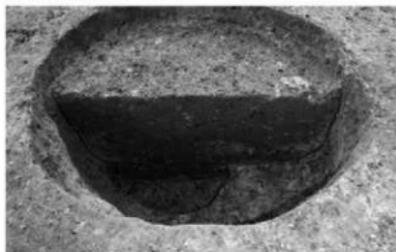
5. P1 断面（南から）



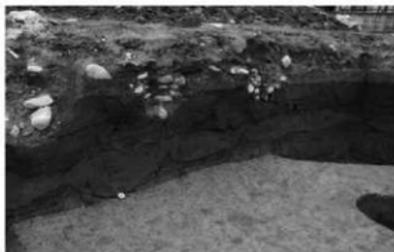
6. P15 断面（東から）



7. P16 断面（東から）



8. P31 断面（東から）



1. 調査区西壁（南東から）



2. 調査区西壁（北東から）



3. 遺構完掘状況 SI2482 周辺（東から）



4. 遺構完掘状況 SD2488・2489 周辺（北東から）



5. 遺構完掘状況（北から）



6. 遺構完掘状況（南から）



写真図版 49 郡山遺跡第286次調査出土遺物

第6章 富沢館跡の調査

第1節 遺跡の概要

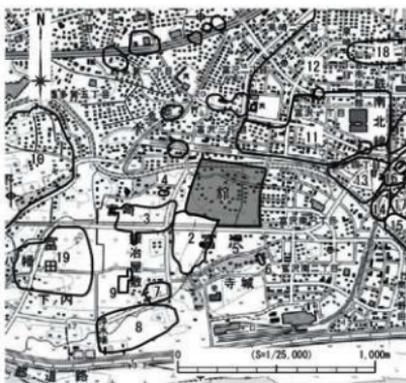
富沢館跡は仙台市太白区富沢字館、熊ノ前に位置する。仙台市の南部、地下鉄南北線富沢駅から西へ約700mの地点で、名取川の支流である筑川によって形成された自然堤防上に立地する。現況での標高は14～18mである。

富沢館跡はこれまでに4次にわたる調査が行われており、縄文時代・古代・中世の遺物・遺構が発見されている。縄文時代では後期中葉の宝ヶ峯式の時期を主体として竪穴住居跡などの遺構が確認されており、隣接する鍛冶屋敷前遺跡や鍛冶屋敷A遺跡（仙台市教委 2000）、南側に位置する川前遺跡（仙台市教委 2018）からは後期中葉から晩期にかけての遺物包含層が確認されている。遺構の分布は希薄であるが、縄文時代の後晩期にかけて、生活城の一部となっていたことが明らかになっている。

古代ではこれまでに竪穴住居跡のほか、カマドをもたず、炉跡と推定される被熱範囲を伴う竪穴遺構が複数確認されている。これらの時期は9世紀から10世紀と推定され、鉄滓が出土したものもあることから鍛冶関連遺構として報告されている（仙台市教委 2018）。同様の遺構は隣接する鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷前遺跡からも検出されており、「鍛冶屋敷」の地名が示す通り、周辺一帯の地域が鍛冶関連の生産域であったと考えられる。

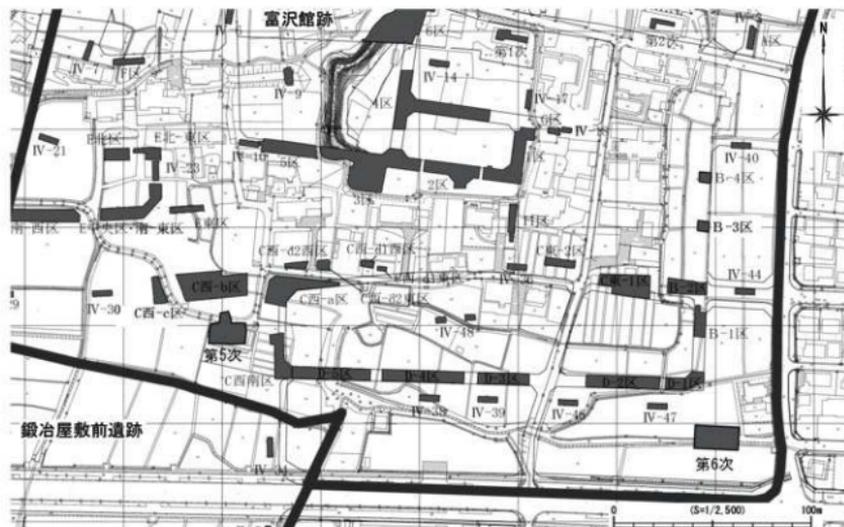
この地域は中世になると北目領と呼ばれ、国人領主要野氏の支配下となり、城館が造営される。この館の詳細な造営時期や造営者は不明であるが、入生田家に残る『入生田家之故実』において北目城主であった栗野大膳の造営によるものとされ、地域の伝承では、栗野氏家臣の富沢伊賀守が居城したとされる。明治時代の地籍図や既往の調査から土塁に囲まれた五角形の主郭部分とその周囲を3から4重に堀がめぐるといった構造や規模が明らかになってきている。近世になると入生田家の在郷屋敷となり、『館記』には2代仙台藩主伊達宗忠の時、堀や土塁があったは城や要害のようで誤解を招くとのことから、土塁を崩し、堀を埋めたとの記述がある。その後は一部の土塁を残して、この地を畑や水田として利用していたと考えられる。

また、本遺跡周辺では旧石器時代から近世における継続的な土地利用がなされている。これらの詳細については『鍛冶屋敷A遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか』（仙台市教委 2018）を参照されたい。



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	富沢館跡	城館跡	自然堤防	縄文・平安～近世
2	鍛冶屋敷前遺跡	築溝跡	自然堤防	奈良～中世
3	鍛冶屋敷A遺跡	築溝跡	自然堤防	縄文・奈良～中世
4	青崎遺跡	築溝跡	丘陵	縄文・奈良・平安・近世
5	川前遺跡	散布地	自然堤防	縄文(晩)・古代
6	川前遺跡	築溝跡	自然堤防	縄文(晩)
7	鍛冶屋敷B遺跡	石倉	自然堤防・狭き窪地	縄文・奈良～近世
8	六本柱遺跡	築溝跡	自然堤防	平安
9	京ノ中遺跡	築溝跡	自然堤防	平安
10	上野遺跡	築溝跡	丘陵	縄文・奈良・平安・近世
11	山口遺跡	築溝跡・水田跡	自然堤防・狭き窪地	縄文～中世
12	富沢遺跡	付空地・水田跡	狭き窪地	後期旧石器～近世
13	下ノ内遺跡	築溝跡	自然堤防	縄文～中世
14	伊古田遺跡	築溝跡	自然堤防	縄文・古墳～古代
15	伊古田B遺跡	築溝跡・水田跡	自然堤防	古墳～古代
16	六反田遺跡	築溝跡	自然堤防	縄文～古代・近世
17	大野田古墳群	円墳	自然堤防	古墳
18	泉崎遺跡	築溝跡・水田跡	自然堤防・狭き窪地	縄文～古代・近世
19	南ノ東遺跡	散布地	自然堤防	弥生・平安

第100図 富沢館跡と周辺の遺跡



第101図 第5・6次調査区位置図

第2節 第5次調査

1. 調査要項

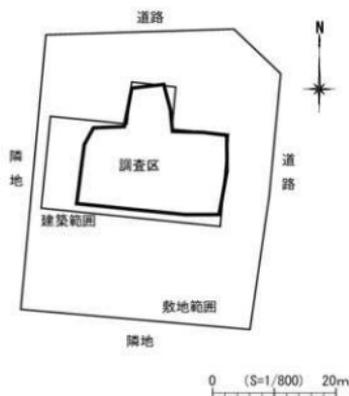
遺跡名	富沢館跡（宮城県遺跡登録番号01246）
調査地点	仙台市太白区富沢字熊ノ前37番地の4地内
調査期間	平成30年1月22日～2月13日
調査対象面積	356.21㎡
調査面積	約150.0㎡
調査原因	共同住宅の新築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課
	調査調整係
担当職員	主事 庄子裕美 妹尾一樹

2. 調査に至る経過と調査方法

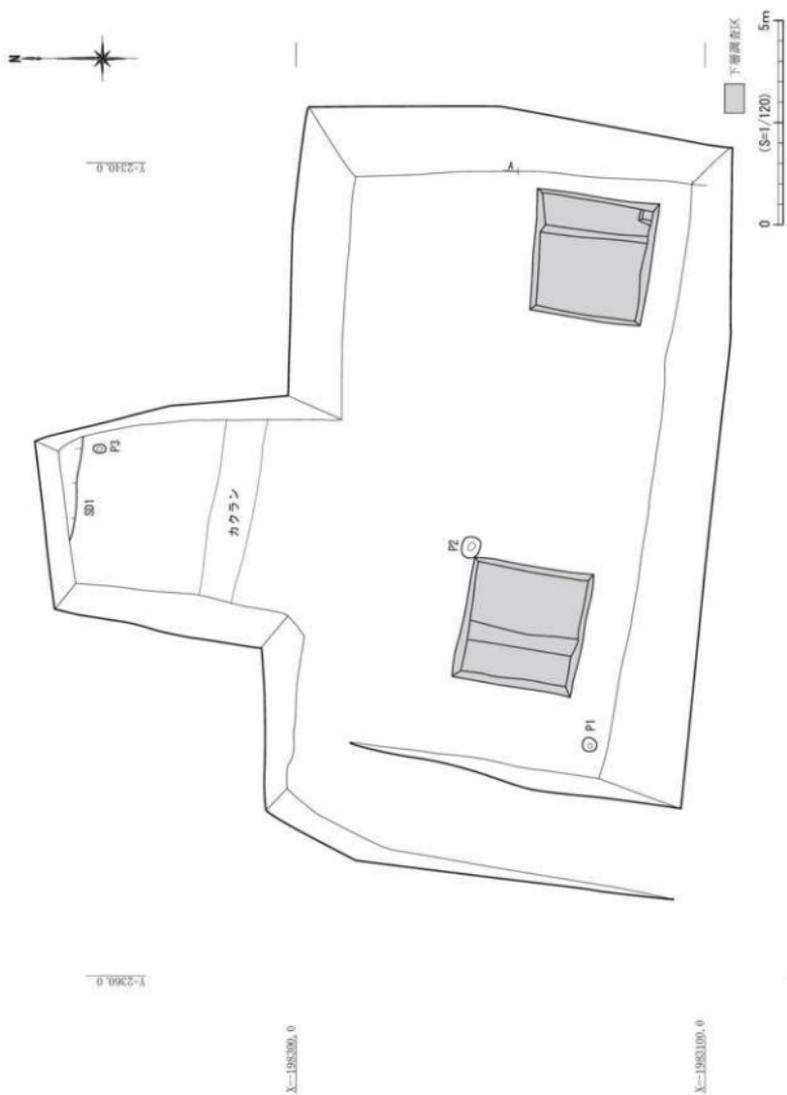
今回の調査は、平成29年7月21日付で申請者より提出され

た「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」（平成29年7月27日付H29教生文第103-027号で回答）に基づき実施した。

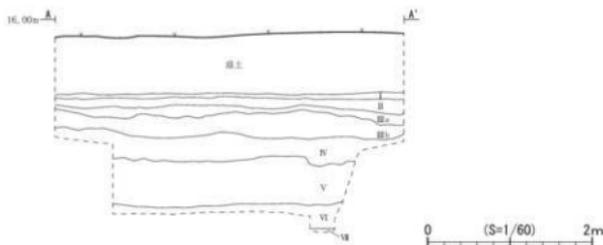
建築範囲内に約150.0㎡の調査区を設定し、重機により盛土および基本層Ⅰ～Ⅲ層を除去した後、人力によりⅣ層上面で遺構検出作業を行った。その結果、堀跡1条とピット3基を検出した。また、Ⅳ層上面での精査終了後、3.0×3.0mのトレンチを2か所設けて、下層での遺構確認を行った。しかし、遺構・遺物は確認できず、現地表



第102図 第5次調査区配置図



第103図 第5次調査区平面図



第104図 調査区東壁断面図

から約2.4m程度掘り下げたところで、砂礫層を確認したため調査を終了した。

調査では必要に応じて、平面図 (S=1/100, 1/20)、遺構断面図 (S=1/20)、調査区東壁断面図 (S=1/20) を作製し、デジタルカメラにて写真記録を行った。

3. 基本層序

調査区内の盛土層は約0.7mで、その下から大別7層、細別8層の基本層を確認した。現地表面から遺構検出面であるIV層までの深度は1.3m程度であった。

- I 層：2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土。酸化鉄粒を含み、マンガン粒を少量含む。造成以前の耕作土と考えられる。層厚6～10cm程度。
- II 層：10YR4/2 灰黄褐色粘土。酸化鉄粒を極多量に含む。層厚10～20cm程度。
- III a 層：10YR4/4 褐色粘土。マンガン粒をやや多く含む、酸化鉄を少量含む。層厚5～15cm程度。
- III b 層：10YR3/3 暗褐色粘土。マンガン粒を少量含む。層厚10～35cm程度。
- IV 層：10YR5/6 黄褐色粘土。砂を少量含む。層厚20～35cm程度。
- V 層：10YR4/4 褐色細砂層。礫 (φ1～10mm) を少量含む。層厚50cm程度。
- VI 層：10YR3/3 暗褐色粗砂層。ほぼ均質でV層より粒子が粗い。層厚30cm程度。
- VII 層：10YR4/4 褐色砂礫層。礫 (100mm以上) 極多量に含む。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査ではIV層上面で堀跡1条とピット3基を確認した。遺物は基本層中から土師器が出土しているが、小片のため図化はできなかった。

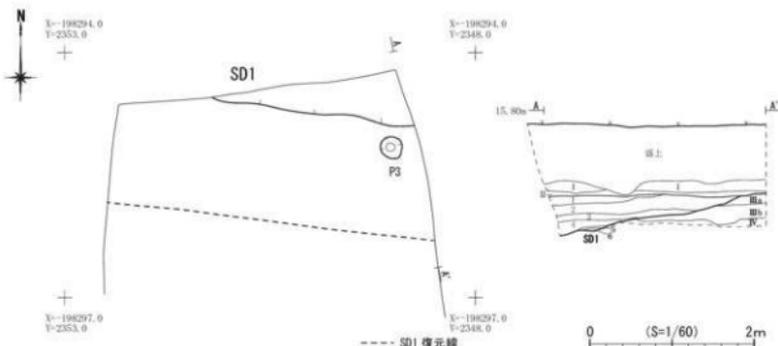
(1) 堀跡

SD1 堀跡 (第105図)

調査区北側で検出した北西から南東方向へ延びる堀跡で、南側の上端を検出したのみで底面は確認できなかった。IV層上面で検出したが、掘り込み面はIII a 層で、本来の幅は南側に約1.3～1.4m広がる。壁面によって確認されたSD1の規模は長さ4.0m以上、幅2.4m以上、深さ0.5m以上で、断面形は不明である。堆積土は6層に分層した。遺物は出土していない。

(2) ピット

ピットは3基確認した。規模は直径30～40cm、深さは20cm程度である。いずれも柱痕跡は認められない。また遺物も出土していないため、時期、性格ともに不明である。



遺構名	層位	土色	土物	備考
SD1	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒多量を含む。マンガン粒を微量、砂を含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄粒少量。マンガン粒や多く含む。砂少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	粘土	マンガン粒多量。酸化鉄粒や多く含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	マンガン粒少量。酸化鉄粒多量。砂微量含む。
	5	10YR4/6 褐色	粘土	マンガン粒やや多量。酸化鉄粒多く含む。
	6	10YR4/4 褐色	粘土	マンガン粒少量。砂含む。

第105図 SD1 堀跡平面・断面図

5. まとめ

第5次調査地点は富沢館跡の南西部に位置する。堀跡1条とピット3基を確認した。これまでの調査により城館の構造や規模が明らかになってきている。特に土地区画整理事業に伴って実施された第4次調査では西外郭部を構成する堀の一部として、本調査区の北西部でSD44、南東部でSD78が確認されている（仙台市教委2018）。そのため今回の調査ではSD44とSD78をつなぐ北西から南東方向に延びる堀跡の検出が推定された。

SD1 堀跡は調査区北部で部分的に検出されたにすぎないが、想定された北西から南東の方向に延びる。SD1 堀跡は一部のみを検出でとどまったものの、下端まで達しない状況で幅2.37m以上であり、大きな規模であることが推定される。また、西外郭部で確認されたSD44・78の規模は幅10.7m程度、深さ1.5m程度である。以上のことからSD1は第4次調査SD44・78と同一の城館の西外郭部を構成する堀の一部であったと考えられる。

なお、調査区周辺では縄文時代の包含層や遺構面が確認されていたため、下層での遺構確認を行ったが、V層以下は砂層が連続して堆積しており、遺構・遺物は確認されなかった。

引用・参考文献

- 仙台市教育委員会 2000 『鍛冶屋敷A遺跡・鍛冶屋敷前遺跡―市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書―』 仙台市文化財報告書第245集
- 仙台市教育委員会 2002 『小鶴城跡ほか』 仙台市文化財報告書第261集
- 仙台市教育委員会 2004 『保春院前遺跡他』 仙台市文化財報告書第274集
- 仙台市教育委員会 2013 『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告I―平成23年度・平成24年度震災復興民間文化財発掘調査助成事業に伴う発掘調査報告書―』 仙台市文化財報告書第416集
- 仙台市教育委員会 2018 『鍛冶屋敷A遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか―仙台市富沢駅西土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書―』 仙台市文化財報告書第466集



1. 遺構完掘状況（南から）



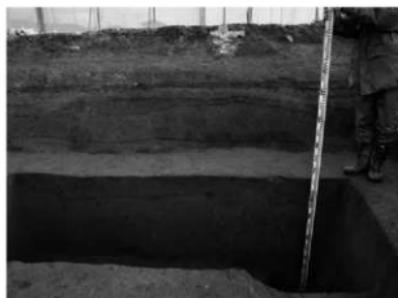
2. SD1 堀跡検出状況（北西から）



3. SD1 土層断面（西から）



4. 下層調査区設定状況（西から）

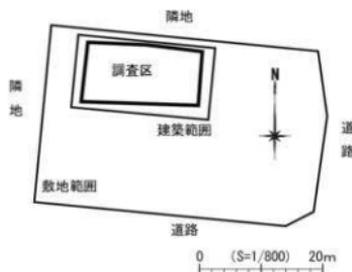


5. 下層調査区東壁断面（西から）

第3節 第6次調査

1. 調査要項

遺 跡 名	富沢館跡(宮城県遺跡登録番号01246)
調 査 地 点	仙台市富沢駅西土地地区画整理事業地 37-2街区3・4・5・8画地
調 査 期 間	平成30年2月26日～3月20日
調査対象面積	286.61㎡
調 査 面 積	約90.0㎡
調 査 原 因	店舗の建築工事
調 査 主 体	仙台市教育委員会
調 査 担 当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担 当 職 員	主事 妹尾一樹 文化財教諭 大友 渉



第106図 第6次調査区配置図

2. 調査に至る経緯と調査方法

今回の調査は、平成30年1月24日付で申請者より提出された「埋蔵文化財の取扱いについて(協議)」(平成30年1月31日付H29教生文第103-080号で回答)に基づき実施した。

建築範囲内に約90.0㎡の調査区を設定し、重機により盛土および基本層Ⅰ～Ⅱ層を除去した後、Ⅲa層以下を人力で掘り下げ、Ⅳ層ないしⅢa層で遺構検出作業を行った。その結果、溝跡1条とピット5基を検出した。

調査では必要に応じて、平面図(S=1/100、1/20)、遺構断面図(S=1/20)、西壁・北壁断面図(S=1/20)を複製し、デジタルカメラにて写真記録を行った。

3. 基本層序

調査区内の盛土層は厚さ約0.5mで、その下から大別5層、細別6層の基本層を確認した。

- Ⅰ 層：10YR4/4 褐色粘土。酸化鉄粒を含造成以前の水田耕作土と考えられる。層厚6～10cm程度。
- Ⅱ 層：10YR4/2 灰黄褐色粘土。酸化鉄粒を極多量に含む。層厚10～20cm程度。
- Ⅲa層：10YR4/4 褐色粘土。マンガン粒をやや多く含み、酸化鉄を少量含む。層厚5～15cm程度。
- Ⅲb層：10YR3/3 暗褐色粘土。マンガン粒を少量含む。層厚10～35cm程度。
- Ⅳ 層：10YR5/6 黄褐色粘土。砂を少量含む。層厚20～35cm程度。調査区北西部に部分的に認められる。
- Ⅴ 層：10YR4/4 褐色細砂層。礫(φ1～10mm)を少量含む。層厚50cm程度。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では溝跡1条とピット5基を確認した。遺物は基本層や遺構から縄文土器、須恵器、土師器などが出土している。

(1) 溝跡

SD1 溝跡 (第108・109図)

調査区北西部に位置する。Ⅲb層及びⅣ層で検出したが、調査区壁面の観察によると遺構の掘り込み面はⅢa層上面である。北東～南西方向への溝跡で両端は調査区外へ延びる。規模は長さ17.2m以上、最大幅5.1m程度、深さ0.75mである。断面形は逆台形状で底面からなだらかに立ち上がる。堆積土は14層に分層した。下層では砂が堆積しており、水成堆積と考えられる。

遺物は縄文土器と石器が出土している。縄文土器は形態や胎土、色調に一定の類似性を持つことから、2～3個体分の深鉢形土器がまとまって出土した可能性が高い。いずれも摩耗が著しい。口縁部破片は口唇部に山形の突起をもち、頸部に2条の沈線を巡らす。頸部と胴部との境界では屈曲を持ち、胴部には縄文が横位に施される。第108図8～14は胴部で15は底部破片である。いずれも縄文が横位施文される。これらの土器は口縁部に文様をもち胴部に地文が施されており、いわゆる半精製器種といわれるものである。その特徴から摺鉢遺跡(宮城県教委1990)の深鉢C4a群土器と類似するため、時期は晩期中葉の大洞C2式期に比定される。第109図1・2は石皿である。ともに一方の平坦面を磨面にしており、2には一部、叩打による凹部が認められる。

縄文時代の遺物が出土しているものの、検出面であるⅢb層からは須恵器や土師器が確認できるため、時期は古代よりも新しいと考えられる。P4・5よりも新しい。

(2) ビット

5基確認した。規模は直径30～40cm、深さは15～20cm程度である。いずれも柱痕跡は認められなかった。また、遺物は出土していないため、時期、性格ともに不明である。また、重複関係からP4・5はSD1よりも古いと判断できる。

その他の出土遺物 (第109図)

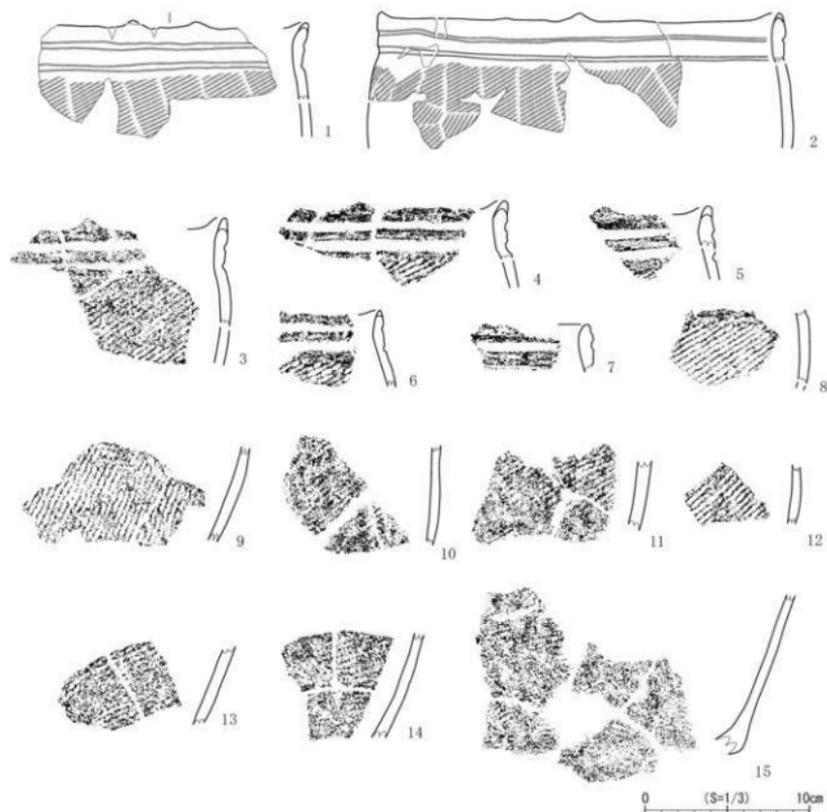
基本層から縄文土器、土師器、須恵器が出土している。第109図10はロクロ土師器の底部である。切り離し後に再調整を施しており、切り離し方法は不明である。体部外面は手持ちヘラケズリ、内面はヘラミガキ・黒色処理が施される。8・9は須恵器の甕である。8は外反する口縁部で、端部は直立気味につまみあげられる。土師器は9世紀前半頃のものと考えられる。

5. まとめ

今回の調査地点は富沢館跡の南東部に位置する。今回の調査では溝跡1条とビット5基を確認した。周辺の調査では城館を構成する南東外郭堀跡や、縄文時代後期の竪穴住居跡などが確認されており、調査区周辺でも堀が巡っていることが想定された。

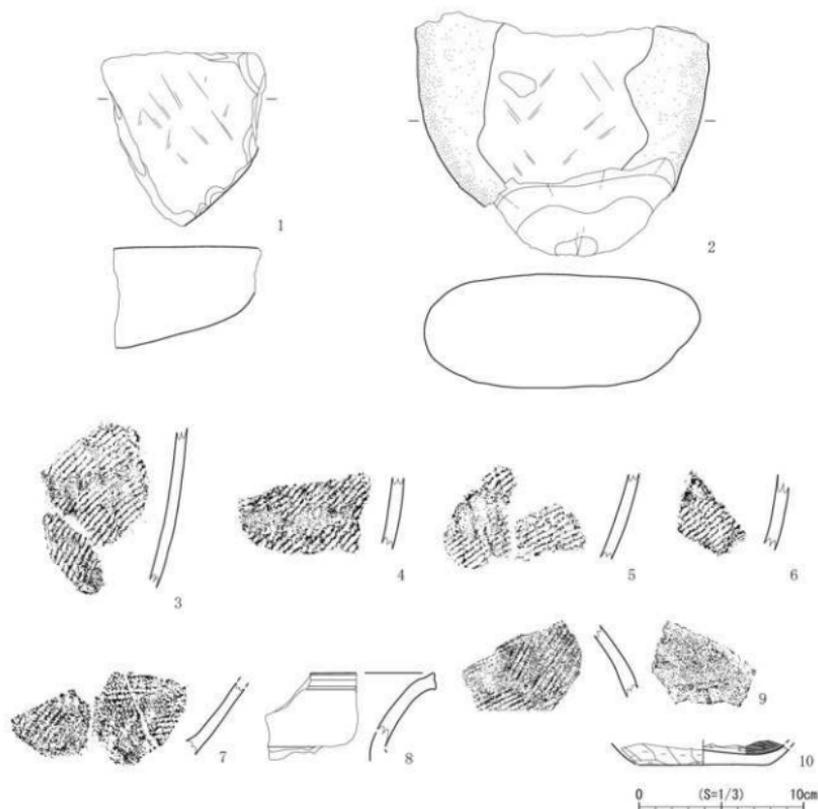
南東部外郭で堀跡の規模が確認されているものは、第4次確認調査IV-44トレンチで検出されたものと、第4次調査D-4区で検出されたSD72がある(仙台市教委2018)。確認調査のものは幅8.0m以上、深さ1.45m、SD72は幅6.7m、深さ2.1mの規模をもつ。今回検出したSD1溝跡は想定される方向へ延びるものの、幅5.1m、深さが0.75m程度と、これまで確認されている堀跡と比べて規模が小さい。そのため、SD1はこれらの堀跡の一部であった可能性があるものの、別の遺構であると考えたい。また、時期決定できる遺物が出土しておらず、掘り込み面のⅢ層中から土師器や須恵器が出土するため、時期は古代以降であると考えられる。本遺構が城館の造営時期と重なっていた可能性もあり、その機能や時期の詳細な検討については今後の調査の課題といえる。

SD1溝跡からは縄文時代晩期中葉の土器が出土している。本遺跡ではこれまで、縄文時代晩期の遺物は確認され



調査番号	発掘番号	出土遺物	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面		備考	写真図版
						口径	底径	器高	外面	内面		
1	A-6	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(7.1)	口：平行流線→ミガキ→西沈線調整体・土縄文	ミガキ ナツ	口縁部B突起 砂粒含む	図2-1
2	A-7	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	(24.2)	-	(8.3)	口：平行流線→ミガキ→西沈線調整体・土縄文	ミガキ ナツ	口縁部A突起 砂粒含む	図2-2
3	A-8	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(9.0)	口：平行流線→ミガキ→西沈線調整体・土縄文	ミガキ ナツ	口縁部A突起 砂粒含む	図2-3
4	A-9	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(5.2)	口：平行流線→ミガキ→西沈線調整体・土縄文	ミガキ ナツ	口縁部B突起 砂粒含む	図2-4
5	A-11	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(4.5)	口：平行流線→ミガキ→西沈線調整体・土縄文	ミガキ ナツ	口縁部突起 砂粒含む	図2-5
6	A-13	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(4.7)	口：平行流線→ミガキ→西沈線調整体・土縄文	ミガキ ナツ	口縁部突起 砂粒含む	図2-6
7	A-10	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(2.9)	口：平行流線→ミガキ→西沈線調整体・土縄文	ミガキ ナツ	口縁部突起 砂粒含む	図2-7
8	A-12	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(5.9)	口：沈線 体・土縄文	ミガキ ナツ	砂粒含む	図2-8
9	A-14	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(5.8)	土縄文	ミガキ ナツ	砂粒含む	図2-9
10	A-15	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(6.1)	土縄文	ミガキ ナツ	砂粒含む	図2-10
11	A-16	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(4.3)	土縄文	ミガキ ナツ	砂粒含む	図2-11
12	A-17	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(3.1)	土縄文	ミガキ ナツ	砂粒含む	図2-12
13	A-18	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(4.4)	土縄文	ミガキ ナツ	砂粒含む	図2-13
14	A-19	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(6.5)	土縄文	ミガキ ナツ	砂粒含む	図2-14
15	A-20	SD1	準焼土	縄文土器	深鉢	-	-	(7.0)	土縄文	ミガキ	砂粒含む	図2-15

第108図 SD1溝跡出土遺物(1)



図面番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						長さ	幅	厚さ		
1	K-1	SD1	赤穂土	線石器	石蓋	(10.6)	(9.0)	(6.4)	分割線の平坦面を磨き面とする。両側を折縁。アイサイト(石英安山岩) 重さ 816.0g	53-1
2	K-2	SD1	赤穂土	線石器	石蓋	(13.9)	17.0	7.0	扁平な円縁を素材として一方の平坦面を磨き面とする。両側を折縁。安山岩 重さ 2300.0g	53-2

図面番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
3	A-1	-	V	縄文土器	深鉢	-	-	(9.4)	1.縄文	ミガキナゲ	体部破片	53-3
4	A-2	-	V	縄文土器	深鉢	-	-	(4.3)	1.縄文	ミガキナゲ	体部破片	53-4
5	A-3	-	V	縄文土器	深鉢	-	-	(5.4)	1.縄文	ミガキナゲ	体部破片	53-5
6	A-4	-	V	縄文土器	深鉢	-	-	(4.4)	1.縄文	ミガキナゲ	体部破片	53-6
7	A-5	-	V	縄文土器	深鉢	-	-	(4.3)	1.8.縄文	ミガキナゲ	体部破片 砂粒・両側背封含む	53-7
8	E-1	-	IV	原始器	壺	-	-	(5.3)	ロクロナゲ	ロクロナゲ	胎土磨面 砂粒含む	53-8
9	E-2	-	IIIb	原始器	壺	-	-	(4.4)	平口タタシ目 底: 手持ヘラタタシ	ナゲ 当て具板	胎土磨面 砂粒・両側背封含む	53-9
10	D-1	-	IIIb	土器器	DF	-	(7.8)	(1.5)		ヘラミガキ一黒色処理	胎土磨面 砂粒・両側背封含む	53-10

第 109 図 SD1 溝跡出土遺物 (2)・基本層出土遺物

ていない。西側に隣接する鍛冶屋敷A遺跡では晩期中葉の土器を含む遺物包含層が確認され、南側には同時期の土器や石器が多量に出土した川前遺跡がある。本遺跡が縄文時代においてどのような遺跡のあり方をしていただのか隣接遺跡を含めた関係をみていくことが今後の検討課題となるだろう。なお、第4次調査では遺跡東南部において縄文時代後期の遺物包含層や遺構確認面が認められたが、本調査区内では縄文時代の遺物包含層は確認されなかった。

引用・参考文献

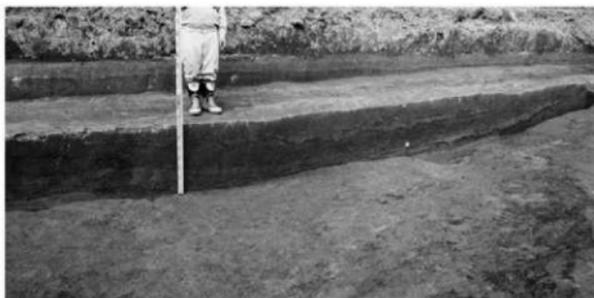
- 仙台市教育委員会 2000 『鍛冶屋敷A遺跡・鍛冶屋敷前遺跡—市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書—』
仙台市文化財報告書第245集
- 仙台市教育委員会 2002 『小鶴城跡ほか』 仙台市文化財報告書第261集
- 仙台市教育委員会 2004 『保春院前遺跡他』 仙台市文化財報告書第274集
- 仙台市教育委員会 2013 『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅰ—平成23年度・平成24年度震災復興民間文化財発掘調査助成事業に伴う発掘調査報告書—』 仙台市文化財報告書第416集
- 仙台市教育委員会 2018 『鍛冶屋敷A遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか—仙台市富沢駅西土地地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書—』 仙台市文化財報告書第466集
- 宮城県教育委員 1990 『摺萩遺跡 仙塩道路関連遺跡発掘調査報告書』 宮城県文化財調査報告書第132集



第110図 富沢館跡 検出堀跡位置図（仙台市文化財調査報告書第466集所収の図を改変）



1. 遺構完掘状況（南西から）



2. SD1 土層断面（南西から）



3. 調査区西壁断面（東から）



1
(第108図1)



2
(第108図2)



3
(第108図3)



4
(第108図4)



5
(第108図5)



6
(第108図6)



7
(第108図7)



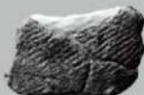
8
(第108図8)



9
(第108図9)



10
(第108図10)



11
(第108図11)



12
(第108図12)



13
(第108図13)

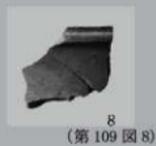
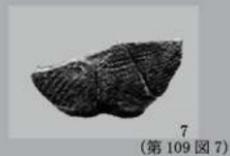
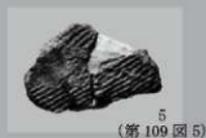
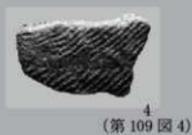


14
(第108図14)



15
(第108図15)

写真図版 52 富沢館跡第6次調査出土遺物(1)



写真図版 53 富沢館跡第6次調査出土遺物(2)

第7章 総括

1. 今市遺跡第3次調査

調査地点は今市遺跡の西部に位置する。掘立柱建物跡や溝跡、井戸跡、土坑などを検出した。SB1 掘立柱建物跡は、第1次調査で確認されている建物跡と方向や柱間の点で類似することから、一連の遺構の可能性が考えられる。SK16 土坑からは中世陶器のほか、渦文が描かれる中国産の磁器や温石、動物骨が出土した。今市遺跡周辺ではかつての市場の存在が指摘されているが、今回の調査ではその存在を裏付ける遺構・遺物は確認されなかった。

2. 薬師堂東遺跡第2次調査

調査地点は薬師堂東遺跡の西部に位置する。基本層Ⅱ層およびⅢ層上面で、溝跡2条、土坑5基、ピット5基を確認した。遺構からは古代の瓦片や近世の陶磁器が出土した。これまでの調査で古代から近世と幅広い年代の遺構・遺物が確認されており、今回の調査でもその様相が確認された。

3. 鍛冶屋敷A遺跡第4次調査

調査地点は鍛冶屋敷A遺跡の西部に位置する。確認調査では溝跡2条、ピット5基を確認した。遺物は縄文土器、土師器が出土した。本発掘調査では竪穴遺構1基、土坑2基、ピット3基を確認した。竪穴遺構の規模は8.0×6.5mで、堆積土に灰白色火山灰が含まれることから、廃絶は9世紀末頃と考えられる。遺物は縄文土器、土師器、須恵器、陶器、石製品、金属製品が出土した。縄文土器を除く遺物の時期は、いずれも9世紀中頃～後半と推定される。

4. 鍛冶屋敷A遺跡第5次調査

今回の調査区は第2次調査区の北西側、第4次調査区の西側に位置する。縄文時代後期中葉頃の土坑や土器埋設遺構、遺物包含層、中世の溝跡や土坑等が検出された。遺物包含層は調査区北東側に広く分布し、縄文時代後期中葉頃の縄文土器と石器類などが出土した。さらに遺物包含層を掘り込むSK12・13土器埋設遺構も検出され、底部を打ち欠いて穿孔された粗製の土器が埋設されていた。これらの土器群は第2次調査で出土したものとほぼ同時期であり、一連の遺構群を形成していた可能性がある。

SD1 溝跡は東西方向の溝跡で、出土した瓦質土器の年代から15～16世紀頃の時期の遺構と考えられる。またSK10土坑からも中世の陶器の捏鉢が出土した。これ以外の遺構は出土遺物が少ないため詳細な時期については不明だが、新旧関係などから大部分は中世のものであると考えられる。

5. 郡山遺跡第273次調査

調査地点は郡山遺跡の四方町Ⅱ期官衙の中央東寄りに位置する。過年度調査で確認されていたSD2119・2150・2193・2198の4条の溝跡のほかに、SD2198溝跡を切るSD2428溝跡の存在が明らかになった。他に調査区東側でピットを6基を確認した。

SD2150溝跡は、その方向や出土遺物から7世紀後半のⅠ期官衙に伴う遺構である可能性が追認された。またSD2198溝跡は、第178次調査においてSD2150溝跡を切ることやその方向から、Ⅱ期官衙に関係する溝跡もしくは、それより新しい遺構の可能性がある。SD2428溝跡も同様の可能性があるが、今回の調査では明らかにすることはできなかった。

6. 郡山遺跡第 275 次調査

調査地点は郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙の北部、大溝と外溝の中間に位置する。今回の調査は調査区を南北に二分し調査を行った。両調査区とも河川跡を検出したほか、南側調査区では河川堆積層上面において土坑4基とピット6基を検出した。河川跡は南岸の立ち上がりを確認することができた。東西方向へ延びていくと考えられるが、今回の調査では南側へ蛇行している様子も確認された。遺物は土師器片が出土した。土坑及びピットからは遺物が出土していないため、これらは時期・性格ともに不明である。

7. 郡山遺跡第 276 次調査

調査地点は郡山遺跡の南西部に位置する。竪穴住居跡8軒、材木列1条、溝跡10条、土坑3基、ピット約300基、性格不明遺構5基が検出され、これらの遺構からは須恵器、土師器、磨石など多くの遺物が出土した。竪穴住居跡からは官衙期の遺物が出土している。近隣の調査でも、Ⅰ・Ⅱ期官衙期の竪穴住居跡が確認されていることから、官衙と密接な関わりのある住居群と考えられる。

8. 郡山遺跡第 278 次調査

調査地点は郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙の東辺南部、大溝の外側に位置する。溝跡4条と自然流路跡を確認した。調査区西側でⅡ期官衙の大溝であるSD73溝跡の、東側の立ち上がりを確認できた。新たにSD2465溝跡を検出したが、その大部分は調査区外に延びるため全体形は不明である。SD2385溝跡と考えられる遺構も断面において確認した。SD78溝跡は堆積土の層から自然流路跡であると考えられ、第166次調査で検出されたSX2181と同一の遺構の可能性があることが確認された。

9. 郡山遺跡第 286 次調査

調査地点は郡山遺跡の東部、Ⅱ期官衙東辺材木列の内側に位置する。竪穴住居跡1軒、溝跡7条、土坑4基、ピット36基が検出された。そのうちSI2482竪穴住居跡とSD2483・2484溝跡は、方向や出土遺物の年代から、Ⅱ期官衙にかかわる遺構と考えられる。今回の調査で出土した遺物の特徴として、土器の他に羽口や鉄滓、鉄製品など鍛冶関係の遺物が多く見られることが挙げられる。このことから周辺一帯で鍛冶を行っていた可能性が考えられる。

10. 富沢館跡第 5 次調査

調査地点は富沢館跡の南西部に位置する。堀跡1条とピット3基を確認した。SD1堀跡は調査区北部で部分的に検出され、北西から南東方向に延びる。その規模は、底面まで達しない状態で幅2.37m以上であり、第4次調査のSD44・78と同一の城館の西外郭部を構成する堀跡の一部である可能性が高い。なお、調査区周辺では縄文時代の包含層や遺構面が確認されているため、下層の調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

11. 富沢館跡第 6 次調査

調査地点は富沢館跡の南東部に位置する。溝跡1条とピット5基を確認した。SD1溝跡は、南東部外郭で堀跡の規模が確認されている第4次調査D-4区で検出されたSD72と比較すると、想定される方向へ延びるが、幅5.1m、深さが0.75m程度と規模が小さい。よって、堀跡の一部であった可能性もあるが、他の機能をもった遺構と考えておきたい。時期決定できる遺物は出土していないが、掘り込み面のⅢ層中から土師器や須恵器が出土するため時期は古代以降と考えられる。ピットは出土遺物がなく、時期および性格は不明である。

報告書抄録

ふりがな	いまいちいせきほか							
書名	今市遺跡ほか							
副書名	発掘調査報告書							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第476集							
編著者名	三浦一樹 妹尾一樹 柳澤 楓 小林 航 及川謙作 五十嵐 愛 斎野裕彦 渡部弘美							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目5-12 仙台市役所 上杉分庁舎10階 TEL：022-214-8894							
発行年月日	平成31年3月29日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
要約								
今市遺跡 (第3次)	仙台市宮城野区 岩切字三所北	4100	01222	38° 18' 11"	140° 56' 39"	2018.12.10～ 2019.1.21	約125.0㎡	記録保存 (共同住宅建築)
	集落跡、包含地	古代・中世		掘立柱建物跡、溝跡、 井戸跡、土坑、ピット		土師器、陶磁器、石製品、 土製品		
	掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑、ピットを検出した。特にSK16土坑から中世陶器や中国産の磁器、温石などが出土した。							
美しんぎの 薬師堂 東 遺跡 (第2次)	仙台市若林区木ノ下 3丁目地内	4100	1567	38° 15' 00"	140° 54' 16"	2018.7.17～ 2018.7.31	約66.0㎡	記録保存 (共同住宅兼店舗兼 自宅建築)
	集落跡、包含地	古代・中世		溝跡、土坑、ピット		瓦、陶器、磁器、 土師質土器		
	溝跡、土坑、ピットを検出した。土坑からは18～19世紀頃の徳利や水滴などの陶器が出土した。							
あきあき 鍛冶屋敷A 遺跡 (第4次)	仙台市太白区富田字 舞台・京ノ南	4100	01087	38° 12' 47"	140° 51' 19"	2018.2.13～ 2018.2.27	約125.0㎡	記録保存 (ホテル建築)
	集落跡	縄文・奈良 ～中世		竪穴遺構、土坑、ピット		縄文土器、土師器、須恵器、 陶器、石製品、鉄製品		
	竪穴遺構、土坑、ピットを検出した。竪穴遺構からは9世紀代の土師器、須恵器の他に、円面硯や刀子、東海産の緑釉陶器など特徴的な遺物が出土した。							
あきあき 鍛冶屋敷A 遺跡 (第5次)	仙台市太白区富田字 舞台・京ノ南	4100	01087	38° 12' 48"	140° 51' 16"	2018.6.4～ 2018.7.3	約330.0㎡	記録保存 (店舗建築)
	集落跡	縄文・奈良 ～中世		土器埋設遺構、 性格不明遺構、溝跡、土坑、 ピット、遺物包含層		縄文土器、土師器、陶器、石 器、石製品、木製品、土製 品		
	土器埋設遺構、性格不明遺構、溝跡、土坑、ピット、遺物包含層を検出した。SD1溝跡からは中世陶器が少量出土した。土坑および遺物包含層からは、主に縄文時代後期中葉の土器、石器などが出土した。							
二上山 郡山遺跡 (第273次)	仙台市太白区 郡山3丁目	4100	01003	38° 13' 22"	140° 53' 38"	2017.11.27～ 2017.12.12	約143.79㎡	記録保存 (宅地造成)
	官衙跡、寺院跡、包含地	縄文～古代		溝跡、ピット		土師器、瓦		
	溝跡、ピットを検出した。I期官衙に伴うと考えられる溝跡からは、7世紀後半頃の土師器壺が出土した。							
二上山 郡山遺跡 (第275次)	仙台市太白区 郡山3丁目	4100	01003	38° 13' 31"	140° 53' 30"	2017.12.14～ 2018.2.6	約295.64㎡	記録保存 (保育所建築)
	官衙跡、寺院跡、包含地	縄文～古代		河川跡、土坑		土師器、須恵器、鉄製品		
	河川跡、土坑、ピットを検出した。河川跡は蛇行しながらも東西方向に延びることが追認された。遺物は、土師器などの少破片が多量に出土した。							
二上山 郡山遺跡 (第276次)	仙台市太白区 郡山3丁目	4100	01003	38° 13' 27"	140° 53' 32"	2018.4.9～ 2018.5.31	約350.24㎡	記録保存 (事務所建築)
	官衙跡、寺院跡、包含地	縄文～古代		材木列跡、竪穴住居跡、土坑、 性格不明遺構、ピット		土師器、須恵器、鉄製品		
	材木列跡、竪穴住居跡、土坑、性格不明遺構、ピットを多数検出した。多くの住居跡は、出土遺物からII期官衙に伴う可能性が高い。							
二上山 郡山遺跡 (第278次)	仙台市太白区 郡山3丁目	4100	01003	38° 13' 27"	140° 53' 32"	2018.3.2～ 2018.3.14	約76.2㎡	記録保存 (宅地造成)
	官衙跡、寺院跡、包含地	縄文～古代		溝跡、自然流路跡		土師器、須恵器、瓦		
	溝跡を検出した。II期官衙に伴う大溝の立ち上がり部分を確認できたほか、自然流路跡を確認した。							

所収遺跡名	所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	種別	主な時代	市町	遺跡					
			番号	番号	主な遺構		主な遺物	特記事項	
<small>こまやま</small> <small>郡山遺跡</small> <small>第286次</small>	仙台市太白区郡山3丁目		4100	01003	38° 13' 27"	140° 53' 32"	2018.9.13 ~ 2018.10.22	約 134.75 m ²	記録保存 (宅地造成)
	官衙跡、寺院跡、包含地		縄文～古代		竪穴住居跡、溝跡		土師器、須恵器、鉄製品		
	竪穴住居跡・溝跡を検出した。Ⅱ期官衙に伴うと考えられる竪穴住居跡からは土師器、須恵器のほか円面硯や羽口、鉄滓などが出土しており、鍛冶関連の作業場であった可能性がある。								
<small>こまやま</small> <small>富沢館跡</small> <small>(第5次)</small>	仙台市太白区富沢字館・熊前		4100	01246	38° 12' 48"	140° 51' 36"	2018.1.22 ~ 2018.2.13	約 150.0 m ²	記録保存 (共同住宅建築)
	城館跡、集落跡		縄文・平安 ～近世		堀跡		遺物なし		
	富沢館跡を構成する堀跡の一部を検出した。								
<small>こまやま</small> <small>富沢館跡</small> <small>(第6次)</small>	仙台市太白区富沢字館・熊前		4100	01246	38° 12' 47"	140° 51' 46"	2018.2.26 ~ 2018.3.20	約 90.0 m ²	記録保存 (店舗建築)
	城館跡、集落跡		縄文・平安 ～近世		溝跡		縄文土器、土師器、須恵器、石器		
	溝跡を検出した。遺物は縄文土器が出土しているが、遺構の掘り込み面から古代以降の溝跡の可能性はある。								

仙台市文化財調査報告書第476集

今市遺跡 ほか

発掘調査報告書

2019年3月

発行 **仙台市教育委員会**
仙台市青葉区上杉1丁目5-12
仙台市役所上杉分庁舎10階
文化財課 TEL. 022 (214) 8894

印刷 株式会社 **仙台紙工印刷**
仙台市宮城野区若竹三丁目1-14
TEL. 022 (231) 2245 ㊞
